

事項一四 反過激派關係雜件

二九四 一月十四日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛

西比利亞仮政府組織ニ関スル新聞報ニ付報告

ノ件

政公第二四号 (二月二十四日接受)

大正七年一月十四日

在露特命全權大使 内田康哉(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

西比利政府組織ニ関シ報告ノ件

「トムスク」市発行「シビールスカヤ、ジーズニ」紙客年十二月二十九日号ノ報スル処ニヨレハ同地開催ノ全西伯利大会ハ十二月二十七日及二十八日ノ両日ニ亘リ西伯利仮政府 (Le Conseil provisoire de Sibérie) 閣員ノ選挙ヲ行ヒ左ノ結果ヲ得タリト言フ

総理大臣 ゲ、エヌ、ポターニン

閣員 ペ、ヤ、デルバル

ク ア、イエ、ノヴォセロフ

Tomsk, Jan. 20, 1918-5.35 p.m.
Received, Feb. 3, 〃-11.10 p.m.

Monsieur le Ministre des Affaires
étrangères de l'Empire du Japon, Tokio.

La Conférence Extraordinaire Sibérienne tenue à Tomsk le 15 décembre 1917 et composée des délégués des villes, des provinces, des organisations coopératives, des paysans, des travailleurs, des soldats, des cosaques et de l'université Sibérienne a élu le Gouvernement provisoire de la Sibérie représenté par le Conseil Provisoire Sibérien qui se compose du Président Potanine et des membres Derber, Ernekoff, Zakharoff, Novossiloff, Patouchinsky et Chatiouff. Le 25 janvier commenceront à Tomsk les séances de la Douma Sibérienne en qualité d'organe législatif si-bérien jusqu'à la convocation de l'Assemblée Constituante Sibérienne. Les élections de l'Assemblée Constituante sont prévues pour le mois de Mars. Le Gouvernement Provisoire Sibérien a pour son but la lutte contre l'anarchie, le rétablissement de l'organisation du Gouvernement de la Sibérie autonome et aussi de donner son appui à l'Assemblée Constituante

閣員 エム、ベ、シャチーロフ

ク イエ、ヴェ、ザハーロフ

ク イエルメコフ(キルギズ土人)

ク ゲ、ゲ、パテウシンスキー

財政經濟會議

議長 エス、ペ、ニコノフ教授

民族會議 メオメデウーリン

ストロカン

コスタムイシェフ

軍事會議 ソートニコフ(ミヌシンスク、コザック隊長)

クドリヤフツェフ(兵卒)

サイトフ(将校)

右及報告候 敬具

二九五 一月二十日 在トムスク西伯利亞仮政府ヨリ
日本国外務大臣宛(電報)

「トムスク」ニ反過激派的ノ西比利亞仮政府

組織ヲ日本政府ニ通告及右承認方要請ノ件

de toute la Russie dans l'organisation du pouvoir légitime centrale. Le Gouvernement Provisoire Sibérien s'accorde entièrement avec l'Assemblée Constituante de toute la Russie sur la question de la paix, à combattre les desseins des Commissaires du Peuple, de donner au pays une paix honteuse séparée.

En faisant part du susindiqué à Votre Excellence, le Gouvernement Provisoire Sibérien exprime la conviction que le Gouvernement de l'Empire du Japon ne refusera pas de reconnaître le Gouvernement Provisoire Sibérien.

Pour le Président

Derber

Pour le Secrétaire

Moravsky

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

一千九百十七年十二月十五日「トムスク」ニ開催シ且各州都市、共同団体、農、労、兵、哥薩克及西比利亞大学ヨリ成ル西比利亞臨時會議ハ西比利亞仮政府ヲ選挙シ同政府ハ総理大臣「ポターニン」及閣員「ダーバー」「エルメコフ」「ザハロフ」「ノボシロフ」「パトーチンスキー」及「チ

「ヤトロフ」ヨリ成立スル西比利亜臨時内閣ニ依リ代表セラ
ルヘシ又西比利亜憲法議會召集ニ至ル迄西比利亜地方議會
ハ同地方立法機關トシテ一月二十五日ヨリ「トムスク」ニ
於テ其ノ議事ヲ開始スヘク憲法議會ノ選舉ハ三月ヲ以テ施
行セラルヘシ西比利亜政府ハ無政府主義ニ反對シ西比利
亜自治政体ヲ再建シ又適法ナル中央政權樹立ニ對シ全露憲
法議會ニ其ノ支持ヲ与フルヲ以テ其ノ目的トス西比利亜假
政府ハ講和問題ニ関シテハ屈辱の單獨講和ヲ國家ニ齎ラサ
ントスル人民委員會ノ企画ヲ防止スルニ於テ全露憲法議會
ト全然其ノ所見ヲ同ウスルモノナリ茲ニ閣下ニ向テ前記ノ
次第ヲ通報スルニ方リ西比利亜假政府ハ日本帝國政府カ我
假政府ノ承認ヲ拒否セラレザルヘキヲ確信ス

總理大臣代理

ダーバー

書記官代理

モラフスキ

日本帝國外務大臣閣下

第二二九号

二月二日露國公使ニ面會ノ際同公使ハ本官ニ對シ極内密ト
シテ予テ滿洲里ニ滞在セル「セメノフ」大尉ナルモノ主ト
シテ西伯利亞ニ於ケル過激派ノ跳梁ヲ壊滅セムカ為メ滿洲
里ニ於テ哥薩克兵其ノ他ヲ徵募シテ既ニ約三百名ヲ得目下
嚴格ナル訓練ヲ施シツツアリ更ニ進ンテ三四千名ヲ糾合セ
ムトシ銳意努力中ナルカ同人ノ目的ハ先ツ東清黑龍兩鐵道
ノ接合点タル「カリムスカイヤ」ヲ占拠シ「ハバロフスク」
「イルクーツク」兩方面ノ連絡ヲ断絶シタル後「チタ」
「イルクーツク」方面ニ前進セムトスル計畫ナルガ元來過激派ノ
分子ハ土匪ニ類スル何等秩序ナキ群衆ノ集團ニ過ギザルヲ
以テ規律アル三四千名ノ軍隊ヲ以テセバ容易ニ之ヲ粉碎シ
得ル見込ニシテ自分ニ於テモ出来得ル限りノ援助ヲ与ヘ度
キ希望ナルガ元來西伯利亞ニ於ケル過激派抑制ノ理想ハ一
面連合与國ニ取リテモ頗ル望マシキ義ト信セラルルニ付旁
此際日本政府ヨリ差当リ機關銃三十乃至四十及同附屬火藥
竝小銃三千挺ノ供給ヲ得ルコト叶フ間敷哉本官ヨリ本國政
府ノ同情の考慮ヲ求メラレタク尚本件ニ関シテハ既ニ英國
公使ニモ内議シ同國ニ於テハ其ノ本國ニ於ケル軍器ノ需要

二九六 一月二十一日 在露國內田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)
西比利亜政府トノ接觸ニ関シ具申ノ件

第五〇号

(二月十四日接受)

過日外交団會議ヨリ帰途仏國大使ト同車セルニ同大使ハ突
然日本ハ西比利亜政府ヲ承認セシヤトノ問ニ付然ラザル旨
ヲ答ヘタル處在「イルクーツク」市仏國領事代理ハ先般同市
騷動ノ際遭難シタルニ付仏國ハ新ニ領事ヲ任命シ西比利
政府ト事務上ノ交渉ヲ開始セシムル筈ナリト語レリ今日ノ
狀勢ヲ以テスレハ結局露國ハ連邦制共和國トナリ西比利
モ其一連邦タルニ至ル可シト思ハル就テハ將來同地方ニ於
ケル各種利權ノ獲得上ハ勿論諸國ノ對西伯利亞態度ヲ監視
スル為今日ヨリ相当吏員ヲ派セラレ同政府ト接觸ヲ保タシ
メルル事得策ニアラザルカト思考ス御參考迄ニ

二九七 二月三日

在中國考茨臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

「セメノフ」ノ過激派壊滅ノ為ノ拳兵ニ関シ

日本ノ武器援助ヲ得タキ旨露國公使ヨリ申出

デタルニ付請訓ノ件

切ナルモノアルニ顧ミ他ニ之レヲ供給スルコト頗ル困難ナ
ルヘキニ付差向キ財政上ノ援助ヲ得度キ旨要請シタル處英
國公使モ右「セメノフ」ノ拳事ニ對シ深甚ナル同情ヲ表シ本
國政府ニ出来得ル限りノ進言ヲ辞セザルベキヲ答ヘタルヲ
以テ更ニ種々懇談ノ末結局毎月五十六万二千留ノ補助金支
出ノ義本國政府ニ請訓方承諾シタルニ付多分遲滞ナク右請
訓ノ手續ヲ執ルコトト信ゼラルルモ万一諸般ノ事情ニ依リ
同國其ノ他ヨリ早急財政上ノ援助モ得難キ場合ニハ此ノ点
ニ就テモ日本政府ニ於テ好意的の考慮ヲ加ヘラルルヲ得バ頗
ル幸甚ナル旨ヲ述べタル後実ハ曩ニ「インターナショナル」
エクスぺディション」ヲ組織シテ過激派ヲ抑圧セントノ義ア
リ當時「クルペンスキ」大使ヨリ閣下ニ内議ニ及ヒタル
處遂ニ閣下ノ御贊同ヲ得ザリシ趣ナルガ今回ノ計畫ハ全然
露國人ノ手ニ依リテ敢行セムトスル次第ニ付閣下ノ同情的
考慮ヲ期待シ得ベキコトト信スル旨ヲ附言シタリ依テ本官
ヨリ本件ニ就テハ既ニ米國公使ニモ會談セラレタルヤト試
問シタル處実ハ一応内議ヲ遂ゲタルガ同公使ハ個人トシテ
ハ頗ル同情ヲ表スルニ躊躇セザルモ本國政府ノ立場ニ顧ミ
縱令進言ヲ試ムルモ具體的の援助ハ期待シ難カルベキ旨ノ趣

旨ノ返答アリタル趣ヲ語リタリ就テハ右ニ関シ御詮議ノ上
露国公使ニ対スル回答振至急御電訓ヲ請フ〔奉天録也二月三日〕
〔前三〕

二九八 二月十三日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日本ヨリ武器及軍資金供給方竝日本ノ出兵方

ニ関シ「セメノフ」ヨリ希望申出ノ件

第五五号 至急、極秘

(二月十四日接受)

過般來滿洲里駅ニ於テ相当ノ勢力ヲ占メ且過激派ノ手ヨリ
「チタ」ヲ奪還スルコトニ尽力シタル哥薩克大尉「セメノ
フ」ハ約一週間前ヨリ哈爾濱ニ來リ英國領事ヲ訪問シ何等
カ画策シツツアルモノノ如クニテ同領事ヨリ同大尉ノ計画
ニ就テハ十分(脱)シ居リタル処二月十三日ニ至リ同領事
ノ勧誘ニ基キタルモノカ「セメノフ」自身本官ヲ來訪大要
左ノ通事情ヲ打明ケ且本官ノ尽力ヲ請ヒタリ

(一) 同人ハ露独戦争開始當時ヨリ戦線ニ在リタルカ客年八
月「ケレンスキー」内閣時代大本營(「ブルシイロフ」
「コルニイロフ」時代)ノ命ヲ受ケ同人ガ元來後バイカ
ル州哥薩克及蒙古旗人ノ雜種ナル關係上後バイカル地方
ニ於テ新ニ各種族ノ軍隊ヲ組織スヘキ命ヲ承ケ帰還シタ

タリ、陸軍当局ニ於テハ大体ノ見當ヲ有セラルルコトト
信ズ)ニシテ此内重砲ハ「チタ」市、「ウエルフネウジ
ンスク」ニ据付ケ単ニ敵ヲ威嚇セムトスルモノナリ此外
軍資金トシテ二十五万留ノ供給ヲ受ケ度ク右金額ニテ約
二月ヲ支ヘ得ヘク其ノ後ハ各都市ヨリ賦課金ヲ徴収シ得
ヘキ望アリ

(四) 現在ノ兵力ハ約二千(實際ハ千五百名以下ナラン)ニ
シテ大部分ハ哥薩克殘部ハ蒙古人及「ブリヤト」人種ナ
リ兵卒ハ食糧其他ヲ支給スル外月給六十留ヲ給ス(露国
ノ戦線ニ於テハ兵卒ノ手当十七留半ナリシト謂フ)

(五) 各地ニ散在スル哥薩克兵トノ連絡ニ関シテハ戦線ヨリ
帰還セル哥薩克ハ過激派ノ勢力ニ感染シ協同動作ヲ期待
シ難キモノ多タアリ「ウエルフネ」駐屯哥薩克連隊ノ如
キ其一例ナルモ「クラスノヤルスク」「カンスク」地方
ノ哥薩克ハ土着ノ兵ニシテ十分信頼スヘク既ニ確ナル連
絡モアリ「イルクツク」占領ノ場合ニハ是等土着哥薩克
ニ於テ「クラスノヤルスク」方面ヲ牽制スル筈ナリ「ニ
コリスク」地方トモ相当ノ連絡ヲ有スルモ元來同地方ノ
兵數ハ極メテ少數ニ付余リ多キヲ期待スルヲ得ズ

ル処偶々過激派ノ政変ニ遭ヒ遂ニ本年一月一日滿洲里駅
ヲ占領シ過激派ニ對抗スル地步ヲ固メ「ホルワット」將
軍ニ諸般ノ援助ヲ請ヒタルモ同將軍ハ何等明確ナル態度
ヲ示サザリシ由ニテ今日ニ至リタルガ過激派ハ遂ニ「イ
ルクツク」ヲ占領シ漸次「チタ」ニ迫ルニ至リ戦線ヨリ
帰還シ來レル哥薩克ヲ援助シ「チタ」ヲ奪還シタルモノ
ナリ

(二) 同人ハ進ンテ「イルクツク」ヲ占領シ出來得レハ漸次
西方ニ進出セムトスル希望ヲ有シ居ルモ現在ノ兵力ニテ
ハ迎テモ「イルクツク」以西迄ハ進撃不可能ナルノミナ
ラズ同人ノミノ勢力ニテハ在西伯利亞全哥薩克兵ノ連合
ヲ期シ難ク連合國殊ニ日本ノ後援ヲ期待スルコト甚大ニ
シテ日本ヨリ兵器及軍資金ノ供給ヲ得ルニ於テハ「イル
クツク」ヲ占領スルコト困難ナラザルモ永ク同地ヲ保持
スルニハ矢張日本ノ出兵ニ俟タザルベカラズ依ツテ此際
日本政府ノ斷乎タル決心ヲ切望ス

(三) 差當リ日本ヨリ供給ヲ受ケタキ軍需品ハ約小銃二千挺
機関銃二十門山砲六門六吋重砲二門(彈藥ノ數量ニ関シ
テハ概要ヲ述ヘタルモ談話ヲ取急ギタル為メ小官失念シ

(六) 前記軍需品ノ供給ニ関シ若シ日本側ニ於テ公然ノ援助
ヲ避ケラレタキ御希望ナラバ何等乎ノ方法ヲ以テ海拉爾
若ハ出來得ル丈ケ滿洲里駅ニ接近シタル地点迄鉄道輸送
ヲナスコトトシ其ノ以西ハ浦塩ヨリ來リタルモノニシテ
予ネテ同人ノ占領シタル軍用輸送自動車十台ヲ以テ陸路
輸送ヲ為シ露支國境ヲ通過スル様適宜取計ヒ得ヘシ

(七) 同人ノ計画ハ往電第四二号「ドマネウスキー」將軍ノ
計画トハ一切關係ヲ有セズ同人ハ「ド」將軍ノ企圖ヲ以
テ到底急速實現シ難キモノト思考シ居レリ又「ホルワツ
ト」將軍トハ同人ガ約三四週間前來哈ノ節一度面談シタ
ルコトアルモ今回ハ同將軍ヨリ何等ノ援助ヲ期待シ得ザ
ルヲ以テ全ク面会セザリシ

(八) 同人ハ二月十五日若ハ十七日一先ツ滿洲里ニ引返ス必
要アリ日本政府ノ御内意ヲ是非出発前ニ承知シ度シ(以
下次号、十三日)

二九九

二月十六日 本野外務大臣ヨリ
在ハルビン佐藤總領事宛(電報)

「セメノフ」ニ武器彈藥交付ニ付電訓ノ件

附記 二月十八日有田領事ヨリ參謀本部ヘノ申入覺

第二四号(極秘)

貴電第五五号ニ関シ「セメノフ」大尉ノ要望スル軍器及彈藥ハ然ルベキ筋ヲ通シ然ルベキ方法ニテ同人ニ交付スルコトニナリタルニ付貴官限リ極秘トシテ御含置アリタシ尤モ右ノ次第ハ「セメノフ」及在貴地英國領事ダケニハ極秘トシテ内話セラレ差支無シ
右在支公使ヘ転電アリタシ

(附記)

二月十八日有田領事ヨリ參謀本部ヘノ申入覚

「セメノフ」ニ対スル軍器供給ノ件

二月十八日政務局長ノ命ニ依リ參謀本部ニ林大佐ヲ訪ヒ「セメノフ」ニ対スル軍器供給ノ經過ニ付テハ隨時政務局長迄内報ヲ得度旨申入レタル処同大佐ハ正ニ了承隨時内報スルコトト致スヘキ旨答ヘタリ尚其際同大佐ハ本件ニ付テハ目下在京中ナル「セメノフ」ノ代表者ト同部荒木中佐トノ間ニ打合テ遂ケツツアリテ何レ泰平公司ヨリ單純ナル商取引ノ形式ニヨリ之ヲ供給スルコトナルヘキモ其數量、輸送方法等ニツイテハ未タ決定シタルヲ聞カズ又本件ハ嚴秘トシテ關係者以外ニハ同部所屬ノ者ニモ之ヲ知ラシメザル

方針ナレバ輸送ノ途中日本官憲ヨリ差押ヘラルルカ如キ奇觀無キヲ保セザルモ其時ハ臨機差支無キ旨差函スル積ナリ云々ト語レリ

大正七年二月十八日

有田領事

三〇〇 二月十七日

在中國芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

「セメノフ」ヘノ武器供給及出兵問題ニ関シ

意見具申ノ件

第二〇〇号(極秘)

往電第一八六号ニ関シ仏国代理公使ノ談ニ依レハ仏国政府ハ「セメノフ」ニ対シ野砲四門 Hand-granade 若干ヲ供給スルコトニ決定セル趣ナリ卑見ニ依レバ英國政府ハ單ニ資金ノ供給ヲナス事ニ止メタルニ拘ラズ仏国政府ガ既ニ武器ノ供給ヲナスコトニ決定シタル上ハ帝國政府ニ於テモ亦仏国ノ例ニ倣ヒ兵器ヲ供給セラルル事ニ御決定相成差支無之シト思考ス去リ乍ラ「セメノフ」ノ計畫援助ニ藉口シテ帝國軍隊ヲ出動セシムルカ如キハ第一事態夫レ自身ニ適當セズ蓋シ苟モ帝國軍隊タルモノ一箇「セメノフ」ノ依頼ニ輕

申進ス

三〇一 二月十八日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

「セメノフ」ニ武器供給ノ場合ニハ日本人教

官派遣ノ必要アル旨稟申ノ件

第六四号 極秘

(二月十八日接受)

往電第五五号ニ関シ「セメノフ」ニ軍需品支給ノコトニ御決定ノ場合能フヘクハ教官トシテ將校下士卒約五十名ヲ派遣スル必要アリ同支隊ニハ「ブリヤト」族ノ兵モ混入シ居ルコト故当分ノ内ハ日本軍人ノ混入ヲ秘シ得可シ本問題ニ関シ在北京仏国公使館付武官「ペリオ」大尉本官ヲ來訪連合國側ニ於テ差当リ秘密裡ニ同支隊ヲ援護スルノ必要ヲ語リ且彼ヲシテ「イルクツク」ニ進出セシメタル後占領地域ノ行政權ハ適當ナル露國人ノ主宰ノ下ニ行政委員會ヲ設ケテ之ニ當ラシメ連合國側ニ於テ同委員會ヲ監督シ且各地「コサツク」糾合ニ尽力スルヲ要ス可シトノ意見ヲ述ヘ又東支鐵道大隊モ一個中隊ハ過激派ニ感染シ既ニ引上ケ殘ルハ僅ニ一個中隊ノミナルヲ以テ鐵道運輸上ニモ非常ノ支障ヲ來シ外國商人ノ迷惑甚シカル可キヲ以テ早晚鐵道業務ニ

対スル連合政府ノ干渉ヲ必要トスルニ至ル可ク連合國ハ斯クシテ鉄道ヲ自己ノ権内ニ納メ且前記行政委員会ヲ組織スル方法ニ依リ「セメノフ」ニ後援ヲ与フルヲ可トス可シトノ意見ヲ内話セリ同大尉トノ会談ニヨリ得タル小官ノ感想ニヨレハ西比利亜ニ於テ連合國ノ利害ノ衝突甚シキヲ以テ他國ノ軍隊ヲ入ルルコトハ可成避ケタキ希望ヲ有スルモ「セメノフ」ハ「イルクツク」以西ニ進出スルコトハ不可能ナルノミナラズ同市ヲ維持スルコトモ困難ナル可キヲ以テ今後ノ事態ハ早晚連合國特ニ日本ノ出兵ヲ余儀ナクスルニ至ルヘシトノ感想ヲ有シ居ルカ如シ

「チタ」ヨリノ情報ニヨレハ「ウエルフネウジンスク」ノ「コサツク」ハ疾クヨリ過激派化シ居リタル処愈々將校ヲ逮捕スルニ至リ大部分ノ將校ハ「セメノフ」ノ下ニ逃走シタリ「チタ」モ亦大部分再ヒ過激派ノ手ニ帰セリ在支公使ヘ転電セリ（長春經由二月十八日附〇、五〇）

三〇二 二月二十一日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

英国ヨリ「セメノフ」ニ軍資金一萬磅供給ニ

付報告ノ件

第七三号（至急、極秘）（二月二十二日接受）
二月二十一日英國領事ハ本官ニ對シ在北京公使ヨリノ電訓ニ基キ「セメノフ」ニ對シ差當リ一萬磅迄ノ軍資金ヲ供給スルコトトナリ何時ニテモ支出シ得ル旨ヲ語り且ツ本件ニ關シテハ本官竝露國副領事ト密接ノ關係ヲ保ツヘキ旨訓令ニ接シタリト云ヘリ不取敢
在支公使ヘ転電セリ（長春經由二月二十一日附二、二〇）

三〇三 二月二十二日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

祖國及憲法議會擁護委員長ヨリ武器供給方希望申出ニ付請訓ノ件

第七五号 至急、極秘

（二月二十三日接受）

二月二十二日露國總領事代理副領事 Popov ト面会其談ニ拠レハ哈爾濱ニ於テ最近祖國及憲法議會積極的救護正統委員會ナルモノ組織セラレ同副領事其委員長ニ推薦セラレ行政部長「ラブルフ」（元沿海州代官）財政部長「アレキサンドロフ」（元当地執行委員長）軍事部長「ニキゾチン」大佐就任スルコトトナリ「セメノフ」支隊ヲ合シ總計約三千ノ兵ヲ募集シ準備整ヒ次第「カルイムスカヤ」駅（後

「バイカル」及黒龍鐵道分岐点）ヲ占領シ「イルクツク」方面ヨリノ過激派援軍ヲ阻止シ直チニ沿海州ニ引還シ浦潮始メ各地ノ過激派ヲ掃蕩スル計画ニテ既ニ二月二十二日宣言書ヲ發表シ当地方ニ在住スル將校全部ニ對シ同委員會ニ忠誠ヲ誓ハシメ之レニ從ハザルモノハ直ニ將校ノ權限ヲ剝奪シ本國ニ送還スルコトトセリ然ルニ差當リ必要ヲ感スルハ武器ノ供給ナル所二月二十一日在北京露國公使ヨリ受ケタル親展電報ニ依レハ同公使ト日本代理公使トノ間ニ武器ノ供給ヲ日本ニ仰ク件ニ關シ交渉纏リタル趣ニ付至急機関銃五十挺山砲六門六吋砲二門装甲自動車二台ノ供給ヲ受ケ度本官ノ尽力ヲ切望スル旨述ヘタリ同副領事ノ言ニ徵スルニ「セメノフ」トハ完全ニ連繫成リ居ルモノノ如ク右ハ同副領事力過般塞爾比軍ノ引渡タル小銃ヲ同支隊ニ受継シムルコトニ尽力シタル事実ニ徵スルモ亦同副領事自身哥薩克ノ出ナル点ヨリ推スモ事實疑ヒ無シト思ハレ右ノ將校隊編成ニ過般來尽力シタル「ニキゾチン」大佐カ軍事部長ナル以上將校隊ト「セメノフ」支隊トヲ打テ一丸トシ一致ノ動作ヲ執ラントスルモノナルコト確實ナリト存セラル又右委員會ハ兩三日中ニ幹部ノ氏名ヲ發表シ公然目的ノ行動ヲ執

ルニ至ルヘク当地ニ集合セル露國ノ有力者ハ殆ント全部之レニ加盟セル由（但シ「ドマネウスキー」將軍ハ之レト關係ナキモノノ如シ）ニテ財政上ノ援助ハ当地英國領事ヲ通シテ英國政府ヨリ得ルコト成リ居レリ小官ノ意見ニテハ行政及軍事ヲ併合セル露國人ノ団体ニシテ多少トモ纏リタルモノハ右委員會ヲ措テ他ニ一モ存在セサルヲ以テ同委員會ニ援助ヲ与ヘ成功セシムルコト極メテ必要ニシテ又望マシキ次第ト存ス就テハ同副領事懇請ノ武器ノ供給ハ此際大至急御実行相成様其筋ト御打合ノ上御取極願上度往電第七三号英國側財政上ノ援助ノ迅速ナルニ比シ遜色ナキ様取計フヲ以テ露國人ノ信望ヲ繫クコト肝要ト存ス上記武器ノ數ハ往電第五五号「セメノフ」宛ノ武器數ヲ包括セルモノニシテ即チ同委員會ニ武器ヲ提供スレハ必要ノ場合ニ配付セラルルコトトナル筈ナリ但シ同副領事ノ言ニ依レハ小銃ハ目下東支鐵道所屬ノ墨西哥銃取調中ニテ多分充分ノ予備品ヲ見出し得ヘキ由ニテ機関銃及装甲自動車ハ極メテ有用ナリト云ヘリ
以上ノ次第ニ關シ至急何分ノ儀御電訓ヲ請フ
北京ヘ転電セリ

〔欄外註記〕

「二月廿五日首相蔵相陸相ト打合済、大体供給ノ事ニ決定此旨佐藤芳沢へ内報スヘシ（本野大臣）」

三〇四 二月二十四日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

日本ヨリノ武器供給ノ形式条件ニ関シ「セメ
ノフ」側ノ希望申出ニ付稟申ノ件

第八二号 至急、極秘

（二月二十五日接受）

往電第八〇号ニ関シ二月二十四日本官ハ英国領事及露国副領事ト共ニ会談セル処露国副領事ハ日本ニ派遣シタル「セメノフ」一派ノ將校 Jelfchenko ノ目的ハ日本政府ニ於テ果シテ武器彈藥ヲ供給スル意思アリヤ否ヤヲ忖度スルタメナリシ由ニテ「セメノフ」自身モ到底武器ヲ購入スル資力ナカリシハ勿論今回新タニ組織セラレタル極東委員會モ十分ノ財力ヲ有セザルニ付成ルヘク日本ヨリ武器ノ贈与ヲ受ケタク若シ何等カノ必要アラバ日本ノ一商人ヨリ購入スル形トシ代金ノ仕払ハ數ヶ月後ニナスコトニ名義上ノ契約ヲ締結スルモ差支ナク只一日モ早く供給ヲ受ケタシト語リタリ就テハ成ルヘク同副領事希望通り御取計願ヒタシ尚同委

員会ニ於テ活動開始ノ曉ニ至ラハ目下上海ニ在ル元黒龍艦隊司令官「カウチャク」將軍ヲ總大將ニ推シ立ツル内相談アリト云フ

北京ニテハ在支日本代理公使及露国公使館ニ対シ日英兩國ノ援助ニ関シ互ニ連絡ヲ有セラルル趣ニ付貴電第二四号ノ御來訓モアルコトナカラ今後ハ本官ニ於テ英国領事及露国副領事ト必要ノ連絡ヲ保ツコトニ致シタク御承認ヲ請フ北京へ転電セリ

三〇五 二月二十四日

中島少將（ハルビン出張中）ヨリ
田中參謀次長宛（電報）

反過激派ノ擁立方策ニ関スル意見具申ノ件

（二月二十七日外務省接受）

電報 二月二十四日午前九時三〇分發

同 二五日前九時七分發

在哈爾賓 中島少將ヨリ

參謀次長宛

浦塩上陸以來各地遍歴種々ノ経験ヨリ得タル結果ヲ綜合スルニ御意図ノ達成セラルルニハ將來下ノ如クナルヲ要ス

第一、哈爾賓ニ設ケラレタル祖国擁護会ニ至大ノ援助ヲ与

獨立維持ニ惡影響ヲ生スルコトヲ懸念ス、石光等頗ル勉強シ居ル

フルコト就中要求兵器ノ發送ハ特別ノ方法ヲ以テ最も迅速ナランコトヲ要ス之レ過激派ノ活動ハ日ニ激増シ而モ其為ス所徹底のニシテ露人ノ手並ニ非ズ後方ニ独逸人ノ活動シアルコト疑フヘカラザルモノアレハナリ
第二、擁護会ノ策定セル如ク東部西比利ノ過激派ヲ掃蕩スル為ニ支隊編成案至極適當ト認ム速ニ編成ヲ完了シ「セメノフ」支隊ハ一日モ早く「チタ」ヲ取り過激派ノ東進ヲ防キ他ノ支隊ハ適時「ウスリー」ニ向ヒ「ウスリー」哥薩克ト協同スル必要アリ兵器ノ護送法サハ出来レハ直ニ実施セラルル筈

第三、「ウスリー」哥薩克ニ資金ヲ給シ兵器ヲ買入レシメ哈爾賓ヨリ前進シ来ル支隊ニ策応スルノ準備ヲナサシム現地附近ニ於テ兵器買入レ出来サル場合ニ於テハ哈爾賓ヨリ鐵道ニテ「ニコリスク」ニ輸送ス此ノ場合ニ於テハ日本ヨリ兵器供給ノ必要生スルモ知レズ此兵器輸送ハ委員會陸軍部主任ニテ受合得ルト云フ

第四、黒龍江ノ現状維持ノ為資金ヲ給シ兵器ヲ買入レシムルコト、「レーニン」政府ニ反対シアルハ全西比利中只黒龍江アルノミ最近黒龍鐵道委員過激派化シタル由ニテ

右ノ諸件ニ関シ將來ノ行動ニ関スル御意図御教示ヲ乞フ尤モ右ノ諸事情モ其實行ニ向テハ種々ノ難關アリ遽ニ成效ヲ樂觀スヘカラズ大ニ努力ヲ要スルナリ「ホルワット」ノ北京行ハ彼獨特ノ順慶式ガ各方面ノ圧迫ニ堪ヘズ遂ニ遁ケ出シタルモノナリト云フ

三〇六 二月二十七日

在浦潮菊池總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

ウスリー、コサックノ反過激派軍事支持ニ対

スル日英間ノ協議ニ関シ請訓ノ件

第一二四号

(二月二十八日接受)

二月二十七日英領事ノ本官ニ対シ内話ノ要領ハ彼ハ最近「ウスリー、コサック」ノ重立チタル者「メンデリン」及「コルマコフ」等ノ意見ヲ叩キ彼等カ過激派ニ対シ事ヲ挙ケントスルノ意向充分ナルモ只後援ナキヲ嘆ケルノ状ヲ探知シ此報ヲ本国政府ニ致シタル処最近在日本英國大使ヲ經テ此様ナル仕事ニ対シテハ日本政府カ最適任ニシテ又日本カ右ノ仕事ニ対シ充分「インテレスト」ヲ有スルニ付本件ニ関シ日本側ト協議ヲ試ム可キ回訓ニ接シタリ就テハ加藤司令官「サツフォルク」艦長日英二領事、「メンデリン」(当地東洋学院教授ニシテ「コザック」ノ外交係ト自称ス)及「コルマコフ」(現ウスリーコザック隊長)ノ六人会合シテ協議シ度意見ナルガ「サツフォルク」艦長ハ右ノ旨ヲ齎ラシ本日加藤司令官ヲ訪問シ其意向ヲ叩キタル筈ナリト云フニ在リ

シテ内話シ置カレタシ

三〇八 二月二十八日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

「セメノフ」ト祖国擁護委員会トノ關係ニ付

報告ノ件

第八四号(極秘)

(二月二十八日接受)

往電第八二号ニ関シ二月二十七日日本官ハ英國領事露国副領事及在滿洲里「セメノフ」ノ特派員ニシテ同支隊ノ參謀長タル「スキペトロフ」大佐ト二回ニ亘リ会見セリ同大佐ノ言ニ依レバ同支隊ニ於テ「カリムスカヤ」駅ヲ一旦占領シタルモ武器不足ノ為遂ニ之ヲ放棄シタリ但シ武器及軍資金ノ供給サヘアレハ何時ニテモ攻勢ニ転シ得ヘシト、該駅ニハ独逸俘虜集中シツツアリテ独逸將校指揮ノ下ニ編成ヲ急キツツアリト云フ本官及英國領事ハ極東委員会ト「セメノフ」支隊トノ密接ナル連繫ヲ実現スルニ努力シタル処同支隊代表者側ニ於テハ哈爾濱ニ出所明カナラザル委員会組織セラレ將校ノ動員ヲ強制シ又同委員会ニ依リテ編成セラレ「セメノフ」ノ輩下ニ派遣セラレタル將校中隊ハ動モスレハ「セメノフ」ノ命令ニ服從セズ別個ノ行動ヲ採ラントス

本官ハ表面上即座ニ斯様ノ事ハ本官本来ノ權限ニ屬セズ請訓ヲ要スト思考ス加藤司令官ト雖恐ラク請訓セラルルニ非ズヤト思考スル旨ヲ答ヘ英國領事ハ本協議ヲ開クト云フニモ非ズ單ニ準備ノ行為トシテ会見スト云フニ過キザルニ付請訓ノ要ナキニ非ズヤト反問シタルモ本官ハ準備ノ会合ト雖モ同斷ト思考スル旨重ネテ回答シ置ケリ未ダ加藤司令官トハ相談シ得ザルガ不取敢電報ス

三〇七 二月二十八日

本野外務大臣ヨリ
在ハルビン佐藤總領事宛(電報)

「セメノフ」ヘノ武器供給ノ形式方法ニ関シ

電訓ノ件

第四一号(極秘)

貴電第七五号ニ関シ露国副領事申出ノ武器ハ泰平組合ヨリ在京中ノ「セメノフ」代表者ニ売渡ス形式ノ下ニ之ヲ供給スルコトニ決定シ当地ヨリ大連ヘ輸送シ關東都督ノ手ヲ經テ寬城子ニ於テ露国側ニ引渡スコトナルヘシ本件ニツイテハ詳細貴地黒沢中佐ニ電訓アル筈ニ付貴官ハ同中佐ト打合ヲ遂ケ本件実行方取運フ様御措置アリタシ尚右ノ次第ハ露国副領事「セメノフ」及英國領事其他必要ノ向ヘ極秘ト

ル嫌ヒアル旨ヲ述ヘ同委員会ヲ信任セズ單ニ従前ヨリ「セメノフ」ト關係アリシ露国副領事ヲ信任スルカ如キ口吻ヲ漏ラシ之ニ対シ同副領事ハ在支露国公使ヨリノ秘密訓令ニ基キ絶対ニ「セメノフ」支隊ヲ援助ス可キ任務ヲ有スル次第ヲ述ヘ且ツ過日來組織セラレタル極東委員会ハ單ニ各方面ノ人物ヲ自己ノ味方ニ引付ケ置ク手段ニ過キズシテ諸般ノ命令ハ差當リ同副領事限リニテ之ヲ裁決シ決シテ委員會ノ干渉ヲ許サズ僅ニ「アレキサンドロフ」「ラブロフ」ノ兩名ヲ自己ノ股肱トナス由ニテ他ノ數多ノ人物ハ他日「チタ」其他各地占領ノ曉各種ノ方面ニ利用スル目的ナルコトヲ明言シタリ同副領事ノ背後ニハ日英兩國ノ後援アル事トテ「セメノフ」派遣員側ニ於テモ從來ノ誤解ヲ一掃シ且大ニ安心シ後顧ノ憂ヒ無キ事ヲ確信スルニ至レリ數次ノ会見ニ依リ得タル本官ノ感想ニ依レハ露国副領事「ポポフ」ハ身分未タ賤シキモ斷乎タル決心ヲ有スル人物ニテ微職ナカラ在支露国公使ノ信認ヲ得斷然タル所置ヲ採リ得ル權限ヲ与ヘラレタルモノノ如ク「ホルワツト」將軍北京出発ノ際ノ間際ニ當リ東支鐵道所管ノ武器軍需品ノ引渡シヲ承諾セシメタルモノニ同人ノ力ナリ又極東委員長

ニ推薦セラレタルハ事実ナルモ同人ハ推薦ニ依ル就任ヲ肯
ゼズ總テ露國總領事館ヲ中心トシテ諸般ノ命令權ヲ附与セ
ラルル様目下北京公使ヨリ委員長タル可キ任命ヲ待チツツ
アリ現今ノ狀態ニ於テハ身分ノ如何ヲ論セズ斷乎タル人物
ヲ必要トスルニ付同人カ旧政府時代ノ領事官タルヲ幸ヒ日
英兩國ニ於テ之ニ援助ヲ与ヘ極東委員會ヲ操縦セシメタル
「セメノフ」ヲシテ先ツ事ヲ挙ケシメ次テ烏蘇里黑龍地方
ノ哥薩克ヲ立タシムル方策ニ出ヅルノ外ナシト確信ス同人
ハ功名ノ為ニ奔走スルモノニアラザルコト是迄ノ遺口ニ徴
シ推察ニ難カラズ又哈爾濱ヲ以テ「セメノフ」支隊若ハ他
日組織セラル可キ支隊ノ給養地トシ当地ニ於テ編成シタル
將校隊ノ如キモ「セメノフ」ノ輩下ヨリ送りタルモノハ絶
對ニ「セメノフ」ノ命令ニ服從セシム可キモノナル事ヲ斷
言セリ小官ハ御訓令ノ趣旨並ニ政府ノ方針ヲ体シ慎重ニ各
關係外國人ト協議ヲ重ネツツアリ
在支公使ヘ転電セリ

三〇九 三月一日 中島少將(浦潮出張中)ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

関シ訓令ノ件

第五三号

貴電第一二四号ニ関シ貴官カ成ルヘク目立タザル様右「ウ
スリー」哥薩克代表者トノ会合ニ出席ノ上先方ノ意見希望
等ヲ聴取セラルルハ差支無シ但シ何等帝國政府ノ地位ヲ拘
束スルノ虞アル意見ノ開示又ハ決議参加ハ之ヲ留保セラレ
又右会合ノ模様ハ早速電報アリタシ

三一 三月七日 在浦潮菊池總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

ウスリー、コサック援助問題ニ関シ「コルム

イコフ」ヨリ意見聴取セシニ付報告ノ件

第一四二号

(三月八日接受)

貴電第五三号ニ関シ六日夜英國側ト共ニ「コルミコフ」「
メンデリン」等ニ会談ノ手筈ナリシカ「コルミコフ」カ六
日朝勞(脱)ニ捕ヘラレントシ身ヲ以テ英國領事館ニ免カ
レタルト且六日ノ形勢往電第一三八号ノ通ニシテ予定ノ会
合ヲ開クニ便ナラザリシニ付「メンデリン」ヲ除クコトト
シ同夜本官山口ヲ帶同シ「コルミコフ」、英領事、英領事館
在勤「ダンロップ」少佐等ト窃ニ英領事館ニ会合シ御訓令

「ホルワット」ニ對シ自治政府成立ノ場合ニ
於ケル日本ノ援助ニ付申聞ケノ件

(三月四日外務省接受)

電報 三月一日午前十一時五十二分發

〆 二日午後二時着

在浦塩 中島少將

參謀次長宛

第十二号

過日「ホルワット」ニ会談シタル際彼モ自治ニ就テハ不同
意ニアラザル様子ナリキ、唯日本カ如何ナル程度迄援助シ
呉ルルヤヲ頻リニ知ラントスルノ意向ナリシニヨリ自治出
來タル後ハ如何ナル援助ニ付テモ尽スヘキ旨申置キタリ、
彼其翌日北京ニ出発シタルガ四圍ノ圧迫ニヨリ遂ニ東清鉄
道ニ保管シアリシ兵器ヲ過激派ニ交附シタリト言フ彼ハ中
々ニ順慶式ナリ自動的ノ人ニ非ズ而シテ日本ノ意思ニ逆ヒ
得ルモノニ非ズト信ズ從來意氣消沈ノ氣味アリ

三一〇 三月四日 本野外務大臣ヨリ
在浦潮菊池總領事宛(電報)

ウスリー、コサックノ代表者会合ヘノ出席ニ

ノ趣旨ニ依リ「コルミコフ」ノ意見希望ヲ聴取シタルニ其
要領左ノ通り

彼等ノ計画ハ烏蘇里哥薩克ノ威力ニ依リ「ハバロフスク」
浦潮間ノ鐵道ヲ占領シ当地ノ過激派ヲ孤立セシメ而シテ後
之ヲ驅逐セントスルニアリ(但シ鐵道占領ノ後ニ於テ沿海
州カ如何ナル形態、如何ナル組織ノ政府ニ依リ統治セラル
可キカノ問題ニ付テハ同人ニ於テ確タル成見無シ)曩ニ「ル
サノフ」ノ召集シタル「ゼムストウ」及市会連合会ノ如キモ
ノニ依リ統治セバ可ナル可シ位ニ考ヘ居レルノミ且又哥薩
克ニテ極東ノ政權ヲ握ランコトヲ計画セズ唯タ秩序ノ恢復
ヲ望ミ居ルノミ「アムール」哥薩克「ザバイカル」哥薩克並
ニ哈爾濱ニ於ケル哥薩克運動トノ連絡ニ関シテモ未タ成見
ヲ有セズ但シ「アムール」哥薩克ニ付テハ沿海州哥薩克ガ愈
々事ヲ挙グレバ彼等モ響ニ応シテ立ツ可ク共同連絡ハ之ニ
次キテ当然ニ來ル可シト囑望シ居レリ哈爾濱ニ於ケル哥薩
克運動ニ関シテハ彼等ハ前掲鐵道ノ占領ニ對シ其援助ヲ必
要ト認メズト称シ居レリ(少クトモ彼等ハ未タ何レノ哥薩
克モ確タル連絡ヲ取り居ラザルハ確實ト認ム)右計画ノ為
援護ヲ望ミ度キ点ハ勿論財政及武器供給ノ二点ニアリ財政

ニ関シテハ年約百万留其他ハ軍隊費用、傷病者並ニ遺族扶助費等ノ費用ナルガ(軍隊費用ハ月手当一人歩兵百二十留騎兵二百留ノ割)此内事ヲ拳クルカ為差当リ必要トスルハ二百万留ニシテ其内五十万留ハ殊ニ早急ニ支給ヲ受ケ度シ之レ行政費支弁及穀類買入ノ為焦眉ノ急ナルカ為ニシテ穀類ハ絶対ニ欠乏シ行政費モ例ヘハ教師及看護婦ノ如キ二月以來何等ノ手当ヲサヘ支給サレザル状態ナレバ此間過激派ノ誘惑頻ニ行ハレ此儘経過セバ其誘惑ニ陥ルモノ少カラザル可シト思考サルルニ依ル銃器ニ関シテハ差当リ小銃二千挺機関銃四門出来得ヘクンハ外ニ野砲二門ヲ支給サレ度シ是等ハ何レモ最モ希望シ度キハ「ボグラニチナヤ」ニ於テ引渡シヲ受ケタキコトニアリ「ボグラニチナヤ」ヨリハ「グロデコロ」ニ密輸入スル計画ナルカ之ニ対シテ十分成算アリ但シ与国ニ於テ「ボグラニチナヤ」迄ノ運輸ニ対シ十分ノ便宜ヲ与ヘラルルノ義ナラハ上記ノ引渡シハ哈爾濱又ハ長春ニ於テ之ヲ受クルモ可ナリ外ニ日本軍隊一部隊カ「ボグラニチナヤ」ニ駐屯セラルルコトヲ熱望ス之レ過激派ニ対スル威圧ニ過ギズ事実兵力ノ援助ヲ求メントスルニアラズ若シ「ボグラニチナヤ」駐在ヲ便ナラズトセバ可成

在支那

臨時代理公使 芳沢謙吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

西伯利亚臨時政府ニ関スル件

西伯利亚臨時政府ノ件ニ関シ本月一日附ヲ以テ同政府ノ特派代表員(「デレゲー、アン、ミッスィオン、スベシアル」)「ウストロゴフ」氏ヨリ首席公使ニ宛テ別紙写ノ通り申出候趣ヲ以テ今般同公使ヨリ聯合側各国公使ニ対シ該書面移牒致越候ニ付右茲ニ及送附候間委細ハ右ニテ御承知相成度此段申進候也

(附屬書)

三月一日附西比利亞臨時政府ノ特派代表者ヨリ在中国外交団首席英国公使宛書翰写
西伯利亚臨時會議ハ其決議ニ依リ臨時内閣及西伯利亚議會ヲ創設シタルニ付各国政府ニ右通報方依頼ノ件

Pékin, le 16 Février/1 Mars 1918.

Monsieur le Doyen,

Le Congrès Extraordinaire Sibérien composé de délégués de toutes les organisations politiques de la Sibérie et représentant en conséquence la volonté de toute la population sibérienne, a créé par ses résolu-

之ニ近キ地域ニ屯在ヲ希望ス遠カラズ「アムール」ノ解氷期ニ入ル可シ一度解氷期ニ入ラハ軍略上有利ノ条件ヲ失フニ付速ニ事ヲ拳ケザル可カラズ烏蘇里哥薩克住民ハ總計約四万此内約六千ハ兵器ヲ取り得ヘキ処愈々財政及武器ニ関スル援助ヲ得バ二週間以内ニ、好都合ニ行カバ、四千ハ結合シ得ヘキ見込ナリト云フニアリ

「サカバ」ノ内話ニ依レハ「コロミコフ」ハ英国側ヨリ六千万留支給ノ内約ヲ得タル趣ナルカ英国側カ与ヘントスル援助ノ程度ニ付テハ其質問ヲ差扣ヘ居レリ英国側ハ援助ニ関スル話シハ何人ノ手ヲ経ルニ拘ラズ哈爾濱ニ於テ事ヲ進ムルコト便宜ナル可キカト申シ居レリ但シ少シモ之ヲ主張シ居ルニハアラズ御参考迄ニ申添フ

三二二 三月七日

在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

西比利亞臨時政府ノ特派代表者ヨリ在中国外

交団首席公使宛書翰写送付ノ件

附屬書 右書翰写

機密第八八号

(三月十三日接受)

大正七年三月七日

tions du 6/19 et 15/28 Décembre 1917 deux institutions:-

1/- un Conseil Provisoire élu par le Congrès et chargé temporairement de l'administration de la Sibérie autonome, et

2/- la Douma Sibérienne qui doit être convoquée par le dit Conseil et sera l'organe législatif de toute la Sibérie.-

Ces deux institutions ont en outre pour tâche la convocation de l'Assemblée Constituante de la Sibérie sur les bases du règlement qui a été élaboré à Pétrograd pour les élections de l'Assemblée Constituante de toutes les Russies.

Les Résolutions susmentionnées du Congrès Extraordinaire de la Sibérie se trouvent être parfaitement conformes à la volonté du peuple russe exprimé par l'Assemblée Constituante de toutes les Russies réunie à Pétrograd dans sa séance de 5/18 Janvier a.c.

En portant ce qui précède à la connaissance de Votre Excellence, j'ai l'honneur de La prier de vouloir bien en informer le Corps Diplomatique à Pékin, pour

être communiqué aux Gouvernements respectifs. Je me permets d'exprimer la pleine conviction que l'établissement en Sibérie d'un Gouvernement Autonome, avec toutes les conséquences qui en découlent, contribuera à la Consolidation des liens qui unissent la Russie à ses Alliés et à tous les autres Pays amis.

Veuillez agréer, etc.

(sgd) L. Oustrougoff
Délégué en mission spéciale par
le Gouvernement
Provisoire de la Sibérie.

Son Excellence Sir John Jordan, etc.,

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

以書翰致啓上候陳者西利比亞ニ於ケル有ラユル政治組織ノ代表者ヨリ成リ從テ西比利亞人民全体ノ意思ヲ代表スル西比利亞臨時會議ハ千九百十七年十二月十九日及二十八日ノ決議ニ依リ左ノ二個ノ制度ヲ設定致候

(一) 右會議ニ依リ選舉セラレ自治西比利亞ノ一時的行政ニ任スヘキ臨時内閣

(二) 右内閣ニヨリ召集セラレ全西比利亞ノ立法機關タルヘキ西比利亞国会

以上ノ二個ノ施設ハ右ニ掲ケタル任務ノ外全露西亜ノ憲法議會ノ選舉ノ為露都ニ於テ編成セラレタル規則ヲ基礎トシ西比利亞憲法議會ノ召集ノ任ニ当ルモノニ有之候

上記西比利亞臨時會議ノ決議ハ露都ニ開カレタル全露憲法議會ノ本年一月十八日ノ會議ニ於テ表明セラレタル全露國民ノ意思ト全然一致セルモノニ有之候

右閣下ニ通報スルニ付各国政府ニ移牒セラルル為在北京外交團ニ転報相成候様致度尙本員ハ西比利亞ニ一自治政府ノ樹立セラルルコトハ之ヨリ生スル有ラユル結果ト共ニ露國ト其ノ聯合國及其ノ他ノ友國トヲ連結スル關係ヲ鞏固ニスルニ資スル所アルヘキヲ十分確信致シ居リ候

右申進旁云々

一九一八年三月一日

西伯利亞臨時政府特派代表者

ウーストロゴフ

三二三 三月九日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

「セメノフ」援助ニ關スル米國ノ態度ニ付報

告ノ件

第一一三號 極秘

「ホルワット」將軍北京ヨリ帰任後後小官ハ三月七日米國總領事ガ「ナイト」提督ノ為メニ催セル晚餐會ノ席上ニテ初メテ同將軍ト會見シ尋イテ往訪シタル処同將軍ハ烏蘇里黑龍地方自治問題ニ關シ目下浦塩ニ在ル中島少將ノ意見ヲ求メタキニ付同少將ノ来哈ヲ煩シタシトノ希望ヲ洩シタルヲ以テ本官ハ黒沢中佐ト談合ノ結果直ニ菊池總領事ニ電報シ右希望ヲ中島少將ヘ伝ヘ置キタリ

同將軍カ北京談ヲ聴クニ連合國カ各個別々ニ「セメノフ」軍ニ援助ヲ与フルハ甚タ不可ナルヲ以テ日英仏露四國公使ノ會見ヲ催シ軍資金軍器等供給援助ニ關シ互ニ意志ノ疏通ヲ図リタルモ米國公使ハ之ニ加ハラス然ルニ他方米國ハ「スチーヴンス」及「ナイト」提督ヲ派シ是亦反過激派ニ對シ好意ヲ表スル所ヨリ稽フレハ米國ヲ除外スルコト穩ナラスト思ハルルニ付在北京露國公使ニ對シテハ連合國同体ノ意志疏通ヲ図ルヲ急務トスル旨ヲ詳説シタリト曰ヘリ同將軍ノ語氣ヨリ察スルニ米國公使ハ疾ニ日英兩國ノ「セメノフ」援助ヲ承知シ居ルカ如シ

又三月八日當館ニ於テ連合國領事會議ヲ催シタル処米國領

事ハ「セメノフ」ニ對シ日英兩國領事ニ於テ武器其ノ他ノ

供給ヲ為シツツアルコトヲ承知セル旨ヲ述ヘ且同領事ハ本國政府ヨリ「イルクツク」地方ノ過激派カ果シテ独塊捕虜ヲ武装セシメントスル事實アリヤ否ヲ偵察報告スヘキ訓令ヲ受ケ合衆國トシテハ右事實ノ如何ニ依リ過激派ヲ相手トシテ立ツヘキヤ否ヤノ態度ヲ決セムトスルモノノ如シト語リ右事實調査ノ為在北京米國公使館附武官「ドライスデル」少佐ヲ再ヒ黑龍鐵道ヲ經テ「イルクウツク」ヘ出張セシ

ムル筈ナリト曰ヘリ本官及英仏領事ハ之レニ對シ独塊捕虜ノ連合國ニ對スル對敵行動ノ開始ニ就テハ全然信用スヘキ確報ニハ接セサルモ独逸カ此方面ニ着々実行シツツアリト信スヘキ根拠アリ又独逸トシテハ必ス右ノ如キ手段ヲ講シ「バイカル」以西ヲ自己ノ給養地トナスヘキコト当然ニシテ斯ノ如キ独逸ノ企圖夫レ自身既ニ連合國ノ多大ノ注意ヲ要求スルモノナリト思考スル旨ヲ述ヘタリ、米國領事ハ又「セメノフ」支隊ノ編成ヲ以テ余リニ小規模ナリトシ援助ノ価値ヲ疑フモノノ如シ

以上「ホルワット」將軍及米國領事ノ言動ヨリ察スルニ既ニ日本ノ「セメノフ」ニ對スル武器供給ニ付米國側ニテモ

可ナリ感知シ居ルコト殆ント疑ヲ容レヌ此上引続キ米國ヲ
ノミ除外セムトスルコトハ時局ノ發展上却チ不利益ナルニ
思考セラル何分ノ御考慮ヲ仰キタシ
北京へ転電セリ

三二四 三月十一日 在本邦英國大使館ヨリ
日本外務省宛

ウズリー、コサック援助ニ付日本側へ意向問
合へ件

Confidential

MEMORANDUM.

The Ussuri Cossacks have hitherto remained loyal to the Allies and have preserved themselves free from Bolshevik influences, but His Majesty's Government feel that their present enthusiasm for the Allied Cause will eventually disappear if they are long permitted to remain in want of the supplies necessary for existence, the arms required for resistance to the Bolsheviks and the support both moral and material which the Allies are in a position to afford to them.

His Majesty's Government are prepared to consider the question of offering them financial assistance

and also of purchasing grain and other supplies for them; but before taking any action of this nature they would be glad to learn the views of the Japanese Government with regard to the whole question of affording Allied support to these Cossacks, how they would view the extension to them by His Majesty's Government of the help suggested above, or whether they would wish themselves to undertake the task in question, or at all events to participate in it.

British Embassy,

Tokyo.

March 11th, 1918.

(右和訳文) (註 外務省作成ノ仮訳文ナリ)

烏蘇里哥薩克援助ニ関スル千九百十八年三月十一日附在本邦英國大使館覽書

機密

從來烏蘇里哥薩克ハ連合國ニ誠実ニシテ過激派ノ勢力下ニ立タザリキ然レトモ英國政府ノ所見ヲ以テスレバ若シ彼等ニシテ其生存ニ必要ナル物資及過激派ニ對抗スルニ要スヘキ武器並連合國ノ供与シ得ヘキ精神上及物質上ノ支持ヲ得ズシテ放擲セラルルニ於テハ同哥薩克ノ連合國ノ目的ニ対スル現在ノ熱誠モ遂ニ消滅スルニ至ルヘシト思考ス

依テ英國政府ハ烏蘇里哥薩克ニ対シ財政上ノ援助及ヒ穀類其他ノ物資購入ノ問題ニ関シ考量ヲ加ヘント欲スル所同政府ハ何等此種ノ措置ヲ執ルニ先立チ連合國カ同哥薩克ニ支持ヲ供与スルノ件ニ関シ日本政府ノ意向ヲ知悉スルヲ得ハ欣幸トスル所ナリ即チ日本國政府ハ叙上提案ニ係ハル救助カ英國政府ニ依リ彼等ニ附与セラルルヲ如何ニ思考セラルルヤ將タ又本件ノ事業ヲ日本政府自ラ企図セント希望セラルルヤ或ハ又何等カ本件ニ関シ参加スルコトヲ希望セラルルヤニ付キ日本政府ノ意向ヲ知悉スルヲ得ハ欣幸トスル所ナリ

三一五 三月十一日 在ハルビン佐藤總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日本ノ兵力援助ニ関スル「ホルワット」ノ懇

請ニ付報告及稟請ノ件

第一二五号 至急極秘 (三月十二日接受)

三月十日「ホルワット」將軍本官ヲ來訪前日川上理事ニ対シ詳細申述ヘタリトノ冒頭ヲ置キ大要左ノ通申述ヘタリ
現下ノ時局ハ此ノ上時日ノ順延ヲ許サズ西比利亞ノ過激派及其ノ背後ニ潛メル独逸ノ勢力ニ対シテハ斷乎タル処置ヲ

執ルヘキ時機來レル処自分ハ過般北京ニ到リ露國公使トモ熟議ヲ遂ケ日本ノ意見ヲ確メ愈々自ラ陣頭ニ立チテ事ニ当ラントスル決心ヲ固メタリ革命勃發後一年自分ハ隱忍ニ隱忍ヲ重ネ他人ヨリハ優柔不斷ナリトノ誹ヲ受ケタルモ何分實力ヲ有セズ又自ラ立ツヘキ時機ニアラザルヲ確信シ今日ニ至リタル次第ナルガ凡テノ周圍ノ事情ハ此ノ上遷延セシムル能ハズ今ニシテ立タザレハ終ニ過激派ニ屈從ノ外ナキニ至ルヘキ処自己ノ勢力ヲ以テ「セメノフ」支隊極東擁護会其ノ他烏蘇里哥薩克ヲ立タシムルモ五千人以上ノ兵力ヲ集ムルコト困難ナリ然ルニ過激派ノ兵力ハ「ハバロフスク」ニテモ現ニ八千ヲ算シ今後増加シテ一万ニ達スヘク独逸捕虜ハ烏蘇里ニ一万余「イルクーツク」以西ニ四万合計五万人ニ及フヲ以テ是等カ全部對敵行動ヲ執ラザル迄モ僅ニ五千人ノ兵力ニテハ大事(脱)ト到底不可能ニシテ結局一万五千乃至一萬七千ノ日本兵ノ援助ヲ借ラザルヲ得ズ若シ日本兵ノ後援ヲ得バ自分等ハ先鋒トシテ進ミ「イルクーツク」以東ヲ合シテ自治政府ヲ建設スヘシ但シ自己ノ終局ノ目的ハ「トムスク」ニシテ同地方ニ産スル莫大ナル麦ヲ独逸ニ与ヘザルニアルモ此ノ目的ヲ實現センカ為ニハ前記ノ日本兵

力ニテハ不足ニシテ今二箇師団ノ出兵ヲ要求セザルヲ得ズ事情右ノ次第ナル処愈々自己力起テタル場合日本政府ノ兵力ノ援助ヲ期待シ得ヘキヤ右ニ関シ日本政府ノ御決心ヲ確ニ承知シタル上ニアラザレバ事ヲ挙クルモ無益ニ付自分ハ従前通不鮮明ナル態度ヲ持続スル外ナシ尚此ノ外差当リ一万二千ノ露国兵ヲ行動セシムルニ足ル丈ノ各種ノ武器ノ供給ヲ受ケタク之ヲ哈爾濱ニ保管シ必要ノ部分ハ各地ニ分配シ残余ハ時局終結後日本へ返還スルコトヲ致シタク一万二千ノ数ハ少シク多キニ過クル觀アルヘキモ夫レ位ノ用意ハ整ヘ置キタク又本件計画ニ関シテハ中島少將ノ意見ヲ問ヒタル上ニテ詳細取極メタキ考ナリ

以上「ホルワット」將軍ノ言ニ依リ考察スルニ此ノ度ハ同將軍モ愈々断然タル決心ヲナシタルモノノ如クナルニ付本官ハ之ニ對シ帝國政府ノ御決心如何ハ本官ノ詳ニセザル所ナルモ同將軍ノ決心ハ確ニ帝國政府ニ於テ慎重ナル考慮ヲ与ヘラルル所ナルヘシト確信スル旨ヲ答ヘ置キタリ只同將軍ハ愈々帝國政府ニ於テ出兵ヲ賛同セラレタル場合日本ヨリ多大ノ賠償ノ要求ニ接スルナキヤヲ大ニ顧慮シ居ルコト事實ナリ中島少將ハ三月十二日当地着ノ答其ノ上ニテ又復

処帝國政府ニ於テ断然タル決心ニ出デラルルニ付左ニ二三卑見ヲ述ヘ閣下ノ参考ニ供シタクト存ス

小官カ最初黒沢中佐ト共ニ当地ニ於テ尽力シタルハ「セメノフ」枝隊ノ武器軍資金ノ供給ニアルタルモ同枝隊丈ケニテハ到底大事ヲ成シ遂ゲ得ザルハ明カナリシヲ以テ同枝隊ノ行動開始ヲ機トシ当地ニ何等カノ纏マリタル機關ノ設立ヲ促進シ各地ヲ統一センコトヲ希望シ居リタル矢先急ニ擁護会ナルモノ起リ其會長「ポポフ」副領事力「セメノフ」ト固キ連絡ヲ有スルヲ幸同擁護会ニ声援ヲ与ヘ之ヲシテ中心機關タラシメント英國領事トモ協力シ今日ニ至リ幸ニシテ帝國政府ノ御裁決ヲ經武器供給ノ御許可ヲ得ルニ至リタル次第ノ処他方中嶋少將川上理事等夫々其任務ヲ尽サルル処アリ帝國政府ノ援助着々実現セラレ且ツ北京ニ於テ日露及其他ノ連合國代表者ト意見ヲ交換シタル結果愈々「ホルワット」將軍モ從來ノ不鮮明ナル態度ヲ棄テ事ニ当ラントスル決心ヲナスニ至リ当地方ニ於ケル形勢ハ刻々變化シタルモ結局「セメノフ」枝隊ノ舉事力導火線ト為リ露國人間ニ何等カノ中央集權ヲ形成セントスル希望具體的ニ現ハルルニ至リタルハ争フヘカラザル事實ニ有之而シテ今「ホルワ

中進スヘキモ同將軍ノ懇請ニ對シテハ至急御詮議願上タシ以上ハ川上理事ヨリノ電報ト大同小異ナルモ事件ノ重要ナルニ鑑ミ重複ヲ厭ハス電報ス

公使奉天へ転電セリ（長春發三月十二日前一二）

三一六 三月十五日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

「ホルワット」ノ日本出兵懇望ニ付統一機關

樹立ノ必要等ニ関シ意見上申ノ件

第一三一号 至急

（三月十六日接受）

（極秘）

往電第一二五号ニ関シ、三月十四日中嶋少將ハ川上理事ト共ニ「ホルワット」將軍ニ面会ノ処少將ニ對シ若シ日本ノ兵力ノ援助ヲ期待シ得レバ断然擁護会々長ト為リ同志ノ人物ヲ糾合シテ臨時政府ヲ組織シ西比利亞ノ過激派ヲ掃蕩スヘキ決心ナル旨ヲ語り成ルヘク至急一、二千ニテモ宜敷ニ付哈爾濱ニ出兵セラレタシトノ懇望ヲ伝ヘタル由ニテ當時同將軍トノ会見ノ模様及次同將軍川上理事、荒木、黒沢兩中佐及小官等会谈ノ結果互ニ一致ヲ見ルニ至リタル意見ニ関シテハ同少將ヨリ參謀次長宛電報セラレタル通りナル

ット」將軍カ擁護会ヲ中心トシテ組織セントスル西比利亞自治政府ノ如キモ既ニ往電第一二五号具申ノ通り帝國ノ武力ノ援助ナキ以上到底之カ実現望ミ難ク又之ヲ擁護シテ兎ニ角一ノ実力アル統一的中心機關ト為スコトハ即チ西比利亞ヲ過激派ノ抑圧ヨリ救ヒ出シ依テ以テ独逸ノ勢力東漸ヲ阻止スル道ニシテ又我帝國ノ存立ヲ安固ナラシメントスル國策樹立ニ符合スル所以ナリト信セラル今日ノ場合假令露國ニ英傑アリトスルモ外国ノ健全ナル實力ノ援助アルニアラザレバ自力ヲ以テ事ヲ挙クルコト到底不可能ナルハ殆ンド異存ナキ処ニシテ又此際日本カ断然タル処置ニ出デ露國內ノ健全分子ヲ援護スルニアラザレバ他ニ実力ヲ貸スモノナク結局全西比利亞ハ独逸ノ勢力範圍ニ入り独逸ハ一層強大トナルヘキニ反シ連合國ハ物資補給ノ点ニ於テ依然従前ノ地位ニ停止スルコトナルヘク此ノ如キハ連合國トシテ到底忍ビ得ザル処ナルハ勿論ナルノミナラズ帝國ノ国防上閑却スルヲ許サザル所ナリト存ス

然ラバ帝國政府ニ於テ愈々「ホルワット」將軍ノ希望ヲ容レ出兵ノ御詮議御決定ト仮定シ何レ急速ヲ要スル場合ニ付南滿地方ヨリ哈爾濱ヲ經テ各地ニ我兵力ヲ分配セラルルコ

トトナルヘシト想像セラルル処此場合第一ニ起ル問題ハ哈爾賓ニ於ケル支那軍隊トノ折合ニ有之無論出兵ニ先立チ一応支那政府ニ交渉セラルヘキハ当然ノコトナガラ果シテ支那政府カ哈爾賓ヲ以テ仮令当分ノ間ナリトモ日本軍隊ノ策源地若ハ兵站基地トナスコトニ明確ナル同意ヲ与フルヤ否ヤハ随分疑問ナルヘクト察セラルルモ日本ハ第一帝國軍隊ハ所謂外敵ニ当ラントスル前進の軍隊ニシテ東清沿線ニ分遣セラレタル支那軍隊ハ鐵道線路及支那國境防衛ノ為メニスル防守の勢力ナルコト第二西比利亞ニ於ケル過激派若ハ独逸ノ勢力ニ對抗スルコトハ即チ日支共通ノ外敵ニ当ル所以ナルコト等ノ理由ヲ以テ哈爾賓ヲ經テノ日本ノ出兵ニ対シ支那政府ヲシテ異議ヲ唱フルノ余地ナカラシムルヲ得ヘクト存セラレ且又昨年末当地過激派掃蕩以後支那兵ノ防備振ハ単ニ外國人ト事ヲ釀サザルニ腐心シタリト云フノミニテ市内警察行政ノ改善若ハ保全ノ上ニ於テ何等貢獻ノ跡ヲ見ルコト克ハズ又其能力ヲ有セザルコト明カニ付我出兵ニ対スル(脱)鑑ミ帝國カ殊ニ利害關係ノ切実(脱)行動ヲ執ルニ躊躇スル必要ナカルヘク況ンヤ帝國ノ行動ノ目的カ連合國ノ利益擁護及其自衛上ノ必要ニ基クモノナルニ於テハ尚

更ラ然ルヘクト確信セラル

但シ愈々出兵ノ場合過激派ノ惡感ヲ買フヘキハ当然ノ(脱)支那側ノ抗議ニ関シテハ余リ重要ノ注意ヲ払フ必要ナカルヘク我ハ我既定ノ方策ニヨリ飽迄事ヲ遂行シ差支ナカルヘシト存セラル其他各連合國トノ關係ハ小官ノ窺知シ得ザル処ナルモ連合國カ或ハ自己ノ信スル所ニ依リ或ハ自己ノ利害ニ依リ自発の二行動ヲ開始シタルコト多々アル從來ノ実例ニ(脱)義ニ付西比利亞地方在留邦人ノ安危甚タ氣遣ハルルニ付テハ此際見切ヲ付ケ断然引揚ケシムルヲ得策ト致スヘキヤニ存ス

北京へ転電セリ(長春發三月十五日午後五、二五)

三一七 三月十七日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

「ホ」將軍ニ於テ新ナル西比利亞假政府組織

ノ意圖ヲ披瀝シ日本ヨリノ兵力援助ヲ熱望シ

タル件

第一三五号 至急極秘

(三月十七日接受)

「ホルワット」將軍ノ要求ニ依リ中島少將、川上理事及小官ノ四名ニテ懇談セリ將軍曰ク日本ノ兵力援助アルコトノ

保障ヲ得バ直ニ假政府ヲ組織シ西比利亞ノ自治ヲ宣言シ日本ノ兵力援助ヲ正式ニ請求ス可シ然ル場合ニハ不取敢一部ノ兵ニテ可ナルヲ以テ最モ迅速ニ派遣シ假政府ヲ擁護セラ

ノアリ又彼ハ時日遷延セハ過激派独探等ノ探知スル処トナリ事ヲ未然ニ破ラルルヲ深ク憂慮シ居レリ
在支公使へ転電セリ(長春發由三月十七日午前五、三〇)

三一八 三月十八日

本野外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

「セメノフ」へノ武器援助問題ニ関シ訓令ノ

件

第一七一号

貴電第三三〇号ニ関シ「セメノフ」ニ供給スル武器ハ在哈爾賓祖國擁護会ニ引渡スコトト相成リ居リ右ノ手續等ニ関シテハ同地黒沢中佐ニ一任シアル次第ナル処擁護会ト「ホルワット」將軍トノ話合ニヨリ右武器ヲ同会ヨリ「ホルワット」將軍代表者ニ引渡スコトニハ当方ニ於テ何等異存ナキニ付右様御承知相成度尙当方ニ於テハ「セメノフ」ニ対シ将来トモ出来得ルダケノ援助ヲ与フルコトニ躊躇セザルモ予メ概括的ノ約諾ヲ与フルコトハ困難ナル事情アリ隨時必要ニ応シ商議スルコトトシタシ又英米兩國ヨリ将来「セメノフ」ニ供給スルコトアルヘキ武器輸送ニツイテハ滿鉄ニ於テモ出来得ルダケノ便宜ヲ供与シ其運賃ノ如キ或程度

迄之ヲ免除スルニ吝ナラザルモ数量ノ如キ其決定ニ密接ナル關係アルニ付個々ノ場合ニ於テ商議決定スルコトト致度由ナルニ就テハ右御含ノ上然ルヘク露國公使ニ挨拶シ置カレタシ

尚擲彈銃ノ箇數八十挺ナリ

往電第一三六号及貴電第三三〇号ト共ニ哈爾濱ニ転電アリタシ

三一九 三月二十二日

加藤第五戰隊司令官ヨリ
海軍次官及軍令部次長宛 (電報)

シベリア自治政府擁立ニ関シ「ナイト」大將

ノ本国政府ニ提出セル意見ニ付報告ノ件

機密第四十九号 (暗号)

(三月二十三日接受)

極東露領ノ政局ニ関シ二十日「ナイト」大將ハ本国政府ヘ左記電報ヲ發セル旨通告ニ接ス

一、莫斯科労兵大会ノ辯和批准ハ連盟各國ノ對極東露領政策ニ一転機ヲ画セルモノト信ス、西伯利亞露人ハ過般ノ单独辯和ニハ反對ニシテ西伯利亞自治政体ノ確立ニ對シ強キ希望ヲ有セリ、此際連盟各國力曩ニ憲法議會ノ為露都ニ召集セラレタル西伯利亞各州代表者ヲシテ浦潮ニ集

五、交通機關ノ改善ニ関シテハ現ニ從事中ノ米國技師ヲシテ繼續從事セシムヘシ

六、尚此方策実行ニ就キテハ西伯利亞本土ニ「プロパガンダ」ヲ行ヒ又一度決シタル事項ハ遲滞ナク決行万難ヲ排除シテ遂行ヲ期スヘシ (電文終)

本件ハ十九日面会ノ際ニモ同大將ヨリ話アリタルモノニシテ其ノ節本職ハ第一ニ憲法議會ノ代表者ハ温和派多キ故過激派ノ阻止妨害ニヨリテ之ヲ浦潮ニ集ムル見込少ナキコト、第二ニ主義ニ於テ反過激派ナルコトヲ宣言スルニ等シク米國從來ノ遣リ口ト「ウイルソン」教書ノ精神トニ全然背反セズヤト反問シタルニ辯和批准後ノ今トナリテハ已ムヲ得ヌコトナリ、「ウイルソン」モ意見ヲ變更スル所アルヘシト云ヒ西伯利亞ノ現状ニ對シ甚タシク悲觀說ヲ述ヘ本職ノ意見ヲ求メタル故本職ハ之レニ對シテ西伯利亞自治政体擁立ノコトハ我國モ主義ニ於テ初メヨリ希望シ居ル所ニシテ余モ屢々貴見ニ等シキ建言ヲ為セリ、我國ノ輿論モ大体之レニ一致スト答ヘ、鐵道問題ハ特ニ之レニ言及スルコトヲ避ケタリ而シテ憲法議會ニ召集セラレタル西伯利亞各州代表者ヲ浦潮ニ召集シ之レヲ援助スル如キハ時機已ニ後レタル

合シ現在泊各國艦隊庇護ノ下ニ西伯利亞臨時政府ヲ建設セシメントスルノ意アルヲ宣言スルヲ時宜ニ適スル策トシテ勸告ス

二、但シ該宣言ニ就テハ明白ニ左記三件ヲ声明スルヲ必要トス

第一、既ニ声明セラレタル通ニ西伯利亞人民ノ意志ノ実行ヲ計リ又歐露ヲ席捲セル独禍東漸ニ對シ西比利亞ヲ

防護スル為ナルコト

第二、經濟上及軍事上ノ補助供与ヲ約束スルコト

第三、關係各國ハ円満ナル平和成立ノ後西比利亞領土ノ占

有又ハ割取ノ意ナキコトノ嚴格ナル声明

三、新政府ノ安固ヲ確保シ且扶掖各國ノ利益ヲ擁護センカ為各國代表者ヨリ成ル顧問機關ヲ設置シ所屬國政府ノ訓令ヲ受ケ必要ノ措置ヲ執ルノ權能ヲ与ヘルコト

四、顧問機關ノ補助ノ下ニ新政府ニ兵力ヲ附屬セシムルコト、但シ此兵力ハ最初ハ露國人ノミトシ爾後連盟各國力此方針実行ヲ有効鞏固タラシムルニ必要ト認ムル限り各國ノ兵力ヲ添加スヘシ又軍隊指揮權ニ関シテハ各國間ニ協定スヘシ

ノミナラズ当方面ノ勞農全部力挙リテ辯和批准ニ反對ヲ決議セル今日全ク無意義ナリ、目下ノ狀勢ニ依レハ吾人ノ擁立スヘキ主体ハ勞農ノ穩健分子タル社会革命派ノ左党ト温和派ノ「コアリシヨン」ニ求ムルヨリ外ナカルヘク当浦潮ニ於テ既ニ勞農中純過激派ト社会革命派ノ分裂ヲ見タルハ最モ注意スヘキ兆候ナリトテ尚十分ノ再考ヲ求メ置キタリシカ昨朝「ナイト」大將ハ既ニ右提言ヲ華盛頓ニ電報セル旨通知シ来レリ此結果如何ハ別トシ米國今後ノ態度ハ益々傍若無人ニシテ極端ニ独斷のナルヘク此点更ニ御省察アリ度尚「ナイト」大將トノ応酬上我政府ノ方針ヲ大体承知シ置クコトハ真ニ欠クヘカラザルモノアルヲ痛切ニ感スル次第併セテ御賢察ヲ冀フ、

宛次官、次長、第三艦隊長官 (了)

三二〇 三月二十三日

中島少將 (ハルビン出張中) ヨリ
田中參謀次長宛

「ホルワット」ノ自治政府組織ノ進捗狀況ニ

関シ報告ノ件

(三月廿六日外務省接受)

電 報 三月二十三日午前九時二十分発

三月二十四日午前二時着

在哈爾濱 中島少将

参謀次長

第十八号

「ホルワット」ノ談ニ依レハ政府組織ノ準備ハ着々進行中ニシテ曩ニ「プシユコフ」大將ヲ軍隊総指揮官ニ任命セシハ其一端ナリ「ホルワット」ハ前大蔵次官「プチロフ」及目下当地ニ向ヒツツアル「コルチャツク」提督ヲ左右ノ輔佐官トシ各方面ヨリ有力ノ人物ヲ包容スル由其等ノ人選ハ既ニ決シアリ「コルチャツク」及「プチロフ」ハ前露国ニ於テ有名ノ人物ナル故自ラ政府ノ威望ヲ保持スルコトヲ確信スト

三二一 三月二十六日

在ハルビン佐藤総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

西比利亞政府ヨリノ援助方要請ニ対シテハ之

ヲ拒絶セラレ度旨「ホ」將軍申出ニ付報告ノ

件

第一五五号 至急極秘

(三月廿六日接受)

三日発行ノ当地新聞ニ掲載シタル彼等ノ宣言ニ依リ明ナリ之レ故ニ彼等ノ主義ハ過激派ト何等撰フ処ナク露国人多数ノ意見ヲ代表セルモノト見做ス可カラザルハ論ナキノミナラズ帝国政府カスノ如キ危険ナル思想ヲ擁護スルモノニ援助ヲ与ヘラルル謂ハレナキコト勿論ナリト存セラル又彼等ノ所謂西比利亞政府ナルモノハ或ル意義ニ於テ人民ノ自由意思ニ依リ選出セラレタリト云フ可ク彼等又之ヲ標榜スルモ實際彼等ノ選挙ニ当リタルハ社会党ノミニシテ R. D 党サヘ之ニ加ハラザリシコトハ大ニ注意ヲ要スル点ニ有之要スルニ極東地方ニハ未タ曾テ真ニ民意ヲ代表スル政府ナルモノ無ク又斯ノ如キ政府ヲ組織セシメンカ為ニハ先ツ「ホルワット」將軍ヲシテ任意ニ連立政府ヲ組織セシメ以テ全西比利亞ノ秩序ヲ恢復シ人命財産ノ安全ヲ保障セシメ然ル後人民ノ自由意思ヲ憚リナク吐露セシムル外他ニ何等ノ方法ナシト存セラル

右ノ次第ニ付前記代表者カ在支公使ニ接見ヲ求メタル節ハ帝国政府ハ西比利亞政府ヲ以テ健全ナル分子ヨリ成ルモノト認メズ從テ之ニ援助ヲ与フルヲ得ザル旨明確ニ御伝ヘアル様致シ度ク尤「ホルワット」ノ言ニ依レハ彼等ハ前

往電第一五〇号ニ関シ三月二十五日「ホルワット」將軍來館中島少将、川上理事ト共ニ会談セリ同將軍ノ言ニ依レハ前通信次官「ウストルゴフ」外一名西比利亞政府ノ代表者トシテ北京ニテ各連合国殊ニ日本公使ニ面接シ各国ノ援助ヲ期待シ得ヘキヤ否ヲ付度セントシ既ニ三月二十四日当地ヲ出発セル処日本政府ニ於テ万一彼等ニ援助ヲ与ヘラルル場合ニハ「ホルワット」將軍ノ計画ハ或ハ水泡ニ歸スルカ若ハ同一ノ場所ニ同時ニ二個ノ政府設立セラルル結果トナリ甚タ面白カラズ之ニ反シ日本政府ニ於テ彼等ニ対シ明確ニ援助ヲ拒絶セラルルニ於テハ彼等ハ自然同將軍ニ頼ヨルコトトナリ結局同將軍ノ計画実現ヲ容易ナラシム可ク就テハ帝国政府ニ於テハ御異存ナクハ彼等北京ニ来リタル際彼等ニ対シ援助ヲ拒絶セラルル様願上ケ度シト申出アリタリ卑見ニ依レハ西比利亞政府ハ純然タル社会主義ニシテ单独講和ニ反対シ過激派ヲ反逆者トシテ目スルモ憲法議會ヲ以テ既ニ共和主義ヲ認メタモノトナシ同議會ノ再開迄ハ西比利亞政府ニ於テ政權ヲ掌握シ且破壊セラレタル生産力恢復ノ為總テノ土地ヲ共有トシ鉱山及製造業ヲ国有トナサントスルモノニシテ其極端ナル社会主義ヲ抱懷セルハ三月二十

記宣言書発表當時トハ見地ヲ變ヘ多少穩和ニ傾キタル傾向アリ在支公使ニ対シテモ或ハ其懷抱スル主義ト異ナリタル政綱ヲ述フルヤモ知レザル処彼等ノ穩和的言動ハ無論信用スルニ足ラズ宣言書ニ明記シタル各項ハ今更隱蔽スルニ由ナキ次第ニ付此点御含置キ願ヒ度シ

在支公使ヘ転電セリ(長春經由三月廿六日午前二二〇)

三二二 三月二十七日

在本邦英國大使館ヨリ
日本外務省宛

ウスリー、コサックヘノ援助問題中穀種調達

方ニ付協議越ノ件

MEMORANDUM

URGENT and Confidential

Reference to Memorandum of March 11th.

As it is reported that the Bolsheviks are trying to win over the Ussuri Cossacks and in view of the nearness of the sowing season, H.M. Government consider that it is necessary as soon as possible to comply with the request of the Ussuri Cossacks and to supply them with the corn seed which they require. H.M. Government propose to instruct their Consul at Har-

bin to procure the necessary seed unless the Imperial Japanese Government have decided to furnish the supplies themselves.

British Embassy
Tokio.

March 27, 1918.

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

烏蘇里哥薩克援助ニ関スル千九百十八年三月二十七日附在本邦英
国大使館覚書

緊急機密

三月十一日附覚書ニ関連シ過激派ハ烏蘇里哥薩克ヲ屈服セ
シメント努メ居レリトノ報道アリ且又播種時期ノ切迫シ居
ルコトニ顧ミ英國政府ハ出来得ル丈ケ速ニ烏蘇里哥薩克ノ
要求ニ応シ且所要ノ穀種ヲ彼等ニ供給スルヲ以テ必要ナリ
ト思考ス英國政府ハ若シ日本政府ニシテ自ラ此等物資ヲ給
スルコトヲ決定セラレ居ルニアラズンバ在哈爾濱英領事
ニ対シ必要ノ穀種ヲ入手スヘキ旨訓令センコトヲ提議ス

三二三 三月二十八日 中島少将(ハルビン出張中) ヨリ
田中参謀次長宛(電報)

「ホ」將軍ノ自治政府組織ノ段取ニ関シ我方

三二四 三月三十日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

西比利亞政府代表「ウストルゴフ」ヨリ申出
ノ援助問題ニ関シ電訓ノ件

第二一九号

「ウストルゴフ」ノ件ニ関シ貴官ト露国公使トノ意見交換
ノ次第ハ貴電第四三二号ヲ以テ御報告相成居ル処当方ニ於
テモ同人ノ運動カ「ホルワット」將軍ノ計画ト相容レザ
ルモノアルニ顧ミ之ヲ中止セシメ度意向ニテ右ニツキ参謀
本部ヨリハ既ニ夫々訓令済ノ筈ナルニ付陸軍側ト御打合せ
ノ上然ルヘク御措置アリタシ尚本件ハ在本邦英國大使ヨリ
「ジョルダン」公使ヘモ電報スル筈ナリ御含迄
右哈爾濱へ転電アリタシ

三二五 四月一日 在ハルビン佐藤総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

「ホ」將軍ニ対シ支援ヲ与フルヲ辞セザルベ
キ旨申入レタルニ付機宜ノ措置ニ付予メ配慮
方稟請ノ件

第一七〇号 (四月一日接受)

ノ意向ヲ尋ネラレタルニ付請訓ノ件

(三月三十日外務省接受)

電報 三月二十八日午後十時三十分發

〃 二十九日午後〇時五十分着

中島少将

参謀次長宛

第二十五号

本日「ホルワット」首メ将来閣員タルヘキ四、五名ノ集合
ニ招カレ下ノ事ヲ尋ネラレタリ、政府組織ニ就キ成ル可ク
各派ノ者ヲ糾合セントスルモ斯克テハ露西亜人ノ性癖タル
議論喧シク事ノ成立ニ害アリ依テ先ツ「ホルワット」ヲ首
腦トシ五、六ノ有力者ヲ以テ政府ヲ組織シ漸次他ノモノヲ
包容セントス日本ノ意向如何云々、下官ハ之ヨリ外ニ方法
ナシト認メ決シテ異議ナカルヘシ尚為念電報シ置クヘシト
返答シ置キタリ、何等カ御考モ有ラハ御電訓ヲ乞フ、尚此
組織ヲ以テ北京ノ「クダシエフ」公使カ同意スルヤ否ヤヲ
心配シ居レリ、要スレハ北京ノ方面ニ御手入アリタシ

至急 極秘

往電第一三三三号ニ関シ「ホルワット」將軍カ政府組織ノ場
合帝國政府ニ於テ果シテ兵力ノ援助ヲ与ヘラルヘキヤ否ヤ
ニ関シテハ未タ閣下ヨリ何等ノ御電訓ニ接セザルモ中島少
将カ参謀次長ヨリ接受シタル電報ニ依レハ「ホルワット」
將軍カ政府ヲ組織シ事緒ニ就クニ至ラハ其要求ニ依リ帝國
政府ニ於テ支援ヲ与フルコトヲ辞セズ又連合國ヲモ勧誘ス
ヘシトノコトニテ且ツ總理大臣モ右電報ヲ閱覽セラレタリ
トアリ又三月三十一日同次長ヨリノ追電ニ依レハ右支援ニ
付キ兵力ノ援助ヲ意味スルコト勿論ナリトノコトニテ帝國
政府ノ態度御確定ニ付キ最早一点ノ疑ヲ容ルルノ余地ナキ
ニ至レリト思考セラレタルヲ以テ同日中島少将ノ求メニ応
シ「ホルワット」將軍ヲ訪問シ次長來電ノ趣ヲ申入レタリ
同將軍ハ又恰モ在北京露国公使ヨリ連合國殊ニ日本ノ援助
ニ付キ猜疑ヲ抱キ計画ヲ遷延スルノ誤レルコト並ニ曩ニ北
京ニ赴キタル西比利亞政府代表者ハ日支仏政府ノ同情ヲ得
ザリシノミナラズ英國公使ハ之ヲ引見スルコトヲ謝絶シタ
ル旨ノ電報ニ接シ居リタルヲ以テ愈々断然新政府組織ニ決
シ組織成リタル上改メテ帝國政府ノ出兵ヲ乞フコトナリ

タリ就テハ右出兵ノ請求アリタル際機宜ノ処置ヲ執ララルル様子メ御配慮願ヒ上ケタシ又杉野堯閣下宛往電第五六号及第五八号ニ依レハ武装俘虜ノ東上既ニ疑ナク当地駐在武官ノ許ニモ同様ノ電報各方面ヨリ到達セリ尤モ杉野電報第五八号ニモ記載セル如ク今回ノ武装俘虜ハ俘虜自身ノ自由意思ニ基キ武装シタルモノニシテ過激派政府ノ使喚ニ出デタルモノニアラザルヤモ測リ難シト雖モ一旦俘虜ノ跋扈ヲ默視スルニ於テハ今後モ続々同様ノ事実發生スヘク終ニハ時機ヲ失スルニ至ルヘシト存セラル

北京へ転電セリ(長春發四月一日午前一〇、一〇)

三二六 四月二日 日本外務省ヨリ
在本邦英國大使館宛

烏蘇利哥薩克援助問題ニ関シ三月十一日附及
同月二十七日附英國大使館覚書ニ関シ回答ノ

件

烏蘇利哥薩克援助ノ件ニ関スル三月十一日附英國大使館ノ覚書ハ之ヲ帝國政府ノ慎重ナル考慮ニ附シタリ露國ノ健全分子ニシテ現ニ連合國側ニ忠実ナル者ニ対シ適當ナル支持ヲ与フルノ望マシキコトハ帝國政府ニ於テモ充分之ヲ認識

被ム次第二非ズ帝國政府ハ在内地帝國總領事ニ対シ右ノ計画ヲ実行スル為メ英國領事ヨリ援助方申出アルニ於テハ之ニ応ズヘキ旨訓令ヲ与フルコトトスヘシ

(并譯語)

Confidential

Memorandum

The Memorandum of the British Embassy dated March 11, on the question of Allied support to the Ussuri Cossacks has been engaging the careful attention of the Japanese Government. The advisability of offering adequate support to the healthy elements in Russia who remain loyal to the Allies is fully realized, and the Japanese Government are ready to participate in the assistance to be extended to those elements, provided its success is reasonably assured.

It then remains for the Allied Governments to examine whether and how such assistance could be usefully afforded. It would appear that the Ussuri Cossacks are not sufficiently consolidated to present a united front in any issues of national or international importance. Nor has their authority been definitely established in any part of the Russian

スルモノナルカ故ニ帝國政府ハ如此援助ノ成功ガ相当確實ナルモノアルニ於テハ此等ノ健全分子ニ対シ与ヘラルヘキ援助ニ参加スルコトニ躊躇セズ

從テ本件ニ関シテハ連合國政府側ハ先以テ此ノ如キ援助ガ有効ニ与ヘ得ラルルヤ否ヤ及其ノ与ヘラルル方法如何ヲ考究スルヲ要ス元來烏蘇利哥薩克ハ未ダ國民的若クハ國際的ノ事項ニ対シ統一セル行動ヲ執ル迄ニ充分結束シ居ラザルノミナラズ露國內ノ何レノ部分ニ於テモ外國又ハ反對派ノ勢力ヲ排除シテ其ノ權力ヲ確立シ居レリトハ認ムルヲ得ザルモノノ如シ故ニ此等哥薩克ニ供給セラルヘキ物資ノ輸送又ハ分配ニ対スル有効ナル監督ノ方法ノ缺如スルニ於テハ右ノ如キ物資ハ結局吾人ニ於テ之ヲ阻止セムコトヲ目的トセル危険ナル活動ヲ敢テスル者ノ手中ニ落ツルノ虞アリ帝國政府ノ意見ニ依レハ烏蘇利哥薩克ニ対シ供与セラルヘキ援助ノ問題ヲ決定スルニ当リテハ先以テ如上ノ諸点ヲ慎重ニ考覈スルノ要アリト認ム

然リト雖モ帝國政府ハ三月二十七日附英國大使館覚書中ニ提議セラレタル通り哥薩克ニ於テ急需ノ穀種ヲ調達スヘキコトヲ在哈爾濱英國領事ニ訓令セラルルコトニ何等異議ヲ

territory in exclusion of alien or opposing influences. Accordingly, it is apprehended that without efficient means being found for the control of the transportation and distribution of the supplies provided to them, such supplies might eventually fall into the hands of those whose dangerous activities it is intended to resist. These considerations should, in the opinion of the Japanese Government, be carefully weighed in deciding the question of the assistance to be afforded to the Ussuri Cossacks.

The Japanese Government have however no objection whatever to the British Consul at Harbin being instructed to procure for the Cossacks the corn seed which is urgently needed, as proposed in the Memorandum of the British Embassy under date of March 27. The Japanese Consul-General at Harbin will be instructed to assist his British colleague, if so desired, in carrying out that undertaking.

Department of Foreign Affairs,
Tokio, April 2nd, 1918.

三二七 四月三日 中島少將(ハルビン出張中)ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

「ホ」將軍ノ驟起決意方撻憑ニ関シ報告ノ件

(四月五日外務省接受)

電報 四月三日午後十一時十分

〃 四日午前十時十五分

中島少將

參謀次長宛

第三十四号

本日前大藏次官「プチロフ」ヨ伴ヒ「ホルワット」ト膝詰談判ニ出カケタリ恰モ良シ「クルペンスキー」ヨリノ來電アリタリ其中ニ閣下ノ御話トシテ兵器、彈藥、其他必要ノモノトアルモ兵力ノコト無シト稍々疑念ノ様子アリシ故「其他ノモノ」トハ勿論兵力ヲ指スコトヲ説明シタルニ彼ハ安心シタリ尚「クダシエフ」ニ列國ノ内意ヲ尋ネタルニ未タ返答ナキ由ニ付次長ヨリノ電報ニ依リ日本カ列國ヲ誘引スルコトアル故之亦心配ニ及ハズト説明シタリ、尚米國ノコトヲ心配シタルニ付日、英、仏連合シ貴官ヲ支持セハ米國反對スル理由ナシ、事ヲ決スルニ當リ全部ノ同意ヲ得ル

ルカ為ニハ別段從來ノ制度ニテ支障無キ筈ニテ殊ニ露國公使ノ談ニ依レハ目下同事事務局ノ改組方考量中ニテ又改組ニ関シテ仏國側ノ容喙ヲモ之ナキ様苦心シ居ル趣ニ付鐵道長官トシテ其手腕ヲ振ヒ得ルコトナル可ク旁々同將軍ノ人物ニ感服出來難キ点アルニセヨ兎ニ角我方トシテハ同將軍ヲシテ從來ノ制度ニ依リ行動ヲ繼續セシムル方先ツ穩當ト見受ケラルルト同時ニ同將軍カ猶支那ノ領土内ニアル間ニ政府ヲ組織セントスルカ如キハ第一支那政府ノ聞エモ宜シカラザル可キノミナラス事態面白カラザル挙ト認メラルル処本使カ間接ニ承知セル所ニ依レハ同將軍ノ政府組織ニ對シ我方ニ於テ頗ル好意ヲ表シ援助ヲ与ヘントスル向キ之アル趣ナルガ右ハ帝國政府トシテ既ニ同將軍ノ政府組織ニ援助ヲ与フルコトヲ決セラレタル次第ナルヤ本使含迄此点承知致置キ度ク実ハ露國公使ニ於テモ同將軍ヲシテ從來ノ制度ニ依リ行動ヲ繼續セシムルヲ可トスルノ意見ヲ有ス御含迄ニ

三二九 四月六日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

「グラベ」ヲ東京派遣ノ旨「ホ」將軍談話ノ件

一四 反過激派關係雜件 三二九

コトハ不可能ニ付兎ニ角今晚首腦者ヲ會シ最後ノ決定ヲ為スヘキ旨迫リタルニ彼モ同意シ昨夜八時ニ首腦者七名ヲ會シ最後ノ決定ヲ為ス筈ニテ下官モ招待セラレタリ、只今斎藤少將ノ通報ニ依レバ「クダシエフ」ハ支那ノ領土タル哈爾濱ニ於テ政府組織ハ穩カナラザル意見ヲ有スルカ如シ之ハ過日林公使ヨリ右様ノ意味ヲ「クダシエフ」ニ話シタルニ依ルナラン至急北京方面ニ御手入アリタシ、又本日午後三時米國武官「ホルワット」訪問ノ由、如何ナルコトヲ齎スヘキヤ疑問ナリ目下離間中傷、迫害等種々妨害運動行ハル、兎ニ角今夜ノ會合ハ頗ル重大ト認ム、下官ハ全力ヲ揮テ決心ヲ迫ルヘシ

三二八 四月四日

在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

「ホ」將軍ノ組織計畫ニ對スル日本ノ態度ニ

関シ問合ノ件

第四七六号(極秘)

(四月四日接受)

「ホルワット」將軍カ哈爾濱ニ於テ仮政府ヲ設置セント試ミツツアル由ノ処同將軍ハ東支鐵道長官トシテ事務局ヲ始メ相當行政機關ヲ有スルカ故秩序ヲ維持シ過激派ニ對抗ス

第一八八号

(四月八日接受)

往電第一七〇号ニ関シ出兵問題ニ對スル我陸軍側ノ意見ハ疾ク明確ニ決定シ居ル如キモ閣下ヨリ本件ニ関シ在日本露國大使ヘ帝國政府ノ方針トシテ通告セラレタルコトナキ一事ハ大ニ「ホルワット」將軍ノ疑惑ヲ招キ日本ニ於ケル軍事外交ノ兩方面ニ一致ヲ欠クニアラザルヤ疑ハシムルニ至リタル処同將軍カ事ヲ挙クルニ當リ最も重要ナル要件タル日本ノ兵力ノ援助ニシテ十分期待シ得ザルニ於テハ到底斷乎タル処置ヲ執ルヲ得ザルヲ以テ今般「グラベ」ヲ東京ニ特派シ親シク閣下ノ御意見ヲ伺ヒ且露國大使ノ意向ヲ確カムルコトトシタル旨同將軍ヨリ話アリタリ本官之ニ對シ至極贊成ノ旨ヲ告ゲ此ノ如キ重大事件ノ前ニ當リテハ十分日本政府トノ意思疏通ヲ計ルコト極メテ必要ニ付「グラベ」ノ出張ハ機宜ニ適シタルモノト思考スル旨ヲ述ヘ置キタリ同人ハ四月七、八日頃当地出發東京ヘ直行ノ等尚ホ同將軍ハ既ニ決心シタルニ拘ハラズ今日迄躊躇シタル最大且ツ唯一ノ原因ハ日本ノ決心如何ノ確報ヲ得ザルニ存シ所謂西比利亞政府トノ不折合ノ問題ノ如キハ余リ重要視セザル旨ヲ語レリ

在支公使へ転電セリ(奉天中継四月七日後四'三〇)

三三〇 四月十二日 在本邦英国大使ヨリ
幣原外務次官宛

「セメノフ」前進抑制ニ関スル件

Confidential

April 12, 1918.

Dear Mr. Shidehara,

In our Conversation Yesterday about the situation at Vladivostok I forgot to tell you that Sir John Jordan telegraphed to Mr. Balfour a few days ago reporting that Semenov proposed to make an advance shortly upon Karmnskaia Station, and asking for the views of H.M. Government. In reply Mr. Balfour telegraphed to Sir John that he thought it would be wiser for Semenov to hold his hand for the present, and confine himself to organizing his force, and to refrain from military operations until the question of possible Allied intervention in Siberia had made further progress. Mr. Balfour also said that as the Allies were endeavouring to induce the Bolshevik Government at Moscow to renew the struggle against

Germany and perhaps even accept Allied Assistance and Cooperation, it was evident that an advance by Semenov just now encouraged by the Allies must indispose the Bolshevik Government and be injurious to our policy.

Yours Sincerely,

(Sgd.) Conyngham Greene

(右和訳文)(註 仮訳文ナシ)

浦潮斯徳ノ事態ニ関シ昨日御会談ノ節数日前在支英国公使「シヨルダン」ハ「バルフォア」外相ニ対シ「セメノフ」ヨリ近々「カルイムスカヤ」停車場方面ニ前進スヘキコトヲ提唱シ来リタル趣ヲ報告スルト同時ニ右ニ対スル英国政府ノ所見ヲ承知シタキ旨電報シタル一事ヲ御話可致答ノ処終ニ之ヲ失念致候

右電報ニ対シ「バルフォア」外相ハ今暫ク「セメノフ」ニ於テ何等ノ行動ヲモ開始スルコトナク其努力ヲ軍隊編成ニ集中シ以テ西比利亜ニ対スル連合国防干渉ノ問題カ何等カノ進行ヲ見ル迄軍行動ヲ見合ハス方得策ナルヘシト思考スル旨回電シタル上外相ハ目下連合国防側ハ莫斯科ニ於テ過激派政府ニ対シ独逸ト戦闘ヲ再開シ或ハ更ニ進ンテ連合国防ノ援

助ト協同ヲ受クヘキコトモ慫慂スルニ努力シツツアル際ナ
ルカ故ニ連合側ノ声援ニヨル「セメノフ」ノ前進ハ自然過
激派政府ノ好ムトコロナラザルヘク結局我政策ニ累ヲ及ホ
スヘキ旨ヲ附言シタル趣ニ有之候

千九百十八年四月十二日

カニングム、グリーン(自署)

幣原外務次官殿

三三一 四月十三日 幣原外務次官 会談
在本邦露国大使

「ホ」將軍ニ対スル日本側ノ援助如何ノ問題

ニ関スル件

大正七年四月十三日在東京露国大使「クルペンスー」氏
及在北京露国公使館一等書記官「グラベ」(W. Grawe)
氏ト幣原外務次官トノ会談要領

「グラーベ」氏

自分ハ「プリンス、クーダセフ」(Prince Koudachef
在北京露国公使)ノ命ニ依リ「ホルワット」將軍ノ政府
樹立ニ助力セムカ為ハ爾賓ニ出張シ居リ日本側ノ各方面
ノ人物ニ会见シ佐藤総領事及中島少将ニモ勿論面会シタ

次官

ルガ中島少将ノ話ニ依レバ若シ「ホルワット」將軍ガ確
実ナル基礎ノ上ニ政府ヲ樹立スルニ至ラバ日本側ニ於テ
充分援助スヘク金額ニ於テ一億円、兵力ニ於テ二個師団
位迄ハ援助スヘシトノコトナリシガ佐藤総領事ハ此ノ点
ニ付テ政府ヨリ何等訓令ニ接シ居ラズト云ヘリ故ニ自分
等ハ中島少将ガ余リ行キ過ギ居ルニ非ズヤト疑ヒ東京ニ
行カバ日本政府ノ真意ヲ明ニシ得ト考ヘ今般日本ニ来リ
タル次第ナリ

「ホルワット」將軍ノ計画ガ全然独逸勢力ノ侵入ニ反抗
スルヲ目的トスルモノナルニ於テハ我等ハ素ヨリ其ノ計
画ニハ充分ノ同情ヲ有スルモノニシテ同將軍カ此ノ目的
ヲ以テ充分鞏固ナル基礎ノ下ニ政府ヲ建設スルニ成効セ
ンコトヲ希望スルモ自分ノ知ル限ニテハ日本政府トシテ
ハ本件計画ノ援助ノ範圍及時期ニ関シ未タ考量ヲ加ヘタ
ルコトナク從テ何等確定シタルトコロナシ

「グラーベ」氏

御話ハヨク了解セリ只中島少将ノ話ニ依レバ援助ハ政府
樹立ノ後ニ与フベシトノコトナルガ哈爾賓ハ支那ノ領土

ナルカ故ニ同地ニ於テ西比利亞政府ヲ樹立スルコトハ固ヨリ不可能ニシテ本件計畫実行ノ為ニハ支那領土外ニ出ヅルノ要アリ然ルニ之カ為ニハ軍資金ハ勿論政府ヲ擁護スヘキ軍隊ヲ要ス從テ援助ハ政府樹立前ニ与ヘラレザレバ甚ダ困却スル次第ナルガ援助サルベキ金額及兵數ハ別問題トスルモ兎ニ角本件計畫ニ對シ援助ヲ与フルヤ否ヤヲ此際帝國政府ニ於テ考量シ吳レラレマジキヤ

次官

日本政府ノ意見トシテハ自分ハ何モ承知セザルモ只自分一己ノ參考トシテ先ツ承リタキハ本件計畫ハ過激派ニ對抗スルヲ其ノ重ナル政綱ノ一トスルヤ否ヤコレナリ

「クルペンスキー」氏

然リソハ重ナル政綱ノ一ナリ

次官

果シテ然ラバ本件援助ニ関シテハ尚更即答シ難シ其ノ理由ハ現下或ル方面ニ於テハ此ノ際ノ急務ハ露國ヲシテ再ヒ独逸ト戦ハシムルニアリ而シテ独逸ト戦フコトニ力ヲ致スモノハ其党派ノ如何ヲ論ズルヲ要セズ假令過激派ト雖若シ独逸ニ對シテ立ツニ至ラバ之ヲ援助スルニ躊躇

スベカラズトノ意見盛トナリツツアルニ因ル自分ハ此ノ意見ノ可否ヲ論スルノ意ナキモ此ノ如キ意見ガ連合國ノ一二依リ把持セラルル限り過激派ト戦フコトヲ重ナル政綱ノ一トスル「ホルワット」將軍ノ計畫ヲ援助スルコトハ之ト矛盾スルコトナルヲ以テ此ノ辺ノ事情ハ本件ニ對スル日本ノ決定ヲ一層困難ナラシムルコトト思考ス

此ノ時「クルペンスキー」氏ハ口ヲ挟ミテ自分ハ此ノ「或ル方面」トハ誰ヲ指スヤヲ知ルト云ヘリ而シテ同氏ハ其ノ誰ナルヤヲ明言セザリシモ同氏カ元來亜米利加政府ハ露國ノ革命ニ同情ヲ表スルノ余リ過激派政府ニモ同情ヲ寄スルモノノ如シト附言セルニ顧ミ同氏ハ此ノ「或ル方面」トハ米國ナリト解シ居ルガ如ク察セラレタリ次官ノ意ハ英ハ英國ヲ指セルモノナルモ（大正七年四月十一日附浦塩陸戰隊揚陸ニ関スル英國大使館覽書參照）此ノ点ニ付テハ故ラニ弁明ヲ避ケ置ケリ

尚「クルペンスキー」及「グラীব」ノ兩氏ハ交々過激派ヲ援助スルハ不可ナリ曩ニ連合國ノ供給シタル多大ノ武器カ恰モ敵ノ鹵獲ニ便ナラシムルカ如キ方法ニテ戰場附近ニ放置セラレ其ノ儘独逸ノ手ニ落チ西方戰場ニ利用セ

「クルペンスキー」氏ハ更ニ語ヲ転シ

「ホルワット」將軍カ内閣組織ノ際其ノ閣員ノ撰定ニ付テハ日本ニ於テ特ニ希望セラルルトコロナキヤ

次官

自分ハ未タ此ノ点ニ就テ考量ヲ費シタルコトナシ只右質問ニ對シ自分ノ思付ヲ述ブレハ若シ日本政府ニ於テ「ホルワット」將軍ヲ援助スルコトナラバ日本政府ハ同將軍ガ其ノ信用スル閣員ヲ撰定スルニ際シ特ニ之ニ干涉スルカ如キコト無カラン

終ニ次官ハ其ノ述ヘタル意見ハ全然其ノ私見タルニ止マリ何等政府ノ意見ヲ反映スルモノニ非ザルコトヲ縷述シ以テ本件会见ヲ了レリ

尚本件会谈中次官ハ曩ニ連合國ヨリ「セメノフ」ニ供給シタル軍資金並武器ハ全然同人ニ到達シタルヤ殊ニ軍資金ノ如キハ「ホルワット」將軍ノ一般資金ニ加ヘラレタルカ如キコトナキカ（大正七年林公使來電第四〇九号參照）ト質問シタルニ「グラীব」氏ハ本件武器及軍資金ハ「セメノフ」ニ宛テラレタルモノニシテ勿論「ホルワット」將軍ノ自由ニ処分シ得ヘキ筋ノモノニ非ズ既ニ全

ラルルニ至リシコトハ争フベカラザル事實ナリ此際過激派政府ヲ援助スルハ好ンテ此ノ苦キ經驗ヲ再ヒスル所以ニシテ要之「レニン」ヤ「トロツキー」等過激派政府ノ徒カ真実独逸ト戦争スルノ意志アルモノト解スルカ如キハ彼等カ如何ナル人物タルカヲ了解セザルニ依ルナリト述ヘタルニ對シ

次官

所謂「或ル方面」ノ意見ノ可否ハ自分ハ之ヲ論ズルノ意ナシ只前述ノ事情モアリ此ノ際日本ニ於テハ右ノ意見ヲ無視シ連合國ト協調ヲ遂グルコトナクシテ独立ノ行動（Independent action）ヲ執ルコトハ好マザルベシト思考ス

「クルペンスキー」氏

日本政府ハ到底独立ノ行動ヲ執ルノ意ナキヤ

次官

日本政府トシテハ未ダ之ヲ考量シタルコト無キ故今之ヲ言明スルヲ得ザルモ只自分一己ノ意見トシテハ現下ノ事情ニ顧ミ日本ニ於テ独立ノ行動ヲ執ルコトヲ避クルナラント思考ス

部「セメノフ」ニ到達済ノ旨答ヘタリ

三三二 四月十六日

在ハルビン佐藤総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

「ホルワット」「セメノフ」等反過激派勢力

ヲ助長シ全西比利亞ノ獨立ニ尽力スルノ必要

竝我出兵以外時局解決ノ方途ナキ旨稟申ノ件

第二二二号

(四月十七日接受)

対過激派問題露国救済策ニ関シテハ累次ノ電報ヲ以テ卑見上申シタル通り小官ハ今以テ日本ノ出兵ニ俟ツ外解決ノ途ナキヲ確信スルモノニ之レアリ去一月中第五七号ヲ以テ出兵ニ関シ最初ノ意見上申致シタル以来四囲ノ状況ハ益々紛糾スルノミニテ非出兵説ニ対シ有理(脱)即チ形勢ノ緩和ハ一モ之レヲ認ムルヲ得ザル有様ナリ若シ既往数ヶ月ニ幾分ニテモ形勢ノ緩和ヲ見ルヲ得タランニハ何モ強テ我出兵ヲ切言スル必要ナキコト無論ナルモ實際ノ状況ハ不幸ニシテ然ラズ時日ヲ遷延スルニ從ヒ過激派ノ手配漸次秩序のトナリ加フルニ俘虜ノ武装スルモノ日ヲ逐ウテ多カラントス若シ帝國力二三ヶ月前ニ事ヲ起シタランニハ全西比利亞ノ平定モ極メテ容易ナル事業ナリシコト疑ナク現時ニ於

テハ其当時ニ比シ「イルクツク」ハ進撃スルコトモ多少ノ困難ヲ加ヘタルコト勿論ナリ然レドモ今日ニ於テモ帝國力斷乎タル処置ニ出ヅルニ付決シテ遲シト云フベカラズ要ハ事ヲ挙クルコト一日速カナレバ夫レ丈ケ目的ヲ達スルコトモ容易ナル点ニ在リ内地諸新聞ノ論調ヨリ推察スルニ日本ノ有識者中ニハ過激派ノ根柢アル如ク思ハルル処彼等ハ赤衛軍ノ如キ一種ノ武力ヲ有スルカ故ニ今日迄我儘ノ行動ヲ為シ得タルモノニシテ遺憾ナガラ露国内ノ健全分子間ニハ之レニ對抗スル武力ヲ有セズ已ムヲ得ズ彼等ノ圧迫ヲ忍ビツツアルモノナルコト疾クニ閣下御承知ノ通ニ之レアリ若シ外間ノ力ニ依リ反過激派ノ武力の勢力ヲ組織スルヲ得バ鳥合ノ衆ニ過ギザル赤衛軍ノ如キハ数日ヲ出デズシテ全滅セシメ得ヘキコト我出先陸軍官憲ハ素ヨリ各国領事館武官等ノ意見全然一致スル所ナリ

由來露国ノ国民性ハ所謂長イモノニ卷カレ易キモノアルコト識者ノ周知スルトコロニシテ過激派カ勢力ヲ得タルモ此国民性ニ基クコト明ナリ然ラバ彼等ヲ全滅セシムルモ亦此点ニ在リト確信セラル然ルニ往電第二一九号記載ノ通り英仏両国力過激派ノ申出ニ基キ露国軍隊再興ノ相談ニ与リタ

ルコト果シテ事実トセバ之真ニ了解スベカラザル措置ニシテ一度戦線ヲ撤廃シ平和条約ヲ締結シ連合国ヲ完全ニ売リタルニ拘ラズ独逸ノ背信ニ依リ今窮境ニ陥リ再ヒ連合国ノ憐ヲ乞ウテ自己ノ地位ヲ保タムトスル売国奴ト共ニ露軍再興ヲ協議セムトスルカ如キハ如何ニ過激派ヲ買被リタル英仏ノ(脱)可カラザル所ナルヤ論ヲ俟ズ帝國ニシテ万一英仏ノ例ニ倣ヒ過激派政府ヲ認ムル如キコトアラムニハ夫コソ一大事ニシテ全露国ハ極端ナル社会主義ニ化シ帝國ノ社会の存立ニ危害ヲ及ボスコト疑ナク往年幸徳一派ノ社会主義者ニ対シテサヘ全日本国民ヲ挙ケテ戦慄セル其同一国民カ隣国ヨリスル更ニ恐ルヘキ迫害ニ対シ平然ヲ装ヒ得ヘシトハ到底想像シ得ザルコロナリ案スルニ英仏ノ今回ノ行為ハ西部戦場ノ悲境ニ陥リタルニ依リ不得止過激派ニ阿諛シテマデモ新軍隊ヲ組織セムトスル理由ニ基クモノナルヘク日本ノ積極の行動力健全分子ヨリ成ル新軍隊ノ編成ヲ俟タザリシ点ハ真ニ遺憾ノ至ナルモ我ニモ亦荏苒時ヲ費シ今日迄英仏ニ対シ一縷ノ光明ヲ与ヘザリシ罪アルコトヲ自白セザルヲ得ズト信ズサレドモ英仏ノ對過激派交渉ノ如キハ之ヲ中絶セシムルコト無論難キニ非ズシテ唯日本ノ努力如

何ニ依リテ決セラルヘキ問題ナルヘク我ハ我既定ノ方針ニ從ヒ「ホルワット」「セメノフ」等ノ反過激派ノ勢力ヲ助長シ全西比利亞ヲ獨立セシムルニ尽力スルヲ以テ帝國ノミナラズ連合国ノ利益ノ為メ最善ノ方法ナリト確信セラル仮令過激派カ英仏ノ援助ヲ得タリトスルモ到底彼等ニ依リテ独軍ニ對抗ス可キ軍隊ヲ組織シ得可シトハ予想ダモ為スヲ得ズ有産有識階級ヲ挙リテ是ニ反對ス可キハ明白ナル事理ニシテ又此等ノ贊同ナクシテ何事ヲモ為シ得ザル可キハ多言ヲ要セズ我政界ニハ又米國ノ反對ニ対シ大ナル恐怖ヲ有スルモノノ如クナル処仮リニ南米ノ一国ニ於テ合衆國ノ国是ニ反スル政治的動乱アリタリト假定シ是ニ英仏若ハ日本カソノ動乱ニ同情ヲ寄せ之ヲ援助セントスルニ対シ果シテ米國ハ之ヲ隱忍ス可キヤ我ノ西比利亞ニ於ケル關係ハ恰モ北米ノ南米ニ於ケルカ如ク決シテ他國ノ妨害ヲ許サザルモノナリト確信ス無論出兵ノ曉ニハ巨万ノ国帑ヲ費消セザルヲ得ザルコト勿論ナルモ若シ此ノ儘ニテ過サバ指令巨万ノ富ヲ以テスルモ取返シノツカザル事態トナルヲ覚悟セザル可ラズ況ンヤ西比利亞ノ富源ヲ以テセバ我出費ノ幾分ヲ直ニ償フニ足ル可ク一旦占メタル政治的地歩ハ我ニ充分ノ

代償ヲ与フル保障ナルニ於テヤ兎ニ角我出兵ニ俟ツ外他ニ時局解決ノ方法ヲ見出し得ザル点ニ於テ出先帝國官憲ハ勿論連合國代表者ノ意見全然一致スルモノナルハ小官ノ責任ヲ以テ断言スル処ニ有之当地米國領事ノ如キサハ小官ト全ク同意見ニテ本國政府ノ方針ヲ不可解ナリトナシ居ル点ハ特ニ御考量ヲ仰キタシ

尚客年支那兵力容易ニ哈爾濱ノ過激派ヲ驅逐シタル事並今回ノ浦潮海兵上陸ノ実例ノ如キハ如何ニ過激派力根底ヲ有スル事浅ク且ツ外國ノ勢力ニ屈從スル事容易ナルヤヲ証明スルモノニシテ「イルクーツク」方面ニ於テハ或ハ「チタ」附近ニテ小戦ヲ交フル必要アルヘキモ其後ハ大道ヲ濶歩シ進ミ得ヘシ今回ノ出兵ハ戦争ノ為ニスル出兵ニアラザル点ニ於テ特ニ世人ノ誤解ヲ避ケタシト存ス

（長春領事館經由四月十六日後八五〇）

三三三 四月十六日 在英國珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

日本ノ西比利亞出兵問題ニ關連シ我方針連合

出兵ニ變更セラレタルヤニ付問合ノ件

第三一一号 大至急 （四月十七日接受）

英國參謀本部ヨリ田中大佐へ提議ニ係ル東部西比利亞ニ於

參謀次長宛

支極秘第二二二二号

「ホルワット」ハ今朝本職ニ会见ヲ申込ミ来リ早速露國公使館ニ於テ「クダセフ」「ホルワット」「コルチャック」提督及公使館附武官ト会见セリ「ホルワット」ハ昨日「クルペンスキー」ヨリ何故ニ「ホルワット」ハ未ダ驅起セザルヤト閣下ヨリ質問アリ尚閣下ヨリ本職ニ面会セヨト勸告アリタル由電報ニ接シ会见ヲ求メタル次第ナリトテ左ノ通り述ヘタリ

「ホルワット」ハ支那ノ領土内ニ於テ政府ヲ建設シ能ハザルモ彼ハ政府ノ実権ヲ掌握セントス此目的ヲ以テ「ホルワット」ハ哈爾濱ニ於テ左記要旨ノ宣言ヲナサントス

今ヤ露國ニ我露國民ノ服從スヘキ政府ナシ前露國政府ノ法律上ノ代表者タル「ホルワット」ハ鐵道附屬地内ニ在ル露國人民並ニ官衙學校会社等ニ対シ自己ノ命令ニ服從スヘキコト及過激派政府成立以前ニ發布サレタル露國ノ法律ヲ實施スルコトヲ要求ス、政府ノ権能ヲ實際ニ行使センカ為「ホルワット」ハ各行政ヲ管掌セシムル為東清鐵道長官官衙ノ役員ヲ採用セントス之カ為來ル二十五日北京露莊銀行

ケル反過激派ノ露國各軍隊ヲ英國將校ノ手ニテ統一の二編成シ日本ノ西比利亞出兵動軍ニ隸屬セシムルノ考案ニ關シ參謀次長ヨリ同大佐宛電訓ニ「我參謀本部ハ出兵ノ場合ニ於テ米國ノ疑惑ヲ避ケムカ為ニハ連合國軍隊ノ参加ニ敢テ不同意ヲ唱ヘズ米國ノ態度ヲ緩和スルニ有利ナリト認ムレバ我政府ニ勸告シテ右ニ同意セシムル様努力スベシ此ノ意味ヲ以テ先方ニ回答スヘシ」トアル処右ハ今日迄當國政府ニ對シ累次声明セラレタル帝國政府ノ態度ト全然矛盾スルニ付田中ニ對シテハ不取敢右電訓執行方見合サシメ置キタルガ帝國政府ノ御方針ハ果シテ前記參謀次長電報ノ通ニ變更相成タル次第ナリヤ折返シ何分ノ儀御回訓ヲ請フ

三三四 四月二十二日 齋藤在中國日本公使館附陸軍武官ヨリ
田中參謀次長宛（電報）

「ホ」將軍ガ哈爾濱ニ於テ政府ノ實權掌握ノ

目的ヲ以テ行ハントスル宣言ニ付報告ノ件

（四月廿五日外務省接受）

電報 四月二十二日午後八時四十分發

〃 二十三日午後七時四十五分着

在北京 齋藤少將

ニ於テ役員ノ選舉ヲ行ヒ左ノ如ク決定スル筈ナリ

長官「ホルワット」、財政事務「ピュチロゴ」、軍事「コルチャック」、商務「スロザペ」、鐵道事務「ストルゴフ」、無所屬「エゼルスキー」、「デホイヤー」、「コノバス」、支那代表楊某

右役員ハ將來西伯利若クハ東部西伯利ニ進出シテ政府ヲ建設スル場合ノ役員ニハアラズシテ單ニ東清鐵道長官事務局ノ役員タルニ過ぎズ即チ其一部ハ「ホルワット」ガ東清鐵道ノ附屬地内ニ在ル間彼ヲ輔佐スルモノナリ、右事務局建設後「ホルワット」ハ哈爾濱ニ行カン同地ニ於テ「コルチャック」ト共ニ陸軍ノ建設及其行動ニ關スル計画ニ就キ中島少將ト協議セントス、依テ「ホルワット」ハ左ノ事項ニ就キ中島少將ニ命令サレンコトヲ希望セリ、

一、軍事計画ニ關シ「ホルワット」及「コルチャック」ト共同協議スルコト

二、財政及軍事上ノ援助ニ就キ日本ヨリ「ホルワット」ニ供給シ得ヘキ限度ヲ説明スルノ権能ヲ与ヘラルコト
以上「ホルワット」ノ希望ニ對シ兎モ角閣下ニ電報スベキヲ答ヘ置キタリ、明日田中中佐ヲ同行更ニ詳細ニ彼レノ決

心ヲ探知セントスルモ彼ノ希望ニ対シ御指示ヲ待ツ、「ホルワット」ハ本週中当地滞在ノ予定(中島済)

三三五 四月二十三日

齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

政府組織ニ関スル「ホルワット」ノ構想ニ付

報告ノ件

(四月二十五日外務省接受)

電報 四月二十三日午後四時五十分

二十四日午前十一時四十五分

齋藤少將

參謀次長宛

支極秘二二四号

- 本日田中中佐同道「ホルワット」「コルチャック」ニ面会シ昨日ノ希望ハ取敢ヘズ次長ニ電報シタルモ之カ決定ノ參考ノ為ト本職ヨリ左ノ諸件ヲ質問シタリ
- (一) 政府建設當時ニハ資力ナキハ已ムヲ得ザルモ精神の團結ノ堅固ナルヲ要ス在哈爾濱諸將軍トノ關係如何
 - (二) 鐵道事務局建設後先ヅ何レノ地点迄前進セントスルヤ
 - (三) 前進方面ニ於ケル反对派ノ兵力

シアリシ兵器ヲ使用シ得ル筈員加爾以東ニ約四五千ノ兵力ト外ニ「イルクツク」附近ニ約一万一千ノ捕虜アリ又貝加爾以西ヨリ「チタ」附近ニ二、三万ノ兵力ハ直ニ集中シ得ヘシ

- (4) 収入ハ現在ノ兵力及一時支出ニ供セハ残余ナシ
- (5) 概括的ノ予算アリ明日貴覽ニ供スヘシ又援助ヲ受クル資金ハ無線借款トス
- (6) 今次支那側ト何等ノ交渉ナシ但東清鐵道長官(支那人)副總裁(露人)ノ外ニ露人八、支那人一ノ役員ヲ置ケ規定ヲ実行セントスルノミ

(7) 米國鐵道員ハ昨年五百人ヲ雇傭シ浦塩「テスムウ」間ノ鐵道修理ヲ為サントセシ所政府更迭シ実行ニ至ラズ今回内二百人ヲ呼寄せ三個所ノ鐵道學校ニ各二十名宛ヲ使用シ残余ハ哈爾濱ニ滞在シアリテ技術以外ニ關係ナシ最後ニ「ホルワット」ハ田中閣下ヨリ何故驅起セザルヤヤ問ハルモ事情前述ノ如クニシテ實際驅起シ能ハザルナリ故ニ予ハ驅起ノ動機附与ヲ求メントスト、本職ハ之ニ対シ貴電九十三号ノ意味ヲ敷衍シ主客顛倒ハ列國ヲシテ日本ニ領土の野心ヲ有ストノ誤解ヲ生セシムル虞アリ故ニ次長ハ

(四) 事務局建設後ノ收入概算之ヲ以テ編成シ得ヘキ兵力

(五) 日本ニ援助ヲ要求スル資金ニ一定額ノ見込アリヤ又ハ無制限ナリヤ

(六) 今次支那側ト何等カノ交渉ヲ為セシヤ又東清鐵道ニハ若干支那側ノ支那資源存シアリヤ

(七) 米國鐵道技術員ハ如何ニ使用シアリヤ

右ニ対スル「ホルワット」ノ答弁

(1) 精神的團結鞏固ナリ

「プレシコフ」「サモイロフ」「セメノフ」等各其部下軍隊ヲ以テ予ノ統轄ニ服從シアリ又援助ヲ諸列國ヨリ受クルトキハ各國ノ意見一致シ難キヲ以テ予ハ一ニ日本ノ援助ニ倚ラントス

(2) 事務局開設後浦塩方面ニ進出シテ浦塩ヲ占領シ該地ニ收藏シアル兵器其他ノ物資ヲ得「セメノフ」ハ哥薩克懷柔ノ為滿州里ヨリ西方ニ前進セシメントス為メニ差当リ一万以上ノ兵力ヲ得タシ

(3) 黑龍江沿海州ニ計二万ノ兵力アル外沿海州ニ一万四千ノ獨塊捕虜アリ捕虜ニ拮抗スル為從來正規軍三万ニ配当

先ヅ將軍ノ驅起ヲ慫慂セラル、日本ノ武士道ヨリ解釈スレハ徒手尚且驅起ス況ヤ若干ノ權力ヲ有スルニ於テヤ、然シ多分次長ヨリ中島ニ適宜費下ノ計画ニ参与スヘシトノ命令ヲ与ヘラルルナラン、尚予算闕覽ノ為明日ノ再会ヲ約セリ彼ハ最後ニ資金ナクシテハ何事モ為シ得ズ日本ノ首相、陸相、外相ノ意見一致シアルヤヤ問ヘリ依テ謠言ニ迷フ勿レト告ゲ置キタリ

三三六 四月二十五日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

「セメノフ」ノ「ザバイカル」方面ヘノ進撃

決意ノ情報ニ付報告ノ件

第二四八号

(四月二十五日接受)

情報ニ依レハ「セメノフ」ハ愈「チタ」方面ニ向ヒ進撃スルニ決シ一兩日中ニ行動開始ノ筈ナリト云フ過激派ノ守備薄弱ナリシ「ダウリヤ」駅ハ「セメノフ」軍ニ於テ占領セリ右進撃決行ノ理由ハ「ザバイカル」州西部地方ノ哥薩克過激派ト分離シ同派ノ圧迫ヲ受クル事甚シク救ヒヲ「セメノフ」ニ求メ来レルヲ以テ軍資金ノ欠乏ヲ顧慮スル邊ナク救援セントスルニアリ差当リ「ボルジャ」駅ヲ占領シ「オ

ノチヨウカ」ニ抛ラントス四月二十三日「プレシコフ」大將
幕僚ヲ率ヒ滿州里ニ向ヘリ多分本件進軍ニ關係アルナラン
北京、浦潮、イルクツク、齊々哈爾へ転電セリ
(長春領事館
由四月二十五日
后二、三〇)

三三七 四月二十七日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

「ホ」將軍來訪シテ日本ヨリノ資金援助ヲ懇
請シタルニ付詮議方稟請ノ件

第五八六号

(四月二十七日接受)

四月二十六日露国公使及「ホルワット」本使ヲ來訪シ東支
鐵道理事局ノ改組ハ明二十七日多分完成スルコトナルヘ
ク軍事事項ハ過日モ同公使ヨリ談話ノ通(往電第五四三号
参照) Admiral Koltchak ヲシテ當ラシムル筈ニテ巨細
ハ「ホルワット」ヨリ當館齋藤少將ニ内協議中ナリト語リ
タルニ付本使ハ在哈爾賓總領事其ノ他出先官憲ヨリノ報道
ニ依レハ臨時政府ト云フ如キモノノ設立ヲ計画セラルトノ
コトナル処理事務局改組ノ外ニ右様ノ計画アル義ナリヤト尋
ネタルニ「ホルワット」ハ自分ハ「ケレンスキー」ノ仮
政府ヨリ東支鐵道ニ対スル「コミショナー」ニ任命セラレ
居リ其ノ關係ヨリ同鐵道全線ノ治安ニ関シ責任ヲ有スル次

セラルルコト可然ト存ス而カシテ英仏兩政府ニ対シテハ帝
国政府單獨ニ之ヲ負担スルコトヲ辞セザル旨明瞭ニ言明セ
ラルルコト可然ト思考ス

尚「ホ」ハ今回傭購ノ米国人技師ハ約六十名ニテ三地点ニ
別レ既ニ業務ニ從事シ居ルモ別ニ何等政治上ノ意味ナシト
語レリ

本使惟フニ若シ帝國政府ニシテ前記援助ヲ躊躇セラルル等
ノ場合モアラバ「ホ」側ハ次第ニ依リテハ米國等ノ援助ヲ
請ハズトモ限ラズト思考ス慎重且迅速ノ御詮議ヲ希望ス

(奉天中継四月二十七日午前四時)

三三八 四月二十七日

齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

「ホ」將軍來訪シ同將軍側ニ対スル援助問題
ニ関シ申出ノ件

(四月二十九日外務省接受)

電報 四月二十七日午後十時〇分

〃 二十八日午後三時五分

齋藤少將

參謀次長宛

支極秘電二三二二号

一四 反過激派關係雜件 三三八

第ナルガ其ノ責任ヲ全ウスルニハ先ヅ浦塩及「チタ」ノ兩
地ヲ確有シ然ル後凡一万七千ノ兵ヲ募集シテ右兩地間ノ各
所ニ之ヲ配備セザルベカラズ而シテ之カ費用トシテ差向キ
二百五、六十万留又右募集完了ノ上ハ爾後毎月三百五十万
留ヲ要スル処右資金ハ之ヲ聯合側ノ援助ニ俟ツノ外ナク就
テハ英仏側ヘモ依頼スル積ナルガ相成ルベク日本一手ヨ
リ供給ヲ受クルコトトシタク若シ此ノ儀日本側ニテ御異存
ナキニ於テハ英仏等ヘハ日本ヨリ話合ヲツケラレンコトヲ
希望ス又右額ノ使途ニ付日本側ニ於テ監査ヲ必要トセラル
ルニ於テハ是レガ為委員ヲ哈爾賓ニ派遣セラルルモ異存ナ
ク唯英國政府ヨリ「セメノフ」ヘ供給セル資金ハ在哈爾賓
英國領事ヨリ同地露國領事ヘ交付スルコトトシタル為事頗
ル統一ヲ缺クニ付前述ノ金額ハ其ノ都度直接自分(「ホル
ワット」)ヘ交付セラルルコトトシタシト述ヘタリ
卑見ニ依レバ三百五十万留ハ我百万円位ニ相当スヘキニ付
一年約千二百万円ノ支出ト見做スベク右ノ外尚軍器ノ供給
或ハ臨時ノ援助ヲ要スルコトアルヘキモ其ノ金額ハ推測ス
ルコトヲ得ベキニ付「ホルワット」ノ申出デハ之ヲ承認セ
ラレ可然ト思考ス併カモ条件等ハ後日ニ譲リ速ニ之ヲ承諾

本日「ホルワット」來訪シテ曰ク本日午後鐵道事務局ノ役
員選舉ヲ終レリ今後財政及軍事上ノ援助ハ例令英仏ヨリ之
ヲ受クルモノモ日本ノ代表者タル中島少將ヨリ受領シタク
ト重ネテ述ヘタルニ依リ本職ハ先般会见ノ際ニハ多方面ヨ
リ援助ヲ受クルトキハ指揮統一ノ上ニ就キテモ種々ナル制
肘ヲ受クルニ依リ日本一手ヨリ援助ヲ受ケタシトノコトナ
リシカ將軍ノ真意ハ日本ノ一手ヨリ之ヲ受ケントスルヤ將
タ英仏ヨリモ受ケ唯其ノ手續ニ於テ日本ノ手ヲ經タシトノ
意味ナリヤト反問シタルニ「ホルワット」ハ最モ希望スル所
ハ日本一手ヨリ援助ヲ受ケタキモ先キニ「セメノフ」支隊
編成ノ際英仏ヨリ援助ヲ受ケタル關係アリ今回ノ新編成ニ
就テ故無ク英仏ノ供給ヲ拒絕スルコトモナシ難キニ就キ新
編成ニ就キ公使館附武官ニ通告シタリ果シテ供給ヲ受ケ得
ルヤ否ヤ未ダ先方ヨリ回答ヲ得ザルモ從來ノ行キガカリ上
茲ニ出デタル次第ナレバ其ノ辺諒察アリテ今後例令他國ヨ
リ供給ヲ受クルモ日本ニテ纏メラルル様希望スル次第ナリ
又本日米國鐵道委員長「スチーヴン」氏ヨリ事務局ノ一人
タル「ウストラガフ」ニ向ツテ今後米國ハ東清鐵道ハ勿論
「ホルワット」ノ軍隊ガ西進スル場合西比利鐵道ニモ鐵道

材料ヲ代価無期限ニテ供給セント提議シ来レリトテ之ニ関シ本職ニ意見ヲ問ヘルニ依リ本職ハ元來將軍ハ日本ノ單獨援助ヲ希望セラルルニ今又英仏ノ外ニ米國ノ供給ヲ受ケントセラルルハ好ンテ紛雜ヲ増スモノニアラズヤト告ゲタルニ「ホルワット」ハ之ニ関シ米國ニ未ダ何等ノ回答ヲナサズ目下東清鐵道上ニハ差シ当リ材料ヲ得ルノ必要ナシ然レトモ今後西進スル場合ニハ材料ヲ要ス自分ノ意見ニテハ其ノ場合先ツ日本ニ協議スヘシ万一日本ヨリ供給ヲ受ケ難キトキハ止ムヲ得ズ之ヲ米國ニ仰ガザルヲ得ズ且此ノコトノミナラズ何事ニ就テモ必ズ先ヅ日本ニ相談スベケレバ其ノ意ヲ諒セラレタシト述ヘタリ

尚西伯利ノ情況ヲ偵査シテ最近北京ニ達シタル仏國武官「デイリイ」ノ談ニ依レハ革命當時ニ於テハ住民ハ最先ニ仏画及皇帝ノ肖像ヲ取外シタルモ今ヤ過激派ノ横暴ニ懲リ再ヒ此等ノ画像ヲ掲グルニ至レリト以テ人民一般ノ意嚮ヲ察スヘシ又將來烏蘇里若クハ西伯利ニ前進ノ際戰鬪ハ露國軍隊之ニ當リ後他ノ方面ニ転進スル場合ニ日本軍隊ノ援助ヲ得テ占領地ノ秩序ヲ整理シタキ意見ナルカ本職ノ意見如何ト云ヘルニ依リ此等ハ篤ト中島少將ト協議セラルヘシト告

シテ各方面ヨリ熟慮ヲ遂グルコトヲ要シ目下ノ処帝國政府ニ於テ直ニ露國公使又ハ「ホルワット」ニ何等援助ヲ約スルコトヲ得ベキ地位ニ在ラザルニ付右御含ノ上先方ヘハ差當リ確答ヲ避ケラレタシ

三四〇 四月三十日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛

「ホルワット」將軍ノ進撃計畫ニ関スル件

附屬書 右進撃計畫書

機密第一七八号 (五月七日接受)

大正七年四月三十日

在支那

特命全權公使男爵 林 權助(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

「ホルワット」將軍ノ反過激派計畫ニ関スル

書面写送付ノ件

四月二十九日露國公使本使ヲ來訪ノ節持參シタル反過激派計畫ニ関スル同公使宛「ホルワット」將軍ヨリノ書面英訳ニ関シテハ往電第五九七及第五九八号ヲ以テ申進置候処右英文写茲ニ及御送付候間御査閱相成度此段申進候也

ケ置キタリ要スルニ彼ハ來著後今後ノ処置ニ関シ諸方面ニ之ヲ謀リ各方面ノ意嚮ヲ見テ其意見時々變動スルモノト察セラル併シ日本ニ重キヲ置カズシテ事業ヲ完成シ得ザルコトハ良ク諒解シアルカ如シ故ニ我ハ此点ニ著眼シ彼ヲシテ一意我ニ依頼セシムル如ク折衝スルト同時ニ我援助ノ機敏ナルヲ要ス然ラザレハ遂ニ他國殊ニ米國ノ為ニ致サルル虞アリ米國ハ曩ニ過激派ノ意嚮ニ口実ヲ置キ日本ノ行動ヲ掣肘セントセシニ拘ラズ東清鐵道ノ為ニハ却テ反過激派ニ援助ヲ与ヘントス、其野心ノ存スルトコロ瞭然タリ故ニ我決心ノ神速ハ最モ必要ナリ本日ノ會議ニ於テ支那委員ヨリ何等カ協議ヲ希望シ(問題未提出)「ホルワット」ハ之カ為メ尚一兩日ノ滞在ヲ要シ三十日夜行ニテ當地出発ノ積ナル由、貴電一二九ノ趣伝ヘタル所非常ニ感謝セリ

三三九 四月三十日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

「ホ」將軍側ニ對シ援助ヲ約シ得ザル旨回訓

ノ件

第二九一号

貴電第五八六号ニ関シ本問題ハ其影響スル処広汎且重大ニ

追テ別紙中費用明細書添付ノ旨記載致有之候ヘ共右明細書ハ露國公使ニ於テ持參不致候此段為念申添候也

(附屬書)

「ホ」將軍ヨリ在中國露國公使ニ提出ノ過激派進撃計畫書ノ英訳文

According to information received there are 6,000 armed red guards in the Primorsk province (Vladivostok, Nikolsk and Habarovsk.) In the direction of China the bolsheviks had assembled 3,000 red guards for their offensive against Semenov's forces during his first advance on the station Dauria. Admitting that their reserves in China and Irkutsk totalled 3,000 men, it can be assumed, that, at the present time, our forces during their rapid advance in the direction of Chita and Irkutsk, may be opposed by an enemy whose forces will not exceed 6,000 men.

The circumstances are such that we have to conduct our operations with two separate detachments: one operating in the direction of the Primorsk province, and the second in the direction of Transbaikalia. Each of these detachments must be about 6,000 men strong. In general, the strength of both

detachments, together with the auxiliary forces, will be about 13,500.

After the occupation of the provinces, such large places as Vladivostok, Nikolsk, Habarovsk, Blagovchensk and Chita, shall have to be securely occupied by garrisons of 700 men strong, in all 3,500. After that the main detachment of shock troops consisting of 13,500 men shall be concentrated at Irkutsk in order to defend from invasion the occupied provinces from the direction of Siberia, where according to information, there are 10,000 armed prisoners of war. If the situation becomes favourable this same detachment can advance further on.

The abovenamed forces can be quietly organized only on the territory of the Chinese Eastern Railway, on condition that the Chinese Government does not oppose the formation of these units on the Railway territory and does not prohibit the Chinese to enroll as volunteers; that the Allies provide arms, ammunition and equipment, and also the necessary funds for the maintenance of the detachment.

The total strength of the detachment, including

to the local authorities not to hinder the formation of the detachment and consent to the enrollment of Chinese as volunteers;

4/that the Allies allow their subjects to enroll.

Only under these conditions can one reckon upon the successful formation of the detachment, the establishment of due order and the further success of the whole enterprise. I should be most obliged to Your Excellency to take this matter in hand in order to approach in this sense the Chinese Government and the Representatives of the Allied Governments, and to ascertain if one can reckon upon the fulfillment of the abovenamed desiderata.

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

情報ニヨレバ浦潮斯德「ニコリスク」及「ハバロウスク」等沿海州ヲ通シ六千ノ武装赤衛隊アリ又「チタ」方面ニ於テハ過激派ハ「ダウリア」停車場ニ対スル「セメノフ」軍第一回攻撃ニ備フル為三千ノ赤衛隊ヲ集中シタリ右ノ外「チタ」及「イルクーツク」ニ於ケル彼等ノ予備隊ヲ総計三千トスレハ目下我ヨリ同方面ニ向ヒ急進スルニ際シテハ六千以内ノ敵ニ当ルノ覚悟ナカルヘカラズ

the officers and auxiliary forces, will amount to about 17,000 men.

The initial expenditure for the formation of the detachment will amount to 2,600,000 roubles.

The monthly expenditure will be 3,736,000 roubles.

A detailed list regarding the necessary funds for the maintenance of the detachment, arms and equipment is hereby attached.

For the success of the enterprise it is necessary:

1/that all arms and equipment, according to the detailed list, be forwarded, without delay, to Harbin;

2/that the funds for the maintenance of the detachment be regularly remitted at the disposal of the Russian authorities in charge of the enterprise. In accordance with the expenditure of the funds, these have to be automatically replenished. In view to supervise the correctness of the expenditure, the Allies might nominate supervisors, who would also compile rules regarding the expenditure of the funds and concerning the accounts;

3/that the Chinese Government give instructions

形勢以上ノ如クナルヲ以テ我軍ハ之ヲ二隊ニ分チ一隊ハ沿海州方面ニ他ノ一隊ハ後貝加爾方面ニ策動スルノ要アリ而シテ以上ノ兩隊ハ各六千ノ勢力ヲ要シ之ニ附屬部隊ヲ合シテ約一万三千五百ヲ要スヘシ

以上二方面占領ノ上ハ浦潮「ニコリスク」、「ハバロウスク」、「ブラゴウエシチェンスク」及「チタ」等ノ大ナル地点ハ各七百名即チ総計三千五百名ノ守備隊ヲ以テ固守セザルヘカラズ然ル後一万三千五百名ヨリ成ル本隊ヲ「イルクーツク」ニ集中シ西比利亜方面ヨリ右占領地域ニ対スル敵ノ侵入ニ備ヘザルベカラズ而シテ情報ニヨレバ右西比利亜地方ニハ武装セル俘虜二万アリトノコトナリ右ノ如クニシテ形勢尚我ニ有利トナラハ前記本隊ハ更ニ前進スルヲ得ヘシ

前記各部隊ハ東支鉄道附屬地内ニ於テ静粛ニ編成スルノ外ナク之レカ為ニハ支那政府ニ於テ右地域内ニ於ケル之等部隊ノ編成ニ反対セズ且支那人ノ義勇兵トシテ参加スルヲ禁ゼザルコト並連合國カ兵器彈藥其他ノ必要品及前記部隊ノ維持ニ要スル資金ヲ供給スルコト必要ナリ

前記部隊ノ全勢力ハ將校及附屬人員ヲ加ヘ約一万七千トナ

ルヘシ

前記部隊ノ編成ニ要スル最初ノ経費ハ二百六十万留ニ達スヘク其後毎月ノ経費ハ三百七十三万六千留ヲ要スヘシ

前記部隊維持ニ必要ナル経費武器及其他ノ軍需品ノ明細表ヲ爰ニ添付ス

以上計画成功ノ為ニハ左記ノ条件ヲ必要トス

(一) 明細書記載ノ武器及其他ノ軍需品全部ハ遅滞ナク哈爾濱ニ輸送サルヘキコト

(二) 前記部隊維持ノ資金ハ本計画ヲ統轄スル露国官憲ニ於テ使用シ得ル様規則正シク送金サルヘク且右資金ハ其ノ支出ニ從テ自動的ニ補填サルヘキコト尤支出監査ノ為ニハ連合国側ヨリ監査官ヲ任命シ前記資金ノ支出及決算ニ関スル規則ヲ制定セシムルコトセラレ差支ナシ

(三) 支那政府ヨリ当該地方官憲ニ対シ前記部隊ノ編成ニ反對セズ且支那人ノ義勇兵参加ヲ許容スル様訓令スルコト

(四) 連合国ニ於テモ各自国民ノ参加ヲ許スコト
之ヲ要スルニ上記ノ条件ノ下ニ於テ始メテ前記部隊ノ編成ヲ遂行シ秩序ヲ恢復シ更ニ全計画ノ成功ヲ庶幾シ得ヘシ
閣下ハ如上ノ趣旨ヲ以テ支那政府竝連合国政府代表者ニ交

三四二 五月二日 在ハルビン佐藤総領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

「セメノフ」軍ノ行動ニ関シ報告ノ件

第二五九号 (五月三日接受)

五月一日「プレシコフ」大将ニ面談ノ処「セメノフ」支隊ハ既ニ「オロブイアンナヤ」駅ヲ占領シ大砲八門機関銃若干捕虜二百ヲ獲、内六十名ハ埃匈国俘虜ニシテ哈爾濱ニ護送シ来ル筈当初ノ作戰計画著々成效シ大ニ満足シ居ル旨ヲ語り且各地ノ哥薩克ノ「セ」軍ニ来リ投スル者多数ナルモ矢張日本軍ノ来援ヲ待ツコト切ナル趣ヲ反覆セリ尚「ホルワット」ヨリ夫人ニ宛タル私信ニ拠レハ七千万留ノ軍資金ヲ得タル由内報アリタルモ果シテ事実ナリヤ又何レノ方面ヨリ得タルモノナリヤハ五月三日同將軍帰哈ノ上ナラデハ判明セズト云ヘリ「オロブイアンナヤ」ハ「オノン」河ノ彼岸ニ付過激派軍ハ退却ニ際シ鉄橋ヲ破壊スル暇ナカリシモノト思ハル尚「セメノフ」ハ「カリムスカヤ」迄前進セントスルモノノ如シ

在支公使在浦潮總領事在齊々哈爾總領事在莫斯科總領事代理及在露大使へ転電セリ

渉セラレ前記ノ希望達成セラルヘキヤヲ確メラレンコト切望ニ堪ヘズ

三四一 五月二日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

「ホルワット」へノ援助要請ニ付在本邦露国大使来談ノ件

第三〇〇号

四月三十日露国大使来省西伯利地方ニ於テ種々勢力樹立ノ運動ヲ試ムルモノアルモ何レモ権力ノ根拠ヲ有セズ独リ「ホルワット」將軍ハ旧仮政府ヨリ認メラレタル正当ノ官憲ナルヲ以テ日本ニ於テ之ヲ支持セラレタク同將軍ハ哈爾濱地方ニ於ケル日本出先官憲トノ接触ニ依リ日本政府ハ同將軍ニ援助ヲ与フルノ意思アルモノト了解シ居ル次第ナルガ果シテ其通ナリヤト問ヒタルニ付本大臣ハ出先官憲カ政府ノ意向ヲ精確ニ伝ヘ居レルヤ否ヤ承知セザルモ帝國政府ニ於テ「ホ」將軍ニ援助ヲ与フル為ニハ連合諸国ノ協調ヲ必要トスル旨ヲ答ヘ置ケリ右御含迄

三四三 五月四日 在本邦英國大使館ヨリ
日本外務省宛

「セメノフ」ノ進撃抑止ニ関シ日本ノ武官ニ
対シ英國武官ト協調スベキ様訓令方要請ノ件

CONFIDENTIAL

Memorandum

Whilst His Majesty's Government are negotiating with Monsieur Trotsky in the hopes of persuading him to invite the Allies to intervene, they feel that no pretext should be given him for charging them with trying to bring about counter-revolutionary movements. His Majesty's Government have accordingly informed Monsieur Trotsky that if General Semenov makes a further advance into Siberia it will be on his own responsibility, and they are taking steps in the meantime to restrain the General from doing so.

His Majesty's Government learn however from the General's Headquarters that he is making a fresh advance and that the Japanese and French Military Attachés are supporting him in his enterprise.

His Majesty's Government trust that in the circumstances the Imperial Government will see their

way to co-ordinating their policy with that of His Majesty's Government and that they will be good enough to instruct their Military Attaché to act in conjunction with the British Military Attaché.

May 4th 1918.

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

英国政府ハ連合諸国ニ干渉ヲ求メシムル様「トロツキー」氏ヲ説服スルノ希望ヲ以テ同氏ト交渉シツツアル際ニ当リ同国ニ於テ反革命運動ヲ起サシムル様企図シツツアリトノコトヲ以テ同国政府ヲ詰ルノ辞柄ヲ同氏ニ与フヘカラズト思考ス是ヲ以テ英国政府ハ若シ「セメノフ」將軍ニシテ此ノ上更ニ西比利亜ニ進軍スルコトアラバ是レ同將軍一己ノ責任ニ於テスルモノナルコト並英国政府ハ同時ニ同將軍カ斯ノ如キ挙ニ出ヅルヲ抑止スル為措置ヲ執リツツアル旨ヲ「トロツキー」氏ニ通告シタリ

然ルニ英国政府カ同將軍ノ司令部ヨリ聞知スル所ニ依レハ同將軍ハ新ニ進軍ヲ為シツツアリ且日本及仏國ノ陸軍武官ハ此ノ挙ニ付同將軍ヲ援助シ居ル趣ナリ

叙上ノ事情ナルヲ以テ英国政府ハ日本政府カ其ノ政策ヲ英国政府ノ政策ト調和セシムルノ途ヲ講セラレ且右日本陸軍

拒マザリシハ我行動ノ自由ヲ獲ンガ為ニ外ナラズシテ實際ハ常ニ我國ノ主位ニ立ツヘキハ勿論ニシテ之カ為ニハ先ツ該軍事行動ノ門戸タル東清沿線ヲ予メ我手中ニ収メ置ク必要アリ且爾後「ホルワット」及「セメノフ」等ヲシテ我行動ノ先驅タラシメザルベカラズシテ彼等ヲ統一シ其勢力ヲ保統スルハ此前程トシテ緊切ナルヲ感ズ故ニ現在ニ彼等ノ我國ヲ信頼スル氣勢ヲ殺ガズ又輕率事ヲ謬ラシムルカ如キコトナク陰ニ其計画ノ実行ヲ頓挫セシメザル如ク指導スヘキ必要アリ此事タル決定ニアラザルモ我國ノ意向モ此処ニアラザルカト考フ依テ貴官ハ以上ノ意ヲ体シ耐忍シテ「ホルワット」「セメノフ」等ノ行動ニ注意シ又之ヲ支持スルノ側ヲ全般ノ情勢ヲ觀察シテ意見アル所ヲ報告セラレタシ荒木ハ尚暫ク当地ニアラシメ形勢略ホ定マル時帰還セシムル筈其日数モ余リ多カラザルベシト信ズ

三四五 五月十一日 日本外務省ヨリ
在本邦英國大使館宛

「セメノフ」ノ進撃抑止ニ関連スル申越ニ対

シ回答ノ件

覚書

武官ニ対シ英國陸軍武官ト協和ノ行動ヲ執ル様訓令セラルヘキコトヲ信スルモノナリ

千九百十八年五月四日

三四四 五月九日 田中參謀次長ヨリ
中島少將(ハルビン出張中)宛(電報)

「ホルワット」「セメノフ」ノ援助ニ関スル

心得電訓ノ件

「ホルワット」トノ会見始末及之ニ伴フ貴官ノ意見承知ス現時ニ於テ英仏ノ「レニン」政府援助ハ大体ニ成效セザリシモノノ如ク近ク「レニン」政府ハ駐露仏國大使ノ撤退ヲ求メタル之カ例証タリ加フルニ獨國大使ノ莫斯科到達ハ此形勢ヲ一層顯著ナラシムヘシト觀測セラル此ニ於テ極東露領ニ向テスル我軍事行動ノ從來ヨリ英仏ニ必ズシモ不同意ナラザリシト共ニ近ク我國ノ若シ希望トアラバ連合諸國ヲシテ此軍事行動ニ参加セシムルモ敢テ妨ケナシトノ意ヲ表明シタル結果過去ニ反對態度ヲ保チシ米國モ或ハ其意ヲ翻スヘキ模様ノ認ムヘキモノアリテ前記露國形勢ノ變転ハ將來ニ於テ余儀ナク極東露領ニ連合的軍事行動ノ實顕スル如キ場合アルヤモ計ラレズト考ヘラル素ヨリ与國ノ此参加ヲ

「セメノフ」進軍抑止方ニ関スル五月四日附貴館覽書中日本及仏國陸軍武官ガ「セメノフ」大尉ノ進軍ニ支持ヲ与ヘ居ル旨記述セラレアル処帝國陸軍官憲ニ於テハ既ニ關係陸軍武官ニ対シ同大尉今回ノ進軍ニ付テハ何等之ニ支持ヲ与ヘザル様訓令シアリ同日日本武官ニ於テハ右訓令ヲ嚴守シ行動シ居ル次第ハ其ノ報告ニ徴スルモ明瞭ナリ

(欄外註記)

「本覽書ハ參謀本部林大佐カ次長ノ命ニヨリ武者小路課長ニ為サレタル談話ニ基キ起草シタルモノナリ」

三四六 五月十四日 後藤外務大臣
在本邦仏國大使 會談

「セメノフ」「ホルワット」援助問題ニ関ス

ル件

五月十四日(火)午後四時ヨリ大臣仏國大使「ルギョー」氏ト会見

一、支那関稅引上ノ結果トシテ生シタル剩余金ヲ日仏白三國ノ銀行ニ分預スル件ニ付北京ニ於テ三國代表者間ニ協議ノ次第アリタル処右ニ関スル日本政府ノ意見ヲ承知シタキ旨大使ノ陳述ニ対シ大臣ヨリ取調ノ上回答スヘキ旨

答ヘラレタリ

二、「セメノフ」軍ニ関スル大使ノ質問ニ対シ大臣ハ曩ニ英國政府ヨリ「セメノフ」ノ軍ヲ前進セシメザル様致シタシトノ申入アリ旁々我方ニ於テモ殊更ニ之ヲ前進セシメムトシタルニハ非ザルモ同軍自身都合ヨク前進シテ「チタ」ニ至リタリ此際同軍力持續シ得ル様遲滞無く援助ヲ与フルコト緊要ナリト思考スルヲ以テ一兩日中ニハ何等決定ヲ為ス積ナリト述ヘラレ更ニ右援助ハ軍事的ナリヤトノ大使ノ問ニ対シ大臣ハ未タ軍事的援助ヲ必要トスル迄ニ至ラズ差当リ出先官憲ノ手元ヨリ金錢上ノ援助ヲ与ヘシムル積ナル旨内密ノ談トシテ申聞ケラレタリ尚大使ヨリ「ホルワット」將軍ヲ援助スルノ意ナキヤトノ質問アリ之ニ対シ大臣ハ同人ハ實際勢力無キカ如ク而シテ同人自身如何ナル点迄決心シ居ルヤ又最近同人ト米國側トノ話合モ如何ナル程度迄進ミ居ルヤ明カナラザルヲ以テ差当リ成行ヲ觀望シ居ル積ナル旨ヲ答ヘラレタリ

三四七 五月十六日

後藤外務大臣
在本邦露國大使會談

「ホ」將軍ニ対スル日本政府ノ態度變更セラ

ハ同人カ元來技師ニシテ鐵道運輸事務ヲ担任セシムルニ便ナルト一ハ社會主義者タル同人ヲ加フルコトニ依リテ「ホルワット」將軍一派ノ守旧的色彩ノ濃厚ナラザルコトヲ標榜スルカ為ニシテ毫モ同人ヲシテ政治上ノ問題ニ容喙セシムル趣旨ニハアラズ

次ニ「ホルワット」將軍ト「コルチャック」提督トノ間ニ意見ノ相違アリト思惟セラレ居ルガ如キモ是亦誤謬ノ見タリ右ハ一方ニ於テ「ホルワット」將軍ガ北京ヨリ哈爾濱ニ歸リタル後北京ニ於ケル話合ノ趣旨及「グラヴェー」氏カ日本ニ於テ聴取シタル意見即チ哈爾濱ナル支那領土ニ他國ノ政府又ハ軍隊ヲ組織スルハ穩当ナラズトノ意見ヲ墨守シテ政府又ハ軍隊ノ問題ヲ言ヒ出スコトヲ避ケ單ニ鐵道守備兵ノ問題ノミヲ論シタルニ他ノ一方ニハ「コルチャック」提督ガ軍人肌ニシテ率直ナル平生ノ氣質ヲ發揮シテ日本總領事及中島少將ニ対シ右政府及軍隊組織ノ問題ヲ談シタルカ為誤解ヲ生セシムルニ至リタルモノナリ

將又「ホルワット」將軍ハ元來精力家ニアラズ又決斷乏シキ人物ナルモ今回軍事ニ関スル事項ハ挙テ之ヲ「コルチャック」提督ニ委シ同提督ハ事實上陸軍大臣兼總司令官トナ

レタルヤニ付「クルペンスキー」露國大使ヨリ井明ノ件

五月十六日(木)午前十時官邸ニ於テ大臣露國大使ト會見大使ヨリ大要次ノ如キ陳述アリタリ

北京及哈爾濱ヨリノ報道ニ依レハ最近日本政府ハ「ホルワット」將軍ニ対スル態度ヲ變更セラレタルモノノ如シ而シテ右ハ日本政府ニ於テ次ノ三点ニ付疑惑乃至誤解ヲ懷カレタルニ起因セザルヤヲ惧ルルガ故ニ一応弁明スル所アルヘシ

第一ハ「ホルワット」將軍ニ於テ金錢上ノ援助ヲ得ル為米國側ト交渉シタリト疑ハレ居ルカ如キモ右ハ全然無根ノコトニシテ類似ノ件トシテハ曩ニ米國ニ在ル露國公債ノ残余金ヲ取寄セムトノ問題ヲ生シタルコトアルノミナリ

第二ハ「ホ」將軍ト「ウストロゴフ」氏及「コルチャック」提督トノ關係ニ関スルモノナルガ先ヅ「ウストロゴフ」氏ハ所謂西比利亞政府ヲ代表シテ交渉ヲ試ムル為北京ニ赴キタル事實アルモ同人ハ素ト露都ヨリ西比利亞ニ來ル者ニシテ最初ヨリ西比利亞政府トノ關係ヲ有シタル者ニ非ズ而シテ「ホルワット」將軍カ同人ヲ役員中ニ加ヘタルハ一

リタル次第ナルヲ以テ「ホルワット」將軍ノ右弱点モ救済サレ随テ今後兩者ノ間ニ意見ノ相異ヲ見ルカ如キコト無キ筈ナリ

第三「コルチャック」提督ト「セメノフ」大尉トノ間ニハ何等連絡ナキモノト想像サレ居ルカ如クナルモ事實ハ全ク反對ニシテ「セメノフ」大尉ハ「コルチャック」提督ノ任命ヲ喜ヒ提督ノ哈爾濱ニ着スルヤ直ニ部下ノ將校ヲ派シテ同提督ノ指揮ノ下ニ立ツヘキ旨ヲ伝ヘシメタリ而シテ提督ハ現ニ「セメノフ」ノ所ニ往キテ其軍務ヲ監督シ居ル有様ナリ

右ノ如キ誤解ハ直ニ之ヲ明瞭ニシ置クコト緊要ナルヲ以テ今後ニ於テモ何等御不審ノ点アルトキハ直ニ御質問ニ預ル様致シタシ

尚本使ノ所見ヲ以テスレハ「ホルワット」將軍ハ正當ノ權力ヲ有スル唯一ノ人物ナルノミナラズ反過激派ヲ其周辺ニ集メ居ル次第ナルヲ以テ苟モ西比利亞ノ秩序ヲ樹立セムトセハ同將軍ノ計畫ニ援助ヲ与フルノ外何等方法無キモノナリ然ルニ日本政府ニシテ同將軍ノ計畫ヲ好意ヲ以テ見ラレザルコトトナラバ左ナキダニ所謂西比利亞政府ニ同情ヲ有

スル米仏二国就中仏国ハ益々心ヲ同政府ニ傾クルニ至ラムコトヲ憂フ

右ニ対シ大臣ハ帝國政府ガ「ホルワット」將軍ニ好意ヲ有スルヤ否ヤハ連合諸国協調ノ如何ニ依ルモノナル旨ヲ答ヘラレタリ

十一時ニ至リ大臣参内ノ為接見室ヲ退カレ大使ハ予メ大臣ノ許可ヲ經テ佐分利書記官ヘ次ノ通言ヒ残サレタリ

一 仏国大使ノ談ニ依レバ後藤男爵ハ同大使ト会見ノ際「ホルワット」將軍ハ日本ヨリ援助ヲ得タキ旨在北京日本公使ヲ經テ帝國政府ヘ申出デタルコトアルモ直接日本政府ヘ申出テタルコト無キ旨ヲ述ヘラレタル趣ナルカ「ホルワット」將軍ガ林公使ヲ經テ申出デタル事項ハ自分ヨリモ幣原次官ヘ申入レ置キタリ其事情ハ次ノ如シ即チ前回大臣閣下ニ御面會後北京ヨリ電報ニ接シ日本政府ニ本件申入ヲ為スヘキ旨依頼ヲ受ケタルモ其内容ハ已ニ大臣ニ於テ御承知ノコトナルノミナラズ重テ御会見ヲ願フコトハ恐縮ニ付幣原次官迄申入レ置キタル次第ナリ

(右ニ対シテハ不取敢佐分利ヨリ右仏国大使ノ談話ハ誤解ニ基クモノト思考スル旨ヲ注意シ置キタリ)

限ナキ事、出兵費ノ巨額ニ上リ国力ノ疲弊ヲ来スノ虞アル事乃至軍需品ノ準備整ハザル事ノ実状ハ容易ニ国論ノ同意ヲ得ザル徵候ナキニ非ズ

果シテ然ラバ政府ハ聯合与国ヨリ協同的ニ我西比利亞出兵ヲ要望シ来ルニ先チ機先ヲ制シ目下順潮ニ進展シツツアル「セメノフ」軍ニ積極的援助ヲ与ヘ「セメノフ」及ヒ之ト連絡アル「ホルワット」、「コルチャック」等ノ徒ヲシテ西比利亞獨立ノ計画ヲ実現セシメ帝國之カ後援トナリ一ハ以テ帝國及聯合与国ノ為メニ独逸勢力ノ東漸ヲ防遏スルノ障礙ヲ作り一ニハ以テ西比利亞ニ於ケル經濟上ノ地歩ヲ占ムルノ素地ヲ造ルノ機會ヲ得ルコト最モ機宜ヲ得タルノ処置ト信ス

尚ホ「ホルワット」若クハ「セメノフ」援助問題ニ関シテモ從來ノ成行ヲ見ルニ英仏米等ノ各国武官ガ常ニ哈爾賓北京等ノ間ヲ往復シテ直接間接ニ接觸ヲ保チツツアルカ故ニ帝國政府ニシテ趨趨逡巡長ク其態度ヲ曖昧ニスルニ於テハ我方ト「ホルワット」等トノ關係モ自然ニ薄ラギ彼等ニ対スル我威信ト勢力ヲ失墜スルノ虞ナキニ非ズ

以上ノ理由ニヨリ聯合与国ヨリ未タ一般的出兵問題ヲ提起

二 從來「ホルワット」將軍ト外国政府トノ交渉ハ在北京露国公使館ヲ經由スルコトナリ居レル処若シ日本政府ニ於テ北京ヲ經由セズ在東京露国大使館ヨリ日本政府ニ申出ヅルコトヲ希望セラルルニ於テハ自分ヨリ其旨ヲ在支露国公使ヘ申送ルコトトスヘシ

三四八 五月十六日

小幡政務局長ヨリ
後藤外務大臣宛

「ホ」將軍「セメノフ」等親日派ヲ援助シテ
西比利亞獨立計画ヲ實現セシムル為廟議決定
方ニ関シ意見陳述ノ件

附記 對露方針ニ関スル考察(政務局調)

西比利亞出兵問題ニ関スル今日迄ノ外交關係ハ之ヲ自然ノ儘ノ成行ニ放任シ置カバ最近ノ情勢(石井大使「ランシング」會談等ニヨリ判斷スレバ)ニ徴シ或ハ不遠英仏米等協同シテ一般的出兵ヲ我ニ交渉シ来ルナキヲ保シ難シ
万一右ノ如キ事態ニ立至ラバ我政府從來ノ態度言明等ニ顧ミ政府ハ到底無下ニ之ヲ拒絶シ得ザル立場ニ立タザルヘカラズ

然ルニ一面前外交調査会内部ノ異見、一般的出兵ノ程度ニ際

シ来ラザルニ先チ須ラク政府ハ西比利亞獨立計画ニ対スル廟議ヲ決定シ關係与国殊ニ英國ニ対シテハ同国政府ヲシテ目下同国政府ガ露国ニ於ケル其非公式代表者「ロックハート」ヲシテ過激派政府ト折衝ニ苦心セシメツツアル過激派政府出兵要求案ノ如キ成効ノ見込ナキ計画ヲ断念セシメ「セメノフ」援助ノ上進シテ西比利亞獨立ノ形勢ヲ促進スルノ企図ニ同意セシメ又米國ニ対シテハ曩ニ石井大使ガ「ランシング」トノ會談ニ於テ交換シタル意見ニ牽連シ同大使ヲシテ「セメノフ」援助西比利亞獨立問題ニ対スル我決定ヲ告ケ之ニ対スル米國政府ノ意見ヲ徴シ以テ本案ニ関スル形勢促進ノ手段ヲ講スルコト必要ト信ズ

註 右文書ノ冒頭欄外ニ左ノ通り小幡政務局長ノ書入アリ「大正七年五月十六日朝大臣ニ左ノ趣旨ノ意見ヲ陳述シ置ケリ」

(附記)

對露方針ニ関スル考察(政務局調)

露国労農政府ノ成立以來其ノ對外關係ニ於ケル各般施設ノ実績ヲ通觀スルニ同政府ハ終始密カニ独逸政府ト氣脈相通スルモノト推断スルノ外ナク諸方面ヨリノ情報ハ亦之ヲ確認スルニ足ルモノアリ

他ノ一方ニ於テ独逸政府ハ從來戰後ノ難局ニ備ヘムカ為幾

分帝国ノ款心ヲ収メトスルノ色ヲ示シタルコトナキニ非ズト雖其ノ外交ニ詭謀ヲ事トシテ誑詐常ナキハ顯著ナル事實ニシテ戰時中ハ勿論戰後ニ於テ何等帝国ノ權益ヲ尊重スルノ誠意ヲ同国ニ求ムルコトヲ得ザルハ云フヲ俟タズ以上ノ見地ニ基キ考查スルニ今後勞農政府ノ命脈ニ関スル觀察竝其ノ後継政府ノ對独政策ニ関スル予測ハ帝国ノ對露方針ヲ決スルノ分岐点タルヘキモノト認ム

若シ勞農政府ニシテ命脈久シカラズ且之ニ代ハルヘキ政府カ刻下情形ノ反動トシテ断然排独政策ヲ採ルニ至ルヘキ望アリトセハ此際帝国ニ於テ暫ク積極的行動ヲ避ケ徐ロニ局面ノ展開ヲ待ツハ万全ノ策タルニ似タリ

之ニ反シ勞農政府ハ急ニ政權ヲ失墜スルノ徵ナク又如何ナル後継政府ト雖結局獨逸ノ優越ナル勢力ニ屈從スルノ已ムヲ得ザルニ至ルヘキモノト想定スルトキハ帝国ハ今ヨリ進ンテ此ノ事態ニ対応スヘキ措置ヲ講ズルコトヲ要ス惟フニ西比利亞ノ情勢ハ帝国將來ノ休戚ニ関スル所極メテ緊切ナルモノアリ西比利亞ニシテ獨逸ノ勢力ニ服スル露国中央政府ノ政令ヲ奉セムカ帝国及聯合与国ノ同地方ニ於ケル共同又ハ各自ノ利益ハ為ニ百万妨礙ヲ受クヘク又実ニ帝

ムルノ意ニ出デタルモノナシトセズ前顯西比利亞ノ自治又ハ獨立団体ヲ援助スルノ考案ハ之ト趣旨ヲ異ニシ其ノ期スル所ハ全ク西比利亞ヲシテ露国中央政府ノ背後ニ伏在スル獨逸勢力ノ羈絆ヲ脱セシメ以テ同地方ニ於ケル帝国及聯合与国ノ權益ヲ防衛セムトスルニ在リ之カ為直接ニ西部戰場ノ形勢ヲ動カスカ如キ結果ハ得テ望ムヘカラズ又本案ノ政治団体ヲ組織スヘキモノハ露国人自身ニシテ帝国ハ唯其ノ計画ヲ支持シ之ニ必要ナル援助ヲ与ヘムトスルニ止マル本案政策ヲ実行スルニ当リテハ固ヨリ先ツ聯合列強ト完全ナル協調ノ成立ナカルヘカラス所謂西比利亞ナル政治団体ハ如何ナル地域ヲ根拠トスヘキキ又如何ナル露国人ヲ以テ該団体ヲ組織スルニ適スヘキ中心人物ト認ムヘキヤ尚之ニ与フヘキ援助ノ程度及方法如何等ノ問題ニ至リテハ前記根本方針ノ決定ヲ待ツテ更ニ審議スルコトヲ要ス

註 右文書ニハ日附ヲ欠クモ大体五月前半中ノモノト認メラル

三四九 五月二十一日

中島少將(ハルビン出張中)ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

「本」將軍ヲ表面ノ立物トスル親日派団体ノ
形成ヲ急務トスル件

国ニ在リテハ国家ノ安寧ニ重大ナル脅威ヲ感スヘキコトヲ予想セザルヲ得ズ例ヘハ聯合与国ガ曩ニ露国ヲ援助セムカ為ニ供給セル多量ノ軍需品ニシテ現ニ浦潮斯德附近ニ堆積スルモノハ漸次歐露ニ輸送セラレテ遂ニ敵手ニ落ツルニ至ルヘク又極東露領ノ豐富ナル天然ノ資源ハ直接間接ニ獨逸人ノ開發ニ委セララルカ少クトモ帝国又ハ聯合与国人民ノ之カ經營ニ参与スルコト至難トナルヘシ幾多ノ情報ニ徴スルニ叙上ノ禍機ハ今ヤ既ニ其ノ端ヲ発スルニ至リタルモノノ如シ

此ノ危險ナル事態ニ処シテ帝国竝聯合与国ノ權益ヲ防衛セムカ為ニハ西比利亞ヲシテ中央政府ノ政令ヲ奉ゼザル自治又ハ獨立ノ政治団体ヲ組織セシメ帝国ニ於テ聯合与国ト共ニ又ハ聯合与国ニ代ハリテ之ニ必要ナル援助ヲ与フルノ外ナキモノト認ム

從來一方ニ於テ英仏諸国カ帝国ノ西比利亞出兵ヲ慫慂セルハ畢竟之ニ因リテ漸次帝国ノ軍事的活動地域ヲ歐露方面ニ及ホシ以テ西部戰場ニ對スル敵軍ノ行動ヲ牽制セムコトヲ期待セルモノノ如ク又他ノ一方ニ於テ本邦一部ノ政客ガ同ジク出兵論ヲ唱道セルハ内夷之ニ因リテ領土上ノ報償ヲ求

(五月二十四日外務省接受)

電報 五月二十一日午後三時三十分

〃 二十二日午後一時五十三分

中島少將

參謀次長宛

第七五号

既ニ報告シタル如ク「コルチャック」「グラベ」一味ノ日本ヨリ資金及武器ノ供給ヲ仰キ兵力ノ進入ハ之ヲ妨止セントスル心底甚タ憎ムヘシ「ホルワット」ハ親日派ト目指サレ居ルカ故ニ北京ニ到リ彼等ノ感情ヲ顧慮シ親米派「ウストロゴフ」親英派「コルチャック」ヲ引キ入レ之ニ親仏派タル「プチロフ」ハ列国ヲ操縦セントスル主義トナリタルカ如シ尤モ彼ハ事大主義故日本出兵ノ機到ラバ必ズ親日專門ト豹變シ来ルヘキヲ以テ今直ニ彼ヲ見捨ツルコトハ不得策ナルヘシ依テ彼ヲ表面ノ立物トシ親日派タル「セメノフ」ノ実力ヲ増加シ尚「コルニコフ」ニ力ヲ添ヘ兩者結合セシメ又「プレシコフ」大將ノ權力ヲ漸次恢復スルコトヲ努メ茲ニ親日派ノ一團結ヲ成形スルコト刻下ニ於ケル最大急務ナリト思考ス

三五〇 五月二十一日 後藤外務大臣ヨリ 在ハルビン佐藤總領事宛（電報）

我軍部ニ於テハ「ホルワット」「セメノフ」

援助ノ意向ナル旨通報ノ件

第一二二号（極秘）

五月十五日參謀次長ヨリ貴地中嶋少將ニ宛テ「ホルワット」団体内部ノ關係円満ニシテ「セメノフ」トノ意思モ充分ニ疏通シ居ルニ於テハ總テヲ統一シテ援助ヲ与フルヲ可ナリト認ム目下ノ処ニテハ總テニ對シ所要ノ兵器及月額五十万円位ハ当分補給ノ道開カルヘキ胸算アリ尚「セメノフ」支援ハ大局上我ニ有利ナルヲ以テ事情如何ニ拘ハラズ之ヲ支援スル考ナル旨電訓シタルニ付右貴官限リノ御含迄ニ電報ス委細ハ中嶋少將ニ就キ御聴取アリタシ
右北京ヘ転電アリタシ

三五一 五月二十五日 在中国林公使ヨリ 後藤外務大臣宛（電報）

日本ガ「ホ」將軍「セメノフ」等ニ援助ヲ与フルハ專ラ東部西比利亞ノ秩序回復ノ為ナル

以上「ホ」「セ」等ハ勿論何レノ方面ニ於テモ之ヲ以テ帝國政府ノ指図ニ出ヅルモノト為スコク而シテ帝國政府ニ於テ彼等ヲ援助セラルルハ西伯利亞ニ於ケル秩序回復以外何等目的無キコト前記ノ如クナル以上帝國政府ニ於テハ此際寧ろ過激派側ニ對シ帝國政府ハ前記秩序回復ノ見地ノミヨリシテ「ホ」「セ」等ニ對シ援助ヲ与フル次第ナル旨公明正大ニ説明ヲ与ヘラレ之ト同時ニ連合与國ニ對シテモ公然右帝國政府ノ立場ヲ明示セラルル方然ル可ク從テ貴第第二九一号ノ如ク本問題ハ影響スル所広汎且重大ナリトノ御配慮モ之ニ依テ大ニ軽減スルコトヲ得可キカト思考ス
卑見御參考迄ニ（奉天經由五月二十五日附五、）

三五二 五月二十五日 在ハルビン佐藤總領事ヨリ 後藤外務大臣宛（電報）

「コルチャック」ノ態度ニ鑑ミ同將軍トハ没

交渉ヲ得策トスル旨具申ノ件

第二九二号 至急、極秘（五月二十六日接受）

「コルチャック」海軍中將カ東清附屬地内露國軍隊司令官ニ任命セラレテヨリ小官ハ前後二回彼ト公式ノ訪問ヲ交換セリ彼ハ言語動作寧ろ粗暴ニシテ武人ノ氣慨アルカ如ク見

第七三四号 （五月二十五日接受）

往電第七三一号ニ関シ帝國政府ニ於テ「ホルワット」「セメノフ」等ヲ援助スヘキヤ否ヤハ專ラ右援助ノ結果東部西

比利亞ニ於ケル秩序ヲ回復シ得ヘキヤ否ヤニ掛リ過激派ニ對スル惡感等ノ為メ「ホルワット」ニセヨ「セメノフ」ニセヨ單ニ過激派ニ反抗スルモノナルノ故ノミヲ以テ之レニ援助ヲ与フヘシト為スカ如キコトノ謂ナキ次第ハ帝國政府ニ於テモ御同感ノ義ト思料セラルル処在哈爾濱總領事宛貴電第一二三号ニ依レハ參謀次長ヨリ中嶋少將ニ對シ「ホ」「セ」等援助ニ關スル方針ヲ電訓シタル趣ナルガ実ハ「ホ」ノ決心ヲ固ムルニ至リタルハ先般中嶋少將等ヨリ種々勧誘スル所アリタルニ依ルコト尠カラザルベク從テ「ホ」カ愈々態度ヲ決シタル後ニ於テ我方ヨリ予期ノ援助ヲ得ザル場合ニハ日本側ノ不信（中嶋少將ハ參謀本部ノ訓令ニ基キ行動シ居ルコト勿論ニシテ「ホ」モ亦同少將ノ行動ヲ以テ帝國政府ノ意向ヲ反映セルモノト信シ居レルコト勿論ナリ）ヲ恨ムニ至ルハ当然ノ結果ト云フヘシ而シテ此際前記ノ如キ方針ノ電訓アリ中嶋少將等ニ於テ之ニ基キ行動スル

ユルモ極メテ傲慢ナル態度ヲ持スルガ如シ北京ニ於テ「ホルワット」等ト会合シタル際齊藤少將ヲ通シ必要ノ軍資金及武器ノ供給ヲ帝國政府ニ請求シ且中嶋少將ニ作戰其他ノ計画ヲ立ツルコトニ関シ彼レト協議決定スヘキ全權ヲ与ヘラレタキ旨ヲ我參謀本部ニ電請シタルニ拘ハラズ彼ノ哈爾濱着後中嶋少將ニ對シテハ參謀本部ヨリ彼ノ希望通ノ訓令到着シ居ラズ且武器其他ノ供給ニ関シテモ明確ナル通知ナカリシヲ以テ非常ニ不満ニ感シ當時既ニ中嶋少將ニ對シ可ナリ不平ケ間敷事ヲ申述ベタリ然ルニ最近彼ハ滿洲里ニ到リ「セメノフ」ト会见シ連絡ヲ取ラントシタル処是又行違ヨリ其ノ感情ヲ害シ「セメノフ」ハ駅ニ出迎ヘザリシノミカ遂ニ彼ノ命令ニ服スルヲ肯ンゼザル旨明言スルニ至リ彼ハ僅カニ二三時間停車ノ後滿洲里ヨリ急遽歸哈シタル椿事アリ然ルニ「コルチャック」ハ此出来事ヲ以テ皆日本側陸軍官憲ノ差金ト思ヒ誤マリ大ニ中嶋少將ニ對シ御ム所アリ遂ニ彼ノ滿洲里ヨリ帰來後五月十八日中嶋少將トノ会见ニ於テ彼ハ甚シク不遜ノ態度及礼儀ヲ失シタル言辭ヲ弄シ同少將モ為ニ氣色ヲ變ヘ席ヲ起チテ歸リタル出来事出来セリ其後五月二十四日彼ハ露國副領事ヲ本官ノ許ニ遣ハシ同少將

トノ居中調停ヲ依頼スルニ至リ同日本官ハ答訪ヲ兼ね彼ニ面会シ連合与国ノ一員ニシテ殊ニ当地方ノ情勢ニ関シ露國ニ取リテハ恩義アル日本ノ陸軍特派將官ニ対シ彼カ相当ノ礼ヲ守ルヲ忘レタルコトヲ坐談的二併カモ直説法ニ語リタル処彼ノ答弁ハ要スルニ根拠ナキノミナラズ意外ニモ彼ハ田中參謀次長カ在日本露國大使ニ対シ「コルチャク」ハ米國ノ為ニ働キ居リタルニアラズヤトノ質問ヲ発セラレタル旨同大使ヨリノ電報ニ接シ初メテ中島少將ガ自己ト共ニ事ヲ為スヲ好マザル理由ヲ了解セリト答ヘタリ本官ハ直ニ之ヲ打消シタル上本官モ同提督ノ仕打ニ対シ遺憾トスル所ハ決シテ提督カ米國ト關係アリ等ノ如キ誤聞ニ基因スルニアラズ要ハ我帝國ノ好意的措置ニ対シ相当ノ考慮ヲ加ヘザリシ点ニアリト述ヘ引キ取リタリ小官ノ觀察スル所ニ依レハ「コルチャク」ハ飽迄高飛車ニ出デ「ホルワット」初メ総テヲ威圧セントシ帝國ニ対シテモ夫レ程尊敬ヲ払ハザルモノノ如ク又彼ハ帝國ノ出兵ニ対シテハ大反對ニシテ彼ハ自力ヲ以テ過激派ヲ掃蕩シ得ルモノト過信シ居リ此点ニ於テ彼ハ「ホルワット」若クハ「プレシユコフ」ト全然意見ヲ異ニシ後者ハ日本ノ出兵無シニハ何事ヲモ為シ得ズトノ意

待テ初メテ彼ト事ヲ共ニス可キモノト思ハル兎ニ角此際帝國ノ威信上且ハ將來ノ利益上彼トハ暫ク没交渉トスルヲ得策トス可ク就テハ彼ノ派遣員等日本ニ來ル事アラバ右舉見御參酌ノ上然ル可ク御取扱ヒ願上ケ度シ本件小官ノ意見ハ中島少將ヘモ委細伝ヘ置キタリ

在支公使ヘ転電セリ(長春領事館經由五月二十五日午後、四〇)

三五一 五月二十八日

在ヴオログダ丸毛臨時代理公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

過激派政府ガ「セメノフ」軍ノ行動ヲ阻止ス

ル為中国ニ対シ執リタル措置ニ付米國大使ニ

協議シタル件

第一〇七号(延着)

(九月二十三日接受)

五月二十七日外交団會議ノ際往電第一〇六号以外ニ左ノ情報交換セラレタリ

(一) 英國「プール」將軍ハ「ムルマン」地方ニ於ケル協商側海陸軍部司令官ニ任命セラレタリ

(二) 「チチェリン」ガ五月二十六日附ヲ以テ米國大使ニ電報シ來レル処ニ依レハ過激派政府ハ「セメノフ」軍隊カ支那領土ヲ根拠トシ「サベート」政府ニ敵對行為ヲナシ

見ヲ今以テ固持シ居レリ要スルニ彼ハ日本軍ト共ニ事ヲ為ス考ヘ無ク単ニ資金ト武器ノ供給ヲ得ントスルモノニシテ又此迄英國ノ軍籍ニ連リ「メソポタミヤ」ノ戰線ニ立チタル(同戰線ニ赴ク途中在北京露國公使ノ要請ニ依リ英國政府ノ許可ヲ得テ上海ニ止マリシモノナリトモ云フ)彼ハ現ニ英國ト如何ナル關係ヲ有スルヤ明ナラズ彼自身ハ少クトモ英國ニ大ナル同情ヲ有スルモノノ如クナル以上日本ノ物質的援助ガ(脱)トナリタル曉ニ於テ英國側ニハ寛大ニ各種ノ利權ヲ与フルニ拘ラズ日本人ニハ全然之ヲ与フルヲ肯ゼザルヤモ計リ難ク此場合ニ至リ日本カ前日ノ好意ヲ云々シテ彼ニ強要セントスルモ彼ノ背後ニハ既ニ諸外國アリトテモ我ノ自由ニハナラズ結局日本ハ何等得ル所ナクシテ止ムニ至ル可キ虞アリ故ニ帝國政府ニ於テ何等カノ援助ヲ与ヘラルル御決心ナラバヤハリ日本ニ対シ全然好意ヲ有スル「ホルワット」「プレシユコフ」等ヲ相手トナシ置ク方後日ノ為メ「コルチャク」ヨリハ余程安心ナリト思考セラレ「コルチャク」ハ寧ロ此際彼ヲ窮地ニ陥レ自ラ事ヲ拋棄セシムルカサモナクバ日本ノ勢力ニ依ルニ非ザレハ何事ヲモ為シ得ザル事ヲ自覺シ低頭平身シテ我ニ憐ヲ乞フニ至ルヲ

露支兩國間ノ經濟關係ヲ阻害シツツアルニ付北京政府ニ電報ヲ送り今後「セメノフ」軍隊カ支那領土ヲ根拠トシテ斯カル行動ヲ為サザル様充分ノ保障ヲ与フルノ処置ヲ執ルコト若シ北京政府カ其力無クンハ「サベート」政府軍隊カ獨立若ハ支那正規軍隊ト協同シテ支那領土内ニ於テ「セメノフ」軍隊討伐ヲ為スニ同意ヲ与フルコト竝「サベート」政府カ任命セル支那ニ於ケル其代表者カ任地ニ赴ク為メ旅行ノ許可及助力ヲ与フルコトヲ要求セリトノコトニテ之ニ対シ米國大使ノ指示ヲ求メタルモ米國大使ハ之ニ何等ノ回答ヲ与ヘズトノ事ナリ
莫斯科ヘ転電セリ

三五四 六月四日

後藤外務大臣
ミタレフスキー氏 會談

ミタレフスキー氏「ホ」將軍ノ依囑ニ依リ同

將軍ニ対スル日本ノ兵力的援助ヲ懇請ノ件

後藤外務大臣ト露國人「ミタレフスキー」氏(立憲民主体首領)ト會談要領

ミタレフスキー氏 大正七年六月四日 於外務大臣官邸

本日拙者カ閣下ヲ來訪セシハ「ホルワット」將軍ノ依囑ニ因レリ

現下「セミヨウノフ」軍ハ大ニ形勢ヲ恢復シ後員^{ザバイカル}加爾州ハ勿論沿海州黒龍州ニ於テモ後援スルモノ少カラズ過激派ヲ除クノ外極東露領ニ於ケル「コサック」軍ヲ初メ各種団体各種政派ヲ網羅シ剩ス所ナシ然レトモ其兵力タルヤ真ニ微々タルモノニシテ目下後員加爾ニアルモノ僅ニ二千五百人ヲ算スルニ過ギズ一方過激派軍ハ本拠ヲ「イルクーツスク」ニ置キ其兵凡ソ二万^〇ニ達セム右ノ状況ハ閣下ノ疾ク承知セラルム所ナラム「ホルワット」將軍ハ右ノ実狀ヲ告ケ日本ノ援助ヲ求メムトスルモノナリ

大臣

貴君御話ノ事ハ既ニ充分承知シ居レリ

ミ氏

右ノ状況ヲ閣下ニ伝ヘ日本ノ同情ニ訴ヘ

一、日本カ適當ノ兵力ヲ供与シ「イルクーツスク」及其以西烏刺爾ニ到ル境域ヲ掃蕩セラレムコト

二、日本政府カ前記ノ援助ヲ与ヘラルルニ當リ如何ナル報償ヲ希望セラルルヤ

シ然レトモ既ニ述ヘタル如ク日本ハ連合国外ノ協調ヲ重シ連合国外ニシテ同意ヲ表セハ隣邦ニ對スル援助ハ何時ニテモ辞スル所ニアラザルモ米國並ニ英國トモ亦未タ充分協定ヲ了セザルノ点アリ此等連合外國トノ協議充分熟スルノ時ニ至ラバ日本ハ決シテ隣邦ノ援助ニ吝ナルモノニアラズ此等ノ事情ハ「クルペンスキー」氏ニ於テ詳悉セラルル所ナリ

ミ氏

閣下ノ御好意ヲ謝ス

大臣

「ホルワット」將軍ニ宜シク伝言アリタシ

（野村基信通訳ス）

三五四

六月四日 在ハルビン佐藤總領事ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

「ホルワット」ト「セメノフ」中島少將等ト

ノ關係ニ付詳細ノ件

第三〇一號

（六月四日接受）
貴電第一三二號ニ関シ現在ノ狀態ニテハ「ホルワット」「セミヨウノフ」間ノ折合ハ先ツ良好ナルモ「ホルワット」

一四

反過激派關係雜件 三三五

五四二

右ノ二点ニ関シ閣下ノ御高見ヲ拝承致シタシ
大臣

日本ハ隣邦露國ニ對シ多大ノ同情ヲ懷ケリ然レトモ日本ハ連合国外ノ一員トシテ連合国外ノ同意賛成ナクシテ如何ナル行動ニモ出ヅルヲ欲セズ

ミ氏

連合国外ハ米國ヲ除ケハ日本ノ出兵ニ反對スルモノ恐ク之レナカルヘシ故ニ余ハ米國ノ同意ナクモ露國ノ懇請ヲ容レラレンコトヲ乞フ少数ナル過激派ニ對スル出兵ナレハ其兵數ノ如キ固ヨリ多キヲ要スル次第ナラズ日本軍ニシテ一旦「イルクーツスク」ニ於ケル敵兵ヲ撃破センカ日本軍ノ為メ烏拉爾マテノ途ハ直ニ開通セラルヘシ其駐屯期間ノ如キ今日ヨリ予知シ難ケレハ右出兵ニ對スル報償ハ充分ニ提供スヘキ考ナレバ何卒日本政府ノ考慮ヲ煩ハシタシ

大臣

日本ハ隣邦ニ對シ深く同情ヲ有スルヲ以テ援助ハ決シテ其ノ辞スル所ニアラズ故ニ同情ヲ以テスル援助ニ對シ報酬ハ其望ム所ニアラザルハ言フマデモナシ然レトモ軍隊駐屯ノ日長キニ亘レハ其ハ又自然相當ノ報償ヲ求ムルコトアルヘ

ク「セミヨウノフ」間ノ關係ハ依然極メテ不良ニシテ「セミヨウノフ」枝隊ノ運命旦夕ニ迫ルモ「ホルワット」ハ之ヲ支援セムトスル意全然ナキノミナラズ哈爾賓ニ駐屯シ居リタル「ヨルロフ」隊ノ如キモ殆ト全部滿洲里トハ反對ノ方向ナル「ボグラニチナヤ」ニ之ヲ移轉セシメ「ウスリー」方面ニ活動セシメムトスルニ至リ「ホルワット」ハ中島少將ノ忠告ヲ容レ「ヨルロフ」隊ヲ「セミヨウノフ」援助ノ為ニ派遣スルコトニ同意シタルモ事實ハ全ク反對ノ結果ヲ來シタリ右ハ「ホルワット」ノ反對ト「ヨルロフ」

「セミヨウノフ」間ノ不折合ニ依ルモノナリ「ボポフ」ハ約言ヲ實行セズ全ク當ニナラザル人物ニシテ是迄日本ニ對シテハ寧ロ好感ヲ有セザリシモノノ如ク小官ハ感シ居レリ尤モ彼カ過激派反抗運動ヲ開始シテヨリハ日本ノ力ニ依ラザレハ何事ヲモナシ得ザルヲ自覺シ小官トハ常ニ意見ヲ交換シ居レリ中島少將ト「ホルワット」間ノ關係ハ往電第二九二號具報ノ通り依然没交渉ノ體ナリ右兩將軍間ノ衝突ハ既ニ世評ニ上リ居ル処小官ノ會談シタル露國有志者ハ一概ニ「ホルワット」ノ短慮ヲ非難シ居レリ「ホルワット」ト密接ナル關係ヲ有シ居レル「ボポフ」モ今回ノ出

來事ニハ非常ニ落胆シ小官ノ調停ヲ再三依頼シ來レリ貴電御訓令ノ次第モアルコトニ付事情問合ノ為六月三日同人ヲ往訪シタル処同人ヨリ「コルチャック」ハ自己ノ失言ヲ謝サムカ為中島少將ヲ往訪セムトスル意志アル旨ヲ語リタルニ付小官ハ之ニ対シ兩將軍ノ衝突ハ單純ナル感情ノ衝突ニ非ズ主義上ノ意見ノ相違ニ基クモノノ如ク思ハル中島少將ト本官ハ全然時局ニ対シ同意ニシテ連合國ノ干渉ナシニハ時局收拾不可能ナリトノ見解ヲ持シ「ホルワット」モ同意見ナリシニ依リ是迄其目的ニ向ツテ努力シ來レル処「コルチャック」ハ反之本官ニ対シ第一回會見ノ際ヨリ明ニ自力ノミヲ以テ過激派ニ對抗セムトシ日本軍ノ出動ハ彼力独逸軍ト衝突スル時ニ至リテ初メテ實現セラルヘキモノナリト断言シタルモノニシテ是ニ因リテ見ルモ彼ハ「ホルワット」「中島少將及本官トハ別個ノ見地ヲ有スルコト明ナリ果シテ然ラハ右見解ノ何レガ最好ク機宜ニ適スルモノナリヤハ別問題トシ斯ク意見ノ相違セルモノカ單ニ失言ヲ謝シタリトテ今後共同シテ事ニ従フハ不可能ナリ寧ロ「コルチャック」若クハ中島少將並ニ本官ノ何レカノ一方カ早ク手ヲ引ク方大局ノ為利益ナリト思考ス但以上ノ論結ハ「コルチャ

ック」側ニ我トハ別個ノ見解ヲ有スルヲ前提トシタルモノナリ万一言語ノ不充分等ノ原因ヨリ本官カ彼ノ真意ヲ誤解シタルモノトセハ全然異リタル論結ニ到着スヘク就テハ本件調停ヲ試ムル前ニ於テ以上本官ノ述ヘタルトコロヲ率直ニ「ポポフ」ヨリ「コルチャック」ニ伝ヘ一応彼ノ回答ヲ徴シタク其上ニテ再相談スヘシト申述ヘタル処彼ハ之ヲ快諾シタル上彼ノ了解スルトコロニ依レハ「コルチャック」ハ全ク本官等ト同意見ニシテ連合國ノ干渉ナシニハ時局ヲ收拾シ得ズト考ヘ居レリト述ヘタリ小官ノ觀察スルトコロニ依レハ本件衝突後既ニ相当ノ時日ヲ経過シ「コルチャック」モ余程後悔シ居ルノミナラズ日本ノ援助ナシニハ何事モナシ得ザルヲ自覺シ始めタルモノノ如クナルニ付彼ノ回答次第ニテハ彼ヲ体好ク謝罪セシメ今後當方ノ意見ヲ尊重セシムヘキコト不可能ニ非ズト存ス

(長春領事館經由六月四日前八、四〇)

三五六 六月六日

後藤外務大臣ヨリ
在英国珍田大使宛 (電報)

反過激派団体ノ支持方針ニ付訓令ノ件

第二八七号

貴電第三七九号閱悉

帝國政府ハ西比利亞干渉問題ニ関シ聯合列強並米國間ニ相當ノ了解成立ニ至ラバ及ブ限り誠悃以テ本問題ニ考慮ヲ加フルノ決心ヲ有シ既ニ三月十九日此ノ旨ヲ米國ニ声明スルト共ニ聯合諸國政府ニ内牒シタリ此ノ決心ハ今日ニ於テモ何等渝ハル所ナシ

帝國政府ハ露國カ聯合諸國ニ対スル國際上ノ信義ヲ念トシ危險ナル独逸勢力ノ羈絆ヲ脱スルコトヲ以テ露國自身ノ為又聯合諸國ノ為特ニ緊切ナリト認ム露國ノ政權ヲ掌握スル者ニシテ苟モ誠意此ノ一定方針ニ向テ努力スル以上ハ過激派タルト否トヲ問ハズ帝國政府ハ深厚ナル同情ヲ以テ之ニ必要ナル支持ヲ与フルヲ辞セズ然レトモ從來勞農政府ノ執リタル行動ノ実績ヲ通觀スルニ前記方針ヲ遵行スルノ誠意ト能力トハ一モ認ムルニ足ルベキモノナク今ヤ極東露領ノ諸地方相次テ勞農政府ノ暴力ニ屈スルニ至リタルト同時ニ同政府ノ背後ニ伏在スル独逸ノ勢力ハ延テ著々此等諸地方ニ及ボスノ情勢ヲ馴致セリ此ノ時局ニ方リ右極東露領方面ニ於ケル露國及聯合諸國ノ利益ヲ保全セムカ為ニハ西比利亞ヲシテ独逸ノ勢力ニ服従スル勞農政府又ハ同一性質ヲ

有スル其ノ後繼政府ノ羈絆ヲ脱セシムルノ目的ヲ以テ該地方ニ自治又ハ独立ノ政治団体ヲ確立セムトスル露國人ノ真摯ナル計画ニ対シ聯合國側ニ於テ必要ナル援助ヲ与ヘ以テ露國復興ノ基礎ヲ作ラシムルノ外ナシト思考ス固ヨリ兵力ノ援助ヲ与フルニ付テハ予メ聯合諸國及米國間ニ十分ナル了解ノ成立アルコトヲ要スルハ前顯三月十九日米國ニ対スル声明中ニモ指摘セル如ク帝國政府ノ重キヲ措ク所ナリ帝國政府ノ所見ヲ以テスレバ露國人トノ聯絡ナクシテ行動ヲ開始シ又ハ直接ニ過激派掃蕩ヲ行動ノ目的トスルハ共ニ得策ニ非ズ將又右計画ノ実行セラルルニ於テハ英國政府力過般來特ニ重視シテ武力ノ使用ヲサヘ提議セル浦潮斯德堆積物資ノ処分問題ノ如キハ自然ニ解決セラルルニ至ルヘシ如何ナル露國人ヲ以テ聯合國側ノ援助スヘキ政治団体ノ中心人物ト認ムヘキヤハ第二段ノ問題ニ属スト雖今日迄ノ經過ニ徴スレハ「ホルワット」將軍「セメノフ」大尉等ノ一致團結ヲ図リ之ト聯絡ヲ保チテ行動スルコト適當ナルカ如シ以上ハ差當リ貴官限りノ御含迄ニ内示セルモノナルモ本問題ニ関シ貴官カ英國外務大臣トノ會談中必要アラハ貴官一己ノ私見トシテ前記趣意ニ適合スル範圍内ニ於テ臨機適宜

ノ取捨ヲ加ヘ同大臣ト意見ヲ交換セラレ其ノ結果電報アリ
タシ

(欄外註記)

「六月六日内閣總理大臣同意」

三三七 六月十日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

「コルチャク」ト中島少將ノ妥協必要ニ関シ

具申ノ件

第三〇六号

(六月十日接受)

(前略)

右ニ対シ「ポポフ」ハ即座ニ説明シテ曰ク第一ノ質疑ニ対
シテハ「コルチャク」ハ当初ヨリ英仏ノ頼ム可カラザルヲ
公言シテ憚カラズ一ニ日本ニ依リテ事ヲ成サンコトヲ切望
シ居リタル事実ハ之ヲ説明シテ余リアル可ク「ポポフ」自
身ハ彼レノ背後ニ英国アル事ヲ断ジテ信ゼズト述ヘ往電第
(不明)号ニ関シテハ彼レハ常ニ軍紀ヲ尊ブモノニシテ「
ホルワット」ノ任命ヲ受ケタル彼レハ当然「セメノフ」ヲ
指揮シ得ヘキモノナリトノ觀念ヲ有シ若シ「セメノフ」カ
彼レヲ認メザルニ於テハ当然彼レヨリ何等ノ援助ヲ期待シ

ニ提示スルコト必要ニシテ彼レカ全然我カ計画ヲ拒否スル
カ若ハ其ノ(不明)ニ対シ異議ヲ挟ミタル場合ニ於テ始テ
断然彼ノ退職ヲ迫リ露国大公使ニ対シテモ彼レト事ヲ共ニ
スル能ハザル理由ヲ説明スヘキモノニシテ万一彼レカ我カ
提議全部ヲ容レタル場合ニハ彼レヲ排斥スル理由全然無キ
ニ至ル可シ況ヤ彼レハ北京滞在ノ当初ヨリ中島少將ト一般
計画ニ関スル協議ヲ希望シタルモノナルニ於テハ以上ノ順
序ヲ経テ尽ス丈ケノ手続ヲ尽サザレバ非ハ却テ我レニアル
結果ヲ来ス可シト危ブマル

上記小官ノ意見ハ六月七日武藤少將ヘ其詳細ヲ説明シ大体
ニ於テ同少將ノ賛同ヲ得タリ中島少將ハ六日以来齊藤少將
ト共ニ齊々哈爾滿洲里方面ヘ赴カレ不在中ニ付未タ之ヲ伝
フル機會ヲ得ザリシモ同少將ハ「コルチャク」トノ妥協絶
對ニ不可能ナル旨「ホルワット」「セメノフ」「コルムイ
コフ」等ニ再三言明シ余程深入リシタルモノノ如ク伝聞シ
タルニ付果シテ小官ノ意見ニ同意セラル可キヤ否ヤハ不明
ニシテ甚ダ疑ハシ齊藤少將ヘハ「コルチャク」ノ覺書接手
前別電覺書ノ如ク回答アル場合ヲ予想シ仮説ノ意見ヲ述ヘ
置キタルモ同少將ハ田中次長ノ電命ニ依リ齊々哈爾ヨリ急

得ヘカラザルモノトナシ居レリ過般滿洲里駅ニ於テ不幸ニ
シテ發生シタル兩人間ノ不折合ハ延テ彼レヲシテ「セメノ
フ」援助ヲ断念セシメタリト雖モ之ヲ以テ直ニ日本ノ好意
ヲ感謝セズ若クハ日本ヲ侮蔑スルモノトナスハ余リニ酷ナ
リ云々卑見ニ依レハ以上「コルチャク」ノ覺書及「ポポフ
」ノ説明ニ依リ少クトモ表面上「コルチャク」ノ立場ハ極
テ明瞭トナリ日本側ヨリ見テ主義上取立テ批難スヘキ点ヲ
発見スルヲ得ザルニ至レリ彼ノ誤解ヨリ一時中島少將ノ真
意ヲ疑ヒ例ノ衝突ヲ来シタリトハ云ヘ彼ニ於テ失言ヲ謝ス
ルニ於テハ此後ノ方針計画ニ付再ヒ商議ヲ開始シ得ザル謂
ハレナシト云ハザルヲ得ズ事茲ニ至リテモ尚彼レヲ排斥シ
彼レトノ妥協ヲ拒ムニ於テハ露国大公使若ハ連合國使臣ヨ
リ之ヲ見レバ「コルチャク」ノ態度ニ筋途アルニ反シ中島
少將ハ単ニ感情上ノ問題ニ関シ故意ニ彼レトノ妥協ヲ避ケ
ントスルモノナリト思ハレ却テ同少將ノ態度批難セラルル
ニ至ル可ク從テ日本ノ權威ニ関スルコトナル可シ之レ故
ニ仮令表面上ノ言訳ナルニセヨ此際一旦「コルチャク」ト
妥協シタル上今後ノ一般方針「セメノフ」「コルムイコフ
」援助問題等ニ関シ日本側ノ必要トスル計画ヲ立テ之ヲ彼

遽帰哈シ直ニ北京ニ帰任シタルヲ以テ乍遺憾右覺書ヲ回示
スル機會ヲ得ズ実ハ同少將ノ当地滞在中小官ハ本件妥協ノ
根底ヲ決定シ度キ希望ナリシモ素志貫徹ノ機會ヲ失シタル
ヲ遺憾トス又武藤少將以下ノ若手參謀將校モ絶對ニ「コル
チャク」ヲ排斥スル必要ヲ認メ居ラザルカ如シ本電末段日
本側武官ニ関スル小官ノ觀察ハ貴電第一三二号御訓令ノ趣
旨ニ依リ閣下ノ御參考迄ニ申進スル次第ニ付陸軍省側ヘハ
一切秘密ニ附セラルル様願上ケ度シ(終)

在支公使ヘ転電セリ(長春經由六月十日前三)

三五八 六月十日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

「コルチャク」ヘノ新任務付与ニ付報告ノ件

第三〇八号

(六月十一日接受)

往電第三〇六号ニ関シ「ホルワット」ハ六月七日吉林ニ向
ケ出發シタル所出發前「コルチャク」ヲ「オルロフ」隊ノ
司令官ニ任スル旨ノ命令ヲ発シ「プレシコフ」ヲシテ「コ
ルチャク」ニ之ヲ交附セシメタリ然ルニ「コルチャク」ハ
附屬地内軍隊總司令官ノ職ヲ去ルヲ欲セス狂氣染ミタル事
ヲ為スノミニテ六月十日「プレシコフ」ハ本官ニ対シ「

コルチャク」モ「ドマネウスキー」ト何等選フ所無シト語レリ何レ今一応「プレシユコフ」ニ面会シ委細聞キ取り電報致ス可キモ神經過敏ナル「コルチャク」ノ事ナレハ何事ヲ仕出来スヤモ計リ難シト危マル「ホルワット」ハ態ト不在中ニ「プレシユコフ」ヲシテ右命令ヲ伝ヘシメタルモノナルヤモ知レス同將軍ハ十日夜半帰着ノ筈就テハ本件成行如何ニ依リテハ往電第三〇六号小官ノ意見ハ別ニ問題トナスニ及ハザルニ至ルヤモ計リ難シ

在支公使へ転電セリ（長春領事館經由六月十日午后九、五〇）

三五九 六月二十日

在浦潮菊池総領事ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

西比利亞政府へノ援助ニ関スル加藤司令官ノ

約束ニ付報告ノ件

第三五五号

（六月二十一日接受）

往電第三三五号及第三五一号ニ関シ最近当地ニ来着シ居ルハ総理ニ擬セラレタル「デルベル」イシユ民事務大臣「チペル、ペトロフ」ニシテ会計検査大臣「ジェルナコフ」ト軍務大臣「クロコウエツキー」ハ哈爾濱ニ在リ大蔵大臣「ミハイロフ」ハ露都ニ外務大臣「ウオロゴツキー」ハ「オ

ムスク」ニ各拘留セラレ居リ又内務大臣「ノーウオシヨロフ」ハ未タ当地ニ来ラス「ジェルナコフ」ニ対シテハ二十日当地ニ渡航スル様招電ヲ発シツツアリ七日本官ヲ訪問シタル前記「ペトロフ」ハ十八日夜「デルベル」帶同窃ニ朝日艦訪問加藤司令官及坂部砲兵中佐ト会见シ差当リ銃弾三万発ト金四百万留ノ補助ヲ求メタルニ中佐ハ之ヲ拒絶スルトキハ必ズ米國其他ニ対シ援助ヲ求ムルナルヘク斯クテハ将来本政府力確立セラレタル曉本邦ガ米國ヨリモ不利ノ地位ヲ占ムルニ付或程度ノ（脱）ハ関係ヲ結ヒ置クヲ有利ト認ムル旨ヲ以テ司令官ニ謀リタル処司令官之ニ同意シタルハ両官ハ援助方ニ付尽力スヘキ旨ヲ約シ置キ両官ヨリ各直屬長官ニ対シテ援助ノ価値アルヲ理由トシテ特別ノ詮議アル様申請シタル趣ナリ越エテ前記「ペトロフ」ハ二十日本官ヲ訪問シ同様ノ申出ヲ為サントシタルモ不得要領ノ点アルニ付「デルベル」ノ来訪ヲ求メ置タルカ折柄十九、二十日ハ本官他ニ差支アリタルヲ以テ二十一日深更窃ニ来館ノ筈ニ付其際該政府ノ主義綱領對外関係彼等ノ要求等ヲ聴取スヘキ考ナリ尤モ此際帝國政府ノ位地ヲ拘束スルノ虞アル言辭ヲ慎ムヘキ心得ナルハ申迄モナシ尚二十日加藤司令官

ト坂部中佐会见シタルニ付從來久シク懸案タリシ同政府ニ対シ今俄ニ援助ヲ与フル価値アリト判断スルニ至リタル事情ニ付参考ノ為質問スル処中佐ハ該政府ノ主義綱領ハ前日ト異ナル所ナシト雖政府樹立ノ方法手段ニ付テハ「デルベル」ガ最近準備整頓セルコトヲ確認セルコト又司令官ハ最近過激派ノ勢力漸ク没落シ殊ニ西部西比利亞ニ於テハ反過激派力過激派ヲ倒シ政權ヲ掌握シタル此ノ形勢ノ變化力其ノ重ナル理由ナリト答ヘタリ（二十日）

三六〇 六月二十一日

在ハルビン佐藤総領事ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

「ホルワット」ノ日本訪問中止ノ勸告ニ関シ

請訓ノ件

第三三三号（至急）

（六月二十二日接受）

確ナル筋ヨリ聞ク所ニ依レハ「ホルワット」ハ日本ノ援助ヲ仰カンカ為六月廿五、六日頃日本ニ赴キ親シク政府当局ニ懇請セントスル希望ヲ有シ居ル由ノ所出兵問題ニ関スル連合國間交渉ノ現状如何ニ依リテハ無益ノ誤解若ハ猜疑ヲ惹起スル虞有ルヤニ存セラレ他方万一連合國間ノ交渉纏マリ時局ニ対スル歩調一致スル如キ場合ニハ同將軍ノ当地ニ在

任スルコトヲ必要トスヘシト思考セラレ何レニスルモ同將軍ノ日本行ハ此際見合ス方宜シカルヘクト存セラルルニ付閣下ノ御意見次第ニ依リ夫レトナク本官ヨリ同將軍ノ旅行ヲ中止スル様勸告致スヘク何分ノ儀折返シ御電訓ヲ請フ同將軍ハ六月廿一日齊々哈爾濱軍ト会见ノ為當地出發廿三日帰着ノ筈（長春經由六月廿一日午后九、三〇）

三六一 六月二十三日

米内中佐（浦潮出張中）ヨリ
軍令部次長宛（電報）

西比利亞政府ノ援助ニ関シ具申ノ件

（六月二十六日外務省接受）

三五番

（六月二十四日接受）

小官発三四番電報ノ西伯利政府ニ関シテハ加藤司令官ヨリ詳報サレタルカ如ク其基礎可成リ鞏固ニシテ各地トノ連絡モ相応ニアリ、二十一日領事館ニ於テ西伯利政府首領「デルベル」ト領事ト会见ノ際小官モ列席、親シク首領ノ陳述ヲ聞キ西伯利政府ノ現地位鞏固ニシテ大ニ援助ヲ与フルノ価値アルモノト認メタリ、

二十二日領事館ニ於テ領事主催當地反過激派有力者ヲ招待シ時事ニ関スル意見ノ交換アリ、當地反過激派ハ党派ノ如

何ニ関セズ大体ニ於テ西伯利亞政府ヲ認ムルニ一致セリ若シ同政府ニシテ相当ノ準備ヲ整ヘ事ヲ挙ゲナバ目下過激派勢力ノ減退ト相俟テ比較的容易ニ成功スヘシト信ズ、近ク同政府軍事委員「クロコウエッキー」ノ到着ヲ待テ愈々事ヲ挙クルノ具体的計画ヲナスヘク本計画ニハ我海軍側及陸軍側俱ニ参与スルコトナルヘシ又近々同政府運動員「アルカーデーベトロフ」日本ニ渡航シ中央当局ニ西伯利亞政府ノ現状並將來ニ関シ詳細ナル説明ヲナシ援助ヲ乞ハントシツツアリ

又同政府首領「デルベル」ハ廿一日ヨリ小官宅ニ在リ当分此処ニ匿マヒ置ク予定ナリ、西伯利亞政府ノ現状並ニ將來ノ計画及首領「デルベル」ノ意見等ハ小官ヨリハ別ニ電報セズ、小官ノ旅行ハ当中止ス

三十番電ノ当地將校団ト西伯利亞政府トノ妥協成立シ合體セリ(二十三日)

三六二 六月二十五日

後藤外務大臣 會談
在本邦露國大使

哈爾濱ノ反過激派団体代表者會議ニ於テ決議
セシ連合國ノ出兵要請ニ関スル宣言ノ件

次第ナルモ西比利亞問題ニ付テハ前回會見ノ際申述ヘタル通日本ハ連合諸國ノ完全ナル協調成立シタル上ニ非ザレバ本件ヲ考量スルコト能ハズ実ハ最近英、仏、伊三國政府ヨリ交渉ノ次第アリタルモ已ニ三月十九日日本政府ヨリ米國政府ニ開示シタル意見ニ鑑ミ日本ハ歐洲連合諸國ト米國トノ間ニ協調成立スルヲ俟ツノ外ナク其ノ以前ニ自己ノ決定ヲ表示スルコト能ハザル旨回答セル趣ヲ内密ニ申聞ケラレタリ

右ニ對シ大使ハ日本ノ此ノ如キ態度ハ連合諸國ヲシテ日本ハ出兵ヲ回避スルモノナリトノ感ヲ抱カシムルヲ虞ルト述ヘ之ニ對シ大臣ハ日本ハ出兵ヲ回避スルニハアラズ然レドモ三國政府ハ西比利亞干涉ニ付テハ米國ノ同意ヲ必要トシ同國ノ同意ナケレバ干涉ハ之ヲ思ヒ止マルヘシトノコトナリ然ルニ日本ガ此際三國ト協同シテ米國ニ交渉シ万一米國ノ贊同ヲ得ザルニ於テハ日本ハ一種ノ背信の行為ヲ為セルコトナルヘク此ノ如キハ從來日本ノ執リ來レル態度ニ反スルモノニシテ日本ノ為シ能ハザル所ナリト答ヘラレタリ次ニ大使ハ參謀本部ヨリ聞ク所ニ依レハ「ホルワット」將軍ハ近々日本ニ來ル筈ナリトノコトナリト述べ之ニ對シ大

附屬書 六月二十二日附「ホ」將軍ヨリノ電報寫

六月二十五日(火)午後三時在本邦露國大使來省「ホルワット」將軍ヨリ電報ニ接シタル趣ヲ以テ大臣ニ覺書一通ヲ手交シ左ノ通説明セリ

最近哈爾濱ニ於テ各種ノ団体ヲ代表スル露國人相集マリテ一ノ會議ヲ開キ連合諸國ニ向ツテ露國來援(即チ出兵)ヲ懇請スル一ノ宣言ヲ議決セリ依テ其ノ正文ヲ茲ニ閣下ニ転致ス

本宣言ハ連合諸國ニ宛テラレタルモノナレトモ主トシテ日本ヲ目的トセルモノナリ而シテ「ホルワット」將軍ヨリモ熱誠ナル嘆願ノ意ヲ附加セリ

右ニ對シ大臣ハ本宣言ハ連合諸國ニ發送セラレタルモノナリヤ又ハ単ニ日本ノミニ送付セラレタルモノナリヤト問ハレ大使ハ本宣言ハ先ツ北京露國公使館ニ電報セラレタルモノナルヲ以テ同公使館ヨリ連合國政府ヘ通牒ノ手續ヲ執リタルモノト想像スル旨ヲ答ヘ進テ連合國ニ於テ此際西比利亞ヲ救援セザルニ於テハ露國健全分子モ去テ他方面(獨逸ヲ含ム)ニ向フニ至ラムコトヲ虞ルト述ヘタリ

大臣ハ「ホルワット」將軍ノ現状ニ付テハ大ニ同情シ居ル

臣ハ此際何等決定ヲ為スコトヲ得ザルヲ以テ同將軍ノ來朝ハ時機ヲ得タルモノニ非ズト思考スル旨申聞ケラレタリ終リニ大使ハ露亞銀行總裁「プチロフ」氏ノ紙幣發行案ニ付井上正金銀行頭取ヨリ同氏ヘノ回答ニ依レハ同頭取力之カ為一ノ銀行ヲ創設スルコト然ルヘシトノ意見ヲ有スルモ大藏大臣ニ於テハ政治上ノ理由ヨリシテ井上氏ノ案ニモ又「プチロフ」氏ノ案ニモ贊成セラレザル趣ニテ「プ」氏ハ次ノ日曜日ニ出發スル筈ナル旨ヲ述ヘタリ

(附屬書)

六月二十二日附ホルワット將軍ヨリノ電報寫

Téligramme du Général Horvat en date du 22 Juin 1918.

Un nombre de citoyens russes venus à Kharbine de toutes les parties de la Russie ainsi que des représentants d'organisations sociales locales m'ont transmis le procès-verbal de la séance spéciale du 18 Juin ainsi qu'un extrait télégraphique de ce document contenant la prière adressée aux Gouvernements Alliés de venir au secours à la Russie. Je vous transmets l'extrait, le texte suit par poste. J'ajoute ma prière fervente de secours armé sans délai.

“Un nombre de citoyens russes représentant divers groupes et organisations sociales ainsi que des hommes politiques, privés de la possibilité de faire entendre leurs voix sur les lieux par suite du régime de terreur maintenu par les Bolshéviki, sont venus à Kharbine de différentes provinces de la Sibérie et de la Russie d'Europe et s'étant concertés avec les représentants des organisations sociales locales de Kharbine, se sont réunis en séance extraordinaire pour étudier l'état des choses actuel dans le pays. La séance a voté à l'unanimité ce qui suit: Le Bolshévisme qui opprime la Russie fut fomenté par l'Allemagne qui eut recours aux intrigues après avoir perdu l'espoir de vaincre le peuple russe sur le champ de bataille. Ce serait une erreur de considérer le Bolshévisme comme issu des éléments sains de la démocratie russe. Le Bolshévisme devient de plus en plus odieux à la démocratie et touche à sa fin. Mais le tragique de la situation consiste en ce que le Bolshévisme cède de plus en plus sa place au Germanisme triomphant qui le suit et s'empare peu à peu de nouvelles régions russes, se dirigeant vers l'Orient. L'armée étant complètement

Signé: Le Président de l'Assemblée Vostrotine.

(欄外註記)

「六月二十五日露国大使ヨリ大臣へ提出」

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

千九百十八年六月二十二日附「ホルワット」將軍電信
露国各方面ヨリ哈爾賓ニ来レル幾多ノ露国人民及地方ノ社会的諸団体ノ代表者ハ六月十八日ノ特別會議々事録並連合諸国政府ニ向テ露国来援ヲ懇請スル該文書ヲ拔萃セル電文ヲ余ニ送付セリ會議録ノ正文ハ後ヨリ郵送スルコトトシ不取敢茲ニ右拔萃ヲ貴下ニ電報シ併テ余ニ於テモ亦遲滞無ク兵力の援助ヲ与ヘラレムコトヲ切望スル旨ヲ附言ス

「諸種ノ社会的団体ヲ代表スル幾多ノ露国人民並過激派ノ維持スル脅嚇政治ノ為自己ノ住スル地方ニ於テ意見ヲ發表スルコトヲ得サル政客ハ西比利亜及歐露ノ諸州ヨリ哈爾賓ニ来リ同市ノ地方社会団体ノ代表者ト協議ノ上露国ノ現状ヲ攻究スル目的ヲ以テ特別會議ヲ開催シ満場一致ニテ左ノ通議決セリ

現ニ露国ヲ威圧スル過激派ナル者ハ独逸ノ煽動ニ依リ起レルモノニシテ独逸ハ戦場ニ於テ露国人民ヲ撃破スルノ望絶エタル後陰謀手段ニ依リテ其ノ目的ヲ達セムコトヲ

anéantie par la propagande bolshéviste, il résulte l'impossibilité d'arrêter l'activité de l'Allemagne tendant à s'emparer de la Russie sur le terrain militaire politique et économique. Ici réside le grand danger non seulement pour la Russie, mais pour tous les Alliés. Le secours armé immédiat des Alliés pourrait seul arrêter la marche de l'Allemagne et contribuer à l'assainissement moral du peuple ainsi qu'à la création d'une nouvelle armée russe—ce qui serait un avantage énorme pour tous les Alliés dans la lutte gigantesque commune contre le militarisme germanique pesant sur l'univers. Pas tous les Alliés, animés du désir de nous aider, seraient en état de le faire à main armée aussi promptement que les circonstances actuelles l'exigent. Le Japon seul, étant voisin peut de concert avec les autres Alliés envoyer sans délai des troupes vaillantes. En adressant aux Alliés la prière instante de prêter leur concours, nous espérons que cet appel trouvera un accueil favorable. L'appui des Alliés rendra un immense service à la cause commune faisant renaitre l'armée russe créant une nouvelle menace à l'Allemagne en Orient.”

企図シタルナリ此ノ故ニ過激派ヲ以テ露国民主々義ノ健全分子ヨリ胚胎セルモノトナスハ大ナル謬見ニ属ス過激派ナル者ハ民主々義者ニ取り日ヲ逐ウテ益々嫌惡スヘキモノトナリ今ヤ滅亡ノ域ニ瀕セリ而シテ現下ノ悲惨ナル事態ハ過激派力戰勝ノ独逸ニ対シテ益々其地歩ヲ讓ルノ一事ニ存ス実ニ戰勝ノ独逸ハ過激派ノ後ヲ追ヒ東方ニ向テ漸次ニ露国ノ新地域ヲ蚕食セムトス然ルニ軍隊ハ過激派ノ伝播運動ニ依リ全然滅亡シタルヲ以テ軍事上、政治上及經濟上ヨリ露国ヲ手中ニ収メムトスル独逸ノ活動ヲ防遏スルコト能ハザルニ至レリ此ノ事態タル独リ露国ノ為ノミナス実ニ連合国全体ニ取り重大ナル危険ヲ包蔵スルモノト謂フヘク而シテ克ク独逸ノ前進ヲ阻止シ併テ露国人民ノ覺醒及露国軍隊ノ再建ニ資スルコトヲ得ルモノハ実ニ連合国ノ与フル即時ノ兵力的援助ヲ措テ他ニ之ヲ求ムルヲ得ズ右人民ノ覺醒ト軍隊ノ再建トハ全世界ヲ圧セムトスル独逸軍國主義ニ対スル共同の大戦ニ於テ偉大ナル利益タルヘキハ固ヨリ言ヲ俟タサル所ナリ
連合諸国ハ吾人ヲ援助スルノ意思ヲ有スルモ而モ該諸国全体力現下ノ事態ニ応スル為急速ニ兵力的援助ヲ与フル

ノ地位ニ在リト謂フヲ得ザルヲ如何セム独リ日本国ニ至リテハ境界相接スルヲ以テ他ノ連合諸国ト協調ノ上遲滯無ク其ノ勇敢ナル軍隊ヲ送派スルコトヲ得ヘキナリ今や連合諸国ニ向テ其ノ援助ヲ与ヘラレムコトヲ懇請スルニ当リ吾人ハ該諸国カ好意ヲ以テ之ヲ迎ヘムコトヲ期待ス連合諸国ノ支持ハ実ニ露国軍隊ヲ再生セシメ東方ニ於テ独逸ニ対スル新ナル威嚇ヲ創造スルヲ以テ其通目のニ資スル所極メテ大ナリト謂フヘシ

議長 ウォストロチヌ

三六三 六月二十六日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

セメノフ軍武装解除ニ関スル中国側ノ申出ニ

付請訓ノ件

第八五七号

(六月二十六日接受)

「セメノフ」軍武装解除ノ件ニ関シテハ過日齊藤少将ヲシテ段總理ニ対シ注意ヲ与ヘシメ置キタル次第モ之有ル処六月二十五日劉崇傑段總理ノ命ヲ受ケ本使ヲ來訪シ「セメノフ」軍ハ追々退却シテ既ニ国境附近迄來リ居リ此儘ニ抛置スル時ハ徒ニ過激派ニ対シ口実ヲ与フルニ過キズ支那側ト

思考スル旨申聞置キタリ右劉來談ノ次第ハ齊藤少将ヨリ參謀本部ヘモ電報シタル筈ナルガ支那側ノ過激派ニ対スル思惑モ同国トシテハ強チ無理ナラザル点モ有之ヤニ思考セラシ就テハ陸軍側トモ篤ト御協議ノ上本件支那側ノ意向ニ対スル帝國政府ノ態度御決定ノ上御電示ヲ仰キ置キタシ

(奉天 癸卯六月廿六日附六)

三六四 六月二十七日

後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

セメノフ軍ノ武装解除問題ニ関シ回訓ノ件

第四四九号

貴電第八五七号ニ関シ貴官ハ、「セメノフ」軍武装解除ニ関スル支那側ノ立場ハ当方ニ於テ諒トセザルニアラザルモ元來「セメノフ」軍ニ対シ日英仏諸国ヨリ軍資其他ノ援助ヲ与ヘ居ル次第ハ支那側ニ於テモ夙ニ承知セラレ居ル筈ナルニ係ラズ單ニ過激派ニ対スル思惑ヨリ同軍ノ武装ヲ解除セシメ連合側折角ノ苦心ヲ無ニスルカ如キハ遺憾至極ノ次第ニシテ万一右ノ如キコトトモナラバ之等諸国ノ支那ニ対スル感情必ズヤ面白カラザルモノアルニ至ルヘシト懸念セラルルニ付仮令「セメノフ」軍後退スルカ如キコトアルモ

シテハ甚タ苦シキ立場ニアル次第ニ付今後西伯利亞日支協同出兵ト云フカ如キ事、実現セハ格別ナルモ目下ノ所右ノ見地ヨリ或ハ「セ」軍ヲシテ武装ヲ解除セシムルコト已ムヲ得ザルニ至ルヤモ計リ難シトノ趣旨ヲ以テ陳弁スル所アリ且右ノ趣日本政府ヘ電報方ヲ請求セルニ付本使ハ之ニ対シ不取敢一己ノ私見トシテ西伯利亞出兵ノ事ハ近ク其必要生ゼズトモ限ラズ其場合ヲ慮リ「セメノフ」ノ如キハ出來得ル限り之ヲ支持シ置クコト必要ト思料セラルル処今若シ之ニ武装解除ヲ命ズルガ如キコトアラバ同人等ノ失望ハ蓋シ頗ル大ナルベク或ハ「セ」ヲシテ再ヒ立ツ能ハザルニ至ラシムヘシ就テハ同軍武装解除ノ如キハ成ルヘク之ヲ避クルコト必要ト思料セラルルノミナラズ實ハ過激派ニ對抗スルモノハ「セメノフ」ノミナラズ東支鐵道ヲ根拠トシ「ホルワット」將軍等ヲ中心トセル一団モアリ支那領内ニ「セ」一軍ノ退却シ來ルコトヲ以テ過激派ニ口実ヲ与フトセバ右「ホ」等ノ行動ニ付テモ過激派ニ口実ヲ与フルトモ云ヒ得ヘク從テ「セ」軍ノ武装ヲ解除シタリトテ過激派ニ対スル支那側ノ立場ヲ安固ナラシムルコトハ出來ザルヤモ知レズ旁々以テ本件ハ支那側ニ於テモ篤ト再考セラレ然ルヘシト

其武装ヲ解除セシムルカ如キコトナク別ニ適當ナル弁法ヲ講スル様致度旨支那側ニ申入レラレタシ
右貴電第八五七号ト共ニ哈爾濱ヘ電アリタシ

三六五 七月二日

後藤外務大臣ヨリ
在牛莊三宅領事代理宛(電報)

本邦人義勇兵問題ハ成行ニ放任方回訓ノ件

第一五号

貴電第三五号ニ関シ本邦人義勇兵募集ノ件ハ固ヨリ何等獎勵スヘキ事項ニハアラザルモ去リトテ四圍ノ情勢上特ニ之ヲ差止ムルハ他ニ面白カラザル關係ヲ及ボスニ付当分成行ニ任シ置カルル様致シタシ
右貴電第三五号ト共ニ為參考奉天ヘ電シ置カレタシ

三六六 七月四日

在本邦英國大使館ヨリ
日本外務省宛

セメノフ將軍援助ニ対スル英國政府ノ態度ニ

関シ申越ノ件

MEMORANDUM.

On May 22nd the Japanese Ambassador in London communicated to Mr. Balfour a Telegram which

he had received from His Excellency Baron Goto.

Baron Goto thought that if General Semenov were left in the lurch by the Allies, it would be injurious to their prestige. Lord Robert Cecil explained to Viscount Chinda at the time the attitude of His Majesty's Government in this respect.

Until the Allies have definitely decided upon intervention, it is impossible to define precisely what attitude should be finally adopted towards General Semenov, but, as he may be useful if the Allies eventually do intervene, it is important that his movement should be kept alive.

His Majesty's Government are therefore prepared to consider, together with their Allies, any proposals which may be put forward provisionally for financing him, as they consider it desirable that some such arrangements should be made.

BRITISH EMBASSY TOKYO.

July 4th 1918

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

極秘

覚書

一九一八年七月四日

在東京 英国大使館

(欄外註記)

「七月四日英国大使ヨリ幣原次官ニ手交」

三六七 七月六日 在ハルビン佐藤総領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

沿海州方面ニ進出スベキニ付日本ヨリ兵器等

ノ援助ヲ得タキ旨「ホ」將軍ヨリ申出ノ件

第三五三号(至急) (七月七日接受)

往電第三五一号ニ関シ七月五日「ホルワット」本官ヲ来訪「デルベル」一派ハ愈々浦塩ニテ西比利亜政府ヲ再興シ連合各国ニ対シ援助ヲ請願シタル由ニ付之ニ對抗センカ為「ウオストロチン」「タスキン」「フルーグ」將軍其他ノ有力者ヨリ成ル新政府様ノモノヲ組織スルコトトシ既ニ七月三日在日本及在支露国公使ニ其旨電報シ連合国殊ニ日本ノ援助ヲ請フコトトシタル所「カルムイコフ」ノ兵「グロデコブオ」ヲ占領シ四箇ノ「コザック」兵村ヲ略取シタル報道ニ接シタルヲ以テ七月五日前記新政府委員集合シ愈当地方ニテ組織セラレタル軍隊全部ヲ挙ケ「カルムイコフ」ヲ応援シ烏蘇里方面へ突進シ其進出ニ從ヒ自分モ自ラ同地方ニ赴キ新政府樹立ノ宣言ヲナスコトニ決セリ

在英珍田大使ハ後藤外務大臣ヨリ接到セル電報ヲ五月二十二日「バルフォア」氏ニ通報セラレタリ

後藤外務大臣ノ意見ニ依レハ若シ連合国ガ「セメノフ」將軍ノ死地ニ陥ルヲ傍觀スルニ於テハ連合国ノ威信ニ害アルヘシトノコトナリシガ外務次官「ロバート、セシル」卿ハ当時珍田大使ニ対シ此点ニ関スル英国ノ態度ヲ説明シ置ケリ

連合国ハ先ツ干涉問題ニ関スル政策ヲ確定スル迄ハ「セメノフ」將軍ニ対シ結局如何ナル態度ヲ執ルヘキヤヲ明確ニ決定スルコト不可能ナリ然レドモ連合国カ将来終ニ干涉ヲ決行スルニ至ルモノトセハ「セメノフ」將軍ハ連合国ニ取リ有益ナルヘキヲ以テ同將軍ノ活動ヲ其ノ時迄継続セシメ置クコト肝要ナリ

右ノ次第ナルニ付英国政府ハ此ノ際当坐ノ処置トシテ同將軍ニ財政上ノ援助ヲ与フルコトニ関シ發議セラルルコトアルヘキ提案ヲ連合諸国ト共ニ考量スルニ躊躇セズ英国政府ノ所見ニ依レハ目下此ノ如キ措置ヲ講スルコト必要ナリ

一九一八年七月四日

在東京 英国大使館

就テハ日本政府ニ於テ直ニ兵力ノ援助ヲ決行セラレ度ク万一右急速御決定相成難キ場合ニハ軍資金及兵器ノ援助等所謂精神上ノ援助願上ケタシト申出デタリ右ニ対シ本官ハ兵力ノ援助ハ連合国トノ關係モアリ急速決定セラルヘキヤ否ヤ無論御請合出来難キモ精神上ノ援助ニ至リテハ従来ノ行懸リモアリ帝國政府ニ於テモ之ヲ与フルニ躊躇セラルルコトナカルヘク兎ニ角同將軍ノ決定ハ当ニ機宜ニ適シタルモノニシテ目下ノ状況上斯ノ如キコトヲ斷行セラルル外他ニ手段ナカルヘキ旨ヲ答ヘ且同將軍ノ申出ノ次第ハ直ニ本國政府ニ電報スヘシト附言シ置ケリ

右ノ如ク「ホルワット」ガ決定シタルハ昨四日以来ノコトニテ四開ノ状況ニ余儀ナクセラレ連合国ノ態度決定ヲ待ツ暇ナク政府宣言ヲ決行セントスルモノナルニ就テハ同將軍ノ苦衷並ニ往電第三五一号ニテ上申シタル帝國ノ立場若ハ威嚴上即時出兵ノ事ニ偏ニ御詮議願上ケタシ上述「ホルワット」来談ノ次第ハ直ニ武藤少將ニ伝ヘタルノミナラズ明日同少將ト共ニ今一応「ホルワット」ト会见シ其意向ヲ確マル筈尚同將軍ノ意見ニ依レハ「チェック」軍ヲ浦塩ヨリ「ニコリスク」方面ニ向ハシメタルハ米國ノ差金ニアラ

ズシテ寧ロ浦塩仏國領事ノ意圖ニ出デタルモノナラントノコトナリ

北京へ転電セリ（長春經由六日前八、三〇）

三六八 七月八日

後藤外務大臣ヨリ
在浦潮菊池総領事宛（電報）

「デルベル」ニ対スル日本ノ援助ニ関シテハ

慎重ヲ要スル旨電訓ノ件

第一八四号

貴電第三八三号ニ関シ「チェック」ト「ダーバー」及市民側トノ關係モ充分明瞭ナラザルノミナラズ目下貴地政局ノ如何様ニ定マルヤモ明カナラザル今日帝國政府ニ於テハ露國人中特定ノ一派ニ偏シテ他ノ一派ヲ疎ンズルト云フカ如キ意思ヲ有セズ苟モ敵國勢力ニ對抗シ西比利亞ノ秩序ヲ回復スルノ目的ヲ以テ西比利亞政府ヲ樹立セントスル計画ニ對シテハ深く同情ヲ有スル所ナリト雖モ「ダーバー」等ノ計画ガ果シテ真面目ナルモノナルヤ否ヤハ極メテ疑ハシキノミナラズ帝國政府ニ於テ此際同人等ヲ援助スルトキハ勢ヒ之ト兩立セザル「ホルワット」一派ノ不信不滿ヲ招ク結果ヲ免レザルヘク之レガ為帝國政府將來ノ立場ニ累ヲ及ボ

エキン参事官同伴）七月三日附ホルワット將軍電報寫一通ヲ提出シテ左ノ通説明セリ

目下哈爾濱ニ在ル各種団体及政客ハ即時ニ一ノ權力ヲ樹立スルヲ必要ナリトシ而シテ右權力ハ之ヲ一人ノ手ニ委ネ其ノ周圍ニ一ノ内閣ヲ組織セシムルヲ適當ト認メ全員一致ノ意見ニ依リテ右權力ヲ「ホルワット」將軍ニ委スルコトナリ同將軍ハ露國力平靜ニ帰シテ憲法議會ノ召集ヲ見ルニ至ル迄全權ヲ引受クルコトヲ承諾セリ内閣ヲ組織スヘキモノハ「ヴォストロチン」、「ウストルゴフ」、「オコロフ」、「タスキン」、「フルーグ」將軍、「ブチロフ」、「クルスキー」ノ七人ニシテ仮政府ノ政綱ハ十一ヶ条ヨリ成リ何人モ異議ナキ性質ノモノナリ「ホルワット」將軍ハ本使ニ對シテ右ノ趣ヲ以テ日本政府ニ通知シ正式承認問題ハ暫ク後日ニ譲ルヘキモ日本政府ニ於テ取敢ヘス該政府ニ對シ好意的態度ヲ執ラレ之ヲ援助セラレムコトヲ懇請スル趣ヲ傳達セラレタシトイフニアリ

大臣ハ右ノ説明ヲ聴取セラレタル後電報文ハ之ヲ翻譯セシメタル上篤ト査閱スヘキ旨ヲ述ヘラレ次テ露國大使ヨリ本

スコトアルヘシト思考セラルルニ付貴官ハ「ダーバー」等ニ對シテハ十分慎重ノ態度ヲ執リ同人等援助問題ニ付他日ノ為自由ニ決定スルノ余地ヲ存シ置クト共ニ本問題ニ関シ英米領事トハ特ニ密接ナル接觸ヲ保チ差当リ事態ノ發展ヲ注視スルニ止メラルヘシ從テ貴電第三八三号「ダーバー」ノ申出ニ對シテハ貴官ノ私見トシテ仮令委員ヲ渡日セシムルモ日本政府ニ於テハ此際何等決定的ノ回答ヲ与フルコト能ハザルヘキ旨ヲ述ヘラレ其渡日ヲ見合ハサシムル様致シ度尚「ダーバー」等ト「チェック」軍及浦潮地方一般人民トノ關係ニ付テハ隨時電報セラレタシ右陸海軍側トモ協議濟

右北京及哈爾濱へ電報セリ

三六九 七月八日

後藤外務大臣 會談
在本邦露國大使

「ホ」將軍ヨリ新政府組織ニ関シ通告及日本

ノ援助懇請ニ付日本政府ニ傳達ノ件

附屬書

譯文

七月八日（月）午後五時露國大使大臣ヲ官邸ニ來訪シ（シ

件仮政府ニ對スル日本政府ノ一応ノ意向ヲ承ルヲ得ザルヘキヤトノ質問ニ對シ大臣ハ日本力カ之ニ對シ同情スルコトハ勿論ナルモ仮政府ニ對スル態度ハ日本單獨ニテ決シ得ヘキモノニ非ザル旨ヲ答ヘラレタリ

註 「ホ」將軍發クルペンスキー大使宛電報寫原文ヲ省略シ右和

訳文ヲ便宜上附屬書トシテ左ニ掲載ス

（附屬書）

一九一八年七月三日「ホルワット」將軍發「クルペンスキー」大使宛電報和訳文（註 仮訳文ナリ）

「ホ」將軍仮政府ノ首長トナリタル事、内閣編制及仮政府ノ綱領ニ付日本政府ニ通報方竝日本政府ノ援助懇請方ニ関スル件在哈爾濱諸政治団体ハ從來鞏固ナル權力ヲ樹立セムトスル各種団体及政治家ノ諸企圖ガ遂ニ成功ヲ齎サザリシニ鑑ミ茲ニ露國ニ於ケル秩序ヲ恢復シ得ルガ為且同國ニ現存スル一切ノ実力ヲ糾合統一シ得ルガ為一權力主体ヲ組織スルノ必要ヲ認識シタリ而シテ該組織ハ露國ヲシテ其ノ曾テ有シタル共同ノ敵ニ對スル連合諸國ノ班列ニ復帰セシムルニ至ルヘシ且彼等ノ意見ニ拠レバ該權力ハ必ズヤ一特定人ニ賦与セラレ其ノ特定人ヲ中心トシテ一内閣ヲ組織スルノ要アリトナスモノナリ斯ノ如クニシテ余ハ遂ニ全員一致ヲ以テ其ノ特定人トシテ其ノ任ニ當ルヘク選定セラレタリ而シテ

上掲ノ理由ニ依リ且又該諸団体以外露国多数人モ亦吾人ニ託スルニ祖国救済ノ重任ヲ以テセムトスルニ顧ミ將又虐政ニ苦悩シツツアル祖国ニ対スル吾カ責任觀念ニ驅ラレ余ハ茲ニ露国ノ事態カ静謐ニ帰シ且自由選挙ニ基ク憲法議會ノ召集セラルル迄一切ノ權力ヲ余ノ双肩ニ負フコトヲ承諾シ遲滞ナク一内閣ヲ編制シ其ノ閣員ノ一人カ其ノ首長トナルコトニ決定セリ其ノ内閣員ハ左ノ如クナルヘシ

一、「ヴォストローチン」

第三、第四議會「エニセイ」県選出議員第一臨時政府補給委員

二、「ウストルゴフ」

通信次官兼旧臨時政府西比利亞鐵道委員

三、「オコロコフ」

旧臨時政府「アルタイ」州代官、西比利亞産業組合代表者

四、「タスキン」

第二、第四議會議員、憲法議會後員加爾選出議員

五、「フルーグ」將軍

露国ニ於テ組織サレタル軍事並政治中央団体代表者

七、所有權ヲ恢復スルコト

八、憲法議會ニ依リ農業問題ヲ解決スルコト

九、工業組織ヲ社会化シ若ハ国有トスルコトヲ廢シ以テ工業ヲ復興セシムルコト但シ労働者ノ要求ヲ満足セシムル方法ヲ講スルコト

十、一般教育ヲ普及スルコト

十一、信教ノ自由ヲ確立スルコト

今ヤ上掲ノ根柢ニ基キ最上權力ヲ樹立シタルヲ以テ余ハ閣下（「クルペンスキー」ヲ指ス）ヲ経テ右ノ次第ヲ責任国政府ニ通報スルト同時ニ余ハ新タニ建設セラレタル政府ヲ正式ニ承認スル以前ニ於テモ責任国政府ハ該政府ニ対シ好意的態度ヲ持セラレ且ツ之ニ対シ直ニ援助ヲ与ヘラレムコトヲ懇請スル旨閣下ヨリ同政府ニ伝達セラレムコトヲ依頼ス

三七〇 七月九日 在本邦英国大使館ヨリ
日本外務省宛

「アレキシーフ」ノ設立セル新西比利亞政府

ニ関シ在中国米国陸軍武官ヨリ英国陸軍武官

ニ通報シタル情報ヲ転報ノ件

六、「プチロフ」

財業者、東支鐵道行政委員

七、「クールスキー」

政治家、西比利亞産業組合代表者

露国全土カ過激派ノ篡奪ヨリ漸次脱出スルニ從ヒ上掲内閣ハ其ノ他然ルヘキ諸政治家ニ依リ補充セラルルヘシ

新ニ組織セラレタル政府ハ今ヤ其ノ軍隊ヲ編制中ニシテ其ノ一部ハ現ニ後員加爾州ニ於テ「セメノフ」大佐指揮ノ下ニ作動シ他ノ一部ハ浦潮ニ前進中ナリ

仮政府ノ綱領左ノ如シ

一、過激派ノ發布シタル命令全部ヲ廢止スルコト

二、司法、行政官庁並市及地方自治団体ヲ再興スルコト

三、総テノ人民ニ対スル法律上平等主義及權利自由ノ保障ヲ確立スルコト

四、一般選挙ヲ施行スルコト

五、連合国竝中立国ニ対シ總テノ条約ヲ完全ニ恢復スルコト、竝政治經濟上ノ義務ヲ確認スルコト

六、嚴格ナル軍規ノ下ニ組織セラレ何等政治ニ関与スルコトナキ軍隊ヲ復興スルコト

極秘

西部西比利亞ヨリ哈爾濱ニ歸還セル在支米国公使館附武官（註「ドライスデル」少佐）ハ在支英國公使館附武官ニ次ノ如キ報道ヲ供給セリ

西比利亞新政府ハ其ノ一時的本拠ヲ「クラスノヤルスク」ト「オムスク」トノ間ニ存在シ「オビ」河流ニ瀕セル「ノヴォニコライエフスク」ニ置ク其ノ勢力ハ「チェック」ノ勢力ト結合シテ「イルクーツク」ヨリ少シク西ニ在ル「ニジュニウディンスク」ヨリ欧露ナル「ペンザ」ニ延フ過激派ノ勢力ハ殆ント全ク俘虜ノ支援ニ繋ルモノニテ右俘虜ハ國際社会主義者タルト否トニ論ナク武装シツツアリ、然ルニ西比利亞新政府ハ其ノ維持ヲ「チェック」ノ支援ニ俟ツモノナリ、同政府ハ精撰セラレタル士卒ヲ以テ軍隊ヲ組織シツツアリテ「トムスク」地方ニハ一万人アリ其中三千ハ既ニ武装整ヒ居レリ而シテ「ノヴォニコライエフスク」ニハ一万人アリ、

米国公使館附武官ノ意見ニ依レハ連合国ノ執ルヘキ最良ノ途ハ俘虜及過激派ノ結合勢力ニ対シ積極的行動ヲ開始スルノ目的且究極ニ於テ独逸人ニ對抗スルノ目的ヲ以テ「チェ

「ツク」軍ト協同セル西比利亞新政府軍ヲ急速ニ支援スルニ在リ而シテ同武官ハ西比利亞ニ於ケル過激派ハ頗ル困難ナル地位ニ在リト認メ居レリ蓋シ過激派ハ多数ノ俘虜ニ武装セシメバ己レ自ラ俘虜ノ支配下ニ立ツニ至ルヘク若シ又彼等ヲ武装セシメズバ新政府ヲ顛覆スルコト能ハザルヘキヲ以テナリ

在哈爾濱英國領事ハ此ノ西比利亞新政府ト彼ノ一般ニ信用ナク且数月前連合國ノ援助ヲ歎願セル所謂「西比利亞自治政府」ナルモノトヲ混同セザルコトヲ要スル旨指摘セリ「アレキシエフ」將軍ノ使節ト称スル「フルーグ」將軍竝ニ頃日西部西比利亞ヨリ來着セル他ノ人々ノ言ニヨレハ此ノ新軍事組織ヲ促進セシモノハ実ニ「アレキシエフ」將軍ニシテ同將軍ハ「デュトフ」將軍ノ援助ヲ得テ之カ組織中ナリト云フ「フルーグ」將軍ハ嘗テ浦潮斯德軍務知事タリシコトアルカ其ノ以前ハ旅順ニ於テ「アレキシエフ」提督ノ高級幕僚タル地位ヲ占メ居タリ

註 右ハ七月九日在本邦英國大使グリーン氏ヨリ幣原次官宛書翰ノ附屬書トシテ送付越サレタル覚書ノ仮訳文ナリ

ラズ急速ニ之ヲ断行スルノ必要アリ「ホルワット」ト「チェック」ガ政見ヲ一ニセザルヘシトノ説アルモ今ハ敵ヲ撃滅スルタメ協同動作絶対ニ必要ニシテ政見如何ヲ云々スヘキ時ニ非ズ米國公使館附武官「ドリスタル」ハ最近二箇月間ウスリー及東部西伯利ヲ旅行シ一昨日歸來セリ彼ハ北京出發前ハ非干涉主義ナリシモ歸來以後ハ熱心ナル干涉論者ト為リ在北京米國人ノ大部モ今ハ干涉論者ニシテ米本國モ逐次其必要ヲ感知シアルカ如シ吾人ハ此際同意ヲ表スト

(哈爾濱資濟)

三七二 七月十一日 在浦潮菊池總領事ヨリ後藤外務大臣宛(電報)

ホルワット軍ノ沿海州進出ニ関シ「チェック」

軍トノ間ニ紛争發生ノ件

第四〇〇号

(七月十四日接受)

本官發在支公使宛電報ニ関シ急遽「ニコリスク」ヨリ歸リ來レル「デトリックス」將軍ノ請ニ依リ十日重ネテ与國領事(日英米仏)會議ヲ開ケルカ席上同將軍ノ陳述左ノ通り「ホルワット」(目下「グロデコオ」ニ在ル趣)ヨリ「ゼネラル、フルーグ」等ノ委員ヲ差遣スルニ付浦潮ニ於テ会

三七二 七月十日 齊藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ參謀總長宛(電報)

チェック軍ト「ホ」「セ」勢力トノ協同行動ノ必要ニ關スル仏國武官ノ意見報告ノ件

電報 七月十日午後六時發

十一月午後十一時三十七分着

參謀總長

北京 齊藤少將

支極秘第三六八号

本日仏國武官ニ對シ、仏國公使ガ昨日林公使ニ談セシ「チェック」軍ヲシテ東清鐵道ヲ利用セシムル件ニ付談シタルニ仏國公使館附武官ハ恰モ数日前本職カ露國公使館附武官ニ告ケタルト同様此際「チェック」軍ヲシテ「ホルワット」ト「セメヨノフ」ト共ニ滿洲里以西ニ在ル過激派及獨逸俘虜軍ヲ撃破セシメントスル意見ヲ有シ且本國政府ヨリモ之ニ關スル訓令ニ接シタル由仍テ同武官ハ哈爾濱ニ在リシ「ペリオット」大尉ヲシテ昨日出發浦潮ニ赴カシメ「チェック」ト交渉セシムルコトトセリ又仏國公使ノ意見ニ對シ米國代理公使モ同意ヲ表セシ由ヲ述ヘ且曰ク「チェック」軍ハ其威力微弱ナルヲ以テ西伯利干涉依然必要ナルノミナ

見ヲ求ムル書面ニ接シタルニ付「ニコリスク」ニ於テ会见ス可キ旨答ヘタリ右ニ依リ「フルーグ」「ウストルゴフ」等五名ノ委員ハ「ニコリスク」ニ來リタルニ依リ彼等ハ「デトリックス」ニ告グルニ「ホルワット」ガ在哈爾濱与國領事ノ同意ニ依リ執政官タルコトヲ宣言シ且「ニコリスク」及浦潮占領ノ為兵ヲ進メツツアル次第ヲ以テシ「チェノク」軍ハ何故ニ「ホルワット」軍隊ノ通過ヲ許サザルカヲ問ヘリ「デトリックス」ハ内政ニハ一切不干渉ノ趣旨ヲ述ヘ從テ何派タルヲ問ハズ武装軍隊ハ一切通過ヲ許サザルナリト答ヘタリ委員等ハ重テ「ホルワット」軍隊ガ「ニコリスク」迄進出スルコトニ同意ヲ求メタルモ「デトリックス」ハ之レヲ拒絶シ之レ自家軍隊ノ進出ノ後方ニ爭乱ヲ見ルヲ好マザルニ依ルモノナルコトヲ告ゲ並ニ本件処決ハ浦潮領事團ノ裁斷ニ仰ク可シト告ケタリ次ニ將軍ハ該委員等ニ對シ宜敷浦潮ニ來リ地方官憲ト意見ヲ交換シ了解ヲ見ルニ至ルヘキコトヲ申出デタルニ委員等ハ之ヲ不可能ナリト答ヘタリ(十一日朝ノ探聞ニ依レハ「フルーグ」等ハ十日夜浦潮ニ來レル情報アリ其心中ヲ變シタルニ依ルカ)右陳述ノ後「デトリックス」ハ尚「ニコリスク」住民殊ニ「ゼム

ストオ」、市会、労働者、鉄道従業員等ノ如キ挙テ「ホルワット」ニ反感ヲ懷ケル次第ヲ述ハ尚該委員ハ「チェック」軍ガ「ホルワット」軍隊ノ通過ニ同意ヲ表セザル事態ヲ批評シ之レ事案ニ於テ「プロテクトレイト、バイ、プリゾナス、オブ、ウウオア」ニ外ナラザル等暴言ヲ吐キ居レル事情ヲ述ヘタリ「デトリックス」ハ若シ「ホルワット」ニシテ今ノ態度ヲ固守スルニ於テハ「チェック」軍ハ結局「ハバロフスク」ヲ経テ西ニ向フノ止ムナキニ立至ル可キ意向ヲ述ヘタリ領事団ハ右陳述ヲ聞取りノ後別電ノ通り決議セリ

因ニ西比利亞政府ハ七月九日新編制軍二箇中隊ノ闖兵ヲ非公式ニ挙行セリ之ニ列セル坂部中佐ノ言ニ依レハ右ノ中一箇中隊ハ戦線帰還兵ヨリ成リ優秀ナルモノナルカ他ノ一箇中隊ハ稍之ニ劣レリト

三七三 七月十二日 在本邦英國大使館ヨリ
日本外務省宛

英国側ハ「ホ」將軍ノ新政府ニ対シ懷疑的ナル件

極秘

承知ノ通ナル所「ホルワット」政府ノ行動ニ関シ浦塩領事団殊ニ加藤司令官ハ極端ナル偏頗ノ考ヲ有スルモノノ如ク「チェック」軍「ホルワット」間共同動作上意思疏通ヲ謀ランカ為メ「グロデコフ」ヨリ浦塩ニ赴キタル荒木中佐ノ談ニ依レハ同中佐カ加藤司令官ニ会見ノ際同司令官ハ絶對ニ「ホルワット」政府ヲ認ムルヲ拒絕シ之レ迄外務省並參謀本部側ニ於テ表裏トモ支持シ来タリタル同政府成立ノ歴史ヲ無視シ營ニ之レヲ認メザルノミナラズ暗ニ「デルベル」一派ノ政府ヲ援助セントスルコト疑ヲ容レズ甚シキハ「ホルワット」軍討伐書類ノ綴込サハ卓上ニ置カレアルヲ見タル有様ニテ同司令官ハ荒木中佐ニ対シ極端ニ激シタル語氣ヲ以テ対談セリト云フ加之「グロデコフ」ニ赴キタル武藤少將ノ勸メニ依リ再ヒ意思疏通ノ為メ浦塩ニ赴キタル桐尾大尉ニ対シテモ同司令官ハ同一ノ論調ヲ以テ「ホルワット」ヲ否認シ遂ニ同大尉ヲシテ「ホルワット」「チェック」間ノ協定ヲ妨害スルハ同司令官一己ノ指金ナリト云ハシムルニ至リタル事実ヲ以テスレバ同司令官ハ当地ニ於ケル是迄ノ努力ヲ根本的ニ覆ヘサントスルモノナルコト疑フノ余地ナシ何故ニ同司令官ガ斯ノ如キ態度ヲ持スルヤ殆

覺書

「ホルワット」將軍ハ臨時政府ノ樹立ヲ提言セリ同將軍ハ七月七日其政府ノ他ノ閣員ト共ニ哈爾濱ヨリ「ニコリスク」ニ赴ケリ該政府閣員ノ氏名ハ既ニ各聯合國駐在露国代表者ニ電報セラレタルモノノ如シ然レトモ該政府ノ政綱タルヤ權利ノ平等、過激派主義ノ廢止及秩序ノ回復等ト云フカ如キ抱負ノ表明ニ過ギザルモノノ如シ

在北京英國公使ハ同公使自身スラ多大ノ信賴ヲ置クヘキモノト思料セザル前記新政府ニ対シ一般露国人民並「チェック」ガ之ヲ支持スベキヤヲ疑ヘリ

註 右ハ七月十二日附在本邦英國大使館ヨリノ覺書ノ仮訳文ナリ

三七四 七月十六日 在ハルビン佐藤總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

加藤第五戰隊司令官ハ「ホ」將軍ノ政府ヲ認ムルヲ欲セザルニ付我政府ノ方針ニ基ク明確ナル指令ヲ同司令官ニ与ヘラルル様稟請ノ件

第三六六号 至急極秘 (七月十六日接受)

北京連合國公使団對「ホルワット」政府問題ニ関スル本官ノ意見ハ本官宛在支公使宛電報第一九七号ノ転電ニ依リ御

ンド了解ニ苦シマザルヲ得ズ若シ其原因ガ単ニ我陸海軍間ノ反目ニアリトセハ真ニ遺憾ノ至リニシテ又是以外ニ原因ノ存スル所ヲ認ムルヲ得ズ列國環視ノ下殊ニ連合國亦出兵ノ曉ニ於テ我陸海軍間ノ反目ヲ彼等ニ知ラシムル如キハ我國威ノ上ヨリ到底看過シ難キノミナラズ延テ帝國政府カ「ホルワット」一派擁護ノ為メ是迄尽力セラレタル御方針ヲ減却シ彼等ニ對スル威信ヲモ全然毀損セントスルモノナリ就テハ此際我陸海軍間ノ調和ヲ謀リ至急加藤司令官ニ對シ國家ノ大方針ニ基キ明確ナル指令ヲ与ヘラレ且北京外交團ニ於テモ「ホルワット」ニ對スル態度ヲ改ムル様特ニ閣下ノ御配慮ヲ切望致度シ

本電報ハ閣下ノミノ御參考ニ供シ度態ト在支公使ヘモ転電スルヲ避ケタリ(大正七年七月十六日前五、〇〇長春經出)

三七五 七月二十九日 後藤外務大臣
在本邦露国大使 會談

「ホ」將軍ノ政府支持方ニ関スル同將軍ヨリ
在本邦露国大使宛電報ノ件

七月二十九日(月)午後三時露国大使「クルペンスキー」氏大臣ヲ官邸ニ來訪シ「ホルワット」將軍ヨリ來電アリタ

ル趣ヲ以テ其ノ要領ヲ記載セル覚書一通ヲ提出シタル上該電報ノ正文ハ已ニ在北京林公使ヨリ政府ヘ電索アリタルコトト思考スルヲ以テ単ニ之カ要領ノミヲ記載シタル旨ヲ陳述セリ

覚書内容左ノ如シ

当地（哈爾濱）ニ於ケル風説ニ拠レハ連合諸国ハ独逸ノ為ス所ニ倣ヒ其ノ軍隊ノ占領スヘキ露国領土ニ於テ露国仮政府ナルモノハ一モ認ムルコトナク全然連合諸国ニ從属スル行政機関ヲ設ケ而カモ該機関ハ外人ヲモ加ヘテ之ヲ組織セムコトヲ企図セラルルカ如シ

然ルニ右ノ如キ方法ハ地方人民ノ各階級ヨリ敵意ヲ以テ見ラルヘク連合諸国ニ対スル彼等ノ同情ヲ失フニ至ルヘキコト疑ヲ容レズ此ノ如キ方法ヲ以テシテハ連合諸国ハ到底露国内ニ於テ確平タル地位ヲ獲得スルコトヲ得ザルヘク隨テ干涉ノ主タル目的ヲ達成シ殊ニ露国軍隊ヲ再建シ並露国ニ於ケル戦線ヲ再現スルコトハ不能タルヘク連合諸国ニ取リテモ至大ノ不利益タルヲ免レザルヘシ之ニ反シ若シ連合諸国ニシテ国内ノ秩序及法規ヲ再生シ並其同ノ敵ト最後迄戦フ為露国軍隊ヲ再建スルコトヲ目的ト

露国人ハ互ニ異論ヲ持シテ相排済スルノ通弊ヲ有スルヲ以テ連合国ニ於テ如何ナル権力ヲ支持セラルル場合ニ於テモ必ズ之ニ向テ反對ヲ唱フルモノアルヘク而シテ連合国ニ於テ支持セラルル権力ハ必ズヤ秩序及政府ノ觀念ヲ有スルモノタラザルヘカラザルヲ以テ極端ナル社会主義者ノ如キハ勿論之ヲ斥ケラルヘク何レノ点ヨリ見ルモ多数ノ分子ヲ代表スル「ホルワット」將軍ノ政府ヲ支持セラルルハ至当ノコトナルヘシ

右ニ対シ大臣ハ左ノ如ク述ヘラレタリ

「ホルワット」將軍ノ電報ノコトハ初メテ承知スル所ナリ日本ハ同將軍ニ対シ同情ヲ有スルモ同將軍ノ組織セル政府ニ対スル日本政府ノ意向ハ自ラ別個ノ問題ナリ若シ西比利亞ニ出兵スルコトナル場合ニハ日本ハ最も公平ノ態度ヲ持シ地方ニ於テ現実ニ人民ノ同情ヲ収メ居ル権力ヲ認メテ之ヲ支持スヘク如何ナル権力ヲ認ムヘキヤ前以テ決定スルコトヲ得ズ又主義ノ問題ニ付テモ同様ニシテ如何ナル主義ヲ有スル者ニ非ザレバ支持セズト云フカ如キコトヲ予断スルコトナシ

スル露国ノ権力ヲ支持スルノ態度ヲ執ラルルニ於テハ全然反對ノ結果ヲ齎ラスルニ至ルヘシ

抑モ全然相異セル政綱ヲ有セル諸党派ノ意見ヲ纏ムルノ幾下不能トナレルコト、徒ニ無益ノ論議ニ時ヲ消費スルコト、各人ヲ満足セシムルノ希望ニ驅ラルルカ為政治上ノ活動無氣力ニシテ優柔不断ニ陥レルコト等ハ露国ヲ現在ノ無政府状態ニ導キタル集合の権力体ノ招致セル結果ニ外ナラズ露国ニ於ケル現在ノ危機ニ際シ克ク局面ヲ救済シ得ルモノハ個人的権力ヲ措テ他ニ之ヲ求ムヘカラズ固ヨリ該権力ハ穩健ナル党派ノ善良ナル代表者ニ依リテ支持セラルルヲ条件トスルコトハ言ヲ俟タズ余ノ政府ハ總テノ点ニ於テ右ノ条件ヲ具備スルモノニシテ健全ナル他ノ諸分子ヨリ将来支持ヲ得ルニ至ルヘキハ余ノ確信スルトコロナリ

余ノ建設セル政府ノ鞏固ナルコトハ該政府ガ各種ノ異ナレル利益ヲ代表セル事実ニ徴スルモ明カナルヲ以テ連合諸国ノ支持ヲ得ヘキモノタルコト疑ナカルヘシ

露国大使ハ大臣カ右覚書ノ要領ヲ聴取セラルルヲ俟テ次ノ如ク陳述セリ

三七六 八月五日

在浦潮菊池總領事ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

「ホ」將軍ニ対シベリア政府側ト直接妥協

交渉方勸説シタルニ付報告ノ件

別電

同日菊池總領事發後藤外務大臣宛電報第四六三

号ノ別電

八月三日附シベリア政府首相ラウロフヨリノ書

面ノ内容

第四六三号

（八月六日接受）

往電第四五七号ニ関シ果シテ英国領事ニ対シ「ラウロフ」等申出ノ妥協条件ニ賛意ヲ表スルヤ否ヤヲ突止メタル所該領事ハ賛意ヲ表シタルニ非ズ西比利亞政府側ニ於テ妥協ノ意アルコトハ之ヲ認メテ之ヲ「ホルワット」政府ヘ伝フルヲ辞セザル旨ヲ答ヘタル趣、將又「ラウロフ」ハ八月四日ニ至リ三日附ヲ以テ別電趣旨ニテ書面ヲ送附越シタル所其内容ハ前日申出ノ妥協条件トハ全然異ナリ之ヲ「ホルワット」側ニ伝フルモ差支ナシト認メタルガ既ニ英国領事ガ西比利亞政府側ノ申出ヲ受居ルコトト本件カ領事団ノ問題トシテ現ハレ来ルコト避ケ難シト認メ八月五日与国領事會議ヲ召集シ之ニ五日「ホルワット」ヲ訪ヒテ浦塩ニ来レル在北

京英国公使館「オルストン」、在北京仏国公使館参事官「マルテン」及ヒ同館「カピテン、ペリユー」等モ臨時出席セリ會議ノ結果一応右書面ノ内容ヲ本官ヨリ「ホルワット」ヘ傳達スルト同時ニ西比利亞政府「ホルワット」両者ガ第三者ヲ經ズ直接妥協ノ為交渉スルヲ可トスル旨伝フルコトヲ決議セリ

依テ本官ハ同日「ホルワット」ヲ訪問シテ前記決議ヲ通告シタル後改メテ日本領事トシテ本件ハ本来佐藤總領事ヨリ申入ル可キ筈ナルモ偶然ノ機會ヨリ当地ニ於テ会合シタルニ依リ本官ヨリ申入ル事トナリタル旨ヲ前置シ時局ノ重大ナルト本官ノ努力ニ依リ西比利亞政府ハ漸ク互讓的精神ヲ示シ妥協案ヲ開示スルニ至リタルトニ鑑ミ領事團ノ決議通り妥協ノ為メ直接交渉ヲ望ム旨ヲ述ヘタルニ「ホルワット」ハ(第一)日本国政府ハ斷シテ西比利亞政府ヲ承認スルノ意ニ非ザル事ヲ或筋ヨリ確聞シ居レリ(第二)故ニ斯カル政府ト妥協ヲ遂グル事ハ決シテ日本国政府ノ意ニ非ズ延テ自分ハ日本ノ反感ヲ買ヒ遂ニ乖離ヲ見ルニ至ルヘシ(第三)日本政府ハ飽ク迄自分ヲ支持スルモノナル事ヲ承知スル旨ヲ主張スルヲ以テ本官ハ日本政府ハ露國ニ於テ内爭絶

エス為メニ國民ノ困憊深甚ナルヲ遺憾トシ之レカ終熄ノ為メニハ一日モ早く問題ノ諸団体ノ間ノ妥協ノ成ラン事ヲ切望スル旨縷々説述シタルニ彼レハ是レ英米仏ノ政府ナラバ正ニ希望スヘキ所ト思考スルモ日本政府ノ真意ニハ非ザル事ヲ確信ス若シ日本政府ニ果シテ右様ノ真意アリトセバ是レ英米仏等ノ圧迫ニ依リ余儀ナクセラレタル意思ト信ズル等強弁ヲ弄シ居リタルモ結局漸ク本官ノ意ヲ諒トシ直接交渉ヲ試ム可キ旨ヲ答ヘタリ

因ニ「ホルワット」ハ武裝セル將校五十名及兵卒其他十六名ヲ帶同シ居ル所其目的ト理由ニ付テハ領事團ヨリ委員ヲ派遣シ詰問シタルモ明答ヲ与ヘズ当地ニ於テハ現時列車共同警備ノ下ニ一般ニ武器ノ携帯ヲ禁止シ居ルヲ以テ前記領事會議ハ右將校等ノ武裝ヲ解除セシムルヲ以テ至當ト認メ本件ヲ与国軍事代表者ニ移牒シテ其考慮ニ附シ相當ノ措置ヲ求ムル事ヲ決議セリ(五日)

(別電)

八月五日在浦潮菊池總領事發後藤外務大臣宛電報
八月三日附シベリア政府首相ラウロフヨリノ書面ノ内容
第四六三号ノ別電 (八月六日接受)

西比利亞ニ於テ唯一ノ鞏固タル國權ヲ速ニ樹立シタキ希望

ニ関シ貴下ト本官間トノ談判ノ追加トシテ及内乱トナルコトアリ得ヘキ西伯利住民ノ各別各級間ノ相互不和及不領解ヲ滅尽スルガ為西伯利政府カ有産階級代表者ヲ同政府ヘ入ルルコト(ホルワット内閣ノモノヲモ除クコトナク)ニ関シ有産階級代表者ト談判ヲ開始スルコトヲ用意シ居レルコトヲ「ホルワット」中將ノ許ニ組織セラレタル内閣ニ通知ノ旁ヲ執ラレンコトヲ請フ本官ハ西伯利政府カ同政府ト有産階級者トノ間ノ妥協ノ結果トシテ「ホルワット」中將ニ於テ速ニ仮執政官ノ称号ヲ辞退シ其ノ内閣ヲ解散スルコトヲ要スト確信スルモノナルコトヲ茲ニ宣言スルヲ必要ト認メ候

三七七 八月六日

後藤外務大臣ヨリ
在浦潮菊池總領事宛(電報)

デルベル一派ノ強硬態度ニ関スル觀察電報方

訓令ノ件

第二五二号

最近「デルベル」一派ガ「ホルワット」一派ニ対シテハ勿論日本ニ対シテモ実力以上ニ強硬執拗ナル態度ヲ持シ居ルハ了解ニ苦ム所ナルガ右何人カノ裏面ニ於ケル活動ニ基

ク次第ニアラザルヤ貴官ノ觀察電報アリ度尚各国代表者等ノ「デルベル」一派ニ対スル態度關係等ニ付テハ今後トモ特ニ注意ヲ加ヘラレ當方ノ参考トナルト思料セラルルモノハ可成詳報セラレタシ

三七八 八月九日

加藤第五戰隊司令官ヨリ
海軍省宛(電報)

シベリア仮自治政府側及「ホ」將軍ノ態度ニ

関スル件

機密第二百四号 (八月十日外務省接受)

近時西比利亞仮自治政府ノ態度ニ関スル外務大臣ヨリ菊池浦塩總領事宛八月六日訓電回示ヲ受ク然ルニ西比利亞仮自治政府員等ハ輓近寧ろ意氣消沈日本ニ対シテ毫モ強硬ノ態度ヲ採リタルコトナク却ツテ「ホルワット」カ民意ヲ尊重セズ濫ニ多数ノ武裝兵(殊ニ甚タシキハ支那兵ヲモ伴ヒ)ヲ護衛トシ來浦シ倨傲ノ振舞アルコト頗ル与国ノ嫌惡スルトコトナリ居レリ目下当地与国代表者ハ「ホルワット」排斥ニ意見一致シ居レリ尚ホ外務大臣ヨリ何レノ政派ニモ決定的態度ヲ採ラザル様トノ内訓アリタルニモ不拘「ホルワット」ヲ通シテ「セメノフ」ニ資金ヲ供給シツツアルコ

トハ列國ノ知悉スルトコロニ属シ又内訓ニ矛盾スルノミナ
ラズ之ヲ空文ニ帰セシムルノ結果ヲ来スノ虞アルカ如シ

三七九 八月十五日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

セメノフ軍ニ對シ財政援助決行方稟申ノ件

第四三五号

(八月十六日接受)

「セメノフ」枝隊ハ仏國側ヨリノ送金杜絶セル為財政上頗
ル窮地ニ陥リ兵士ノ給料モ七月分ノ支払ヒ出来ザル有様ナ
ル処斯ノ如キ窮狀ニ置クハ從來ノ行懸リハ勿論總テノ点ヨ
リ考ヘ帝國ノ為不利益ニ付至急財政上ノ援助御決行アリ度
ク金額ニ関シテハ武藤少將ヨリ參謀本部ヘ累次電報セルニ
付同部ト御打合せアリタシ

在支公使ヘ転電セリ(長春經由八月十五日午後八、四〇)

三八〇 八月十九日

在浦潮菊池總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

「ホルワット」及「デルベル」両政權間ノ妥

協方ニ関シ英仏兩國武官ト意見交換ノ件

第四九二号

(八月二十一日接受)

松平政務部長ヨリ左ノ通

第三号

「ホルワット」及西比利亞政府間ノ妥協進捗セザル一原因
ハ双方トモ日本又ハ聯合國ノ援助ヲ自党ノミ有シ居ルトノ
信念アル為ナリト思考セラルルニ付此ノ際軍司令部ハ双方
ニ對シ不偏不党ノ態度ヲ持シ彼等ノ期待ヲ打破スルコト妥
協進捗上必要ト認メ上陸前大谷司令官ニ對シ司令官ハ勿論
幕僚一般右ノ趣旨ニ依リ固ク申立ノ態度ヲ採ラレタキ旨具
申シタルガ司令官モ全然同意ヲ表セラレタリ十九日「オル
ストン」「マルテル」ト会合時局ニ関シ腹藏ナキ意見及情
報ノ交換ヲナシタルガ「オルストン」ハ着浦以來「マルテ
ル」ト共ニ兩政府間ニ立テ調停ヲ図リタル次第ヲ述ベ「ホ
ルワット」ニ對シテハ露國ノ現狀ニ顧ミ到底直ニ「デクテ
ーター」トナルコトハ不可能ニ付寧ロ西比利亞政府ト妥協
シ聯合統治機關ヲ組織シテ西比利亞地方ノ行政ヲ執行セバ
当面ノ窮狀ヲ処理シ得ベク然ル後徐ロニ時機ヲ待タバ結局
實權ハ「ホ」將軍ノ如キ經歷アル人ニ歸スルニ至ルベキヲ
以テ此ノ際一時讓歩スル方將軍一己ノ為ニモ得策ト認ムル
旨ヲ力説シ漸ク双方ヨリ委員ヲ出シテ連日会合スルニ至リ

タルモ双方徒ニ末節ニ拘泥シテ今日迄談判少シモ進捗セズ
トテ失望ノ意ヲ漏ラシタリ本官ハ帝國政府ノ意向ハ不偏不
党各団体ノ統一ヲ望ムニ付本官ニ於テモ先ツ「ホ」將軍ハ
勿論「デルベル」一派ガ自党ノミ日本ノ援助ヲ期待シ居ル
考ヲ打破シテ妥協進捗ニ尽力スベキ旨並前頭軍司令官ノ態
度モ語リタル処「オルストン」「マルテル」共ニ大ニ満足
ノ意ヲ表シ今後本官ト協同妥協ヲ試ミタキ旨申出デタルニ
付本官ハ之ヲ諾セリ「マルテル」ノ談ニ抛レバ米國隊長ハ
大谷司令官到着ノ二日前「デドリックス」ニ書面ヲ寄セ烏
薊里鐵道ノ運轉ヲ此ノ際米國側ニテ引受ケタキ旨申出デタ
ルモ「デドリックス」ハ大谷司令官ノ到着迄待ツヘキ旨ヲ
述ベテ決定セザリシ由尚「オルストン」ノ意見ニテハ「ホ
ルワット」ノ聯合政府ノ一員タルヤ否ハ別トシテ哈爾濱ニ
歸リ專ラ黑龍江東清鐵道ノ長官トシテ鐵道ヲ確實ニ管理經
營スルコトニ全力ヲ尽ス方聯合軍側ノ為利益ナリト思考ス
ル旨語レリ本官ハ当方面ハ素ヨリ哈爾濱方面ノ狀況モ篤ト
視察ノ後妥協問題ニ努力セント思考シタルモ右ノ如ク英仏
外交官ニ於テ極力調停ノ衝ニ當リタルヲ以テ直ニ彼等ト歩
調ヲ共ニシ妥協進捗ヲ図ルコト得策ト認メタルニ付今明日

中「ホルワット」「デルベル」等ニ面会ノ上極力現在ノ交
渉ヲ進捗セシムル積ナリ尚「マルテル」ハ今後兩政府代表
委員ノ会合ニ徒ニ無益ノ日子ヲ費スコトヲ避クル為我々三
人会議ニ出席シテ進捗ヲ図ル方然ルヘキ旨申述ヘタルガ本
官ハ今少シ狀況ヲ見ルコト必要ト考ヘ明答ヲ避ケタリ
哈爾濱ヘ転電セリ

三八一 八月二十一日

在浦潮菊池總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

「ホルワット」「デルベル」両政權ノ妥協問

題ニ関シ「ホ」將軍ヲ説得ニ努メタル件

第四九六号

(八月二十二日接受)

松平政務部長ヨリ

第四号

八月二十日「ホルワット」ニ会见時局ニ関シ意見ノ交換ヲ
為シタルガ「ホルワット」ハ主義ノ異ナル兩政府ヲ一団ト
スルモ施政上直ニ衝突シテ何等実行出来ザルベキニ付聯合
國ハ此際孰レカ一方ノ政府ヲ援助スルニ如カズ若シ「デル
ベル」政府ヲ援助セラルルニ於テハ自分ハ直ニ手ヲ引クヘ
シトテ暗ニ自己ノ政府ヲ支持セムコトヲ希望スルノ意向ヲ

示シタルニ付本官ハ露國ノ現状ニ顧ミ此際帝國政府ハ「ホルワット」政府ノミヲ援助シ西比利亞政府ヲ打破スルコトハ為シ能ハザルベク同時ニ「ホ」政府ヲ度外視シテ西比利亞政府ノミヲ援助スルコトモナカルヘキニ付此際一日モ早ク兩政府互ニ讓歩シテ聯合機關ヲ組織スル方聯合國側ニ於テ諸般ノ援助ヲ与フル上ニ於テ最モ好都合ナルヘキ旨ヲ力説シタル処「ホ」將軍ハ西比利亞政府ノ毫無信賴スルニ足ラザルコト自己ノ主義ノ健実ナルコト等ヲ説キ頻リニ米國ノ野心ヲ指摘シ日本ノ実力ニ信賴スルノ外ナキ旨ヲ語り只管「ホ」政府ニ対シ援助ヲ希望スル如ク見エタルニ付本官ハ「ホ」將軍ガ從來日本ニ対スル好感及同將軍ニ対シ幾多日本人ノ同情アルコトハ十分了知シ居リ本官ニ於テモ亦個人トシテ十分ノ同情ヲ有シ居ルモ日本國家ノ政策トシテハ露國現下ノ趨勢ヲ無視シテ「ホ」將軍ノミヲ援助シ他ヲ排斥スルカ如キコトハ目下ノ処到底期待シ得サル旨ヲ反覆説述シ此際各団体妥協シテ先ツ一時的ノ統治機關ヲ設ケ以テ聯合國ノ協同援助ニ便ナラシメ速ニ独塊ノ勢力ヲ驅逐シ秩序ヲ恢復シ然ル後國民ノ意向ニ從ヒ貴將軍ニ於テ「デクテーター」トナルトモ又ハ他ノ組織ニ改ムルモ必ズシモ遅カ

ルトモ自分ハ事實上ノ鐵道長官トシテ斷ジテ之ヲ容認セザルヘシト云ヒ同時ニ米國側ハ目下西比利亞政府ニ運動シ当地ニ資本金一千萬留(弗ノ考違ヒナランカ)ノ一米國銀行ヲ設立シ(ナシヨナル、バンク、オブ、アメリカト称シ居レルモ此ノ名ハ確實ナラズ)鐵道、鉦山其他一切ノ仕事ヲ引受ケント計畫シ居ル旨ヲ述ヘタルガ右ニ就テハ尚精査中ナリ

在哈爾濱總領事ヘ電報セリ

三八二 八月二十三日

在浦潮菊池總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

シベリア政府及ホルワット政權間ノ妥協方ニ
関シ「ラウロフ」等ト会見ノ件

第四九九号

(八月二十四日接受)

松平政務部長ヨリ

第七号

本官八月二十二日西比利亞政府首相「ラヴロフ」及外相「デルベル」ニ会見先ツ「ホルワット」ニ対シ為シタルト略同様ノ挨拶ヲ為シタル後兩政府間ノ政争ニ対シテハ帝國政府ハ不偏不党ノ態度ヲ持スルニ依リ此際些末ノ争点ニ拘泥

ラザルヘキヲ繰返シ説得ニ努メタルニ「ホ」將軍ハ当初ヨリ自分モ妥協ノ意思ヲ有セザルニアラザルモ何分西比利亞政府ニ誠意ナキ為今日迄數回ノ会合ヲ重ネタルニ拘ラズ何等進捗ヲ見ズシテ行詰リ居ル次等ヲ述ベ此際日本政府ノ忠告ナキニ於テハ自分ハ斷然西比利亞政府側トノ談判ハ打切り帰西スル積ナリト述ヘタルニ対シ本官ハ尚「デルベル」一派トモ親シク会谈ノ上更ニ会見スヘキヲ約シ置キタリ又「ホ」將軍ハ英仏外交官等ハ三頭政治ヲ主張セントスル噂アルヲ述ヘタルニ付(オルストン、マルテルノ語ル所ニ依レハホルワット、ラヴロフノ外中立的ノ一員ヲ以テ組織セントノ案ナリ)之ニ対スル「ホ」將軍ノ意向ヲ尋ネタルニ一面其ノ困難ヲ繰返スト同時ニ他面万已ムヲ得ザル場合ニハ考慮セントノ態度ヲ示シタリ尚「ホルワット」ハ「スチーヴンス」一行ノ鐵道管理ニ関シ自分ニ於テハ今日迄何等特權ヲ与ヘタルコトナク「スチーヴンス」ハ現ニ浦潮、哈爾濱、大連等ヲ往復シ何等画策シ居ル模様ナルガ同人ノ部下「エマーソン」ナル者目下「オログダ」ニ在ッテ過激派政府ニ運動シ管理權ヲ得ントシツツアルモ未ダ目的ヲ達シタリトノコトヲ聞カズ万一同政府ニ於テ何等權能ヲ与フ

スルヲ止メ露國民ノ為メ速ニ妥協シテ連立内閣ヲ作り以テ連合國側ノ援助供与ニ便スルヲ刻下ノ急務ト認ムル旨及此点ニ関シテ英仏同僚モ本官ト同意見ニシテ本官ハ之ト同様ノ勧告ヲ「ホルワット」ニモ与ヘタル旨ヲ告ケタルニ「ラヴロフ」及「デルベル」ハ西比利亞政府カ「ウラル」以東全西比利亞ニ於ケル唯一ノ政府ナリトテ各種ノ証拠書類ヲ示シ終ニ「ホルワット」攻撃ヲ始メタルニ依リ本官ハ今日何レカ是ナルヤヲ論定スルノ立場ニ居ラザル旨ヲ指摘シテ相互互讓ノ要ヲ説キ尚兩政府間交渉ノ模様及將來ノ見込等ヲ聞キタルニ彼等ハ祖国救済ノ為既ニ出来得ル限りノ讓歩ヲナシ軍隊改造及「ブレスト」講和条約否認ノ件等ハ双方ノ意見一致ヲ見タルモ政見及ヒ政綱問題ニハ未ダ触ルルニ至ラザルガ將來ノ政府組織ニ関シテハ國民ノ目シテ帝政派トナセル「ホルワット」ノ入閣ハ絶対的ニ之ヲ許サズ自分側ノ考ニテハ我現内閣ノ内ヨリ小内閣(陸相、内外相、蔵相等重要閣員ノミ)ヲ作り此内ニ「ホルワット」側三名我政府側三名ヲ出スノ外ハ現首相「ラヴロフ」氏ヲ首相トスル条件ナラバ交渉或ハ纏ランモ之以上ノ讓歩ハ斷シテ不能ナリト述ヘタリ依テ本官ハ目下ノ形勢上斯ノ如キ条件ニ

テハ双方ノ妥協到底覺束ナカルヘシ自分ハ此際或一方ガ余ニ自己ノ主張ヲ固持スルガ為メ妥協ヲ見ルニ至ラザルガ如キコトアランニハ該政府ハ自然連合國側ノ同情ヲ失フニ至ラザルヤヲ恐ルル旨ヲ述ヘ更ニ会见ヲ約シテ引取りタリ
在哈爾賓總領事ヘ電報セリ

三八三 八月二十三日

在浦潮菊池總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

「ホルワット」「デルベル」兩政權ノ妥協會
議ノ模様ニ関スル「ゲイマン」ノ報告聴取ノ

件

第五〇一號

(八月二十四日接受)

松平政務部長ヨリ

第九號

八月二十三日英仏外交官ト共ニ「ゲイマン」ノ報告ヲ聞キタル所「ゲイマン」ハ昨夜ノ會議ニ農業問題及商港管理問題ニ付テ意見一致シ尚ホ昨日ノ御注意モアリタルニ付可成速ニ談判ヲ進ムル為メ今後ハ毎夕開會スルコトニ決シ先ツ数多ノ小問題ヲ片ツケ政權組織ニ関スル大問題ハ最後ニ論議スルコトニ決シタルモ昨夜ノ模様ニテハ双方余程妥協ノ

意嚮ヲ示シ来リタルニ付小問題ハ著々片附クヘキニ付右最後ノ問題ニ著手シ得ルモ遠カラザルベシト云ヘリ仍テ日英仏三外交官ハ満足ノ意ヲ表シ暫ク成行ヲ見ルコトトセリ尚ホ英仏外交官ハ過去三週間全ク協力シテ調停ヲ試ミ居リタルガ米國領事トハ意見ノ交換ヲ為シタルコトナキ由申居リタルニ付本官ハ二十一日米國領事ニ會合ノ際妥協ニ関スル意嚮ヲ問ヒタルニ米國側ニ於テモ此際兩政府ノ妥協ヲ切ニ希望スルモ自己ノ考ニテハ到底實現不可能ナリト信スト語レリ

在哈爾賓總領事ヘ電報セリ

註 「ゲイマン」ハ西比利亞政府首相「ラヴロフ」ノ秘書官ナリ

三八四 八月二十四日

後藤外務大臣
アルカヂー、ペトロフ氏 會談

西比利亞援助等ニ関スル件

在浦潮西比利政府前外務大臣「アルカヂー、ペトロフ」氏ト後藤外務大臣トノ会见録

八月二十四日午前十一時「ペトロフ」氏ハ別紙菊池總領事ノ紹介狀持參外務大臣ニ面會シ會談要領左ノ如シ
「ペトロフ」氏曰ク 劈頭大臣ニ感謝スヘキハ閣下ガ本日

御引見下サレタルコトナリ余カ閣下ニ御面會ヲ求メタル次第ハ西比利議會選出議員竝ニ西比利産業組合中央連合會代表者ノ資格ヲ以テ貴國ノ軍隊派遣宣言ニ於テ聲明アル如ク旧来ノ隣誼ヲ重シ我國ニ出兵シ援助セラルルコトニ関シ深甚ノ感謝ヲ表スル為メナリ

大臣曰ク 貴下ノ本邦渡来ニ関シテハ菊池總領事ヨリ電報アリタルノミナラズ尚ホ新聞紙ニ依リ承知セル所ナリシカ本日御面會ノ機會ヲ得タルヲ大ニ喜ブ

「ペ」氏曰ク 我西比利政府ナルモノハ西比利ノ議會ニ選出セラレタル議員ヨリ成立セルモノナレバ今後貴國政府カ我國トノ關係ニ於テ何等必要アラバ我政府承認問題ハ姑ラク措キ事実上同政府ニ御交渉ヲ願ヒタシ

大臣曰ク 西比利政府ノ承認問題ハ國際間ノ關係アリテ事困難複雑ニ亘ルヲ以テ本件ハ別問題トシテ西比利軍隊派遣其他ニ関シ必要生ゼバ貴政府トモ交際スル所アルヘシ

「ペ」氏曰ク 現時我國ニハ各所ニ夥多ノ政府アリ然レトモ我政府ハ西比利ノ「オムスク」ニ於ケル西比利政府ノ一部ニシテ民衆ノ声ニ依リ成立シタルモノナレハ哈爾賓其他ノ政府トハ差違アリ此点ハ御區別アリタシ

大臣曰ク 我軍隊派遣ノ趣旨ハ宣言ニ明カナルカ貴國ニ援助スルニ就テハ我軍隊ノ進ムニ從ヒ其地方ニ權威アル政府又ハ団体ニ交渉シ宣言ノ目的達成ヲ圖ラント欲ス
「ペ」氏曰ク 此頃貴大臣ノ御監督ノ下ニ西比利經濟援助委員會ナルモノ御設立アリテ我同胞ニ對シ經濟的御援助相成趣ナルカ之ニ對シ深ク感謝ノ意ヲ表スル次第ナリ就テハ貴國政府カ尚ホ此目的ノ達成ニ對シテモ我西比利政府ニ御交渉アランコトヲ希望ス

大臣曰ク 軍隊派遣ハ宣言ノ如ク貴國ノ内政ニ断シテ干涉セズ而シテ今回ノ經濟援助委員會設立ニ関シテモ我政府ハ貴國現下物資欠乏ノ窮狀ニ同情スル所アリテ經濟的援助ヲ為シ以テ貴國ノ秩序恢復ヲ圖ル考ナレハ相互ニ相助ケ此目的ヲ達成セン

「ペ」氏曰ク 貴大臣ハ善ク我國ノ現状ヲ御諒知アリテ此經濟的援助ヲ与ヘラルルニ至レルハ感謝スルニ辞ナシ併シ我西比利政府ハ国内ニ秩序ヲ恢復シタルノミヲ以テ足レリトセズ進ンテ独塊ニ對シ更ニ露國人民間ニ動員ヲ行ヒ飽迄モ彼等ト戰ハン考ナリ就テハ是モ併テ貴國ニ援助ヲ仰度ニ付御考量ヲ希望ス

大臣曰ク 連合国力共同ノ敵ニ対スルコトハ申ス迄モナキ
ガ我帝國政府ハ先ツ以テ貴國ノ秩序ヲ恢復シ然ル後進シ
テ一般ノ目的貫徹ニ及ホス考ナリ

「ペ」氏曰ク 物資問題ニ関シ本日正午目賀田男ニ面会ス
ル筈ナリ今回貴國ニ渡来スルニ就テハ「トムスク」大学
ニ於テ學者社会ニ於テ諸般ノ事情ヲ調査スル為メ蒐集セ
ル西伯利關係書類ヲ携帯シタレハ之ヲ同男ニ提供スル所
存ナリ就テハ貴大臣ニ於テモ西伯利人民ノ声ニ御耳ヲ貸
サレンコトヲ希望ス

大臣曰ク 自分ハ日露協會ノ副會長タレハ個人トシテモ貴
國ニ同情シ居レリ又目賀田男ハ其會員トシテ世話シ来リ
タルガ今回同男ハ西伯利經濟援助委員會々々長ニ選任セラ
レタレハ何卒委曲同男ニ御話シ置キアリタシ

「ペ」氏曰ク 御暇ヲ為スニ当リ茲ニ重テ御引見下サレタ
ルヲ謝ス尚ホ大臣ニ御願ヒ致シ置クコトハ物資購入上ノ
為暫ク滯京ノ見込ナレハ必要生ズレバ再ヒ御引見願出ヅ
ヘキニ付予メ此義ヲ願ヒ置ク次第ナリ

大臣曰ク 承知セリ御用アレハ重ネテ御面会スヘシ

(別紙)

拝啓陳者日本ノ「デルベル」政府ニ対スル態度ハ「ホルワ
ット」政府側ニ於テ常ニ猜疑ノ眼ヲ以テ注視シ居ル模様ニ
有之過般貴地領事團ノ対税關長抗議ニ関シテモ之ヲ以テ内
政干涉ナリト認メ「クルペンスキ」氏ヨリ幣原次官ニ対
シ多少不平々間敷語氣ヲ洩シタル趣ニ有之殊ニ最近「ホル
ワット」關係者ノ一人ヨリ私信トシテ「クルペンスキ」
ノ同次官ニ内示セル所ニ依レバ彼等ハ今ヤ日本人ノ外ニ信
頼スヘキモノナキヲ認メ「日本人ハ我等ノ親友ナリ但シ菊
池總領事ハ別ナリ」云々ト申来レル由就テハ当方ニ於テハ
貴官ノ執レル措置ヲ充分了解シ居ルモ御承知ノ通現下ニ於
ケル「ホルワット」政府及「デルベル」政府ニ対スル帝國
ノ態度ハ不即不離極メテ微妙ニ行動シ他日ノ地歩ヲ束縛セ
ラレザル様進退スルヲ可トスルモノ有之候ニ付貴官ハ殊ニ
此点ニ留意シ此際一方ニ偏シ他方ノ誤解ヲ招ク様ノコト無
之様御措置相成度此段得貴意候 敬具

三八六 八月二十五日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

「ホ」將軍及西比利亞政權間妥協問題ニ関シ
「ホ」將軍ニ有利ニ解決セラルル様稟申ノ件

一四 反過激派關係雜件 三八六

菊池總領事ノ紹介状

拜啓益々御清穆奉慶賀候陳者本書所持人「アルカディ、ペ
トロフ」氏ハ最近迄当地ニ於テ西伯利政府ト称スル団体ノ
外務大臣タリシトコロ今般西伯利議會議員及西伯利産業組
合中央聯合會代表者ノ資格ヲ以テ本邦へ渡航シ本邦官民ニ
対シ親シク西伯利政府ノ綱領ヲ説明シ旁前記聯合會ノ為メ
商品仕入ヲ行ヒタキ趣ヲ以テ申出ノ次第有之候間本人出頭
ノ際ハ御引見ノ上其陳述ヲ御聴取相成尚商品仕入ニ関シ便
宜供与方可然御取計相成候様致度此段御紹介旁得貴意候

敬具

大正七年八月十六日

在浦潮

菊池總領事

男爵後藤外務大臣殿

三八五 八月二十四日

小幡政務局長ヨリ
在浦潮菊池總領事宛

「デルベル」及「ホ」將軍兩政權ニ対スル我
方ノ態度ニ関スル件

(私信)

第四六七号

(八月二十六日接受)

「ホルワット」政府及西比利亞政府間妥協問題ノ成行ニ関
シテハ松平政務部長発閣下宛電報第九号迄逐次同部長ヨリ
転電ニヨリ承知シタル所米國ハ既ニ連合國司令官ニ対シ公
然烏蘇里鐵道及東支鐵道ノ管理ヲ申出デタルノミナラズ当
地ニ達シタル情報ニ依レバ在浦潮英國領事ハ「トルスト
フ」軍隊ニ手ヲ入レ同軍將校ノ大部分ハ「ホルワット」ニ
同情ヲ有スルニ不拘之ヲ自己ノ勢力ノ下ニ置キ以テ「ホル
ワット」ヲ孤立セシメントスルモノノ如ク又「トルスト
フ」軍隊ヲ認メ乍ラ「ホルワット」自身ノ組織シタル謂ハ
ユル滿洲軍ヲ認メザルノミナラズ甚シキハ「ホルワット」
ノ護衛兵ノ武装ヲ解除セントシタルガ如キハ明カニ「ホル
ワット」ノ勢力ヲ減殺セントスル意向ニ出ヅルモノニシテ
内政不干渉ノ言質ニ遠カルコト甚タシ此外米國モ亦鐵道管
理問題ノ外種々ノ暗中飛躍ヲ試ミ居ル事察スルニ難カラズ
如斯場合ニ当リ我ノミ不偏不党ヲ標榜シ正直ニ之ヲ守ラン
トスルハ策ノ得タルモノニアラズト思考セラレ主義トシテ
ハ不偏不党ヲ標榜スル事必要ナルヘキモ裏面ニ於テハ適當
ノ手段ヲ以テ「ホルワット」ニ財政上其他精神上ノ援助ヲ

与へて同人ノ忍耐力ヲ強カラシメ彼ヲシテ終極ノ勝利ヲ得セシムル事最モ肝要ト存ゼラル蓋シ此際「ホルワット」ニシテ失脚スル如キコトアラニハ無論再ヒ東支鐵道長官タルヲ肯ゼザルベク從テ東支鐵道ハ中心人物ヲ失ヒ上下動揺シ益々米國ヲシテ勢力扶植ニ便ナラシムルニ反シ日本ハ十數年來殊ニ最近ニ於テ銳意扶植シタル勢力ヲ全然失墜スルニ至ルヘク事茲ニ至ラバ我对北滿經營ハ取返シ付カザル打撃ヲ受クルコトトナルヘシ「ホルワット」ガ十三年間東支鐵道長官トシテ贏得タル勢力ハ侮ルベカラザルモノアリ而シテ帝國ノ北滿ニ對スル勢力發展モ亦同將軍ヲ通シテナサレツツアル事實ハ決シテ忘却スヘカラザル処ナリ況ヤ同人ハ近時ニ至リ極端ニ米國ヲ嫌ヒツツアル事實ハ益々我ヲ有利ナル地位ニ置カントス此故ニ西比利政府トノ妥協ノ形式如何ニ拘ハラズ即チ三頭政治ナルト否トヲ問ハズ、兎ニ角「ホルワット」ヲシテ連立政府ノ首腦タラシメ漸次他ノ異分子ヲ排斥セシムルコト最モ必要ナリ尤モ「ホルワット」ノ政綱モ他日西比利憲法議會ヲ召集シ政体ヲ設定スルニアリテ其場ニ至リ統治者トシテ選出セラレザルニ於テハ無論掛冠ノ外ナカルヘキモ此場合ニアリテハ同人ノ面目モ

立ツノミナラズ議會召集迄ニハ長日月ヲ要スル義ニ付其間ニハ我勢力ノ根底モ確立セラルルニ至ルベシト考ヘラル依テ軍事行動上最大ノ勢力ヲ占メ得ベキ我地位ヲ利用シ「ホルワット」ノ為メ有利ニ妥協問題ヲ解決セラルル様御配慮方切望ニ耐ヘズ

松平及北京へ転電セリ（長春報由二十八日前一二、〇〇）

三八七 八月三十日

在浦潮菊池總領事ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

「プレシコフ」武装解除問題、「ホルワット」

「デルベル」妥協問題ノ其後ノ成行ニ関シ報

告ノ件

第五一四号

（八月三十一日接受）

松平政務部長ヨリ

第一六号

過去數日間当地ノ政況變転ヲ重ネ極メテ錯綜セシニ付大要左ニ報告ス

「ホルワット」政府及西比利亞政府ハ一面妥協交渉ヲ進メ居リタルニ拘ハラズ他面双方トモ極力自己ノ地歩ヲ固メン

ナリ聯合軍ニ於テハ領事団ノ依頼ニ基キ二十五日夜武装解除ヲ断行セシ処西比利亞政府側等勞働者階級ハ概シテ公平ナル措置トシテ悦ビタルニ反シ「ホルワット」側有産階級ノ人民ハ反對ノ態度ヲ現ハシ或ハ公開狀ヲ印刷シテ配布シ或ハ各種団体ヨリ領事団ニ對シ抗議ヲ申出ヅル等有ユル方法ヲ以テ該処置ヲ非難シ居レルガ二十七日「ホルワット」將軍ハ本官ヲ來訪シ「プレシコフ」事件ガ全ク政事上ノ意味ヲ有セザル次第ヲ詳細ニ弁明シ武装解除ノ不名誉ヲ訴ヘ該処置ヲ以テ内政干渉ト思考スル旨ヲ述べタルニ付本官ハ特ニ承認セラレタルモノノ外一般ニ武装ヲ許ルサザル從來ノ規約ヲ聯合國側ニテ誠実ニ実行シタルノミニテ内政干渉ニナラザル所以ヲ説明シ領事団及代表武官會議ノ結果ノ正当ナルヲ説キ同將軍ハ之ヲ諒トシタルモ其ノ後「ホルワット」側ハ本件ガ英國側殊ニ「ダンロップ」少佐（舍營司令官）ノ主張ニ基キタルモノトナシ英國ニ對シ頗ル反感ヲ起シタル為英國官憲ハ狼狽ノ色ヲ現ハシ兩三日「イリオット」本官ヲ來訪セシ際モ右反感ニ對シ大ニ懸念シ居リ武装解除ヲ受ケタルモノニ對シ何等善後策アラバ欣ンデ協議ニ応ズヘキ旨ヲ述べ英國領事ノ如キモ本件ニ関シ最初ハ強硬

ノ態度ヲ採リタルニ拘ハラズ二十八日領事會議ニ於テハ極力緩和ヲ主張セシノミナラズ「ダンロップ」少佐ハ從來「トルストフ」ヲ極端ニ支持セル形跡アリシニ拘ハラズ英國官憲ハ昨今「トルストフ」ヲ罷免セザルベカラザル旨ヲ主張シ居リ英仏ノ如キハ領事団會議ニ於テ後任者ノ問題ヲ提議シ「コルチャク」以下五名ノ候補者ヲ挙げタルモ同會議ニ於テハ權限外トシテ討議ニ附セザリシ由ナリ若シ仮ニ武装解除ヲ実行セザリシナラバ、ヨリ以上ノ反感ト反對運動ヲ他方面ニ惹起シ時局ヲ困難ナラシムルニ至リシナラント思ハル故ニ聯合側ハ右ニ對シ余リニ固執的態度ヲ示サズ只相當ノ方法ヲ以テ解除武官ヲ戰場ニ使用セバ反對運動モ自然ニ消滅スルモノト思ハル、妥協問題ニ関シテハ二十八日「ラヴロフ」「デルベル」本官來訪ノ際西比利亞政府ハ「ホルワット」ニ於テ「プレシコフ」事件ガ全ク政事上ノ意味ヲ有セザルモノナルコトヲ公ケニ声明スルニ於テハ談判ヲ続行スルモ差支ナキ旨ヲ述べ居リ「ホルワット」側ハ二十九日將軍ノ代理トシテ秘書長「クレム」來訪將軍ニ於テハ談判ヲ続行スル意思アル旨ヲ述べタルニ付「ラヴロフ」側ノ主張ヲ申聞カセタルニ右ハ六ヶ敷キコトニアラズ

ト思考スルモ一応將軍ニ相談ノ上返答スヘキ旨申居リタリ
右ノ如ク双方表面上ニ於テハ妥協ノ意思アルニ付右回答ノ
結果更ニ英仏代表者ト協議ノ上談判ヲ再開セシムル積、尤
「クレム」ノ話ニ依レハ「ホルワット」側ニテハ兩政府ヨ
リ同數ノ閣員ヲ出シ其ノ上ニ「ホルワット」將軍ヲ置クコ
トヲ希望シ然ル上ハデクテーターノ名ヲ撤シ如何ナル名称
ヲ用フルモ差支ナキ旨申居リタリ右ノ如ク政權組織ノ問題
ニ関シテハ兩者ノ間ニ衝突ヲ起シ妥協成立ハ容易ナラザル
ヘキモ談判ノ再開ハ最近ニ於テ現ハルヘキ望アリ

三八八 八月三十一日 在浦潮菊池總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

「カルムイコフ」援助問題ニ関シ意見具申ノ
件

第五一六号 (八月三十一日接受)

松平政務部長發第一八号

參謀總長ヨリ「カルムイコフ」支隊ヲ支持擴張シテ全烏蘇
里哥薩克ノ自由独立ヲ計ラシムルコト此際有利ナリト考フ
ルニ付実情調査ノ上本官ノ具體的意見ヲ徵スル様軍參謀長
ヨリ電報アリ依テ卑見左ノ通具申シ置キタリ

ノ件

第五四〇号 (九月七日接受)

松平ヨリ 第三〇号

(在哈爾濱總領事ヘ電報セリ)

往電第二八号ニ関シ九月六日「デルベル」ニ会见シ出発ノ
事實及当地西比利亞政府ノ妥協問題ニ對スル態度如何ヲ確
カメタル処彼ハ出発ハ事實ニシテ当地閣員ノ内商工大臣陸
海軍大臣ハ既ニ出発シ自分ハ九月七日農相及民族事務大臣
ト共ニ「チタ」ニ同行同所ニ於テ「オムスク」「トムスク」
「ト電話等ニテ交渉シ事ノ真相ヲ確ムルト同時ニ確實ナル
政府ヲ組織スルニ努力スヘク多分一週間位ニテ一旦当地ニ
引返スヘキモ本来西比利亞政府ノ所在地ハ「トムスク」ヨ
以テ至当ト思考セラルルニ付早晚当地ノ閣員ハ西部ニ引揚
クル積ナリ愈々政府樹立ノ上ハ連合國ト事務上ノ交渉ヲ開
始スルニ至ラバ經濟上竝軍事上重要ノ關係ヲ有スル当地ニ
ハ「コムミサリ」ヲ置キ度キ考ナリ「ホルワット」トノ妥
協問題ニ関シ明日文書ニテ日英仏代表者ニ回答スヘキモ西
比利亞政府ニ於テハ依然合同ヲ必要ト認メラルルモ西部西
比利亞トノ連絡俄ニ復旧シ形勢一變ノ今日浦港ノ如キ一小

援助ノ意味カ彼等ニ武器被服ヲ与ヘ「カルミコフ」ノ下ニ
立チテ烏蘇里地方ノ敵ト戦ハシムルニアルニ於テハ差支ナ
シト思考スルニ付至急実行然ルヘク若シ此際該部族全般ニ
亘リ援助ヲ与ヘ政治上ノ意味ニ於テ獨立セシムル意ナレハ
目下ノ狀態ニ照シ機未タ熟セズト思考ス何トナレハ目下「
ホルワット」政府ト西比利亞政府トノ間ニ於ケル妥協交渉
ハ其實中止ノ姿ナレド數日内ニ再ヒ開始セラルルヤモ知レ
ズ全然談判破裂セルニアラザルヲ以テ此際又々異リタル団
体起ル時ハ更ニ統一問題ヲ困難ナラシムルノミナラズ日本
政府カ表面不偏ノ態度ヲ執リ居ルモ裏面ニ於テハ「ホルワ
ット」政府ヲ援助セン為同政府ト關係アル烏蘇里哥薩克ヲ
獨立セシメタリトノ非難ヲ露人及外國人間ニ惹起スルノ虞
アレバナリ故ニ前記ノ如ク此際不取敢「カルミコフ」ノ戰
闘員ヲ増加セシムル目的ヲ以テ武器被服ヲ与ヘ部族ノ獨立
ハ暫ク時機ヲ待ツ方可然ト思考ス

三八九 九月六日 在浦潮菊池總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

シベリア政府ト「ホルワット」政權ノ妥協交
渉ハ一時中止シ度キ旨「デルベル」談話報告

部分ニ於テ妥協ヲ議スルヨリ寧ロ全西比利亞ニ對スル合同
ヲ期スル為西部ニ於テ妥協ヲ謀ルコト便宜ナルヘク現ニ「
オムスク」政府ニ於テハ非社会党側ノ有力家ヲ入閣セシム
ル処置ヲ執リ居ル筈ナリ從ツテ当地ニ於ケル交渉ハ目下ノ
処一先ツ中止シタキ旨申述タリ

三九〇 九月十日 後藤外務大臣 會談
在本邦露國大使

露國援助ノ財団組織問題其他ニ關スル件

後藤外務大臣ト露國大使「クルペンスキ」氏トノ会见録

一、露國援助財団組織ノ件

一、在「オムスク」西比利亞政府ニ關スル件

一、日本軍票不評判ノ件

一、浦港在庫軍需品整理ニ關スル件

午後三時大使ノ申込ニヨリ面會、大使ヨリ先般來幣原次官
ニ數次御話シ致シタルガ他日露國ニ正規ノ政府樹立セラル
ルノ曉先ツ第一ニ要スルモノハ外國ノ財政的援助ナルニ付
之カ為各國共同ニテ一ツノ財団組織ノコト今日ヨリ御研究
アラムコトヲ希望ス、現時露國ノ混沌タル政情ニアリテ各
政派個々ニ外國ニ借款ヲ求ムルカ如キコトアラハ其ノ間競
争ヲ惹起シ紛糾ヲ來スヘキハ言フヲ俟タス現ニ閣下モ先

般御面会ニナリタル「デルベル」一派ニ關係アル「マルカ
ヂー・ペトロフ」ノ如キハ日本ニ於テ一億万円ノ借款ヲ得
ル見込アリト吹聴シ若シ日本資本家ニシテ応諾セサレハ去
リテ米國ニ需ムルノミト傲語シ居レリト語リタルニ對シ大
臣ハ一億万円借款說ノ如キハ素ヨリ信スルニ足ラス但シ西
比利亞ニアル數多ノ政府又ハ各地ノ自治体、「ゼムストヲ
」等ハ今後財政上ノ援助ヲ外國ニ求ムルコトアルヘク此ノ
点ニ関シ貴說ハ至極御尤モニシテ我政府ニ於テモ深く留意
シ現ニ考量中ノ次第アリ追テ關係各國ニモ提案シタキ考ナ
リト答ヘラレタル処大使ハ大ニ満足シ感謝ノ意ヲ表シ実ハ
此ノコトニ付テハ先般來在本邦各國大使ニモ話シタルカ米
國大使ノ如キハ單ニ本使ノ所述ヲ肯定スルノミニテ何人モ
進ンテ其ノ実行ニ當ラムトスル者ナシ英國大使ハ此ノ事ニ
関シ本國政府ニ申送リタリトノコトナルカ是レ恐ラク本件
ヲ本國政府ニ知照シタル唯一ノ大使ナルヘシト附言シタ
リ

次テ露國大使ハ大臣ハ唯今西比利ニ於ケル數多ノ政府ニ関
シ言及セラレタル処自分カ最近ニ得タル報道ニ拠レハ在「
オムスク」政府ナルモノハ相當信頼スヘキモノナルカ如シ

及鮮銀紙幣ニ代フルニ何等カノ方法ヲ講セラレタキ希望ナ
ル処米國ノ提案ナリト承知セルカ各國共同シテ浦潮ニ一ツ
ノ銀行様ノモノヲ設ケ五、十、二十哥等小額ノ露貨紙幣（
露國大使ハ *Cupon* ナル語ヲ用ヒタリ）ヲ發行シ之カ引換
ノ為右銀行ハ相當額ノ留ヲ準備シ置クコトトセハ如何自分
ハ此ノ案ヲ以テ最モ可ナルヘシト思考セルカ一応御考究ヲ
請フト述ヘタリ依テ大臣ハ日本ノ軍票ハ軍ニ附隨セル日本
商人ヲモ目的トセルモノナルカ兎ニ角御申出ノ次第ハ考究
スヘシト答ヘラレタリ

終リニ大使ヨリ一ツノ覚書ヲ提出シ浦港在庫軍需品（兵器
彈藥ノ外各種材料ヲ含ム）ノ整理方大谷司令官ニ訓令方依
賴シ右等ノ物品ノ混乱狀態ニ付説明スル所アリタルカ大臣
ハ右ハ日本側ニ於テモ同感ナルヘキモ何分各般ノ事務多端
ノ際未タ此ノ整理迄行キ届カサル次第ナルヘシ御申出ノ趣
ハ篤ト考究シ置クヘシト答ヘラレタリ

三九一 九月十六日

在浦潮菊池總領事ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

「ホ」將軍渡辺ニ對シ「オムスク」政權ヲ批
判シ日本側ノ支持ヲ自己ニノミ与ヘラレ度キ

該政府ノ首相「コロゴツキー」(Vologodsky)ハ本月五日
「オムスク」ヲ發シ東行ノ途ニ就キ不日「ホルワット」將
軍ト会逅スヘシ外相「ゴロワチエフ」(Golovatcheff)モ
極東ニ來ラムトシツツアリ此等ノ人士ニ對シテハ日本側ニ
於テモ接觸セラレ其ノ果シテ如何ナル人物タルヤヲ研究セ
ラレムコトヲ希望スト述ヘタルニヨリ大臣ハ大使ハ「ポタ
ーニン」ナル人ヲ知り居ラルルヤト尋ネラレタルニ大使ハ
自身知己ノ關係ナキモ聞ク所ニテハ同氏ハ科学者ニシテ夙
ニ亜細亞諸地方ヲ旅行シ之ガ為著名トナリタル人ナリ同氏
ハ西比利政府ノ当初ニ於テ其ノ首領ニ挙げラレタルモ當時
ノ西比利政府ナルモノハ純社会党ヨリ成リシヲ以テ「ポ
氏ハ快トセス幾何モナクシテ辭任シタリ然ルニ現在ノ同政
府ハ斯カル社会主義的ノモノニアラズシテ中産階級其ノ他
ヲモ網羅セル穩健ノモノナルカ如シ此ノ点注意ヲ要スト答
ヘタリ

次テ大使ハ本件ニ付テモ既ニ幣原次官ニ御話シ致シ置キタ
ルカ浦潮地方ニ於テ現ニ日本軍ノ使用シ居ラルル軍票及
朝鮮銀行紙幣ハ露人間ニ頗ル不評ナリ殊ニ日本以外ノ各國
カ露貨ヲ以テ支払ヲナシ居ル際一層然リトス就テハ右軍票

旨談話ノ件

第五六四号

（九月十七日接受）

松平政務部長ヨリ

第四四号

「ホルワット」帰浦後「ガイダ」モ到着シ形勢ニ變化アル
ヤニ見受ラレタルニ付九月十四日渡辺ヲシテ「ホルワット
」ト会见セシメタルニ將軍ハ「オムスク」政府カ智識階級
ニ對シ誠意ヲ欠ケル所アルヨリ民間ニ於テ攻撃ノ声アリ同
政府ノ基礎未タ強固ナルモノニアラズ元來異分子ノ聯合政
治ハ「ケレンスキー」内閣ノ轍ヲ履ムモノナルベケレバ露
國ノ現状ヲ救フニハ一ニ執政官政治ヲ斷行スルニ在リト考
フ幸ヒ在東京我代表者ハ貴國当局カ我党ニ援助ヲ与ヘラル
ル意向ノ由ヲ報シ來レルアリ此際斷然我一方ノミヲ支持セ
ラレンコトヲ切望ス云々ト自論ヲ繰返シ居タルニ付之レニ
對シテハ例ニ依リ我朝野カ同將軍側ニ同情ヲ寄スルハ論ナ
キモ右援助ナルモノハ一党一派ニアラズシテ露國全体ニ對
スルモノナルベケレバ此際飽迄双方ノ妥協一致ヲ勧告スル
旨ヲ述ヘ置タリ右「ホルワット」ノ談話ハ或ハ別電第四五
号ト關聯セルモノカト思考セラルルニ付御參考迄

三九二 九月十八日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

オムスク政權ノ「ヴオロゴドスキー」首相

ト哈爾賓ニ於テ会谈シタル件

第五五八号

(九月十九日接受)

松平ヨリ左ノ通

九月十七日「オロゴドスキー」ハ交通大臣外務次官其他数名ノ隨行員ト共ニ哈爾賓著本官ハ直ニ会见セシガ其談話要領左ノ通

本官ノ「オムスク」政府ト「デルベル」政府トノ關係如何トノ問ニ対シテハ素ト多少ノ歴史の關係ナキニアラザリシモ今回自分等ガ「オムスク」ニ完全ナル臨時西比利亞政府ヲ組織シタル以上「デルベル」政府トハ何等關係ナク全然獨立ノモノナリトテ「デルベル」一派ガ從來異心同体ナリトノ主張ヲ否認シ又「ホルワット」トノ關係如何トノ質問ニ対シテハ自分等ノ勢力ガ自然「ホ」將軍ノ勢力範圍ニ喰入ルコトナリ今後多少ノ經緯ヲ起スヘキ虞アルベキハ予期スル所ナルモ自分等ニ於テハ元々同將軍ヲ全然除外スルノ意思ナシトテ判然ト言明スルヲ避ケタルモ暗ニ「ホ」

方面ヨリ面会人雲集シ会见ニ十分ノ時間ナカリシ為精細ノ点ニ亘リテ意見ノ交換ヲ為スコト能ハズ再会ヲ約シテ別レタルガ一行ハ当地ニ來ル迄ハ北京ニ赴クヘキヤ直ニ浦潮ニ赴クヘキヤ決定シ居ラザリシガ着後決シタル所ニ依レハ多分外務次官ノミ北京ニ赴キ他ハ十八日中ニ浦潮ニ向ケ出発シタキ考ナリト申居レリ

右会见ニ於テ觀察シタル所ニ依レハ「オロゴドスキー」一派ハ未ダ極東ニ於ケル政況ヲ十分承知シ居ラザルモノノ如ク自己ノ政府ヲ以テ当然列國ノ承認ヲ得ルモノト期待シ居リ「デルベル」一派ヲ眼中ニ置カズ「ホルワット」ニ対シテハ多少敬意ヲ有シ居ルモノノ如ク見受ケラル彼等カ浦潮ニ到リ「ホルワット」及「ラヴロフ」一派トモ会见シ列國代表者トモ篤ト意見ヲ交換シタル上ニアラザレハ彼等ノ意見モ確定セザルヘク且当方ニ於テモ今少シク彼等ノ態度ヲ突止ムルノ必要アルモ兎ニ角彼等ノ來リタルヲ幸ヒ此際西比利亞ニ於ケル勢力ノ統一ヲ実行セシムルコト必要ト思考セラルルニ付歸浦ノ上更ニ「オロゴドスキー」等トモ十分意見ノ交換ヲ行ヒ各派ノ統一ニ努力スル積ニ付此際本官ノ執ルヘキ方針ニ関シ特ニ心得ベキ点アラハ予メ御指示ヲ請

將軍ニハ或程度ノ位地ヲ与ヘテ其ノ顔ヲ立ツヘキ語氣ヲ漏シ尋テ今次東行ノ目的ヲ尋ネタルニ対シ同人ハ自分等ニ於テ全西比利亞一帯住民ノ輿望ヲ負ヒ漸ク完全ニ近キ政府ヲ組織シ勢力範圍ハ現下ノ処西比利亞ノミナルモ追テ南歐露ノ各政府トモ妥協スヘク目下「サマラ」政府ヨリモ合併ノ提議ヲ受ケ居リ略ホ成立シタルヲ以テ今回浦潮ニ出張シ篤ト極東ノ狀況ヲ觀察シ聯合國代表者ニ対シ自分等政府ノ内容ト政綱実情ヲ懇ヘ出來得ベクンバ現ニ自分等ニ於テ独塊軍ニ對抗スル為編成中ノ露國々民軍隊ニ不足セル武器彈藥等ノ供給援助ヲ聯合國就中日本ニ仰キタキ目的ヲ以テ來レルモノニシテ思掛ケナクモ旅行ノ途中ニテ貴國代表者ニ面晤シ得タルハ望外ノ幸ヒナリトテ非常ニ満足ノ意ヲ表シ居タリ又西比利亞鐵道ノ狀態ニ関シテハ既ニ修理成リ何等ノ故障ナク通シ居ルモ過激派ノ為機關車百三十五輛程拉シ去ラレタル結果交通上不便ヲ感シツツアリト云ヒ外務次官ハ聯合國軍隊ハ今後西部戰線迄進出スヘキヤト問ヒ之ヲ希望スル口吻ナリシカ本官ハ外交上軍事上ノ關係アリ帝國政府ハ目下ノ処西部戰線迄兵ヲ進ムル意思ナキモノト信スル旨ヲ答ヘタリ右一行到着ノ際ハ官民ヨリ盛ニ歡迎ヲ受ケ各

フ

本官ハ当地方ノ狀況視察ヲ了シ且右一行浦潮行ト決定セシヲ以テ本十八日当地發浦潮ニ向フ

浦潮ニ電セリ

三九三 九月十九日

後藤外務大臣
在本邦露國大使 会谈

在オムスク西比利政府ノ存在及同政府ニ対ス

ル軍需品等ノ援助問題ニ関スル件

後藤外務大臣ト露國大使「クルペンスキー」氏トノ会见
録

午後四時大使ノ希望ニヨリ面会、大使ヨリ在「オムスク」西比利政府外相「ゴロワチエフ」氏ヨリ來電アリタリトテ別紙日本文ノ覚書ヲ提出シ外務大臣ノ意見ヲ求メタリ大臣一読ノ後之ニ依レハ西比利政府ハ既ニ日本側ニ対シ軍需品等ノ援助ノコトヲ申出デ今回ハ其ノ援助ノ程度及性質ヲ明白ニ承知シ度シトノ希望ノ如ク見ユル処自分ニハ全ク初耳ナリ事情如何ト尋ネラレタル処大使ハ全然初メテ申出ヅル次第ナリ而シテ詳細ノコトハ西比利ニ於ケル貴我兩國軍憲ノ間ニ協議ヲ進ムル方好都合ナリト思考スト答ヘ尚一

オムスク」政府ノ穩健且信賴スヘキモノナルコト及「ペトロフ」ニ付テハ既ニ御注意シ置キタルガ今日ニ至リ彼カ何等ノ權能ヲ有セザルコト又明瞭ト成レリ「デルベル」政府ナルモノハ最早瓦解セリ云々ト述ヘタリ、依テ大臣ハ在「オムスク」西比利政府ナルモノニ関シテハ今般貴大使ノ仲介ニ依リ改メテ其ノ存在ヲ承知シタル次第ナルカ（九月十七日附露国大使ヨリ外務大臣宛第六七六号ヲ指ス）日本政府トシテハ該政府ヲ承認スルヤ否ヤノ問題ハ後日ニ譲リ目下ハ日本政府ハ該政府トノ間ニ交渉ヲ開始スルヤ否ヤノ問題ヲ攻究スヘキ立場ニ在リト思考ス而シテ本覚書記載ノ援助ニ関シテハ先ヅ如何ナル軍需品及幾何ノ数量カ入用ナルカヲ承知シタル上ニアラザレハ回答シ兼ヌル訳ナリト答ヘラレタル処大使ハ正式承認ノ問題ハ素ヨリ将来ノ問題ナリ目下在外露国代表者間ニ於テ「オムスク」政府ニ対スル意向互ニ電照中ナルガ未タ全部ハ之ヲ承知セザルモ大体ニ於テハ列国ニ於テ該政府ヲ事実上ノ政府（Gouvernement de facto）トシテ認メラレンコトヲ希望スルニ一致シ居リ而シテ同政府ハ自分等以外ニ別ニ代表者ヲ派遣セザルヘシト答ヘ次デ軍需品援助ノ件ニ関シテハ本覚書ハ一般的ニ日本

政府ガ援助ヲ与ヘラルルヤ否ヤノ意向ヲ確カメムトスルモノニシテ其ノ細目ニ亘リテハ前述ノ通り現地ニ於テ兩國官憲ノ間ニ商議セラルヘキ問題ナリ從テ數量品種等ハ其ノ際ニ至リ問題ト成ルヘキモノト思考スルモ御言葉ニ從ヒ早速西比利政府ニ電照スヘシト答ヘタリ

次ニ大臣ヨリ本覚書ニハ米國ノコトニモ言及シアル処本件ニ付米國政府ニモ照会セラレタルヤ否ヤヲ尋ネラレタル処大使ハ右ハ單ニ日米ノ宣言ニ言及セルニ止マリ本件援助ノコトハ米國ニ依頼セルコトナシト答ヘタリ

尚大臣ヨリ「オムスク」政府ト「ホルワット」將軍ノ關係如何ヲ尋ネラレタル処大使ハ自分ハ必ズ此ノ兩者間ニ妥協ノ望アルヲ確信ス蓋シ先般「ホルワット」將軍ト「デルベル」政府間ノ妥協方ニ付テハ浦港領事団ニ於テ全力ヲ尽サレタルモ遂ニ成效セザリシハ「デルベル」一派ハ不合理極マル人物タルカ故ナリ、反之「オムスク」政府ハ穩健者ナレバ「ホ」將軍トノ間ニ必ズ妥協ノ余地アリト信スル次第ナリト述ヘ尚「オムスク」政府外相「ゴロワチエフ」氏近々東京ヘ來ルトノ報ヲ得タルニ付其ノ節ハ日本当局ニ於テモ親シク面接セラレ其ノ如何ナル人物ナルヤヲ觀察セラレ

ムコトヲ希望スルト附言シタリ

右ニ対シ大臣ハ「ゴ」氏來朝ノコトハ有益ナル結果ヲ齎ラスヘシト思考スト答ヘラレ結論トシテ（今回貴大使ノ仲介ニヨリ「オムスク」政府ノ存在ヲ承知シタルニ付日本政府ハ茲ニ該政府ト交渉ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ考究セムトス（二）次ニ軍需品等ノ援助ニ関シテモ考究ヲ遂クヘシ而シテ若シ応諾スルコトトナラバ細目ニ関シテハ出先軍憲ニ於テ「オムスク」政府側ト協議スルコトト成ルヘシト答ヘラレ大使ハ満足ノ体ニテ辞去シタリ

（別紙）

在東京露国大使館ノ受領シタル露曆九月三日（日本曆九月十六日）附ヲ以テ「オムスク」西比利政府カ「ゴロワチエフ」氏ノ署名ヲ以テ海拉爾ヨリ發シタル電報ノ要領左ノ如シ。

オムスク西比利政府ハ西部西比利ニ於テ編制セラレ烏拉爾以西ニ在リテハ独逸人及ヒ過激派ト交戦中ナル露国軍隊ガ日本帝國政府ヨリ享有シ得ヘキ軍事の援助及ヒ軍需品彈藥其他物資援助ノ程度及ヒ性質ヲ至急明白タラシムルヲ必要トナス。

西比利政府ハ「ウォルガ」方面ニ於ケル独逸人及ヒ過激派ノ最近ノ勝利ヲ以テ「サマーラ」委員會ヲ威嚇シ西比利

西政府ニ対シ新タニ責任アル難問ヲ課スルモノトシ連合軍ヲシテ西部西比利方面ニ至急到着セシムヘキ処置ヲ執ルノ必要ヲ感スルニ至レリ。日本及ヒ米國政府ハ連合軍ノ西比利入國ニ関スル宣言ヲ發シタルヲ以テ協商ノ手段ニヨリ本問題ヲ至急解決スルヲ最も重要ナリトス。西比利政府ハ本目的ノ貫徹ニ関シ遭遇スヘキ各種ノ障害ハ是レヲ除去センカタメニ全力ヲ挙クルノ用意アリ。

三九四 九月二十二日

在浦潮菊池總領事ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

オムスク政府ニ対スル「セミヨノフ」及

「ホ」將軍ノ感想ヲ尋ネタル件

第五八四号

（九月二十三日接受）

松平政務部長ヨリ第五八号

「オムスク」政府首相一行東行ニ関シテハ一般ヨリ多大ノ注意ヲ受ケ今日迄ノ所各新聞紙ノ論調ニ徴スルモ一般ニ同政府ヲ以テ「デルベル」政府「ホルワット」政府ニ比シ遙ニ重キヲ置キ近ク各派ノ妥協統一（脱）時局ニ関シ意見ヲ交換シ彼等ノ「オムスク」政府ニ対スル感想ヲ尋ネタル所「セミヨノフ」ハ自分ノ承知シ居ル後員加爾地方及ビ西部

西比利亞ニ於テハ人民一般ニ過激派ヲ(脱)無政府狀態ニ飽キ居リシ際トテ「オムスク」政府ヲ歡迎シ現ニ同政府ガ動員令ヲ發シタルニ對シ喜ンデ馳セ集マル狀況ナリキ、尤モ同政府ノ根底ハ未ダ鞏固ナルモノニ非ズニヶ月以内ニハ「サマラ」政府ノ圧迫ヲ受ケテ倒ルルナランカト觀測セラルト云ヒ「ホルワット」政府ト「オムスク」政府ト何レガ一般ヨリ重ク見ラレ居ルヤトノ本官ノ問ニ對シ「オムスク」政府ハ「ホルワット」政府ニ先ンジテ手ヲ附ケタルト一般人民ガ尙ホ將軍ト云フ名ニ對シ危懼ノ念ヲ抱キ居ルトニ依リ「オムスク」政府ノ方、氣受ケヨシト答ヘタリ、尙ホ「ホルワット」ハ「オムスク」政府ヲ以テ「デルベル」政府トハ到底比較ニナラザルモノト看做シ遙ニ重要視シ居リ又之ト妥協スルコトヲ望ミ居ルガ廿一日迄ハ未ダ「オロゴドスキー」ト会见セズ何レ会见後ハ詳細通報ス可キ旨ヲ約シタリ、前記「セミヨノフ」ハ表面「オムスク」政府ニ服シ居ル如キ態度ヲ取り居ルモ將來機會有ラバ自分ガ立ツテ政權ヲ握ラントノ抱負ヲ有シ居ル故、右ニヶ月以内顛覆ノ件ハ割引シテ觀察スルノ要有リ、尙ホ「セミヨノフ」ガ浦塩ニ來リタル目的ハ沿海、黒龍、後貝加爾軍管区司令官ニ

任ゼラレ軍団編成ヲ命ゼラレタルニ付事務打合せ旁々狀況視察ノ為ナリト言明シ居レリ

三九五 九月二十二日 在浦潮菊池總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

「デルベル」政權及「ホルワット」政權ト「オムスク」政府トノ合体問題ニ関シ報告及意見具申ノ件

第五八五号 (九月二十三日接受)

松平政務部長ヨリ

第五九号

「ウオロゴーツキー」來浦後各方面ト折衝シテ統一ヲ計リツツアルガ「デルベル」一派ハ「オムスク」政府ト聯絡ノ開始セラレントスルヤ其勢力ニ圧セラレテ遂ニ不利ノ地位ニ立タサレンコトヲ恐レ往電第四七号ノ如ク一層声ヲ大ニシテ「オムスク」政府ト合体ナルコトヲ吹聴シ「ウオロゴーツキー」來訪ト同時ニ兩政府合体セルモノトシ一面体面ヲ保ツト共ニ他面事実上手ヲ引ク準備ヲ為シ居タルガ九月二十二日「デルベル」政府秘書長ガ渡辺ニ語リタル所ニ依

レバ「デルベル」党ハ數回「ウオロゴーツキー」ト会见シタルガ元來同体ノモノ故此際當地閣員一二ノモノヲ除キ數日中ニ「トムスク」ニ引揚在同地西比利亞州議會ニ一旦辞表ヲ提出スヘク然ル後大部分ハ「オムスク」政府ノ閣員ト為ルヘク「ラヴロフ」モ亦西行スヘシトノ同体論ヲ唱ヘ居ルモ事実上差当リ消滅セルモノト見て差支ナシ「ホルワット」對「オムスク」政府間關係ニ関シテハ九月二十二日「ホルワット」ガ荒木大佐ニ語リタル所ニ依レハ同日「ウオロゴーツキー」「ホルワット」ヲ訪問シ「オムスク」政府ノ極東三州太守(「ハイ、コムミツシヨナア」)トシテ就任スヘキコトヲ勸メタルガ今日ノ趨勢ヨリ見レバ「オムスク」政府ヲ認ムルノ外ナシト思ハルルニ付寧ロ之レヲ承諾シ極東三州ニ勢力ヲ固メ他日「オムスク」政府ニシテ倒ルルコトアルモ極東ニ於ケル自己ノ勢力ヲハ残ス樣為シ置ク方都合ヨキカト思考ス尤モ極東太守ト成ルモ日本ノ援助ヲ得ルニアラザレハ到底將來地位ヲ維持スルコト困難ナルヘキニ付果シテ日本ニ於テ援助ヲ与ヘラルヘキヤヲ問ヒ尙右太守ノ地位ヲ受クルトスルモ「オムスク」政府ノ企画セル五人ノ執政官(之レハ同政府ニ於テ考慮中ノモノナリト聞ク

モ詳細ハ二三日後「ウオロゴーツキー」ト会见ノ際確ムルヘシ)ノ内ニ自分ヲ入ルヘキコト及閣員中ニ「ホルワット」政府閣員二、三ノ者ヲ入ルルコトヲ条件トスル考ナリトテ日本ノ意向ヲ尋ネタル趣ナリ右ハ聞込ミタルノミニシテ未ダ「ウオロゴーツキー」ノ側ニモ確カメザルニ付更ニ確カメノ上詳報スヘシ卑見ニ依レハ「オムスク」政府ノ根底如何ニ強キヤ及將來「サマラ」政府其他「ウラル」地方等ノ政府ニ合併セラルヘキヤ否ヤハ別問題トシ現在西比利亞ニ於ケル狀態ヲ篤ト觀察スルニ「オムスク」政府ハ首相ノ人物経歴ヨリ見ルモ「デルベル」政府ヨリ遙カニ穩健ノモノタルコトハ疑ナク各派主要人物モ亦「ウオロゴーツキー」ニ對シテ忌諱ヲ挾マザルモノノ如ク一般人民モ亦相當歡迎シ居ル事実ニ鑑ミ此際彼ヲ中心トシテ「ホルワット」側ノ代表的人物ヲ其内ニ入レ以テ新政府ヲ組織セシメ「ホルワット」ハ一般人民中反對者多ク且列國モ亦日本トノ關係ヲ嫉ンデ稍ヤモスレバ排斥セントシ殊ニ近來東支鐵道ニ有スル彼レノ權威迄傷ケントスル傾向アルニ顧ミ寧ロ彼レハ自己ノ指名セル代表者ヲ新政府ニ入レ自身ハ東支鐵道長官トシテ同鐵道ニ於ケル實權ヲ飽迄支持スルコトトシ一先西

比利亜統一問題ヲ落着セシムルコト然ルヘシト思考シ居リタルガ若シ前記ノ如ク「ホルワット」ニシテ自身執政官ノ一人ト成リ且極東三州ノ太守トナリ同時ニ東支鉄道長官トシテ地位ヲ保ツコトヲ得バ現今ノ境遇ニ於ケル彼レトシテ寧ロ此上モナキ上首尾ナルヘク帝国ノ立場カラ見ルモ右ノ解決法ハ現下ノ場合ニ於テ最も有利ナルモノト信スルヨリ右ニテ纏マル様尽力スル積リ尤モ果シテ「ウオロゴツキー」側ニ於テ右ノ条件ヲ容ルヘキヤ否ヤハ疑問ナルノミナラズ列国側ニ於テモ自然反對起ルヘキニ付尚今後幾多ノ曲折ヲ見ルヘキモノト思考ス御意見アラハ詳細電報アリタシ哈爾濱ヘ電報セリ

三九六 九月二十四日

在浦潮菊池總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

オムスク政府ト「ホルワット」政権トノ合体

問題ニ付「ウオロゴツスキー」來訪意見交換

ノ件

第五八八号

(九月二十六日接受)

松平政務部長ヨリ

第六一号

九月二十三日「ウオロゴツキー」來訪時局ニ関シ長時ニ亘リ意見ノ交換ヲ為シタルガ其大要左ノ通り
本官ハ帝国政府出兵ノ目的及日本ノ露国ニ對スル同情ニ関シ詳細説明シタル処「ウオロゴツキー」ハ深ク感謝ノ意ヲ表シ最近ノ情報ニ依レバ「カザン」「シンペリスク」「ウオリスク」等ノ重要都市ハ既ニ敵手ニ落チ烏拉爾以西ニ在ル「チェック」軍危機ニ瀕セルニ付此際聯合軍殊ニ日本ヨリ同方面ニ出兵援助ヲ得タキ旨申述ヘタルニ由リ本官ハ烏拉爾出兵ノ義ハ軍事上外交上重大ナル關係ヲ有スルニ付帝国政府ニ於テハ遽ニ断行シ難シト思考スルモ若シ西部戰況ニ大ナル變化起リ且露国民ニシテ右出兵ノ希望アルニ於テハ其狀態ヲ政府ニ具申シ更ニ考量ヲ請クコトハ本官ニ於テ試ミルモ可ナリト述ベタルニ彼ハ是非考量ヲ仰キタシト述ヘ「デルベル」政府ト交渉ノ結果ヲ尋ネタルニ對シ「デルベル」政府ハ既ニ当地ヲ撤退スルコトニ決シ二十三日事務ヲ我方ニ引継キ一切ノ財産ヲ引渡スコトニ協議纏マリタリト云ヒ「ホルワット」トノ交渉ヲ尋ネタル処目下頗ル順調ニ進ミツツアリト云ヘルニ付本官ハ「ホルワット」ガ執政官ノ一人タルバシトノ噂アルガ事實ナルヤト尋ネタルニ「

ウオロゴツキー」ハ成ルベク執政官ニ他人ヲ入ル、コトハ好マザルモ或ハ交渉ノ模様ニ依リ「ホルワット」ヲ入ルルニ至ルヤモ知レズ日本政府ハ之ニ對シ如何ニ考ヘラルルヤト尋ネタルニ付本官ハ政府ノ意嚮ハ直ニ述ブル能ハザルモ本官個人ノ考ニテハ大局ヨリ見テ「ホルワット」ヲ入レ以テ一日モ早く妥協ヲ全クセラルル方然ルベシト述ベタルニ彼ハ米國ガ之ニ反對セザルベキヤト心配ノ体ニ見エタルニ付本官ハ米國內政不干渉ヲ最も明カニ声明シ居ルニ顧ミ反對スル理由ナカルベク万一反對セリトテ内政不干渉ヲ論拠トシテ拒絶スルコトヲ得ヘシト述ヘタルニ彼ハ米國ガ「ホルワット」ニ反對スル動機ハ那辺ニアルベキヤト尋ネタルニ付本官ハ素ヨリ之ヲ承知セザルモ或ハ東支鉄道及西比利亜鐵道管理問題ニ關聯スルニアラズヤト云ヘルニ對シ彼ハ思當ル如キ様子ヲ示セリ尚ホ本官ノ質問ニ對シ彼ハ極東三州ニハ總督(コミッシヨナー、ゼネラル)ノ如キモノヲ置キ其下ニ中央政府次官同等ノ各省所管事務長官ヲ置クコトトシ現ニ文部、糧食、給養各部ニハ夫々長官ヲ任命セリト云ヘリ本官ハ「ホルワット」側ヨリ当方ニ直接内報アルコトヲ知ラシムルハ不得策ト思考シ遠廻ハシニ右總督ニ「

ホルワット」ノ如キ極東ノ事情ニ精通セル者ヲ置ク意思ナキヤト尋ネタルニ對シ右ハ可能ノ事ナリトテ斯ノ如キ意思ナルコトヲ表明シ本官ガ仮リニ「ホルワット」ガ執政官トナリ極東太守ニ任命セラルル場合ニハ東支鉄道長官ノ地位ハ如何ニスル意ナルヤヲ尋ネタル処東支鉄道ハ表面私ノ会社ナルニ付我政府ハ何等之ニ干渉セズトテ其儘長官トシテ置クノ意ヲ洩セリ

夫ヨリ「ウオロゴツキー」ハ「オムスク」政府ノ組織ヲ詳述シ元來同政府員ノ一部ハ本年一月「デルベル」政府員ト共ニ「トムスク」ニ於テ西比利亜州議會ヨリ選舉セラレタルモ其後着々勢力ヲ固メ軍隊ヲ組織シ終ニ画一ノ鞏固ナル政府トナリ内閣ハ五名ノ執政官(ダイレクター)アリテ政務ヲ決シ其下ニ各省事務大臣ヲ置キ所管事務ヲ処理セシメ居レリ「サマラ」ニハ旧憲法議會々員ノ殘党ニ依リテ組織セラレタル政府アリ相當武力ヲ有スルモ閣員ヲ総括スル「プレジデント」ヲ置カザル為メ統一力無ク勢力微弱ナリ右ノ如ク全西比利亜ハ勿論歐露ニ於テモ「オムスク」政府ハ最も有力ナルモノト信ジ今回極東ニ來リタル所「ホルワット」政府及「デルベル」政府ノ存立セルヲ知リタルモ既ニ

「デルベル」側ハ消滅ニ帰シ「ホルワット」トモ近ク交渉
纏ルベキニ付聯合國側ニ於テモ公式承認ノ問題ハ姑ク措キ
可成速ニ事務上ノ交渉ヲ我政府ト開始セラレタシト述ベタ
ルニ依リ尚今後諸事打開ケ協議スベキコトヲ約シ別レタリ
在哈爾賓總領事ニ電報セリ

三九七 九月二十四日

在浦潮菊池總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

「ホ」將軍ノ極東太守任命問題鐵道管理問題
等二付「ルニヨール」來談ノ件

第五九五号

(九月二十五日接受)

松平政務部長ヨリ

第六四号

九月廿四日「ルニヨール」來訪談話要領左ノ通

同氏ハ「ホルワット」ヲ極東太守ニ任命スルコトニ関シ日
本ハ如何ニ見ルヤト尋ネタルニ付本官ハ日本ニ於テ異存ヲ
挟ムベキ理由ナシト思考スル旨ヲ述ベ仏國政府ニ於テ異議
ナキヤヲ尋ネタル所同氏ハ「ホルワット」ハ地位経歴ニ於テ
不足ナキモ變転常ナク鞏固ナル意思ヲ有スルモノト思ハレ
ザルモ右任命ニ対シ別ニ異議ナキ旨ヲ述ベ只米國ガ反对ナ

派兵スルニ決シタルモ到底兵力不充分ニ付日本ヨリモ派兵
セラル間敷キヤト述ベタルニ付本官ハ往電第六一号「ウオ
ロゴツキー」ニ述ベタルト同様ノコトヲ述ベ置キタリ
哈爾賓へ電報セリ

三九八 九月二十五日

在浦潮菊池總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

オムスク政府トノ合体問題ニ関シ「ホ」將軍
渡辺ニ談話ノ件

第五九六号

(九月二十七日接受)

松平政務部長ヨリ

第六五号

往電第六一号而政府妥協經過ニ関シ九月二十四日「ホルワ
ット」ガ渡辺ニ語ル所ニ依レバ二十三日双方全員ノ會議ニ
於テ愈々「ホルワット」ガ西比利亞政府ノ執政官ノ一人ト
シテ入閣シ同時ニ「コンミッシヨナー、ゼネラル」ヲ兼任
スルコト並其閣員ノ一部ガ「ウオロゴツキー」側ニ入ルコ
トハ主義上一致スルニ至リ尚而政府併合条件ニ関シテハ爾
来双方委員ニ於テ協議ヲ重ネツツアルヲ以テ其内円満ナル
解決ヲ見ルニ至ルヘシ「モリス」米國大使ハ妥協ニ関シ二

ル趣ヲ聞キタルニ依リ可成極東太守ハ聯合國各國ニ都合ヨキ
人ヲ得タシト言ヘルニ付本官ハ米國ガ内政不干渉ヲ特ニ標
榜シ居ルニ付「ウオロゴツキー」ト「ホルワット」ト合意
ヲ以テ定ムルモノニ異議ヲ挟ム理由ナカルベク又聯合國一
般ニ都合ヨキ人ヲ当嵌ムルハ望マシキモ事實上ハ各國各自
都合ヨキ人ヲ主張シテ纏マルコト六ヶ敷ト思考スルニ付寧
ロ彼等ノ妥協ニ委ス方然ルベキ旨ヲ述ベタルガ同氏ハ之ヲ
首肯シ何トカ「ホルワット」ヲシテ米國ノ感情ヲヨクスル
様試マシムルコト望マシト言ヒ夫ヨリ鐵道問題ニ入り種々
尋ネタルニ付本官ハ概略差支ナキ範圍ニ於テ日本側ノ立場
モ説明シタル後仏國政府ニ於テハ米國ノ提議ニ異存ナキ次
第ナルヤト尋ネタル所、鐵道輸送力ノ増進ハ刻下ノ急務故、
米國ノ提議ニ左シタル異存ナキモ露國人ヲシテ鐵道没収ノ
誤解ヲ与フルコトハ面白カラザルニ付軍事上一時米國ニ管
理セシムルモ軍事上ノ必要終ルト同時ニ露國ニ返還スベキ
コトヲ列國ニ提議シ尚ホ右保障ヲ現実ニスルタメ列國委員
会ノ如キモノヲ組織シテ監視スルモ一策ト思考スト述ベタ
リ、尚ホ同氏ハ烏拉爾地方「チチェツク」危殆ニ在ルヲ以
テ救済ノ為英國仏國伊國何レモ当地方(脱)烏拉爾方面ニ

十五日我閣員三名「ウオストロチン」「ゲルハリヨフ」及
「ウストローゴフ」ト会商シ且二十六日自分ト会见ヲ重ヌ
ル筈ニテ米國側ガ本問題ニ対シ好意的ニ斡旋スルニ至リタ
ルハ時局柄好都合ナリ云々ト樂觀說ヲ為セリ依テ念ノ為メ
「ウオロゴツキー」ニ就キ確メタルニ交渉ハ順調ニ進捗シ
ツツアルモ未ダ何等取纏マリタル次第ニアラズ云々ト未
ダ確定セザルモ略ホ妥協成立ノ望アル如ク語レリ尚米國側
ノ態度ニ対シテハ目下確メ中

三九九 九月二十六日

在浦潮菊池總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

軍部ノ構想ニ依ル「ホ」將軍中心ノ極東三州
ノ獨立政治団体案ニ関シ請訓ノ件

第六〇一号

(九月二十八日接受)

松平政務部長ヨリ

第六九号(極秘)

当方面政局收拾策ニ関シ往電第五九号ヲ以テ意見具申シ回
訓ヲ俟チ居ル所參謀本部高柳少將ヨリ中島少將宛ノ電報ニ
依レバ極東平和ノ保障トシテ後具加爾以東諸州ノ結束ヲ鞏
固ナラシムル為メ「セメノフ」「ガモフ」「カルムイコ

フ「三支隊ヲ物質的援助ヲ以テ編成支持シ「コサック」軍隊建設ニ努力シ当分「ホルワット」ト結合セシメ「ホルワット」ニ声援及秘密ニ物質的援助ヲ与ヘテ鞏固ナル政治団体トナシ将来露西亜ノ政局ニ応シ「オムスク」政府ト合スルヤ独立州トスルヤ分離自在ノ素地ヲ作ルノ意嚮ニテ意見ヲ求メ来レルニ対シ中島少将ハ前記三支隊鼎立ノ姿ニテ「ホルワット」ヲ以テ之ヲ統一シ極東ニ独立州ノ如キモノヲ作ルノ案ニ至極同意ノ旨回答ノ筈ナルガ右ハ単ニ政局如何ニ応ジ分離自在ノ素地トナス為メ「ホルワット」ヲ暗ニ援助スルノ意味ナラバ別問題ナルモ此際極東三州ヲ全然独立政治団体トナスノ案ニ至リテハ往電第五九号ヲ以テ稟請セル「ホルワット」ヲ「オムスク」政府ト妥協ノ上極東總督トナス計画ノ進行ト両立セズ必ズヤ独立計画実行案ノ漏洩ト共ニ折角進捗セントスル妥協計画ハ頓挫スルカ鮮クトモ進捗ヲ妨ゲラルヘク又漏洩セズシテ独立計画進行スルトスルモ右ハ軍司令官及本官ガ最初受ケタル各派統一ノ訓令ト反対ノ方針ニシテ此際異レルニ計画ヲ同時ニ兩方ヨリ著手又ハ実行スル事ハ何レノ途帝國ノ外交上面白カラザル羽目ニ陥ラズヤト憂慮ス速ニ帝國ノ御方針何レカニ御決定相成

至急御回電相煩ハシタシ

四〇〇 十月二日 在浦潮菊池總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

オムスク政府ト「ホ」將軍トノ妥協問題ニ関シ「ウオロゴツキー」政府閣員渡辺ニ談話ノ件

第六二七号 (十月三日接受)

松平政務部長ヨリ

第八九号

往電第七三号「オムスク」政府「ホルワット」政府ノ妥協問題ハ「オムスク」政変ニ依リ一時頓挫セシモ其後政変ノ真相モ明カニナリ且「リヴォフ」公爵ガ本邦渡航ヲ延期シテ当地ニ止マリ双方ノ間ニ調停尽力ノ結果交渉一層ノ進捗ヲ見ルニ至リタルモノノ如ク二日「ウオロゴツキー」政府ノ閣員ハ渡辺ニ対シ「ホルワット」將軍ノ入閣乃至「コムミツショナー、ゼネラル」任命等ハ不足ニ属スルモ同將軍側ノ或者ガ「オムスク」政府ニ入閣スルコト、現ニ「ホル

ワット」属僚ノ或者カ当地ニ於テ西比利政府員ト共ニ或種事務ニ関シ協同執務シ居ルコト、「オコロコフ」(「ホルワット」政府糧食大臣)カ近々「オムスク」ニ赴クヘキコト並ニ近々兩政府併合ニ関スル宣言ヲ公表スヘキ筈ナル旨語リタル由ナリ要スルニ「ウオロゴツキー」ト「ホルワット」ハ個人的ニモ政見ニ於テモ意思疎通シ居リ殊ニ最近「リヴォフ」公来浦ニ依リ一層順調ニ妥協進捗シ現ニ位地(脱?)相談ハ纏マリ居ル模様ナルガ「オムスク」政府ト打合中ナル為メ公表ノ運ヒニ至ラザルモノト思ハル
哈爾濱ヘ電報セリ

四〇一 十月三日 在浦潮菊池總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ウフア會議ニ依リ成立セル全露仮政府ノ全露國民ニ対スル布告文ニ付報告ノ件

第六三〇号 (十月四日接受)

松平政務部長ヨリ

第九二号

九月廿三日會議ヲ終了シタル「ウフア」國民大会ハ憲法會議召集迄全露國ニ於ケル最高政權ヲ全露國仮政府ニ委任シ

地方政府ノ權限ハ中央政府ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトシ政府閣員トシテハ既報五名ノ執政官ノ外予備執政官トシテ Argunoff Vinogradoff Alekseeff 將軍 Sapojnikoff 及 Zenzinoff ノ五名ヲ選定シタルガ同仮政府ハ九月二十四日附ヲ以テ全露國民ニ対シ概要左ノ如キ布告文ヲ発シタリ全露國仮政府ハ九月二十三日「ウフア」ニ於ケル國民大会ニ依リ全露國ニ於ケル最高ノ政權ヲ委任セラレ執政官五名及予備執政官五名ハ茲ニ就職スルニ至レリ政府施政ノ第一要義ハ政權ノ統一及露國ノ独立ヲ計ルニアリ此目的ヲ達成スルニハ先ツ過激派ヲ掃蕩シ国内ニ法律秩序ノ回復ヲ計リ「プレスト」條約其他露國ノ一部分カ独塊ト締結シタル條約ヲ否認シテ聯合國ト共ニ対独戦争ヲ続行シ内外ノ敵

ニ対シ必要ナル軍紀嚴肅ナル優勢軍隊ヲ編成スルコトニ全力ヲ尽スニアリ聯邦制ヲ基礎トスル國体問題ハ憲法會議ニ一任シ差当リ各地方ノ狀態ニ從ヒ広大ナル自治權ヲ認メ内外資本ノ誘致ニヨリ生産力ヲ拡大シ土地問題及労働者問題ノ改善ニ関シテハ十分研究スヘシ云々

四〇二 十月四日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

オムスク政權ノ妥協工作ニ関スル新聞論調報
告ノ件

第一〇一号

(十月五日接受)

十月二日「ダリョーカヤ、オクライナ」紙ハ沿海州ニ於ケル州郡市町等各自治団聯合会ノ決議トシテ「オムスク」政府首相「オロゴドスキー」ニ対シ、氏ガ曩ニ西比利亞州議會ヲ解散シタルハ「オムスク」政府唯一ノ基礎ヲ転覆シ無政府状態ヲ誘致スルモノニシテ沿海州民ハ西比利亞州議會ヲ無視スル政府ヲ認ムルモノニ非ズ「ホルワット」政府ハ当州民ノ反感ヲ招ケルニヨリ同將軍乃至其閣員ノ当州行政官任命ハ西比利亞政府不信任ヲ招致スルモノナリト抗議的警告ヲ与ヘ又在「ウーファ」全露国政府ニ電報ヲ発シテ「オロゴドスキー」ガ「ホルワット」側ノ代表者ヲ同地方ノ最高行政官ニ任命スルノ行為ヲ為シツツ有ルモ之州民ノ反抗ト内乱ヲ惹起シ國際的不義ヲ誘致スルモノナルニ付西比利亞州議會ヲ召集シテ一般ノ認ムル政府現出ノ日迄妥協中止ノ干渉ヲ行フ旨ヲ掲載シタルガ、之ニ対シ「ゴロスプリモリア」紙ハ三、四ノ両日ニ亘リ州民ノ極小部分ヲ代表スル反過激派連ガ「トロツキー」政府擁護ニ反対スルヲ慨シ

別電第一〇四号ノ如キ覚書ヲ交付セリ本官ハ深厚ナル祝意ヲ表シタル後「ホルワット」將軍ニ与ヘラルヘキ重要ナル地位トハ極東太守ヲ意味スルヤト問ヒタルニ「ウオロゴドスキー」ハ右様ノ話合ト成リ居レリト云ヒ更ニ本官ガ「ホルワット」將軍ハ同時ニ「オムスク」政府ノ内閣ニモ入ルヘキヤト問ヒタルニ対シ其答ナリト答ヘタリ尚ホ「ウオロゴドスキー」及「ホルワット」ノ話ニ依レバ西比利亞政府ハ矢張「オムスク」ニ所在シ又昨夜「アフクセンチエフ」ヨリノ電報ニ依レハ在「ウファ」全露中央政府モ「オムスク」ニ移ルコトニ決シ本日ヨリ移転ヲ開始スル筈ナル由又西比利亞政府ハ矢張五人ノ執政官ヲ存続シ「ウオロゴドスキー」ハ連絡ヲ取ル為メ中央政府ノ執政官タルト同時ニ西比利亞政府ノ執政官兼ヌル筈又合同ノ大要ハ十六日ノ新聞ニ發表スルモ詳細ノ権限人ノ配置等ハ「ウオロゴドスキー」「オムスク」ニ歸リタル後決定スル筈ナル由兩人ハ日本代表者ヲ訪ヒ夫レヨリ各与国代表者ヲ歴訪シテ同様ノ通告ヲ為ス由申居リタリ

(別電)

十月五日在浦潮松平政務部長発内田外務大臣宛電報第一〇四号

露国復興ノ緊要ノ機ニ当リ曩ニ「ホルワット」妥協ヲ賛成シタル「デルベル」派ガ今日右合同ニ反対セルヲ非難攻撃セリ、又四日「プリモスカヤジズニ」紙モ「デルベル」派「臨終ノ苦悶」ト題シ、氏及ビ「ゼムストウオ」代表者側ガ「デルベル」派ト結託シテ政治的投機ヲ企テタルヲ指摘シ自己ノ地位ヲ保持センガ為ニ最後ニ虚偽ノ説ヲ為シテ中央政府ニ「オロゴドスキー」ヲ誣ヒントスルハ之自滅ヲ自白セルモノナリト猛烈ニ攻撃セリ

四〇三 十月五日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ウオロゴドスキー及「ホ」將軍來訪ノ上兩者
間ニ合意成立シタル旨通告ノ件

別電

同日松平政務部長発内田外務大臣宛電報第一〇四号

オムスク政府ト「ホ」將軍政權トノ合同成立ニ
関スル覚書

第一〇三号

(十月六日接受)

往電第一〇〇号ニ関シ十月五日「ウオロゴドスキー」「ホルワット」ハ「クレブス」「クレム」ヲ随ヘ本官ヲ來訪シ「ウオロゴドスキー」先ツ兩者間ニ合同成リタル旨ヲ述ヘ

オムスク政府ト「ホ」將軍政權トノ合同成立ニ関スル覚書

第一〇四号 別電

(十月六日接受)

内閣議長「ウオロゴツキー」ノ代表セル西比利亞仮政府ト臨時政府首長「ホルワット」中將トハ前記二政府ガ斉シク統一セル有力ナル露国国家ヲ再興シ並聯合諸国ト最緊密ニ協賛シテ共同ノ敵ニ対シ戦闘ヲ再開スルノ希望ヲ懷キ全然同一ノ目的ヲ企図セルモノナルコトヲ考量シ且各自ノ政綱一致セルコトヲ認メ茲ニ前記兩政府ヲ合併シテ单独唯一ノ西比利亞仮政府ヲ實現スルコトニ相方合意セリ

「ホルワット」將軍ハ該政府ノ國務主宰ニ参与シ且重要ナル地位ヲ占ムベシ本決議ノ正式ニ實現スルニ至ル迄同將軍ハ西比利亞仮政府ト完全ナル一致ヲ以テ行動スベシ

在哈爾賓總領事ヘ電報セリ

四〇四 十月六日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

オムスク政權及「ホ」將軍間ニ協定調印セラ
レタル覚書公表ノ件

第一〇六号

(十月七日接受)

西比利亞政府首相「ウオロゴツキー」及「ホルワット」將

軍ノ間ニ九月三十日附ヲ以テ協定調印セラレタリト称スル
覚書ハ十月六日当地各新聞ニ発表セラレタルガ其内容左ノ
通り

一、国家的利益ノ為メニハ唯一ノ全露西亜政府ノ存在ヲ必要トス

二、西比利亜政府及「ホルワット」政府ノ政綱ハ互ニ齟齬スル所無シ

三、前記ノ事情ニ依リ此等兩政府機關ノ併合ハ希望スル所ニシテ且ツ最近ノ内ニ実現セラレザルベカラズ右併合ノ理由トシテ大要左ノ通説明セリ

露国ノ現状ハ過激派ヲ掃蕩セル地方ニ於ケル各政府団体ヲ連合協同シテ始メテ秩序ヲ保持シ得ルノ状態ニ在リ西伯利亚軍隊ノ編成ニハ巨額ノ出費ヲ要セルヲ以テ階級ノ差別無ク人民各自ノ犠牲ト覚悟トニ依リ政府ノ意図ヲ遂グルヲ得ベシ西比利亜政府樹立ニ当リ人才ノ不足ヲ感ジタルガ祖国救済ハ憂国家ノ一致協力ニ俟タザルベカラズ此見地ヨリ西比利亜政府ハ其政綱ヲ実施スル為メニ党派ノ區別無ク經驗アル施政者ヲ選ブコトトシ全露国の唯一政府ノ設立ノ為メ東西西比利亜ノ各政府ト交渉開始セル旨襲ニ宣言セリ

「ホ」將軍ト「オムスク」政權トノ合同政府

支援方ニ付請訓ノ件

第一〇七号

(十月七日接受)

往電第一〇三号ニ関シ兎ニ角「オムスク」政府ト「ホルワット」政府ト妥協成立シ少クトモ西比利亜全部ニ統一セル政府成立ノ機運トナレル所「デルベル」一派ハ例ニ依ツテ暗々裡ニ種々ナル反對運動ヲ試ミ今後モ亦此種ノ妨害運動ニ出ヅコク折角成立セントスル当方面ノ政局ノ安定ヲ乱スノ虞ナシトセズ西比利亜仮政府ノ基礎果シテ鞏固ナルヤハ尚探究ノ要アルモ從來「ホルワット」側トノ關係ヲモ考量シ比較的真面目ナル「オムスク」政府トノ合同ニハ初メヨリ帝国ハ主トシテ之ガ妥協進捗ニ尽力シ且英仏ノ「オムスク」政府ニ対スル財政援助ヲモ合同政府確立スル迄差控フ可キ旨ヲ当地英仏代表者ニ勸説シテ之ヲ阻止シ財政上ノ關係ヨリモ右合同ヲ促進スル様努力シタル關係モアリ旁此際帝国政府ニ於テハ進ンデ右合同政府ヲ支援スル斷乎タル態度ヲ決シ且之ガ承認ノ時機ニ於テモ財政援助ノ場合ニモ常ニ帝国ガ一步ヲ先ンズル様ニ準備シ当方面政局主動者タル地位ヲ確保スルコト肝要ナリト思考ス即チ形式上ノ承認ハ

来浦早々我政府ハ先ヅ「ホルワット」政府トノ間ニ全露国の政府承認ノ問題ニ一致点ヲ得兩政府ノ政綱ガ互ニ齟齬シ居ラザル事判明セリ政治的野心ヲ有セザル兩政府ハ露国復興ノ要義ハ左ノ主義ニ在ルセノト認ム

一、一般選挙法ニ依リ全西比利亜憲法會議ヲ可成速ニ召集シ且ツ同法ニ依ル全露国憲法會議召集ニ尽力スルコト

二、全国民ノ同權及信教ノ自由

三、聯合國ト協同シテ対独戦線ヲ復活スルコト

四、軍紀嚴肅ニシテ人權ヲ尊重スル政争外ニ立ツベキ軍隊ヲ編成ス

五、法律ニ從ヒ工業ノ復活及労働保護ヲ図ルコト

六、労働問題ハ憲法會議ニ依リ決スルコト「ホルワット」政府ノ或ル閣員ハ全露政府ニ入閣シ他ノ者ハ西比利亜政府ノ中央及地方政庁ニ於ケル責任アル地位ヲ占ムベク此等問題ハ「オムスク」ニ於テ一切ヲ決スルコト兩政府ガ實際併合ノ様式ヲ終ル迄ハ「ホルワット」將軍ハ西比利亜政府ト共ニ充分一致シテ努力スルコト

四〇五

十月六日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

合同ガ正式ニ実現セル後タル事勿論ナレド事実上西比利亜政府ト交渉ヲ開始シ相当ノ援助ヲ与ヘテ之ヲ守立ツルコト後日ノ為メ得策ナリト思考ス、右ニ付帝国政府ノ御方針御決定御回示ヲ仰ゲ

在哈爾賓總領事ヘ電報セリ

四〇六

十月八日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

シベリア政府ヘノ連合國ニヨル財政援助問題

ニ付報告ノ件

第一一〇号

(十月九日接受)

十月七日「オルストン」ニ面会貴電第三九号ノ趣駕ト談シ借款ニ応スルコトハ与国政府ニ完全ナル了解付ク迄俟タレ度旨申述ヘタル所同人ニ於テモ異議ナキ旨申居リタリ八日「レニヨウル」ニ面会貴電ノ趣申述ヘタル所未タ政府ヨリ何等聞キ及ハサル旨申タルニ付念ノ為メ貴電第四一五号ノ大意ヲ話シタル所同氏ハ主義ニ於テ異存ナキモ西比利亜政府ハ目下財政上非常ノ困難ニ遭遇シ居リ此儘ニ放棄セハ過激派ニ倒サルルニ至ルヤモ知レザルニ付大借款ハ別トシ千五百万留ノ小借款ハ(用途ハ当地ニ於テ購買セル軍需品支

私)至急之ヲ調達ノ必要ヲ認ムルニ付先ヅ之ヲ調達シタル後与国ニテ参加スルコト至当ト思考スル旨述べタルニ付本官ハ然ラバ仏国政府ニ於テハ先ヅ之ヲ引受ケタル後与国ニ相談スル意思ナルヤト反問シタルニ与国全部ノ同意ヲ得ルコトハ遷延ヲ来タシ時機ヲ失スル虞アルニ付二三国ニテ調達シ然ル後希望ニヨリ他ノ与国カ参加スルコトトシテハ如何カト思考スル旨述べタルニ付本官ハ日本側ニ於テモ借款引受ヲナスハ容易ナルモ列国ノ競争ヲ避ケントスル精神ヨリ与国ニ提案ヲナシ居ル次第ヲ述ヘテ完全ナル了解ノ出来ル迄資金ヲ供給スルコトヲ俟ツ方可然繰返シ説キタル所同大使ハ右ハ至難ナルノミナラズ未ダ政府ヨリ何等ノ訓令モナキコト故決シテ出抜キニ処置ヲ取ル様ノコトナキ旨申居リタリ同大使ハ西比利政府ヲ唯一ノ政府トシテ援助ヲ与ヘ擁^モ立ツル事ノ急務ナルコトヲ主張シ居リタリ尚八日「オルストン」カ本官ニ示シタル「チエリアピンスク」宛「エリオット」ノ電報ニ依レハ「エリオット」ハ「オムスク」政府ニ財政上ノ援助ヲ与ヘントスル「オルストン」ノ意見ニ全然同意ヲ与ヘ尙革命派ノ左党ト過激派トハ殆ド差異ナク從テ些細ノ出来事ニ依リ過激派カ勢力ヲ盛返ス虞アリ之

ニ対スル第一ノ保障ハ「チェック」軍ニシテ第二ノ保障ハ「オムスク」政府ナリトテ「オムスク」政府援助ヲ主張シ右電報ヲ倫敦ニ転電方依頼シアリタリ右ノ如ク英仏代表者ハ「ウオロゴドスキー」政府ヲ唯一ノ政府トシテ極力援助セントシツツアリ「レニヨウル」ノ如キハ財政援助ニ関シ余程「コムミット」シ居ルモノト見エ「グレブス」頻リニ出入シ居レリ

哈爾賓へ電報セリ

四〇七 十月九日

内田外務大臣ヨリ
在浦潮松平政務部長宛(電報)

オムスク政府へノ財政援助問題ニ付回訓ノ件

第四八号

貴電第一〇七号ニ関シ「ホルワット」ト「ヴォロゴツキ」トノ間ニ円満ナル妥協ノ成立スルニ至レルコトハ当方予テノ希望ニ合一スル所ナルヲ以テ右合同政府ニ対シテハ充分ノ好意ヲ表シ及フ限り之カ為斡旋ノ勞ヲ執ルニ躊躇セズト雖モ「ホルワット」及「オムスク」合同政府側ト「ウファ」政府トノ關係ニハ尙未タ不明ノ点アルノミナラズ右合同政府ハ未ダ列国ノ事実上ノ承認ヲ得ルニ足ルヘキ相当

鞏固ナル基礎ヲ有スルモノトモ認メ難ク之ニ対シ直ニ貴意ノ如ク財政上ノ援助ヲ与フルコトハ困難ナリ殊ニ財政上ノ援助ハ一面御承知ノ通帝國政府ヨリ米英伊各国政府ニ提議シタル借款方針ノ關係モアリ現下ノ状況ニテハ尙之ヲ差控フル方適當ト思考セラルルニ付右御含ヲ以テ然ルヘク御措弁相成度シ

四〇八 十月十一日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

シベリアノ反過激派勢力へノ援助政策ノ不統

一ヲ避クル様具申ノ件

第一二一号(極秘)

(十月十二日接受)

陸軍側ヨリノ情報ニ依レバ「セミヨノフ」ハ六日「チタ」ニ入り「ザバイカル」州ニ軍政及民政ヲ布キ軍政ニ関シテハ他ヨリノ干涉ヲ受ケザル旨「イルクツク」軍管区司令官ニ通告セントシ尚ホ「ザバイカル」州ノ「カザック」及「ブリアット」族ヲ独立セシメ其内「ザバイカル」州ノ独立ヲ宣言スル筈ナル由又「ブラゴエ」ニ於テハ「アレキセーフスキー」ガ黒龍州ノ独立ヲ宣言シテ其趣領事団ニ通告シタル次第ハ菊池往電第六四一号ノ通りナリ帝國政府予テノ

御方針ハ西比利亞ニ於ケル各政治団体ヲ可成統一セシメ列国ハ之ニ援助ヲ与ヘテ西比利亞ノ秩序ヲ恢復シ經濟上ノ援助ヲ与ヘ以テ露國ノ復興ノ目的ヲ達セシメントスルニ在ルコトト了解シ本官ニ於テモ他ノ与国代表者ト歩調ヲ合せ此方針ヲ以テ努力シ居リ現ニ「デルベル」政府ハ「オムスク」政府ニ政權ヲ譲リ「オムスク」政府ト「ホルワット」政府トハ事実上合同シ之ニ因リ列国ハ事実上ノ交渉団体ヲ得テ着々予期ノ行動ヲ取ラントスルニ方リ前記ノ如ク「セミヨノフ」及「アレキセーフスキー」ノ独立アリ若シ彼等ニシテ益々勢力ヲ發展スルニ於テハ又々政局ニ動揺ヲ来シ列国ハ交渉ノ主体ヲ得ズ經濟上ノ援助ハ勿論産業ノ復興貿易ノ恢復等ニ関シ多大ノ不便ヲ感スルニ至ルヘシ故ニ若シ今日ニ於テモ猶ホ帝國政府ノ御方針カ誠実ニ各団体ノ統一ヲ希望セラレ或ハ「ホルワット」或ハ「セミヨノフ」或ハ「カルムイコッフ」ノ独立ヲ大局ヨリ見テ不利ナリト觀察セラルルニ於テハ「セミヨノフ」ノ如ク我軍憲ノ勢力下ニ在ルモノニハ此際獨立運動ヲ見合ス様御勸告相成ル方可然又「アレキセーフスキー」ノ如キモ我軍勢力ニ依リテ或ル程度迄左右シ得ルト思考スルニ付之亦或時機ニ於テ獨立ヲ取

消サシメ以テ統一政府ヲ擁立テシムルコト可然カト思考ス
万一往電第六九号ノ如ク我ニ關係アルモノ等ヲシテ西比利
亜ノ一部ニ獨立セシメ我ノミ利益ヲ得ントノ御政策ナラバ
初ヨリ本官ニ於テモ其含ニテ折衝スル必要アリ執レニセヨ
万一同ジ政府ノ各機關ニ於テ表裏ヲ問ハズ異ナル方針ヲ以
テ行動スル如キコトアラバ帝國ノ前途ニ大ナル不利益ヲ来
タス虞アリト信ス右様ノ事ハ万無カルヘキモ從來対支政策
上此種ノ失敗ヲ来シタル実例ニ鑑ミ憂慮ノ余リ敢テ卑見稟
申ス尚ホ本件ニ関シ本官ノ主意徹底セザル節アラバ木村書
記官ニ御糺シヲ仰ク

四〇九 十月二十日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

極東各州自治団ノ連合會議開催ニ関スル件

別電 同日松平政務部長宛内田外務大臣宛電報第一三

六号

右會議ノ決議

第一三五号

西比利亞政府力襲ニ断行シタル西比利亞州議會ノ停会乃至
「ウオロゴツキー」「ホルワット」ノ妥協等ニ対シ反对ノ

態度ヲ示シタル当州「ゼムストオ」議長及浦塩市長等ハ前
極東「コンミッサー」「ルサノフ」等ト共ニ發起シテ表面
主トシテ自治団ノ権限及組織等討議ヲ目的トスル極東各州
「ゼムストオ」及市長等自治団聯合會議ヲ十月十五日浦塩
市ニ開催スルコトトシ曩ニ關係諸団体ニ招待ヲ発シタルモ
「ザバイカル」黒龍岡州及東清鐵道租借地域ハ欠席其他ノ
都市町代表員中ニモ不参者アリ結局本會議ハ沿海州ノ或部
分及薩哈連堪察加ノ極東数州代表者ノミニ依リ漸ク十六日
ニ至リ會議ヲ開キタルガ議題ハ時局ノ關係上

第一、講和問題

第二、西比利亞州議會解散「コンミッサル」任命自治団ヨ
リノ民兵

第三、「ゼムストオ」ノ権限極東地方「ゼムストオ」及其
権限並施行機關ノ組織

等ノ順序ヲ以テ爾來討議ヲ重ネツツアルガ十八日ノ議場ニ
於テハ前記第一項講和ニ関シ別電第一三六号ノ通り決議シ
其他ニ関シテハ「ウオロゴツキー」政府カ西比利亞州議會
ヲ解散シタル不法及彼レ自身カ來東後知識階級ヲ籠絡セシ
「ホルワット」ヲ容レテ極東ニ Dictator 乃至自治制ヲ復

旧シ「コンミッサー」ヲ任命シテ自治団ヨリ民兵指揮權ヲ
奪取スルニ至リタルノ不当ヲ盛シニ非難攻撃シタルガ右ニ
対シ「コロスプリモリア」紙ハ右會議ハ西比利亞全州ノ各
「ゼムストオ」及町村自治団ヲ網羅シタルモノニアラズシ
テ単ニ沿海州ノ自治団体代表者ノミノ集會ナレバ之レヲ以
テ全西比利亞各州ノ代表會ト稱スルハ僭越ナリ要スルニ潰
滅ニ瀕セル「レーニン」崇拜者ガ「デルベル」政府ヲ謳歌
セントスル最後ノ空想ニ外ナラザレハ彼等カ「ウオロゴツ
キー」ノ「コンミッサル」任命等ノ件ニ対シ彼是非難スル
カ如キハ一顧ニ値セズ云々ト反駁セリ

(別電)

十月二十日在浦潮松平政務部長宛内田外務大臣宛電報第一三六号
極東自治団ノ連合會議ノ決議

第一三六号 別電

極東自治団聯合會議ハ十八日ノ會議ニ於テ大要左ノ電報夫
々發送スルコトニ決議セリ(一)全露國政府ニ対シ本會議ハ全
露國中央政府ニ対シ同政府カ全國民ノ後援ヲ得テ民主主義
ニ基ク統一的国家建設ニ成功スルコトヲ確信ス講和ニ関シ
テハ來ルヘキ講和會議ニ於テ露國ノ權利ヲ擁護スルヲ疑ハ

ス會議ハ政府ヲ充分支持スヘシ(二)聯合國代表者ニ対シ、本
會議ハ聯合軍力独逸ノ帝國主義ニ対シ勝利ヲ祝
ス之レト同時ニ聯合側カ來ルヘキ講和會議ニ於テ露國カ聯
合側ニ対シ尽シタル功勞及犠牲ヲ忘却スルコトナク該會議
ニ於テ我中央政府ニ依リ代表セラルル露國ヲ他ノ聯合國ト
同様ノモノト認メラルルコトヲ確信ス

四一〇 十月二十九日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

オムスク方面ノ政況ニ関スル「エリオット」

ノ情報ニ付報告ノ件

第一百五号

(十月三十日接受)

十月二十八日「オルストン」來訪「オムスク」方面ノ政況
ニ関シ二十七日「オムスク」発「エリオット」ヨリノ電報
ヲ読聞カセタルガ其大要左ノ如シ、目下全露政府ト西比利
亞政府トノ間ニ進行中ノ交渉ハ近日多分次ノ如ク決定スル
ナラン

(一)西比利亞政府及ビ他ノ地方政府ハ存在セザルニ至リ全露政
府ノミ唯一ノ政府トシテ殘ル尤モ地方ノ自治ハ主義上之ヲ
認ム

(二) 國家ノ首腦ハ五人ノ執政官及ビ予備執政官ニシテ目下ハ「アクセンチェフ」、「ウオロゴドスキー」、「ボルジレフ」、「ズイノグラドフ」(「アストロフ」未ダ到着セザルタメ代理シ居レリ) 及ビ「ゼンロノフ」ノ五名執政官トシテ執務シ居レルガ「ゼンロノフ」ハ極端ナル社会革命党ナルヲ以テ反对者多キモ目下「チャイコフスキー」到着迄代理シ居レリ「チャイコフスキー」ハ老年故「アルハンゲル」トノ汽車便開通スル迄来著六ヶシカルベシ、尤モ「アクセンチェフ」ハ「ゼンロノフ」ガ「インターナシヨナリスト」ニ非ザル旨ヲ言明セリ

(三) 全露政府ハ西比利亞政府ノ閣員ヲ其儘使用ス、右ハ西比利亞政府撤廃(アプロゲート)ノ代償ナリ、右閣員ハ全部穩健派ニシテ社会党ニ非ズ「コルチャツク」ハ陸海軍大臣ニ任命セラルベシ、外務大臣トシテハ外交官ヲ以テ之ニ当テントシ居ルモ未ダ人選定マラズ、閣員ハ「カビネット」ヲ組織セズ各自執政官ニ対シ責任ヲ有シ執政官ハ自由ニ彼等ヲ任免ス

尚ホ總テノ取極ハ来年二月憲法會議ノ召集ヲ待ツテ確定スベシ、茲ニ困難ナル問題ハ「トムスク」ニ於ケル州議會ノ

四一 十一月一日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

全露臨時政府及西比利亞政府ニ関シ「イワノ

フ」ト会谈ノ件

(十一月二日接受)

第一五四号

往電第一五二号「エリオット」ノ電信内容ニ関シ十月二十九日「イワノフ」ト会食ノ際夫レトナク確メタル所概シテ事實ナルコトヲ承認シ居レリ尤モ其内「ホルワット」任命ニ関シテハ既ニ確定シ辞令書ニ「サイン」モ済ミタル由通知アリタルヲ述ベ又西比利亞政府消滅ニ関シテハ閣員全部全露政府ノ閣員トナリ自然消滅ノ姿トナルモ欧露ノ秩序回復ト同時ニ全露政府ハ早晚欧露ニ移スベクサスレバ西比利亞政府ハ他ノ自治州ノ政府ト共ニ露西亞聯邦ノ一「ステート」ノ政府トシテ残ルベク又「コルチャツク」(脱)命セラルルヘク(往電第一五一号「ホルワット」ハ既ニ「コルチャツク」ガ任命セラレタリト信ジ居リタルモ未ダ発表ニハナラザル由) 元来陸相ト軍指揮官ト兼務スルコトハ面白カラザルニ付之ヲ機トシ自分ハ專任ノ軍指揮官トシテ執務スル積リナル旨ヲ述ベタリ尚三十一日「クレム」ノ語ル所ニ依レ

問題ナリ、右ハ最初「トムスク」政府閣員ヲ選出セシ結果近日再ビ之ヲ召集シ改メテ右選挙ヲ取消サシメタル上解散スルコトトナルベシ、「ホルワット」任命問題ニ関シテハ何等決定シ居ラズ、尚ホ「アクセンチェフ」及「ウオロゴドスキー」ハ憲法議會ノ承認ヲ条件トシ左ノ如キ方針ヲ執ル筈

内政ニ関シテハ穩健ナル民主主義(モデレート、デモクラシー)ヲ本領トス、「ソシアリズム」ニ対スル方針ハ明瞭ナラザルモ銀行及ビ工場ノ国有ニハ反对ナリ

外交ニ関シテハ全然与国側ニ与シ独塊ニ反对ス。「ケレンスキー」政府ノ承認セル条約及義務ハ之ヲ其儘継承ス、波蘭ノ独立ヲ認メ「ウクライン」、「リヴォニア」、「エストニア」、芬蘭ニ対シテハ其自治州タルコトヲ認ムルモ其独立ヲ認ムル意ニ非ズ云々

尚ホ「エリオット」ハ二十七日「オムスク」ヲ出發歸浦ノ途ニ就キタル由、右電文ノ趣意ハ充分明カナラザル所有ルモ何レ国民歸浦ノ上確カムベシ。

バ「ホルワット」ハ二十九日目下「オムスク」滞在中ナル「オコクコフ」「ウオストロチン」等ヨリ將軍任命確定ノ電報ニ接到セルモ未タ公報トシテ発表ノ運ニ至ラズ且管轄区域ニ関シテハ後貝加爾州ハ含マレザルコトナレリト又三十日来当地新聞ノ或者ハ「オムスク」ニ於テ全露政府執政官中「アツクセンチェフ」「アルグノフ」及「ゼンジノフ」等カ西比利亞議會ノ召集說ヲ主張シタルニ対シ「ウオロゴツキー」及「ボルデイリヨフ」等反对シテ遂ニ前記三人ヲ捕縛シタリトノ記事ヲ載セタルカ前回同様反对派ノ捏造說ト思考シタルモ念ノ為メ「イワノフ」及「クレム」ニ就キ実否確メタルニ兩人共全然事實無根ノ旨ヲ語り居レリ
哈爾賓ヘ電報セリ

四二 十一月三日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

「ホルワット」ノ極東「コミッサール」任命

ニ関シ報告ノ件

第一五七号

(十一月三日接受)

往電第一五四号ニ関シ「ホルワット」極東「コミッサール、ゼネラル」任命ノ件ハ数日前「オムスク」ニ於テ既ニ発表

セラレタル由ナルモ当地ニハ未タ詳報ナシトテ発表ノ運ビニ至ラサリシカ愈々十一月二日公報到達シ発表ノ運ヒニ至リタル旨内報ニ接シタルニ付同日「ホ」將軍ヲ訪問シテ確メタル所右ハ事實ナルモ後貝加爾州ヲ含マザル旨述ヘタルニ付本官ハ後貝加爾ヲ含マストセバ右任命ヲ受クル積リナルヤ否ヤヲ問ヒタルニ今日ニ於テ更ニ時局ヲ紛糾セシムルハ不本意ニ付右任命ヲ承諾スル積リナリ尤モ「イワノフ」モ後貝加爾ヲ自分ノ管轄区域ニ含マシムルノ必要ヲ主張シ居リ又後貝加爾、黒龍、烏蘇里ノ哥薩克モ同盟シテ直接西比利政府ノ指揮ニ隸属スルコトヲ好マザルニ付其内後貝加爾ヲ自分ノ管轄内ニ入ルル様變更セラルルコトト信スルニ付此際一応就任ノ積リナリト語レリ右ノ如ク「オムスク」ニ於テ発表アリタルニ不拘当地ニテ発表遅延セシハ「ホルワット」周囲ノモノカ後貝加爾ヲ除カレタルニ対シ彼此レ異議ヲ唱ヘ「ホルワット」ヲ使喚セシモ「ホルワット」ハ大局上ヨリ見テ今直ニ任命ヲ拒絕スルハ却テ不利ナルヲ知り自ラハ之ヲ甘シテ受ケ度意アリシニ依リ夫等ノ關係ニテ遷延セシモノノ如シ同將軍ノ口吻ニ依レハ後貝加爾ヲ含マズシテ本任命ヲ諾スルニ対シ何トナク日本側ニ氣兼ねシ居

レタルモ未ダ当人ニ於テ承諾セシヤ否ヤ明カナラサル由ナリ
哈爾賓へ電報セリ

四一四 十一月三日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

デルベル一派ノ殘党トムスク方面ニ赴キタル件

第一五九号
往電百四拾二号ニ関シテ「デルベル」ノ殘党ハ爾来当地ニ在リテ政綱ノ準備中ナリシガ前首相「ラヴロフ」以下「モラフスキー」「ゼルナコフ」及ビ「ザハロウ」等前閣員ハ数日前相前後シ黒龍江線經由「トムスク」方面ニ向ヒタルガ彼等帰西後ハ「デルベル」党ト州議會側ニ謀リ西伯利亞政府對抗運動ヲ起ス目論見ナラント察セラル猶ホ「ゲイマン」以下「デルベル」一派ノ者ニテ爾来西伯利亞政府当地政庁ニ勤続シタル者ハ十月迄ニ全部辭職セリ
在哈爾賓總領事へ電報セリ

ルモノノ如ク見受ケラレタリ尚三日当地ノ新聞中既ニ本任命ヲ発表セルモノアリ
哈爾賓へ電報セリ

四一三 十一月三日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

「イワノフ」將軍オムスク政府ニ依リ西比利亞軍總司令官ニ任命セラレシ件

第一五八号
十一月三日「イワノフ」ノ談ニ依レバ同將軍ハ昨二日「オムスク」ヨリ西比利軍總司令官ニ任セラレ同時ニ一時極東ニ於ケル聯合与国トノ交渉事務ヲ管掌スヘキ電命ニ接到シタル為メ尚二週間許リ当地滞在ヲ延期スルコトナレリト尚三日「ホルワット」ノ話ニ同將軍ノ任命ハ十月二十八日附ニテ其職名ハ Verhovny upolnomochenny (最高代官)ト称シ管轄区域ハ沿海、黒龍、薩加連及堪察加ニテ任命ハ西比利政府ノ名ニ於テナサレタル由又同將軍ハ明日一先ツ哈爾賓ニ赴キ数日ノ内再ビ浦塩ニ来リ正式ニ事務ヲ執行スル筈又「コルチャック」ハ既ニ陸海軍大臣ニ任命セラレ在日本露国大使館參事官「シエキン」ハ外務大臣ニ推薦セラ

四一五 十一月四日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

黒龍州方面ニ於ケル政情ニ関シ報告ノ件

第一六〇号 (十一月五日接受)
「ブラゴエ」出張中ノ平塚ヨリ該地政況ニ付左ノ通十月二十八日附報告アリ御参考迄ニ電報ス第一、客十月二十六日大谷司令官ノ幕僚林大佐ハ当地ニ於テ黒龍政府首相ト自称シタル「アレキセーフスキー」ニ対シ「アレキセーフスキー」ニ於テ必要ト認ムル場合ニハ何時ニテモ従来日本軍輸送ノ為シタル黒龍鐵道ノ使用料トシテ露貨二百萬「ルーブル」迄ヲ日本ヨリ前渡スベキコト(二)同鐵道ニ要スル石油ハ「ウストロゴフ」ノ手ヲ經ズシテ日本ヨリ直接「アレキセーフスキー」ニ供給スベキコト(三)「ア」ニ於テ所謂黒龍軍隊編成ノ際希望アル場合ニハ其一個聯隊ニ日本將校五六名ヲ指揮教官トシテ傭購セシムルニ異議ナキ旨等ヲ軍參謀長ヨリノ伝言トシテ言明シ日本ハ具體的ニ今後同人ヲ支持援助スベキ意ヲ洩シタルヲ以テ同人ハ深く其厚意ヲ感謝シ頗ル得意ノ色アリ爾来我が司令官一行ニ対シ慇懃追從至ラザルナキ態度ヲ示シタルト尚ホ林大佐ハ本官ニ対シ目下

「ア」ノ秘書官トナリ居ル前ノ自衛隊長ニシテ黒龍枝隊（以下不明）「ニキイチン」大佐ヲ罷免シ（「ニキイチン」ハ当方ニ於テモ不評判ノ趣ナリ）此際黒龍哥薩克隊長「ガモフ」ヲ操縦シテ黒龍哥薩克軍ヲ編成セシメ其編成費トシテ月々五十万「ルーブル」宛位迄ハ日本ヨリ補助シヤル意嚮ナル旨ヲ語リタルガ軍司令官一行ノ当地出発期日ニ際シ大谷ハ表面「ガモフ」ガ休暇ヲ利用シ浦潮ニ行キタキ希望ナルニ依リ便乗ヲ許シタル迄ニテ何等他意アルニ非ズト称シ「ガモフ」ヲ引連レ行キタルヨリ察スルニ右ハ軍司令部ガ追テ「ニキイチン」枝隊ヲ解散セシメ「ア」ガ自ラ軍隊ヲ組織スルニ先チ「ガモフ」ニ命ヲ含メテ別ニ黒龍哥薩克軍ヲ編成セシメテ軍ノ葉籠中ノモノトシ一方「ア」ヲ立テツツ之ヲ牽制セントスル小細工ト察セラル尚ホ「アレキセーフスキー」ノ主意方針ニ関シテハ追々同人ト会見質問ノ上電報スベキモ最近軍憲ニ打明ケタル所ニ依レバ「ア」ハ将来「オムスク」又ハ其他健実ナル政府出現スルモ列国政府ヨリ承認セラルベキ程度ニ立チ至ル迄黒龍州ノ独立ヲ標榜シ軍ノ外交ハ勿論一切ノ行政ニ関シテモ此等政府ト聯絡ヲ取ルノ必要ヲ認メズ從テ当分現「オムスク」政府ハ固ヨ

リ「ホルワット」政府ニモ服従スルノ必要ヲ認メズ政府ヲ組織シテ自ラ其首相トナリ聯合与国ハ別トシ苟クモ露国ニ於ケル各地ノ政府ヨリハ何等束縛ヲ受ケザル意嚮ナル趣何レ其真意ハ本官ニ於テ其内篤ト同人ニ会見ノ上腹藏ナキ考ヲ吐露セシムル積リナルモ右ノ方針ニ対シ軍参謀長ノ意ヲ受ケタリト称スル林大佐ノ言ニ徴スルニ我軍ニ於テハ「ア」ノ執リツツアル施政ノ方針ニ毫モ其ノ非ヲ戒メザルノミナラズ本件同人ニ約シタルガ如キ援助事項ニ顧ミ寧ロ之ヲ懲慝スルノ方針ナリト思考セラルル処斯クテハ政務部ノ從來執リタル方針即チ此際西比利亞各地ニ於ケル各種營利的「エレメント」ヲ可成速ニ現ニ聯合与国ガ露国ニ於テ最優良ナルモノト認メ居ル「オムスク」政府ニ合同セシメ以テ列国承認ノ時期ヲ促進シ西比利亞救済ノ実ヲ挙グルニ便ナラシムルノ方策ト全然矛盾スル様思考セラレ右ハ却テ地方ノ紛擾ヲ醸成セシムルニ終ルノ虞ナキヤト懸念セラル前記我軍司令部ノ執ラントスル方針ハ果シテ我政府ノ方針ナリヤ否ヤ本官心得ノ為メ至急電報アリタシ予ネテ当方面ニ於ケル有産階級即チ重ナル商工業者ノ「ア」ニ対スル感情ハ甚ダ面白カラザル様聞キ及ビタルモサリトテ「ア」ニ代リテ

政治ノ任ニ当ラントスルモノ一人モ無シ為急申添フ、

四一六 十一月十二日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

黒龍州政府ニ依ル全露臨時政府承認ノ決定ニ

付報告ノ件

（十一月十三日接受）

第一七五号

平塚、郡司発本官宛電報左ノ通

十一月十日黒龍州政府ハ決議ノ結果全露西亜政府ヲ承認スルコトトナリタルヲ以テ「アレキセフスキー」ハ政權ヲ「ゼムスカヤウブラワ」ニ委ネ「オムスク」政府ヨリ「コミッサール」ノ任命ヲ待ツコトニ決定シ十一月十一日此旨ヲ発表セリ

四一七 十一月十四日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

西部シベリアノ状況視察結果二付「エリオット」

トノ談話報告ノ件

第一七九号

（十一月十五日接受）

「エリオット」十一月十三日帰浦シタルニ付同日訪問西部西比利亞ノ状況ヲ尋ネタルニ其ノ語ル所ハ從來当方ヨリ随

時報告セシ所ヲ「コンファーム」セシ外、全露政府承認ノ問題ニ関シテハ欧露方面ニ於テ今後如何ナル政府力設立セラルルヤ計リ知レザル状態ナルヲ以テ未ダ正式ニ承認ヲ与フルニハ早シト思考スル旨ヲ語リ「アウクセンチエフ」「ゼンジンフ」等ノ社会党ト「ウオロゴドスキー」「ミハイロフ」等ノ右派トノ間ニ時々意見ノ衝突アルモ今日迄ノ所先ツ順調ニ進行シツツアリ但シ同地方ハ社会党ノ勢力中々盛ナリ、又借款ノ件ニ付テハ「オムスク」滞在中別ニ同政府ヨリ申込ヲ受ケサリシカ金塊ヲ多数箱ニ入レ「サマラ」ヨリ「オムスク」ニ運搬セルヲ目撃セリ（往電第一四四号参照）右ハ「ペトログラード」ノ国庫ニ在リシモノヲ莫斯科ニ移シ莫斯科ヨリ「カザン」ニ送り一時過激派ニ押収セラレタルカ不思議ニモ僅カ三分ノ一程消失セシノミニテ「チエツク」ノ手ニ入り「サマラ」ヲ経テ「オムスク」ニ送り居タリ其額金六千五百万磅（英貨）ニ値スルモノナリトノコトナリ、全露政府ニ対シ財政上ノ援助ヲ与フヘキヤ否ヤニ関シテハ頗ル六ヶ敷問題故、当地帰来後財政家トモ篤ト協議シ意見ヲ立ツル心算故、其上ニテ更ニ相談スヘシ、「オムスク」方面鉄道従業員ノ同盟罷工ハ過激派カ勢力ヲ得

タル以來時間払ト為シタル為メ仕事ノ成績ハ從來ノ半額ニ減シタルヲ「ウオロゴドスキー」カ出来額払ニ變更シタルニ基因セルカ「ウオロゴドスキー」カ断乎タル処置ヲ執リタル為メ一時鎮定ニ帰シタリ云々

四一八 十一月十九日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

オムスク政変ノ観測ニ付「ホルワット」ノ談

話報告ノ件

第一八九号

(十一月二十日接受)

往電第一八七号ニ関シ十一月十九日「ホルワット」ヲ訪問シ政変ニ関シ尋ネタル所「グレーブス」ノ話ト同様ノコトヲ述ヘ尚今回ノ事変ハ社会党領袖「チヨルノフ」等カ檄文其他ノ方法ヲ以テ労働者及ヒ地方民ヲ煽動シテ同盟罷業、暴動、武装等不穩ノ行動ヲ激動シタルニ依リ陸軍ヲ後援トスル「ウオロドゴスキー」派ハ断然タル処置ヲ執ルコトニ決シ腹心ノ「ウオルコフ」大佐(曩ニ「ノウヲセヨロフ」等ニ対シ断乎タル処置ヲ執リタル発頭人)麾下ノ兵ヲ動カシテ「アフクセンチェフ」「アルグノフ」「ゼンロノフ」及ヒ「ロゴフスキー」等ヲ逮捕シテ今次ノ政変ヲ断行シタル

シト語レリ(十九日)

在哈総領事ヘ電報セリ

四一九 十一月二十一日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

シベリア統一ヲ阻害スル「セメノフ」ノ行動

ニ関シ報告ノ件

第一九九号

(十一月二十二日接受)

第三師団長ヨリ廿一日軍司令官ニ達シタル電報ニ依レハ「コルチャツク」今回ノ行動ヲ以テ英米ノ後援有ルモノト為シ「セミヨノフ」ハ在「オムスク」「コサツク」支隊長カ「コルチャツク」ノタメ逮捕セラレタルニ対シ直ニ釈放ヲ求メ若シ聴カサレハ最後ノ手段ヲ執ルヘキ旨ヲ警告シ飽迄「コサツク」ヲ糾合シテ「コルチャツク」ヲ倒ス決心ナル旨及右ノ如キ状況ナルヲ以テ此際速ニ「ホルワット」ヲシテ自ラ極東三州ノ自治ヲ宣言セシムルヲ要スト信ス若シ「ホ」ニシテ起タサレハ不取敢先ツ「ザバイカル」ノ自治ヲ宣言セシメントスト申来レリ而シテ廿一日当地ニ於テハ「セミヨノフ」ハ既ニ「ザバイカル」ノ自治ヲ宣言シタル旨ノ噂有リ、元来今回ノ政変ハ事態稍々重大ニシテ今後如何

ルカ只今接手シタル電報ニ依レハ「オムスク」ニ於ケル軍隊及ヒ市民ハ固ヨリ「チエツク」及ヒ連合側モ該政変ヲ冷静ニ迎エ目下ノ所形勢平穩ナリ云々ト記載シ有リ本官ハ「コルチャツク」ノ就任ニ付テハ何等英國側ノ陰謀等ニ因ルモノニ非サルカト念ヲ押シタル処「ホルワット」ハ曩ニ「コルチャツク」ノ入閣ニ関シ英國側カ尽力シタルハ事実ナルヘキモ今次ノ政変ニハ英國カ關係シタリト思ハレスト答ヘ、尚ホ「コルチャツク」ト將軍トノ關係及ヒ將軍ノ態度ニ関シテ尋ネタル所自分ハ「コルチャツク」ニハ親交ナキモ別ニ恨ヲ懷ク間柄ニモ非ス、自分ハ大局ニ顧慮シ此際飽迄現職ニ留ル覚悟ナリト答ヘ「コルチャツク」ト「ボルデレフ」將軍トノ關係ニ就テハ「コルチャツク」ハ末々西比利亞軍隊内ニ充分ノ信頼ヲ有セサルモ「ボルデレフ」將軍ハ予メ本件ヲ覚知シテ避ケタルモノカ目下「ウフアー」ニ赴キ居ルニ付「コルチャツク」ハ之ニ適當ノ地位ヲ与ヘテ自分側ニ属セシメント頻ニ交渉中ノ由、又タ新政府存続ノ見込ニ就テハ「ホルワット」ハ新政体ハ一時的ノモノナルハ勿論ナルモ「コルチャツク」カ軍隊ヲ操縦シ其信任ヲ持続セハ或ハ憲法會議召集ノ時機迄其儘存続スルヤモ計リ難

ニ發展スルヤ未タ測知ス可ラス、帝國ノ立場トシテハ最も慎重ニ事變ノ真相ヲ探求シ、然ル後其方針ヲ決スル必要アリ「ホルワット」「イワノフ」ノ如キモ此点ニ注意シ輕卒ノ行動ヲ慎ミ事態ノ成行ヲ徐ニ注意シ居ルハ既報ノ通ナリ、然ルニ第三師団長ノ如ク未タ事態ノ真相ヲモ確カメス斯ノ如キ政策問題ニ関シ輕々ニ判断シ「西比利亞統一」ニ関スル帝國政府ノ方針ヲ根本ヨリ覆ス如キ処置ヲ執ラントスルハ本官ノ了解ニ苦ム所ナリ

「セミヨノフ」「カルミコフ」ノ専横ニ對シテハ全露政府ハ素ヨリ「イワノフ」「ホルワット」モ之ヲ持テ余シ英米仏其他ノ与國軍ニ於テモ正義及人道ニ悖ル行為多シトテ昨今漸ク憎惡ノ念ヲ増シ近ク彼等ノ不正暴虐ノ行為ヲ挙ケテ何等ノ手段ヲ執ラントスルノ風説モ有リ而シテ彼等ニ對スル日本ノ關係ハ周知ノ事実ナルヲ以テ間接ニ日本ノ態度ヲ非難シ居ル折柄ニ付我ニ於テハ彼等ニ對スル勢力ヲ利用シ慎重ニ行動セシムル必要アリト信ス尤モ「コルチャク」今後ノ態度及事變成行ノ結果ニ依リテ西比利亞各部ノ獨立ヲ必要トスル場合ニハ何時ニテモ之ヲ決行スルコトヲ得ヘク目下ノ如キ状態ニ於テ直ニ各部ノ獨立ヲ慫慂スルハ未タ時

機ニアラスト信ス若シ「ザバイカル」(脱)カ已ニ事実ニシテ「オムスク」政府ト衝突ヲ始ムル如キ場合ニハ同地方ニ於ケル我軍憲ハ中立ノ態度ヲ取り内政干涉ノ譏ヲ受ケザル様注意スルコト必要ナリト思考ス右卑見稟申ス
佐藤総領事及在哈爾賓總領事ヘ電報セリ

四二〇 十一月二十七日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

極東三州独立ニ関スル「セミノフ」ノ動向ニ

付報告ノ件

第二一七号 (十一月二十七日接受)

軍司令官ニ達シタル情報ニ拠レハ「セミノフ」ハ「ウオロゴドスキー」ニ対シ「コルチャク」ノ独裁官ヲ認メサル旨且其代リニ「デニキン」「ホルワット」「ズウトフ」ノ三名中一人ヲ独裁官トス可キコトヲ要求シ三十時間内ニ右要求ニ応セサレハ極東三州ノ独立ヲ宣言ス可キ旨十一月廿二若クハ廿四日(發送ノ日附ハ目下判明セズ)電報セシ由ノ処右報道ハ当地露西亜官憲及外人側ニモ達シ居リ一般ニ不安ノ念ヲ起シタルモノノ如ク十一月廿五日「エリオット」來訪本件ニ関スル情報ヲ尋ネシニ右ノ次第ヲ語りタル

処実ハ自分モ「グレブス」ヨリ右ノ趣聞キタルカ「セミノフ」カ右様ノ行動ニ出ツルハ不都合ナリト非難シ且同人ノ行為ヲ抑制シ得ルハ日本軍ヨリ外ナキヲ以テ此際大局ヨリ見テ何ントカ日本側ニ於テ彼ヲ抑フルコト出来間敷キヤト語りタルニ付本官ハ本官一己ノ考ヘトシテハ此際「セミノフ」カ直チニ独立ヲ宣言スレハ折角築キ上ケタル西伯利亚ノ秩序ヲ破壊スルノ惧アルニ付キ面白カラスト思考スルモ「セミノフ」ニシテ強イテ事ヲ擧ケンセハ「コルチャク」カ独裁武斷政治ヲ宣言スルヲ防キ得サルト同様吾人ハ如何トモスルコト能ハサル可シ尤モ帝国政府ニ於テハ西伯利亚各団体ノ統一ヲ實現セシムルコトヲ方針トナスヲ以テ出先軍憲ニ命シテ「セミノフ」ヲ抑制シツツアルコトト思考スト語りタルニ「エリオット」ハ之ヲ諒シタルカ頗ル前途ヲ氣遣ヒ居ル様見受ケラレタリ尚同氏ハ数日内ニ「オムスク」ニ出発ノ積リニテ本国政府ノ許可ヲ得タルモ「セミノフ」ニ於テ独立ヲ宣言シ時局紛糾ヲ生スル様ノ事アレハ当地ニ留マル方執務上便宜ナルヘキニ付「オムスク」行ヲ延期スルヤモ知レスト申居リタリ同日「ホルワット」秘書長「クレム」來訪本件ニ関シ「エリオット」同様

電信所經由)

四二一 十一月二十七日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

「セミノフ」ノ独立ヘノ動キヲ抑制スル様意

見具申ノ件

第二一七号 (十一月廿八日接受)

「セミノフ」ノ独立ヲナサントスル態度ニ對シテハ既電ノ如ク連合与国側ハ勿論露国官民ニ於テモ大局ヲ弁ヘザル証左トシテ反感益々甚タシク而カモ一般ニ日本ニシテ若シ誠意ヲ以テ西比利亜ノ秩序ヲ維持セントセハ必ス「セミノフ」ヲ抑制シテ不穩ノ挙ニ出テシメサル事ヲ得ト確信シ居ルモノノ如シ「コルチャツク」ニ對スル感情ハ与国側ニ於テモ露国人ニ於テモ必スシモ良シト認ムル能ハサルモ未タ彼ヨリ何等「コサツク」ニ對シ迫害ヲ与ヘス又外交内政ニ對シ不當ノ処置ヲ執ラサル今日「セミノフ」カ「コルチャツク」トノ私的關係ヲ根拠トシテ執リタル処置ハ確カニ早計ニシテ一般ノ同情ヲ得ル所以ニ非ズ万一獨立ヲ断行スルニ至ラハ連合与国殊ニ英仏等ヨリ今日迄彼レガナシタル不正行為(電信交通ノ妨害運送貨物ノ掠奪等)ヲ列

挙シ且ツ露國恢復ノ妨害者トシテ高圧的干涉ニ出ツルヤモ知レス同時ニ日本ニ對スル反感不信ノ念ハ一般ニ増大スル事明カナリ斯ノ如キ場合ニ立至リタル後獨立ヲ取消サシムル様ノコトアラハ「セミヨノフ」ノ立場ハ勿論日本ノ露國ニ於ケル信望ハ全ク地ニ落ツヘク同時ニ「コルチャツク」ノ勢力ハ却テ増加スルニ至ルヘシ尤モ不幸ニシテ今日ノ如キ狀態ニ陥リタル以上「セミヨノフ」ノ地位モ考フル必要アルヘキモ若シ日本ヨリノ強圧力最後手段ヲ差シ控ヘタル事ヲ明カニセハ彼ノ名譽モ前記ノ場合ニ比シ傷ツクル事遙カニ少ク日本ノ公明ナル態度ニ對シテハ「オムスク」政府及列國ニ於テモ之レヲ認識シ從來日本ニ對スル疑惑ヲ除去スルノ助ケトナラン万一將來「コルチャツク」カ排目的行動ニ出テ或ハ「コサツク」ニ迫害ヲ加フル如キコトアラハ其時コソ「セミヨノフ」「カルミコフ」等ヲ利用シテ「オムスク」政府ヲ威嚇スルモ可ナリト思考ス右ノ次第ニ付本官ハ帝國政府ニ於テ出先官憲ニ嚴命シ「セミヨノフ」ノ獨立ヲ阻止セシメラルル事然ルヘシト信ス重ネテ卑見稟申ス

佐藤總領事及哈爾濱總領事ヘ電報ス

曠ヒ從來孤軍驟起シテ過激派ニ當リ祖国ニ尽シタル功績ト名声ニ瑕瑾ヲ招ケリ「セメノフ」ノ背後ニ日本アルコトハ周知ノ事實ナレト動々モスレハ累ヲ日本ニ及ホスノ虞レアルニヨリ日本カ之レヲ援助スル以上ハ彼レヲシテ始メヨリ無謀ノ挙ニ出テシメザル様指導セザルヘカラズ尙当地新聞ハ「セメノフ」ノ今回ノ挙ニ對シ一般ニ之レヲ非難ス

三、「ゴーロスブリモーリヤ」ノ如キハ烏拉爾、南露方面ノ哥薩克ハ露國統一ノ為ニ奮闘中ナルニ独リ「セメノフ」ハ却テ露國ヨリ分離セントス「セメノフ」「カルムイコフ」カ常ニ自由行動ヲ採リ他ヨリ制裁ヲ受ケサルハ日本カ之ニ資金ヲ与ヘテ援助スルカ為ナリ

今ヤ西伯利ニ於ケル軍事行動ハ殆ト終リヲ告ケタレハ資金ノ援助ヲ廢スヘキ秋タリ然ラサレハ我國民ハ其ノ抱ク企図ニ對シ疑惑ヲ抱クニ至ルヘシ云々ト論セリ(終)

十一月二十九日

四二三 十二月三日 内田外務大臣 會談
在本邦露國大使

セミヨノフ等援助中止方及オムスク政府支援

四二二 十一月二十九日 加藤第五戰隊司令官ヨリ
海軍省宛(電報)

「セメノフ」ト「コルチャク」ノ對立問題ニ

關シ報告ノ件

機密第三二一號

(十二月二日外務省接受)

一、「コルチャツク」ニ對シ最後通牒ヲ送り遂ニハ自主ヲモ敢テセント決心セシ「セメノフ」ハ一方我陸軍ヨリ今斯ノ如キ小策ヲ弄スルハ拙ナシ自主宣言ハ差控フルヲ可トストノ意見ヲ受ケタルガ如ク又他方ニ於テ本件ニ關シ英米等列國ヨリ勦カラズ惡感情ヲ以テ迎ヘラレ居ルニ感付キ自主宣言ハ一先ヅ中止シテ今後或時期迄ハ見合ハスコトトシ夫レ迄ハ一意軍隊ノ整頓物資ノ調達軍政ノ改善ヲ為サントシツツアリ

今回ノ挙ハ大分列國ノ感情ヲ害セルヲ以テ之カ緩和策トシテ當分列國ニ對シオ世辭ヲ振り蒔カント言明セリ

二、「コルチャツク」ハ「セメノフ」ノ最後通牒ニハ未タ何等ノ回答ヲ与ヘズ只裏面ニ於テ妥協ノ道ヲ講セントシツツアリ要スルニ「セメノフ」今回ノ挙ハ内外ノ反感ヲ

方ニ關スル件

七年十二月三日クルツペンスキー大使來訪内田大臣ト交ヘタル談話要領左ノ通り

大使 オムスク政府臨時外務大臣ヨリ佐藤總領事ヘ一ノ覺書ヲ送付シ右帝國政府ヘ伝達方依頼シタル趣ニテ今般同政府ヨリ右覺書内容ヲ電報シ來レリ就テハ從來日本側ニ於テ「セミヨノフ」「カルムイコフ」「ガモフ」等ニ与ヘラレタル援助ハ之ヲ中止シ將來オムスク政府ニ對シ直接軍事上經濟上ノ援助ヲ与ヘラレンコトヲ希望ス

大臣 我陸軍當局ハ從來ノ行懸リニヨリセミヨノフ等ヘノ援助ハ今直ニ之ヲ中止スル訳ニハ參ラザルガ此等ノ援助ハ過日來總テホルワツト將軍ヲ介シテ与フルコトニ成リ居リセミヨノフ其他ノ哥薩克頭領ニ直接支援ヲ与ヘ居ル訳ニハアラズ

大使 右哥薩克頭領等ハ實際日本側ノ援助ヲ受ケ居ルカ如シ現ニ「ガモフ」ニ對シ皇太子殿下ヨリ慰問品ヲ下賜サレタル事實アリ

大臣 慰問品一件ハ始メテ承知スル所ナルガ若シ類似ノ事實アリトセバ其ハ日本軍隊慰問ニ關聯シテ同軍ニ好意ヲ

表シ同軍駐屯地方ノ秩序維持ニ任シタル者ニモ自然慰問品ノ配布サレタルモノナルヘク所謂支援問題トハ何等關係ナシ尚昨夜陸軍大臣ニ確メタル所ニ依ルモ我援助ハ前陳ノ通りホルワット將軍ヲ通シテ為サレ居ルモノナリ大使 假令ホルワット將軍ヲ經由スルニセヨ結果ニ於テハ直接セミヨノフ等ヲ援助セラルルト同一タルヘシ執レニセヨ哥薩克頭領等カ日本側ノ援助ヲ頼ミトシテオムスク政府ニ反抗シ居ル次第ハ自分ノミナラズ列國代表者ニ於テモ等シク之ヲ認ムル所ニシテ彼等ハ日本側ノ援助ナキニ於テハ其勢力ヲ失墜スルヤ疑ナシオムスクニ於ケル政府ハ今ヤ統一ノ実ヲ挙ケツツアリ希クハ將來同政府ニ對シ直接援助ヲ与ヘラレンコトヲ

大臣 セミヨノフ等ノ援助ハ元來英仏等ノ發意ニ本ツクモノニシテ今直ニ之ヲ中止シ得ザル關係ニアルハ御承知ノ如シ實際ニ於テモ同人等カ地方治安ノ維持ニ功勞アルハ否認スヘカラズ今若シ直ニ之カ援助ヲ中止センカ地方ノ治安維持上懸念ナキ能ハズ一方オムスク全露政府ハ一時基礎強固ナルノ觀アリシモ最近ノ政變ニヨリ再ヒ動搖ヲ來シコルチャツク執政官ノ下ニ於ケル同政府ガ果シテ其

基礎確乎タリヤ否ヤ未ダ粹カニ斷言シ難キモノアリ之ニ對シ直接軍事上經濟上ノ援助ヲ与フルカ如キハ未タ其時機ニアラズト思考セラル尤モ帝國政府ニ於テハ西比利亞ニ於ケル統一政府ノ出現ヲ防害セントスル意思毛頭無之ハ諒セラレ度ク現ニセミヨノフ等ニ對シテハ先般來我勢力ノ及フ限リニ於テ輕率妄動大局ヲ誤ル様ノナキ様忠告ヲ与ヘ居ル次第ナリ若シ同人等ノ行動ニシテ右統一政府ノ成立ニ妨アリトセバ先ツホルワット將軍ヲ通シ之ヲ抑止スル手段ヲ執ラレテハ如何

大使 貴意諒セリ、左様致スヘシ

(欄外註記)

「本件會話中クルペンスキーガオムスク側又ハ「イワノフ」等ノ立場ニ都合ヨキ事ノミ主張スルニ付其偏頗ナル觀察ナルコトヲ并駁シ「コルチャツク」ガ排日的ナルコトニ對シ暗ニ我不滿ヲ述ヘ置ケリ」

四二四 十二月三日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

「コルチャク」側ニヨル「セメノフ」ヲ武力

討伐セントスル形勢ニ付英仏代表ト會談報告

ノ件

第二二七号

(十二月四日接受)

「セミヨノフ」ニ對スル与國側ノ反感及之ニ關聯シ日本ニ對スル疑惑ノ念ニ關シテハ再三報告ノ通りナルガ十二月三日他用ヲ以テ「マルテル」ヲ訪問セシ所偶々「エリオツト」及「ノツクス」來リ居リ「マルテル」ト何事カ凝議中ナリシガ多分「セミヨノフ」問題ナラント想像シ居リタル所「ノツクス」立去リタル後本官ニ重要ナル事件ニ關シ「エリオツト」ト三人協議シ度シトテ列席ヲ請ヒ「セミヨノフ」事件ニ言及シタルガ「エリオツト」ハ露國官憲ニ達シタル情報ニ依レバ「コルチャツク」ハ「ウオルコフ」ニ命ジ「セミヨノフ」ニ對シ斷乎タル処置ヲ採ルニ決シタル由ナリトテ頗ル憂慮ノ口吻ヲ漏シ猶數日前「セミヨノフ」ガ發表シタル後貝加爾、黒龍二州ノ軍ニ關スル全權ヲ自己ノ手ニ収ムトノ宣言(往電第二二六号)ニ關シ「エリオツト」ハ右ハ獨立宣言ト略同一ノ意義ヲ有シ「コルチャツク」ニ對シ進テ反抗的態度ヲ採ラントスルモノト解シ「マルテル」ハ右ハ「セミヨノフ」ガ進デ「コルチャツク」ニ反抗セントスルモノニ非ズ去リトテ既ニ最後通牒ヲ發シタル以上其儘引込ム訳ニ行カザル為メ曖昧ニ本件ヲ収メント

シテ發シタルモノニシテ余リ重ヲ置ク性質ノモノニ非ズト解ス本官モ亦「マルテル」ト同様ノ解釈ヲ主張シ猶万一「コルチャツク」軍ト「セミヨノフ」軍ト衝突ヲ起スニ於テハ今日迄完成シ來リタル西比利亞ノ恢復事業ヲ根本ヨリ破壊スルモノナルニ付キ何トカ衝突ヲ防ガザルベカラズト意見ヲ交換シタルガ本官ハ双方ヲシテ積極的ニ衝突ヲ招ク如キ行動ヲ採ラシメザル事必要ニ付キ一面本官ハ直ニ政府ニ電報シ在「チタ」軍憲ヲシテ「セミヨノフ」ヲ抑制シ彼ヨリ進デ衝突ヲ起ス如キ行動ヲ採ラシメザル事ニ努ムベク他面「コルチャツク」ヲ抑ヘテ衝突ヲ招クベキ行動ヲ採ラシメザル事然ルベキ旨陳ベタルニ「エリオツト」「マルテル」贊成シ「マルテル」ヨリ直ニ「レニヨール」ニ電報シ「コルチャツク」側ヲ抑制スル事ニ決シ尚「ホルワット」「グレーブス」共ニ哈爾濱ニ在リ不在ナルヲ以テ「クレム」ヲ呼び右ノ意ヲ伝ヘ同人ヨリモ其ノ趣ヲ「オムスク」ヘ申送ルコトトセリ、尚本官ハ「エリオツト」ニ對シ「「コルチャク」ニシテ「セミヨノフ」ニ對シ出兵スル如キコトアルモ在「オムスク」英仏兵ハ「コルチャク」ヲ後援セラル様ノコトナキヤト問ヒタルニ對シ「エリオツト」

ハ断シテ如此事ナキヲ保証ス過日モ在「オムスク」英軍ニ
対シ決シテ内争ニ干渉セザル様厳命シタル旨ヲ繰返し尚往
電第二〇五号「アフクセンチエフ」等ノ護衛英兵ニ就テハ
途中ヨリ帰還ヲ命ジタルモ「アフクセンチエフ」等ノ希望
ニ依リ其生命安全ノ為メ長春迄赴キタルニ外ナラズト弁明
シ居リタリ本件大要司令部ヨリ參謀本部ヘ電報アリタル筈
在「オムスク」佐藤總領事及在哈爾濱總領事ヘ電報セリ

四二五 十二月三日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

「セメノフ」ノ通信妨害ニ関シ英國ノ「ノツ

クス」少將ヨリ抗議申入ニ付報告ノ件

第二二九号

(十二月四日接受)

往電第二二七号ニ関シ十二月三日夕「ノツクス」少將稻垣
少將ヲ來訪シ「セメノフ」ハ未タ英國側ノ電信ヲ差押ヘタ
ル事ナシト雖露国官憲ノ電信ハ彼ノ為メニ押ヘラレ居リ今
後何等通信ノ妨害ヲ受クルニ至ルヤモ知レズ(往電第二二
七号仏国ノ場合参照)又後貝加爾鐵道ハ聯合軍ノ輸送上重
大ナル關係ヲ有スルニ付自分ハ英國兵ヲ「チタ」ニ入ルル
ニ決シ本国政府ニ請訓セル旨通知セル由ナリ「セメノフ」

ガ露国官憲ノ電信差押ニ関シテハ過日「ホルワット」ヨリ
モ訴ヘ來リ援助ヲ請ヒタルニ付直チニ軍司令部ヲ通シテ処
置シ置キタルガ其後「ボルジニフ」ノ代表者タル「ロマノ
フスキー」中將モ同様ノ苦情ヲ述ヘ在「チタ」日本軍ニ於
テ右妨害ヲ除去スル為メ電信局ヲ占領シ「オムスク」トノ
通信ヲ安全ナラシメラレ度希望ヲ述ヘタルニ付直チニ司令
部ニ通シ置キタル事実アリ御參考迄ニ佐藤總領事ヘ転電セ
リ

四二六 十二月四日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

「カルムイコフ」ニ依ル露国市民逮捕ニ関シ

英仏側ヨリ申出ノ件

第二三一号

(十二月五日接受)

十二月四日「エリオット」「マルテル」兩人相携ヘテ本官
ヲ來訪シ「マルテル」ハ本官ニ向ヒ過般「カルムイコフ」
ハ「ニコリスク」市ニ於テ「リンドネル」「チエスタコ
フ」大佐ナル二人ノ露国人ヲ逮捕シ「ハバロフスク」方面
ヘ護送セシカ何等審理ニ付セズシテ之レヲ銃殺セントスル
様子ナルニ付援助ヲ与ヘラレ度様「ブテンコ」ヨリ依頼ア

リタルカ本件ノ如キハ重大ナル人道問題ナルニ付日本軍ニ
於テ之レニ干渉シ其逮捕者ヲ正当審理ニ付セシムル様何ト
カ措置ヲ執ラレ間敷ヤト申出「エリオット」ハ自分ハ該件
ニ関シ別ニ依頼ヲ受ケタル次第モアラザレドモ「カ」ノ蜜
行ノ如キハ主義トシテ其不正ヲ矯正セザルヘカラズト「
マルテル」ノ話ニ口添ヘセシニ付本件ニ付本官ハ「カ」ノ
蜜行ニ関シテハ日本軍ニ於テ從來再三其注意ヲ喚起シタル
ノミナラス最近ニ於テハ米國側ト共ニ「カ」ニ付協定スル
所アリシ旨ヲ述ヘ十一月二十九日附機密第二八号拙信ノ件
ヲ語リ尚其後ニ於テ又不足ナル点モアル模様ニ付我軍憲
ニ於テ米國側ト目下協議ヲ遂ケツツアル次第ナリ尤モ本件
ノ如キハ重大ナル人道上ノ問題ナルニ顧ミ直チニ軍司令部
ヨリ「ハバロフスク」帝國軍憲ニ電照シ適當ナル措置ヲ執
ラシムルヲ辞セサル旨ヲ答ヘタリ尚「カ」ハ從來聯合國ト
共ニ共同ノ敵ニ対シテ戦ヘル露軍ノ指揮者トシテ日本側ヨ
リ援助ヲ与ヘタルモ同人ノ蜜行為ハ日本側ニ於テモ勿論之
レヲ憎ムコト他ノ与國ト同様ナルニ拘ラス一部無智ナル人
民ノ間ニハ「カ」ノ蜜行ヲ以テ恰モ日本ノ後援ヲ得テ之レ
ヲ敢行セルカ如ク思料スルモノアルヤノ噂ヲ耳ニスルハ本

官ノ遺憾トスル旨ヲ説明シ置タリ本件ハ司令部軍憲ニ申入
レ同部ヨリ直チニ第十二師団ニ電報セシ筈ナルカ本件ハ約
一ヶ月以前ノ出來事ニシテ前頭兩人トモ或ハ既ニ銃殺セラ
レタル形跡アリト云フ右ニ依リテモ過般來再三稟申セシ如
ク「カ」ニ対スル惡感ハ与國並露国人間ニ漸次強大トナリ
來リツツアルヲ以テ此儘ニ放置センカ引テハ之レヲ援助セ
ル日本ニ対スル一般ノ感情モ之レカ為メニ益々不良トナル
虞アルヘキニ付「セメヨノフ」問題ト同様今ヨリ慎重ナル
考慮ヲ加フヘキ必要アリト思考セラル

佐藤總領事、哈爾濱ヘ電報セリ

四二七 十二月五日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

「コルチャク」ト「セメノフ」トノ衝突問題

ニ関スル「ホルワット」ノ意見報告ノ件

第二三六号

(十二月六日接受)

往電第二二七号ニ関シ十二月四日「ホルワット」ハ爾濱
ヨリ歸浦シタルニ付同日訪問シテ「セメヨノフ」事件ニ言及
シ此儘放任スルニ於テハ兩者間遂ニ武力争鬭ヲ演スルニ至
ルヤモ計リ難ク斯クテハ折角築キ上ケラレントスル露国ノ

秩序モ破壊セラレ露國ニ取り不利不幸ナルノミナラズ遂ニハ聯合乃至ハ与國間ノ誤解等ヲ惹起スルニ至ルヤモ知レズ事態一層紛糾ヲ重ヌルニ至ルノ虞アリト認メタルニ依リ日英仏代表者協議ノ結果双方ニ於テ積極的行動ヲ執ラシメザル様処置スルニ決シタリトテ往電第二二七号ノ次第ヲ語リ此際「ホルワツト」將軍ニ於テモ「オムスク」ニ打電シテ「ウオルコフ」ノ東進ヲ中止セシメラルル方然ルヘキ旨勸告シタルニ「ホルワツト」ハ「コルチャク」ガ既ニ「セメヨノフ」ヲ以テ背信者ト宣シテ其処分ニ着手セル今日彼ノ性格ニ顧ミ效果如何ハ覺束ナキモ兎ニ角貴論ニ從ヒ「オムスク」ニ電稟スヘシト答ヘ尚本官ハ個人ノ話トシテ「セメヨノフ」ニシテ万一失脚スルガ如キ場合ニ立至ラバ聽テハ貴將軍ノ地位ニモ迫害ノ到ルヤモ知レザルニ付此際成ルベク「セメヨノフ」ヲ破滅セシメザル方將軍ノ為メ得策ト信スル旨述ヘタルニ「ホ」ハ之ヲ首肯シタルモ「セ」ガ依然続行シツツアル鉄道貨車ノ配給料トシテ商人等ヨリ多額ノ金員ヲ貪リツツアリ其配下ノ者等カ殺戮掠奪ヲ行ヒツツアル非行ヲ列挙シテ之ニ基因スル露國人及ヒ与國側ヨリノ攻撃ノ無理ナラザル理由乃至ハ「セ」ヲ援助セル日本及日本

意ヲ洩ラセリ同大使ノ言ニ依レハ「コルチャツク」ノ意向左ノ如シ

自分ハ國際關係上日本トハ全然善隣ノ關係ヲ保持シタキ希望ヲ有シ且ツ仏國大使ノ好意的忠告ニ対シ十分ノ敬意ト感謝ヲ表スルモノナリト雖モ乍遺憾一國ノ統裁者トシテ自己ノ讓歩ニハ自ラ限度ナキヲ得ズ「セメノフ」トノ妥協問題モ今トナリテハ絶対ニ交讓ノ余地ナシ

「セメノフ」ガ是迄奪掠殺人等種々ノ犯罪ヲ犯シタルハ周知ノ事實ニシテ自分ハ何時ニテモ之レヲ立証シ得ル地位ニアリ斯克ノ如キ者ニ將校ノ待遇ヲ与ヘ妥協ノ地歩ヲ見出サシガ為メ「オムスク」ニ呼ビ寄スルガ如キハ自分自身犯罪人ト伍ヲ列スルコトトナリ自己ノ職責上到底之レヲ許サズ而カモ「セメノフ」ニシテ前非ヲ悔ヒ和協的態度ニ出デタルニハ尚自分ニ於テモ考慮ヲ加フル余地アリタルベキモ「ゾートフ」始メ其他ノ「コサツク」將校ヨリ中央集權ニ服従スヘキ旨並ニ其場合「セメノフ」ノ地位ニ付テハ十分尽力スベキ旨勸告アリタルニ不拘「セメノフ」ノ態度ハ依然傲慢ヲ極メ彼レニ誠意ナキコト明白ナリシヲ以テ茲一週間前ヨリ自分ハ妥協問題ヲ断念シ彼レヲ叛逆人ト見做シ断

ニ關係アル「ホ」迄モ攻撃ノ標的トナレルヲ慨シタル後言ヲ潜メテ兩人限りノ談トシテ左ノ通り語りタリ此程「オムスク」ノ樁事トシテ当地ニ伝ヘラレタル噂ニ依ルニ同地駐在ノ日本武官某ハ曩ニ「ウオルコフ」大佐ガ釈放セラルルヤ同大佐ニ向ヒ「コルチャク」逮捕方ヲ勸告シ且ツ之ガ決行ニ対シ同大佐ニ資金ノ援助ヲ申出タルモ「ウオルコフ」ハ元々「コルチャク」側ノ人物故右ハ拒絕セラレタルノミナラズ「コルチャク」ノ耳ニモ入りタル筈ナリト云ヘリ

佐藤總領事及哈爾賓ヘ電報セリ

四二八 十二月八日 在ハルビン山内總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

「コルチャク」ト「セメノフ」ノ対立解消ヘ

ノ仏國側ノ工作ニ関シ報告ノ件

第七二六号 (十二月九日接受)

十二月六日佐藤總領事發電報左ノ通り大臣ヘ
第三九号

往電第三二二号ニ関シ十二月六日「ルニヨール」大使本官ヲ來訪シ五、六兩日ニ亘リ兩回屬員ヲ派シ「コルチャツク」ノ説得ニ力メタルモ遂ニ不成功ニ終リタリトテ大ニ失望ノ

然タル処置ヲ執ルコトニ決シタル次第ナリ

右ニ付キ前記ノ事情判明スルニ於テハ日本政府ト雖「セメノフ」側ヲ援助スルコトナカル可シト自分ハ確信シ居リ又自分ニハ武力ヲ以テ「セメノフ」ヲ征服スル丈ノ確信ト戰備ヲ有スルモ此際兵力ノ衝突ハ露國自身及ビ聯合國ノ為ニ重大ナル結果ヲ齎ス事ヲ熟知スルカ故ニ可成ク武力ヲ用ユルコトハ避ケ度キ考ナリ又自分ハ必ズシモ「セメノフ」ヲ逮捕セントスルモノニ非ズ彼ニシテ自分ノ部下ヲ引纏メ蒙古ニ入ルヲ欲スル場合ニ自分ハ決シテ是ヲ妨害セザル可ク又彼自身蒙古ニ引籠ルヲ以テ本件解決ノ唯一ノ方法ナリト信ズ自分ハ如斯キ解決法ヲ案出シ仍テ以テ日本政府ノ惡感ヲ挑発セントスル意志ハ毫モ是ヲ有セズ同政府トハ飽ク迄親善ノ關係ヲ持續シタキ希望ナルモ如何セン是ヨリ以上寛大ナル処置ニ出ヅルヲ得ザルヲ遺憾トス

上述ノ次第ニテ仏國大使モ最善ノ努力ヲシタルニ拘ハラズ「コルチャツク」ノ意志ヲ翻スコト最早絶望ナリト云ヒ大ニ前途ヲ氣遣フ状態ニ見受ケラレタリ仍ツテ本官ハ同大使ノ尽力ト來訪ノ好意トヲ諒シ且ツ「コルチャツク」ノ意圖ヲ卒直ニ聴キ得タルハ実ニ今回ガ初メテナルニ付キ同大使

ニ於テ異議無クバ詳細是ヲ帝國政府ヘ報告シタシト述べタル処同大使ハ自分一個ノ計ラヒトシテ「コルチャツク」ト交渉ヲ試ミタルモノナルコトヲ附言セラルルニ於テハ一向差支ナシトテ是ヲ快諾シタリ

政務部長ヘ転電セリ(十二月八日後九時〇分奉天経由)

四二九 十二月八日

在ハルビン山内総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

「セメノフ」ヲ前線指揮官トスル案ニ依リ

「コルチャク」トノ妥協成立ヲ計ラントス

ル仏国側ノ企図ニ付報告及請訓ノ件

第七二七号

(十二月九日接受)

佐藤総領事発電報左ノ通大臣ヘ(十二月六日)

第四〇号

往電第三九号ニ関シ十二月六日仏国大使再度本官ヲ来訪目下「チタ」ニ在ル「ジャン」將軍ト直通電信ニテ会谈ノ為メ総司令部ヘ赴キタル序ヲ以テ「コルチャク」ニ面談セリトテ左ノ通話レリ

同大使ハ先ヅ其属員ヲシテ和衷の意見ヲ詳細「コルチャ

ク」ニ伝ヘタルモ其同意ヲ得ザリシヲ遺憾トスル旨ヲ述べ且「コルチャク」ニシテ其峻厳ナル意見ヲ固執スルニ於テハ由々數キ國際問題ヲ惹起スルノ虞アル次第ヲ詳述シ其再考ヲ促シタル処最初ハ例ニ依リ「セメノフ」ノ攻撃ヲ並べ到底妥協ノ端緒ヲ得ル望ナカリシモ漸次落付キ来リ最後ニ若シ「セメノフ」ニシテ中央權力ニ服従ス可キ事ヲ誓言セハ「コルチャク」ハ彼ガ哥薩克頭領トシテノ名譽ヲ以テ「オムスク」ニ来ルコトヲ承諾スルノミナラズ是迄過激派ニ對シ惡戰苦闘シ来リタル歴史ヲ繼續シ一部下ヲ率キテ「ウラル」戦線ニ立ツ權限ヲ与ヘ以テ過般来ノ出来事ハ一切之ヲ水ニ流ス可シト述べタリト云フ仏国大使モ「セメノフ」ヲ名譽アル隊長トシテ戦線ニ立タシムルハ一見過酷ノ感アルモ彼自身ノ為メヨリ云フモ亦日本及聯合國ノ何レノ立場ヨリスルモ最モ好都合ナル解決方法ト思考セラルルニ付本官ヨリ之ヲ日本政府ニ伝達シ同大使最善ノ好意の努力ノ結果トシテ日本政府ノ考量ヲ煩シ且之ニ對スル同国政府ノ意見ヲ承知シタシト申出デタリ仍テ本官ハ直チニ右伝達方ヲ承諾シ且帝國政府ヨリ回答アリ次第通知ス可キ旨約シ置ケリ

卑見ニ依レバ右「コルチャク」ノ申出ハ一見体良キ刑罰ト見受ケ得ルモ而モ哥薩克頭領ノ名譽ヲ以テシテハ戦線ニ立ツヲ拒否スルヲ得ザル可シト思ハレ且仏国大使モ「セメノフ」ハ「ゾートフ」ト親交アル由ニ付戦線ニ於テ相呼応シテ華々シク功名ヲ立テ露国民心ヲ收攬シ得可シト信ゼラルト申シ居レリ兎ニ角本件ヲ解決スルヲ以テ最モ得策トスルヤニ思考セラルルニ付テハ至急篤ト御詮議ノ上何分ノ義御電訓ヲ請フ

政務部長ヘ転電セリ(奉天經由十二月八日后八、五五)

四三〇 十二月九日

在ハルビン山内総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

「セメノフ」ノ沿黒龍軍團長ヲ免ズル「コル

チャク」ノ命令ニ関シ報告ノ件

第七三〇号

(十二月十日接受)

十二月八日佐藤総領事発電報左ノ通大臣ヘ

第四二号

十二月七日発行ノ總司令部機關新聞ニ十二月一日附ヲ以テ第五獨立沿黒龍軍團長「セメノフ」大佐ガ上官ニ服従セズ又軍ノ後方並ニ電信交通ヲ妨害シタルハ国家ニ對スル叛逆

四三一 十二月十一日

在英國珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

「ノックス」少將侮辱問題ニ関スル英國陸軍

当局ノ不滿ニ付報告ノ件

第一一〇〇号

(十二月十一日接受)

往電第一〇五八号及一〇六一号ニ関シ最近英國陸軍当局ハ田中少將ニ向ヒ「ノックス」少將ガ日本將校ノ為侮辱ヲ受ケタリトノコトハ最早周知ノ出来事ナルニ日本政府ニ於テ今猶同少將ノ面目ヲ立ツルノ処置ヲ執ラレザルハ心外千万ナリトテ頗ル不滿ノ意ヲ漏ラシ居タル趣ナルガ尚其際先方ハ英國陸軍ハ当初西伯利亞出兵ニ付キ十分日本側ノ協力援助ヲ受クルコトト予期シ居タルニ其後ノ実情ニテハ失望ニ

堪ヘザルコト尠カラズ例ヘバ(一)英国軍隊輸送ニ付日本輸送機関ヨリ余リ便宜ヲ与ヘラレザルコト(二)今回「オムスク」政変ニ依リ「コルチャツク」執政官ト為リ事態改善ノ徴アルニ拘ラズ「セメノフ」ハ之ニ反対ノ態度ヲ執リ日本側ハ暗ニ同人ヲ応援シタルガ如キ觀アルコト等レナリト語り居タル由ナリ(委細ハ田中少將発参謀本部宛電報ニテ御承知ヲ請フ)講和會議モ追々切迫シ帝國ノ講和条件其他ニ関シ英国政府ノ好意声援ヲ必要トスルコト(脱)折柄此種問題ノ為徒ニ先方ノ反感ヲ醸成スルコト尠カラザルガ如キハ極メテ不利ト存ゼラルルニ付右ニ関シ事情詳細至急御電示相成様致シ度シ

四三二 十二月十三日

在浦潮軍参謀長ヨリ
参謀次長宛(電報)

「コルチャツク」ト「セメノフ」ノ対立問題ニ

関シ大谷司令官ヨリ「セメノフ」ニ与ヘタル

勧告ノ件

(十二月十四日外務省接受)

親展

浦参第五百九十九号

為將タ予ノ信頼セル貴官ノ為衷心痛惜ニ堪ヘズ、又一面本職ノ態度ハ公明正大以テ列國ノ協調ヲ図リ、露國ノ復興ニ努力スヘキ任ニアル点ヨリ考フルニ貴官今回ノ行動ハ將ニ本職ノ主義ニ対シ一大障害ヲ加ヘタルヲ告白セザルヲ得ズ我カ軍カ終始一貫貴官ニ同情ヲ傾ケ来リシハ貴官ノ知悉セル所ニシテ今後モ敢テ変ル所ナシ、然レトモ現下日本政府ノ方針ハ恐ラク全露政府カ露國復興及国内ノ治平ヲ目的トシ努力シツツアルニ対シ深厚ナル同情ヲ表スルコトヲ記憶セラルルヲ要ス從テ貴官ノ行動カ日本対列國ノ協調ヲ破リ或ハ露國復興ニ害アルモ尚之ヲ放任シテ貴官ヲ支援スルコトハ蓋シ兩立シ難キ所ニシテ現状ノ推移ニ委センカ或ハ大義ノ為却テ貴官ニ対シ断乎タル処置ヲ採ルノ余儀ナキ時期ノ到来センコトヲ日夜憂慮シツツアリ是レ昨日第三師団長及本職宛陸軍大臣ノ訓令アリシ所以ニシテ貴官亦其ノ要旨ヲ聴取セラレシナラン

当今露國有識者ハ勿論列國ノ軍人外交官ハ拳ツテ貴官ノ行動ヲ悲難シ殊ニ交通機關ヲ阻害セシ一事ハ痛ク世ノ反感ヲ買ヒ惡評悉ク貴官ノ一身ニ集注セラルルノ概アリ元ヨリ中ニハ臆説信ヲ置キ難キモ古語ノ所謂衆口金ヲ熔カスノ例ニ

軍司令官ハ内外ノ情勢ニ鑑ミ第三師団長ヲ通シ「セメノフ」ニ対シ左ノ如キ勸告書ヲ与ヘラレタリ
貴官カ「コルチャツク」ト確執ノ態度ヲ採リツツアルハ一応理由アリテ殊ニ從來ノ經過ヲ熟知セル予ハ深く貴官ノ心事ニ同情スルモノナリ然レトモ冷静ニ熟慮セハ元ト之レ個人的私怨ニシテ之ニ基キ大事ヲ決スルハ貴官ノ為採ラザル所ナリ抑々今日露國ノ急務ハ其ノ復興ニアリ、復興ノ妙諦ハ健全ナル政府ノ統一確立ニアリ而シテ之カ為メ要道ハ各人私怨ヲ捨テテ公義ニ就キ小異ヲ擲チ大同ヲ図リ漸次其ノ基礎ヲ固メ遂ニ全露ノ統一ヲ成就スヘキナリ。今ヤ「オムスク」政府ノ組織其ノ緒ニ就キ其ノ基礎漸ク固ク列強ノ同情亦將ニ集ラントス、加之烏蘇里以東ノ安寧秩序逐次復旧セントスルノ時ニ当リ貴官カ中央要衝ニ蟠踞シ反対ノ位置ニ立ツハ其ノ主義ニ於テ同情スヘキモノアルモ露國復興ノ大業ニ対シテハ遺憾乍ラ之ニ贊同スル能ハザルナリ貴官カ既往万難ヲ排シ不撓不屈ノ精神ヲ持シ露國復興ノ為ニ努力セシ偉勲ハ昭乎トシテ万人ノ等シク認ムル所ナリ、然ルニ今一朝ニシテ私怨ノ為其ノ大望ヲ曲ケ且ツ露國復興ノ大業ニ一頓挫ヲ来サシムルカ如キ拳ニ出デントスルハ全露國ノ

漏レズ貴官ニ対スル輿論日ト共ニ沸騰シ其影響ハ全「コザツク」ニ及ハントセリ然カノミナラズ「オムスク」政府ハ是ヲ列國ノ國際的信義ニ移シテ其解決ヲ求メントスルニ至リ問題ハ最早貴官對「コルチャツク」ノ個人的紛争ニ非ズシテ実ニ日本対列國ノ葛藤ヲ惹起セントスルノ形勢ヲ呈スルニ至レリ本職ハ嘗ニ貴官ノミナラズ日本帝國ノ為メ事ノ茲ニ至リタルヲ慨嘆セザルヲ得ズ

翻テ「オムスク」政府ノ情報ヲ総合スルニ「コルチャツク」ハ貴官ニ対シ尚妥協ノ余地アルモノト信ズヘキ節アリ故ニ本問題カ進退窮ハマル窮境ニ陥入ラザル今日ニ於テ速ニ隱忍自重以テ妥協ノ道ヲ講ジ一ツハ露國復興ノ氣運ヲ速進シ他ハ貴官將來ノ為計ルハ一挙兩得ナル最善ノ策ニシテ又実ニ日本ノ立場ヲ安全平和ナラシムル唯一ノ良法ナリト信ス

本職ハ貴官ト從來深厚ナル友誼ニ基キ衷心貴官ヲ親愛スル熱情ヲ披瀝シ茲ニ忠言ヲ呈シテ貴官ノ反省ヲ促スモノナリ貴官其レ本職ノ微衷ヲ了シ自重大悟以テ露國將來ノ為將タ日本対列國ノ立場ノ為メ一日モ速カニ平和的解決ヲ齎サン事ヲ之レ祈ル

(東京哈府滿洲里濟)

四三三 十二月十六日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

「セメノフ」ヨリ「コルチャク」トノ妥協案

件申出ニ付佐藤總領事ニ幹旋要請シタル件

第二六七号

(十二月十七日接受)

本官発佐藤宛電報左ノ通

第三一号

本月十四日第三師団長ヨリ軍司令官ニ対シ電報アリ「セメ
ヨノフ」ハ軍司令官ノ懇諭(武藤少将ヘ電報シアル等)ヲ
感謝シ且目下同人ニ於テハ「コルチャク」側トノ聯絡絶エ
妥協ノ途無キニ依リ日本又ハ聯合國ニ於テ兩者ノ間ニ妥協
ヲ試ミラレン事ヲ申出デ右条件トシテ

(一)「コルチャク」ノ発シタル命令(「セメヨノフ」ヲ免
職逮捕シ「ウオルコフ」ヲシテ之ニ代ラシムル等)ヲ全
部取消ス事

(二)「セメヨノフ」隷下ノ將校ハ全部現在ノ儘トシ其任免ニ
関シテハ「セメヨノフ」ノ提議若クハ同意ヲ經テ之ヲ実
施スル事

(三)「セメヨノフ」ノ軍隊ハ編成未ダ完カラズ訓練未ダ至ラ
ザルニ依リ來春迄ハ現在ノ儘トシ然ル後西部戦線ニ向フ
ベキ事

等ヲ申出デ猶「デニキン」トノ聯絡成立次第「コルチャ
ク」ハ直ニ其職ヲ去リ「デニキン」ニ之ヲ讓ル事ヲモ条件
中ニ加ヘントセシモ斯クテハ妥協ノ困難トナルト軍司令官
ノ忠告モアリシニ顧ミ祖國ノ為メ暫ク「コルチャク」ヲ認
ムベキ旨ヲ諭シテ之ヲ撤回セシメタリ云々

右ニ対シ軍司令官ニ於テハ武藤少将ニ打電シ妥協ヲ幹旋セ
シメントノ議モアリシガ「セ」「コ」妥協ニ関シテハ從來
貴官ト仏大使ト尽力セラレシ關係モアリ聯合國外交官ニ於
テ調停スル方然ルベシト思考スルニ付キ本件「レニヨー
ル」ト(「エリオット」到着後ハ同氏トモ)御協議ノ上之
ヲ成立セシムル様御幹旋アラシム事ヲ請フ

外務大臣及在哈爾賓總領事ヘ転電セリ

四三四 十二月十九日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

佐藤總領事ニ於テ「セメノフ」申出ノ妥協案

件ヲ仏國大使ニ伝ヘタル上同大使ヨリ「コル

第一一五八号

(十二月二十日接受)

第二七五号

(十二月二十日接受)

チャック」ニ伝達方取計済ノ件

十二月十八日佐藤總領事発本官宛電報第一六号左ノ通
貴電第三一号ニ関シ大臣宛往電第四四号及第四一号ニ対シ
テハ未ダニ本省ノ訓令ニ接セザルモ徒ニ時日ヲ遷延セシム
ルハ何レノ点ヨリスルモ不利益ナル事明白ナル所恰モ貴電
ノ趣アリタルニ付武藤少将トモ相談ノ上十二月十七日仏國
大使ニ面会、軍司令官及第三師団長ニ於テ「セメヨノフ」
ヲ説諭セラレタル事実ノ大要並「セメヨノフ」ノ提出シタ
ル三箇条ノ承認条件ヲ伝ヘタル所同大使ハ右条件中來春迄
出発ヲ延期スル如キハ到底「コルチャク」側ニ於テ承諾ス
マジト思ハルルガ兎ニ角妥協ノ望アルニ至リタルハ幸ナリ
ト云ヒ且十八日中ニ右「セメヨノフ」ノ申出ヲ「コルチャ
ク」ニ伝フベキ旨約束セリ結果分リ次第電報スベシ

四三五 十二月二十日

在英國珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

シベリア鉄道セメノフ援助ノックス事件等ニ

基因スル日英間ノ感情問題解決方ニ付稟申中

ノ件

鞏固ナラズトスルニアラバ之ガ理由ヲ明カニシテ当国政府ノ考量ニ附シ以テ我ガ「セメヨノフ」援助ノ真意ヲ諒解セシムルヲ要ス可シ(三)「ノツクス」事件ニ関シテハ往電第一一四二号稟請通り至急措置ヲ終ラシムルノ必要之レ有リ要之ニ此等諸問題ニ基因スル彼我感情ノ衝突ガ其余累ヲ来ルベキ講和會議ニ於テ直接西比利亞問題論議ニ及ホスハ勿論延テ全般ニ我ニ対スル不利益ナル情勢ヲ醸シ為メニ我主張ノ貫徹ヲ妨害スルニ至ル事有ルベキハ一片ノ杞憂ニ止ラザル可シト思考セラルルニ付テハ此等諸問題ノ迅速結了ハ本使ノ特ニ希望スル所ニ有之茲ニ重ネテ上記諸問題ニ関シテ我当局ニ対シ注意ヲ喚起スル次第ナリ御含迄ニ

四三六 十二月二十二日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮松平政務部長宛(電報)

コルチャク及セメノフ間妥協問題ニ関シ右前

者力後者ノ即時烏拉爾出征ヲ固執セザル様説

得方佐藤総領事ニ訓令ノ件

第一一九号

在「オムスク」佐藤総領事へ左ノ通り転電シ尚本電報並佐藤宛貴電第三一号杉野緒方郡司へ転電アリタシ

参謀次長発武藤少将宛訓電通報ノ件

第一二〇号

在オムスク佐藤総領事へ左ノ通転電アリタシ

第六号

参謀次長発武藤少将宛訓令

「ルニヨール」ノ「コルチャツク」「セメノフ」妥協案ハ趣旨ニ於テ賛成ナルモ「オムスク」ノ政変ハ尚安定ニ至ラズ這般内争ノ結果極東殊ニ後貝加爾地方ハ民心動揺セルガ故ニ哥薩克ヲシテ直ニ其郷里ヲ離レ安ンジテ戦場ニ向ハシムルハ困難ナルヘク又軍隊ノ團結並其ノ整備ニ付テモ準備ヲ為スノ必要アルヘキカ故ニ之カ実施ノ方法並時機ニ付テハ尚考慮ヲ要スルモノアリト思考ス、依テ此際先ツ互ニ過去ヲ忘レテ妥協シ将来共同ノ目的ノ為ニ協力スルノ準備ニ就カシムルコト有利ト思考ス

四三八 十二月二十三日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

コルチャク及セメノフ間ノ妥協案ニ対スルコ

ルチャクノ態度ニ関シ佐藤総領事報告ノ件

第二八六号 (十二月二十四日接受)

第五号

「コルチャツク」対「セメノフ」妥協問題ニ関シテハ貴官其ノ他ヨリ累次電報ニ接シ居ル処「セメノフ」現在ノ立場ニ顧ミ松平政務部長発貴官宛電報第三一号ノ趣ハ至極妥当ノ考案ト思考セラレ又参謀次長ヨリ本件ニ関シ武藤少将宛別電第六号ノ通り訓電アリ当方ニ於テモ同意ナルニ付貴官ハ松平宛貴電第一六号ノ行懸リヲ追ヒ更ニ武藤少将トモ打合ノ上前記両電報ノ趣旨ニヨリ英仏代表者ト協議ヲ遂ケ妥協方斡旋アリタシ尚「コルチャツク」ニ於テ「セメノフ」ノ即時烏拉爾出征ヲ固執スル模様ナルニ於テハ「セメノフ」ガ地方治安維持ニ任シタル過去ノ功績ニ顧ミ此際直ニ西方ニ向ハシムルハ右治安維持上ニモ懸念ナキ能ハズ且同人ニ於テ準備ノ都合モアルヘキニヨリ既ニ同人ガ主義ニ於テ烏拉爾出征ニ同意ナル以上単ニ時日ノ遅速ヲ問題トシテ妥協ノ進捗ヲ妨グルハ大局ノ為取ラザル所ナル旨説示サレタシ

四三七 十二月二十二日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮松平政務部長宛(電報)

コルチャク及セメノフ間妥協案ニ関スル田中

十二月二十一日佐藤総領事発本官宛電報第二一号(至急)左ノ通り

往電第一六号ニ関シ十二月二十一日仏国大使来訪貴電第三一号所載「セメノフ」申出ノ条件三ヶ条ヲ「コルチャク」ニ伝ヘタル処左ノ通りノ回答ニ接シタル旨話有リタリ
第一項、命令取消ノ件ハ「セメノフ」ニ於テ最高統裁官ノ権限ヲ認メ之ニ服従スベキコトヲ声明スルニ於テハ直ニ右命令ヲ取消スベシ、但シ第五軍団長トシテ其儘留任セシムルコトハ不可能ナリ
第二項、「セメノフ」部下將校ニ対シテハ別段峻厳ナル制裁ヲ加ヘ又ハ強キテ之ヲ罷免スルノ意ナシ、但シ「セメノフ」ノ同意ナクシテハ罷免スルヲ得ズト云フガ如キ概括的約束ヲ為スヲ得ズ、特別ノ場合ニ際シテハ彼等ノ任免ヲ審議スルコト有ルベシ、(本項ニ関シ「コルチャク」ハ「セメノフ」部下ニ独壇將校有リト云ヘル由ナリ)

第三項、「セメノフ」出征期ニ関シ来春迄「チタ」ニ駐屯セシムルハ絶対ニ同意シ難シ急速同地ヲ離ルルヲ要ス右ハ今後ノ事件紛糾ヲ避クルタメ必要ナリ、

仏国大使ノ判断ニ依ルニ「コルチャツク」ノ態度ハ余程妥

協的ニシテ何等陰險ナル陥穽ト認メラレザル由ニテ同大使モ右對案通ノ条件ニテ妥協ヲ纏メ得レバ好都合ナリト言ヘリ、尚ホ同大使ハ「セメノフ」ヲ「ウラル」方面ニ置クコトハ今後モ種々ノ問題ヲ惹起スル虞有ルニ付キ寧ロ「ズートフ」將軍ノ方ニ彼ヲ送ルガ得策ナラント考ヘ「己ノ思付トシテ試ミニ「コルチャツク」ニ申入レタル処、
「コルチャツク」モ別段之ニ對シ不同意ヲ唱ヘズ、唯ダ「ズートフ」ガ之ヲ望ムベキヤ否ヤ不明ナリト言ヘル由ナリ、卑見ニ依ルモ上記ノ条件ニテ「セメノフ」ヲ妥協セシムルノ外ナシト思考セラルルニ付キ軍司令官等今一応「セメノフ」ヲ説得セラルル様致度ク委細貴官ヨリ軍司令官ヘ御話有度シ、尚ホ「ズートフ」トノ交渉ハ「セメノフ」ヲシテ直接之ヲ試マシメ然ルベシト思考ス、本電大要、武藤少將ニ依頼シ第三師団長ヘ電報スベシ
大臣及ビ哈爾賓ヘ転電ヲ請フ

四三九 十二月二十七日 在本邦英國大使館ヨリ
日本外務省宛

セメノフ等ニ對スル日本ノ援助中止方要請ノ件

miral Koltchak's administration to have complete freedom in their use of the railway, and the cessation of the subsidies and protection hitherto granted to Generals Horvat and Semenov.

British Embassy, Tokyo.
December 27th, 1918

(欄外註記)

「七年十二月二十七日英大使手交」

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

覚書

英國政府ノ見ル所ニ抛レバ「セメノフ」將軍ハ大谷司令官ニ於テ嚴重ナル戒飭ヲ加ヘタルヤノ報道アルニ拘ハラズ西比利亞ニ於ケル秩序ト安寧トヲ維持セントスル「コルチャツク」提督ノ努力ヲ無視シテ之レニ絶大ノ妨害ヲ与ヘ居ルモノノ如シ

日本ガ与国ト協同シテ共ニ西比利亞ニ於ケル正当政府ノ樹立ヲ劃策セルニ不拘「セメノフ」及「ホルワット」兩將軍ノ行動ハ常ニ此共同ノ目的ヲ妨ケ来レルガ若シ兩人ニ對シ日本政府ノ支持無カリセバ彼等ハ孤立無援進テ何等有害ノ行動ニ出ヅル能ハザリシハ疑ヲ容レザル所ナリ

Confidential

Memorandum.

In the opinion of His Majesty's government Admiral Koltchak's efforts to establish order and security throughout Siberia are being paralyzed by General Semenov in spite of the strict instructions which the latter is reported to have received from General Otani.

Notwithstanding that the Japanese have united with their Allies in a common effort to establish an orderly Government in Siberia, the action of Generals Semenov and Horvat has continually hampered this object and it is obvious that, had these officers not received the support of the Japanese Government, they would have been powerless to take any action on their own account.

His Majesty's Government feel therefore that they are within their rights in requesting their Japanese Allies to take immediate steps, in full cooperation with them, to put an end to this state of affairs. Among the necessary steps to be taken for this purpose are arrangements to enable the Allies and Ad-

是ニ於テ英國政府ハ同盟国タル日本ニ對シ英國ト全然歩調ヲ一ニシ以テ速ニ如上ノ事態ヲ中止セムコトヲ要求スルモ敢テ僭越ニ非ザルコトヲ信ズ此目的ニ對シ執ルヘキ措置ハ聯合國並「コルチャツク」政府ヲシテ鐵道使用上ノ完全ナル自由ヲ得セシムルノ協定ヲ設ケ且從來「ホルワット」及「セメノフ」兩將軍ニ供与セル補助金其他ノ援護ヲ中止スルニ在リ

一九一八年十二月二十七日

英國大使館

四四〇 十二月二十八日 内田外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛 (電報)

コルチャク及セメノフ妥協問題ニ對スル日本

政府ノ態度ニ付英國當局ニ説明方訓令ノ件

第七〇八号

貴電第一一五八号(ニ)関シ西比利亞ニ於テ鞏固ナル統一政府ノ速ニ樹立セムコトハ帝國政府ノ最モ希望スル所ナルガ故ニ帝國政府ハ初ヨリスノ目的ニ副フモノニ對シテハ内政干渉ニ亘ラザル限り之ニ援助ヲ供スルヲ以テ其ノ方針トシ「コルチャク」「セメノフ」問題ニ對シテモ亦タ右ノ方針

ニ基キ浦塩又ハ「オムスク」ニ於ケル其代表者ヲシテ英仏ノ代表者ト協力以テ兩者ノ和解ニ努メシメツアル次第ナリ現ニ先頃大谷司令官ハ「セメノフ」ニ対シ此際私情ヲ捨テ大局ニ顧ミ「コルチャク」ト交譲和衷以テ露国復興ノ事業ニ貢献スルノ大切ナル所以ヲ懇諭スル所アリ同人モ大ニ之ヲ諒トシ我軍憲ニ対シ日本又ハ聯合國ニ於テ「コルチャク」トノ妥協ヲ斡旋セラレンコトヲ請ヒ其条件トシテ

(一)「コルチャク」ノ発シタル命令(「セメノフ」ヲ免職逮捕シ「ウオルコフ」ヲシテ之ニ代ラシムル等)ヲ全部取消スコト

(二)「セメノフ」隷下ノ將校ハ全部現在ノ儘トシ其任命ニ関シテハ「セメノフ」ノ提議若ハ同意ヲ經テ之ヲ実施スルコト

(三)「セメノフ」ノ軍隊ハ編成未ダ全カラズ訓練未ダ至ラザルニ依リ來春迄ハ現在ノ儘トシ然ル後西部戰線ニ向フヘキコト

等ヲ申出ヅルニ至レリ依テ帝國政府ハ佐藤ヲシテ先般來同官ト協力「コ」、「セ」兩者間ノ調停ニ斡旋シ來リタル在「オムスク」仏国代表者「ルニョー」ニ協議ノ上同官ヲ經

偶々相互ノ私情ヨリ「コルチャク」ト衝突シタリト云フノ理由ノミヲ以テ直ニ彼ヲ孤立無援ノ窮地ニ陥ルルガ如キ冷酷ナル処置ハ信義上日本ノ忍ビ得ザル所ナルノミナラズ「オムスク」政府ノ基礎モ尚安定ヲ欠ケル今日聯合諸國ノ齊シク希望セル統一政府確立ノ企圖ニ対シテモ亦忠ナル所以ニアラズト思考セラル是レ前述ノ如ク帝國政府カ一方「セメノフ」ニ懇諭ヲ与フルト共ニ「コルチャク」ニ対シテモ亦タ同シク大局ニ顧念シ過去ヲ一掃シテ「セメノフ」ト妥協ノ途ニ出デンコトヲ希望スル所以ナリ

テ(英國代表者「エリオット」ハ當時同地ニ在ラズ)右申出ヲ「コルチャク」ニ伝達セシメタル処「コルチャク」ハ任免ニ関スル「セメノフ」ノ同意一件及出征猶予ニハ反対シタルモ其他ハ大体之ヲ認メ其態度ハ余程妥協的ナリシ由又別ニ佐藤ハ本月二十日「オムスク」政府外務大臣ニ対シ前記大谷司令官ノ「セメノフ」ニ与ヘタル懇諭ノ次第並ニ同人ノ妥協条件ヲ通告シタルニ同大臣ハ右帝國政府ノ態度ヲ大ニ多トシ妥協成立ニ尽力スヘキ旨佐藤ニ述ヘタル趣ニテ目下ノ形勢ニテハ妥協ノ前途好望ナリト云フヘシ

先是「コルチャク」側及英國代表者等ハ日本カ故ラニ「セメノフ」ヲ援護シ「コルチャク」ニ反抗セシムルガ如ク誤解セルモ兩者ノ確執ハ以前ヨリ相互ノ間ニ蟠レル私情ニ基クモノニシテ日本ノ関知スル所ニアラザルガ故ニ之カ和解ハ兩者ノ交譲ニ待ツヨリ外ナク独リ「セメノフ」ノミニ庄迫ヲ加ヘムトスルカ如キハ真ニ兩者ヲ和合セシムル所以ニアラズ且日本カ「セメノフ」ヲ援助シ來レルモノハ元來露國及英仏側ノ発意ニ基クモノニシテ彼ハ此ノ援助ニ依リ過激派ヲ鎮圧シ後貝加爾地方ニ於ケル秩序回復ノ偉功ヲ奏シ將來トモ露國復興事業ノ為ニ貢献シ得ヘキ地位ニ在ル以上

就テハ貴官ハ右ノ次第ヲ英國当局ニ説明セラレ英國政府カ能ク帝國政府ノ公明ナル立場ヲ諒解セラレ「コ」、「セ」兩者妥協成立ノ為メ今後トモ我方ト協力スル様其出先官憲ニ訓令アラムコトヲ希望スル旨申入レラレ其ノ結果電報アリタシ

本電貴電第一一五八号ト共ニ在米仏伊大使及丸毛ヘ転電アリタシ